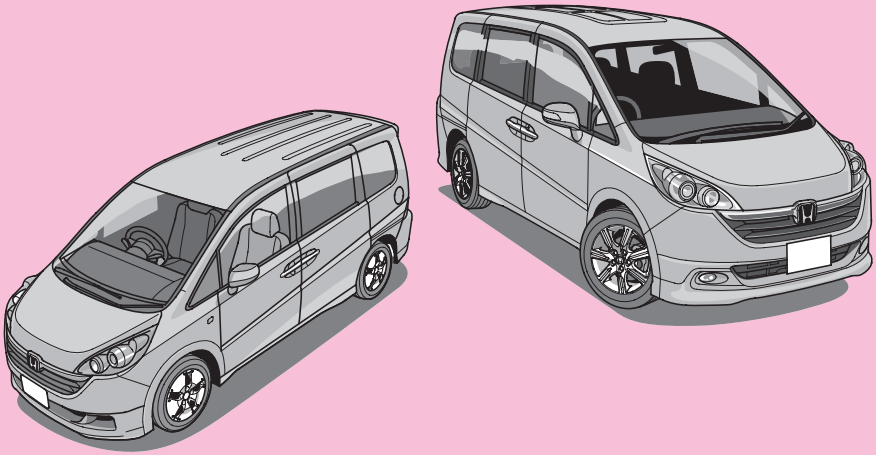
取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

STEPWGN

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は STEPWGN の
取り扱いについて必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。



●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●お車に“ ⚠ 📖 ”の表示があるところは、ご使用前に本書の記載を確認してください。 ●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。 ●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 6 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

タイトル
階層ごとにデザインを変えてあります

ヘッダー
ページの内容を示しています

ページインデックス
（→4ページ）

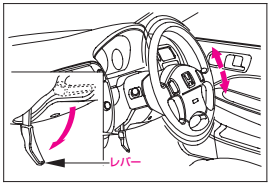
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

●走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知識

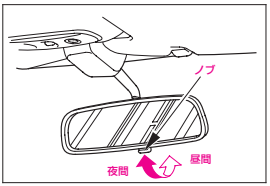
●走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

●格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

説明文
装置／機構について

解説
▼
操作方法

に分けて記載しています。

安全に関する表示

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。



タイトルから探すとき

目次（P.6）

ページインデックス：
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。



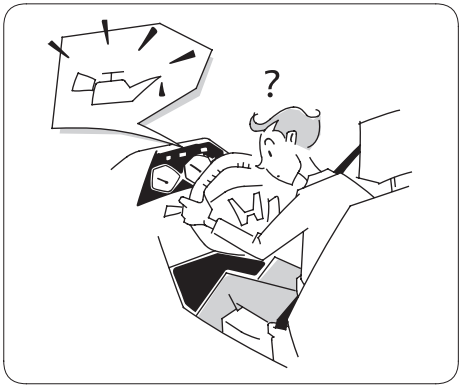
スイッチ類などの名称が
わからないとき

ビジュアル目次
（P.8〜P.13）



名称から探すとき

さくいん
（P.432〜442）



メーター内にランプ(警告灯)が
点灯したとき

⬇

警告灯目次(P.14)



故障かな、と思ったときや
万一のとき

⬇

さくいん(赤色文字)
(P.432〜442)
「こんなことでお困りのとき」
(巻末)

目　次

◆安全ドライブのための必読 6 ポイント

1. 車を運転する前に

2. 車を運転するときに

3. 安全装備

4. ドライブを快適にする装備

5. 万一のとき

6. 車の手入れ

7. 車との上手なつきあいかた

・サービスデータ

・さくいん

・こんなことでお困りのとき

1．お出かけまえに 16
2．お子さまに思いやりを 18
3．正しい知識で最適運転 22
4．オートマチック車の注意ポイント 26
5．駐車や停車はしっかりと 30
6．こんなことにも注意をしよう 32
15

・各部の開閉 40
・シートの調節 88
・シートベルト 126
・セキュリティーシステム 84
・ハンドル・バックミラーの調節 120
・チャイルドシート固定装置 138
39

・メーター 146
・警告灯 162
・運転のしかた 186
・表示灯 152
・スイッチの使いかた 174
145

・SRSエアバッグシステム 216
・シートベルトプリテンショナー 240
・アンチロックブレーキシステム(ABS) 244
・ビークルスタビリティアシスト(VSA) 248
・四輪駆動機構(4WD) 262
・サイドエアバッグシステム/サイドカーテンエアバッグシステム 224
・E-プリテンショナー 242
・ブレーキアシスト 246
・追突軽減ブレーキ(CMS) 252
・その他の安全装備 263
215

・エアコン 266
・室内照明 318
・オーディオ 286
・室内装備品 330
・リヤカメラシステム 314
265

・工具・スペアタイヤ・発炎筒 340
・けん引 346
・電気系統が異常のとき 366
・故障したとき 342
・パンクしたとき 350
・事故が起きたとき 344
・オーバーヒートしたとき 364
339

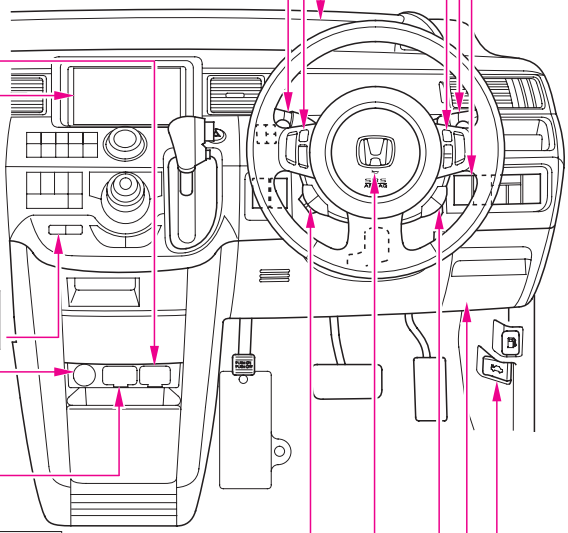
・点検・整備について 388
・日常の手入れ 390
・車にあった部品の使用 404
387

・積雪・寒冷時の取り扱い 406
・環境にやさしい省エネドライブをするために 420
・こんなときは 416
405

424
432
巻末

ビジュアル目次

VSA OFFスイッチ VSA装備車 250
CMSスイッチ IHCC装備車 256
ライト／方向指示器(ウィンカー)スイッチ 175、178
IHCCスイッチ※1 IHCC装備車
メーター 146
表示灯 152
警告灯 162
オーディオリモートコントロールスイッチ
Hondaインターナビシステム装備車、FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車 312
ワイパー／ウォッシャースイッチ 179
携帯電話接続端子
Hondaインターナビシステム装備車 338
ナビゲーションシステム※2
Hondaインターナビシステム装備車
リアエンターテインメントシステムメインスイッチ※3
リアエンターテインメントシステム装備車
アクセサリーソケット 337
AV入力端子
Hondaインターナビシステム装備車 337
ボイスコントロールスイッチ※2
Hondaインターナビシステム装備車 275
ホーンスイッチ 183
DISTANCEスイッチ※1 IHCC装備車
7速モードメインスイッチ CVT車でIHCC装備車 193
コインポケット 334
ボンネット解錠ノブ 74



※1：別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。
※2：別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。
※3：別冊のリアエンターテインメントシステム取扱説明書をご覧ください。

パワースライドドア運転席スイッチ タイプ別注文装備 50

パワーテールゲート運転席スイッチ タイプ別注文装備 ハロゲンヘッドライト装備車 63

7速モードシフトスイッチ CVT車 193

運転席アッパーボックス 333

イルミネーションコントロールスイッチ 150

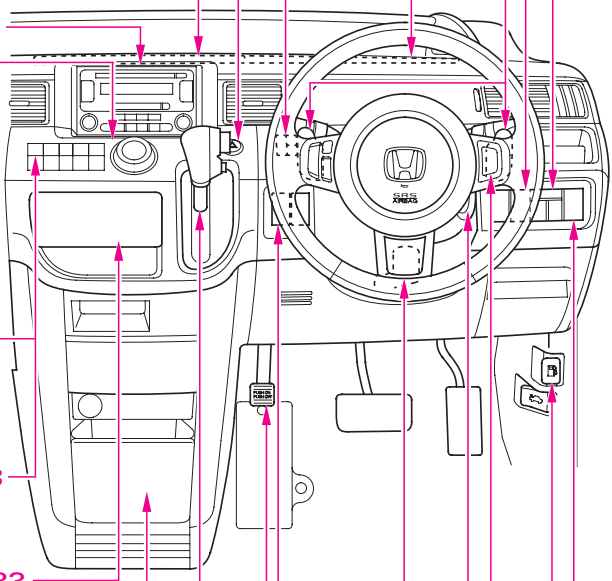
トリップ／リセットスイッチ 146

非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ 183

センターアッパーボックス 332

オーディオ
タイプ別注文装備 286

エアコン 266



リヤデフロスター
スイッチ 182

ヒーテッドドアミラー
スイッチ
ヒーテッド ドアミラー装備車 123

センターボックス
Hondaインターナビ システム非装備車 333

センターロアボックス 333

セレクトレバー 190、198

パーキングブレーキ 188

ECONスイッチ 184、185

チルト／テレスコピックステアリングレバー 120

エンジンスイッチ 174

7速モードメインスイッチ CVT車でIHCC非装備車 193

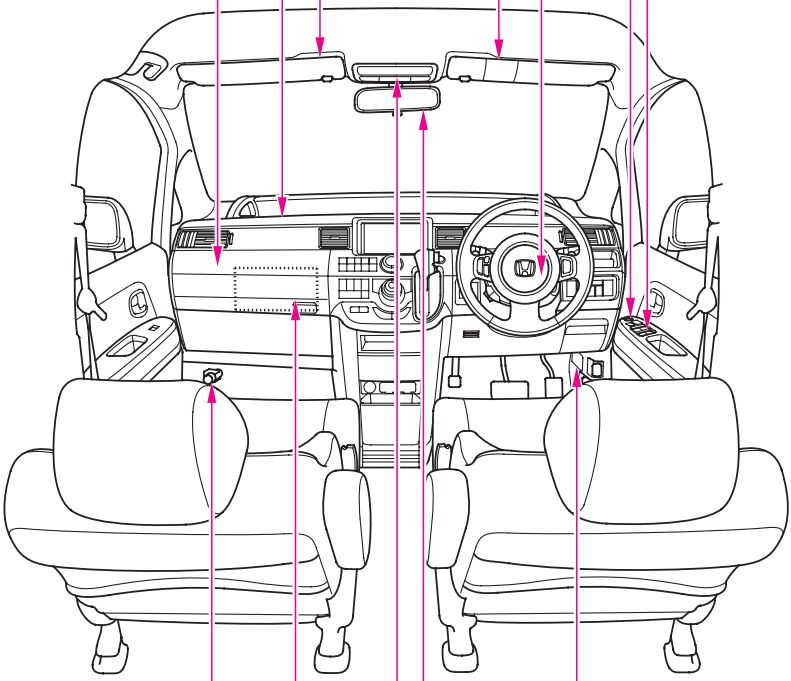
フューエルリッドオープナー 77

ヘッドライトレベリングダイヤル ハロゲンヘッドライト装備車 177

パワーテールゲート運転席スイッチ タイプ別注文装備 ディスチャージヘッドライト装備車 63

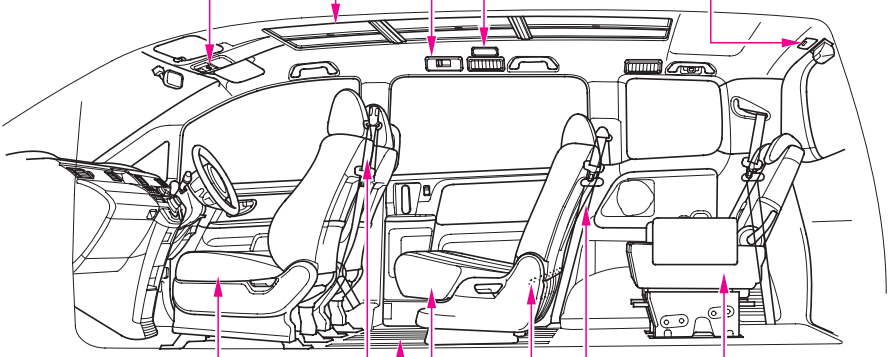
ビジュアル目次

パワーウィンドースイッチ 79
ドアミラー調節スイッチ 122
SRSエアバッグシステム（運転席用）216
サンバイザー 330
SRSエアバッグシステム
（助手席用）216
グローブボックス 332



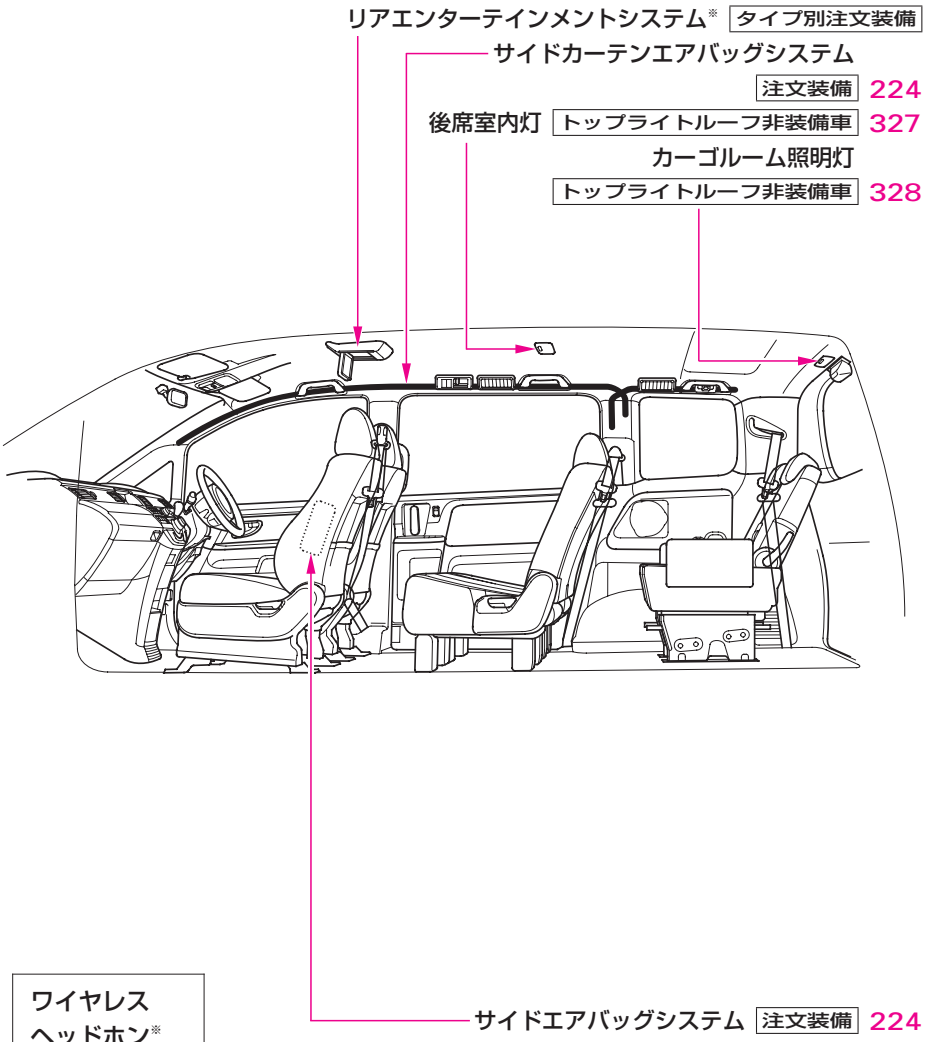
発炎筒 340
ナビゲーションシステム本体※
サングラスボックス
タイプ別装備 331
室内確認用ミラー
タイプ別装備 331
ルームミラー 120
ヒューズボックス 369

※：別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

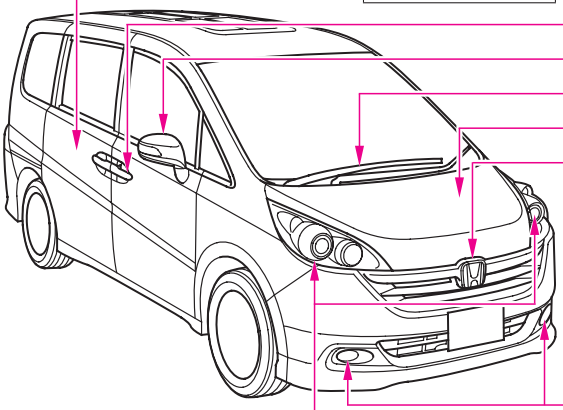


前席室内灯／マップランプ 319、322、325
サンシェード トップライトルーフ装備車 82
後席用クーラー／ヒーター 4WD車 280
後席用クーラー 2WD車 278
後席室内灯 トップライトルーフ装備車 319
後席室内灯(サードシート)
トップライトルーフ装備車 326
サードシート 106
シートベルト(チャイルドシート
固定機構付き) 138
ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート固定装置 140
セカンドシート 94、99
フローリングフロア タイプ別注文装備 38、397
シートベルト 126
フロントシート 92

ビジュアル目次



※：別冊のリアエンターテインメントシステム取扱説明書をご覧ください。



パワースライドドア タイプ別注文装備 ／スライドドア 46、56

ドアの施錠・解錠 43

ドアミラー 121

ワイパー 179

ボンネット 74

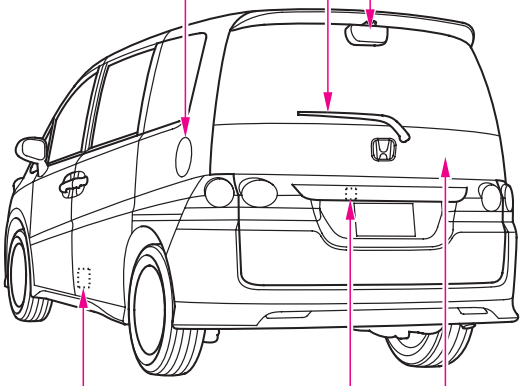
レーダーセンサー※

IHCC装備車

フォグライト

フォグライト装備車 178

ヘッドライト 175



燃料補給口 76

リヤワイパー 181

ハイマウントストップランプ 263

パワーテールゲート タイプ別注文装備 ／

テールゲート 60、68

リヤカメラ Hondaインターナビシステム装備車 314

スライドドア開閉灯

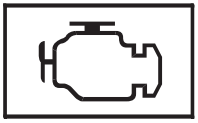
タイプ別装備 328

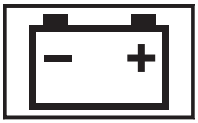
※：別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

警告灯目次


ブレーキ警告灯 →166ページ


油圧警告灯 →167ページ


PGM-FI警告灯 →167ページ


充電警告灯 →168ページ



トランスミッション警告灯 →168ページ


シートベルト非着用警告灯 →168ページ


燃料残量警告灯 →169ページ



インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯 →169ページ



アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯 →169ページ


SRSエアバッグシステム警告灯 →169ページ



ビークルスタビリティアシスト(VSA)警告灯 →169ページ



追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯 →170ページ


ドア開閉警告灯 →170ページ


テールゲート開閉警告灯 →170ページ


パワースライドドア警告灯 →171ページ


パワーテールゲート警告灯 →171ページ


高水温警告灯(赤色) →171ページ

安全ドライブのための
必読6ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

POINTS 6

●お出かけまえに …… 16
●お子さまに思いやりを …… 18
●正しい知識で最適運転 …… 22
●オートマチック車の注意ポイント … 26
●駐車や停車はしっかりと …… 30
●こんなことにも注意をしよう …… 32

1 お出かけまえに・・・

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、Honda販売店で点検を受けてください。
  （音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時・・・）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜126ページ参照＞

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。



- ベルトにねじれがないか確かめてください。



- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。



- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



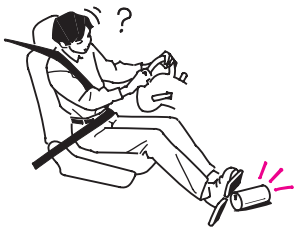
燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。

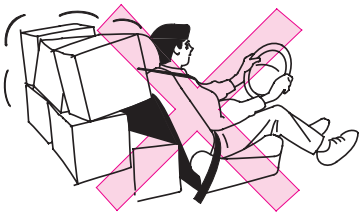


運転の妨げになる物には注意を。

- **走行中動きやすい物を床にそのまま置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。

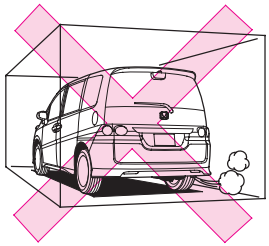


- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**
  後方視界を妨げたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。



排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**
  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。



- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらHonda販売店で点検を受けてください。**
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2 お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

●助手席にのせるのは避けましょう。

・不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転の妨げになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。

・インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

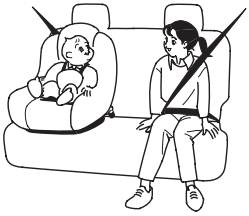
・サイドエアバッグ装備車では、フロントドアに寄りかかった状態での乗車は、サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

・お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

お子さまにもシートベルトを。

●お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。

お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。



※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

● **お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**

・シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。

・チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。

・シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・この車には、ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→140ページ

・Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●**チャイルドシートは確実に取り付けてください。**

お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。

また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。

・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シートベルトの種類やチャイルドシートの種類と取り付けの向きによっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。

シートベルトの種類　→128ページ
チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→138ページ

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。

テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。

チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。

後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

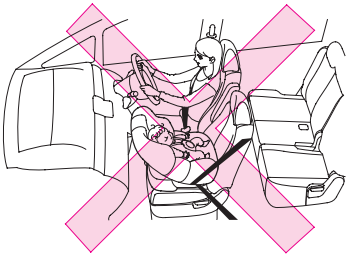
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→140ページ

・詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●**助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。**

・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。

・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



●**チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。**

ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

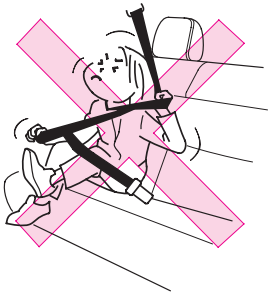
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、テールゲート、ウィンドー、シートの操作は必ず大人が。

- **手、足、顔などをはさまないよう、気をつけてください。**
- **走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。**
  ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが開き、思わぬ事故の原因となります。
- **チャイルドプルーフを使って後席ドアを車内から開かないようにしてください。**
  <55、59ページ参照>
  走行中にドアを開けると、お子さまが車外に放り出されるおそれがあります。
- **パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。**
  <79ページ参照>
- **走行中、一時停止のときなど、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**
  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

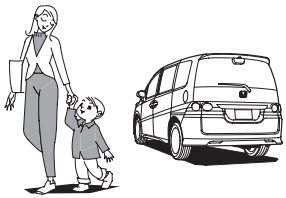
お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- **チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。**
  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

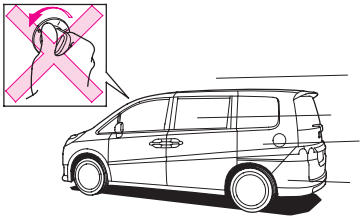
- **お子さまだけを車内に残さないでください。**
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



3 正しい知識で最適運転

●**走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
ハンドル操作の妨げになり大変危険です。

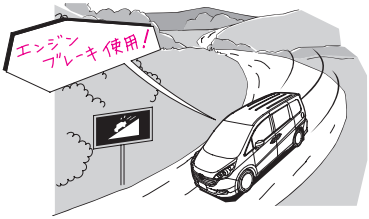
●**走行中はエンジンを止めないでください。**
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキの効きが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。



長い下り坂ではエンジンブレーキを。

●**ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、効きが悪くなることがあります。**

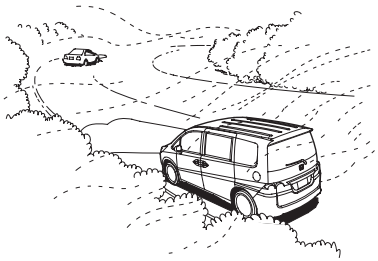
●**長い下り坂では、走行速度に合わせ、エンジンブレーキを使用してください。**
・CVT車は、Sモードスイッチを**ON**にしてエンジンブレーキを使用してください。
Sモードのままで速度が出すぎるときは[L]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。
7速マニュアルシフトモードのときは、走行速度に合わせて、変速段を一段ずつ落としてください。
・5速オートマチック車、4速オートマチック車はD3スイッチを**ON**にしてエンジンブレーキを使用してください。D3スイッチが**ON**のままでも速度が出すぎるときは、[2]または[1]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。



エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよく効きます。

霧が出たときは。

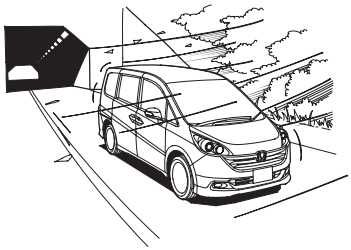
●霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。



横風の強い日は。

●横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。

トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。



雨天時の走行には注意を。

- **雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
  急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。
- **わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
  ハイドロプレーニング現象とは
  →416ページ
- **冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキの効き具合を確認。

- **水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。**
  ぬれたブレーキは効きが悪かったり、ぬれていない片側だけが効いてハンドルをとられることがあります。
- **ブレーキの効きが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

- **警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。＜162ページ参照＞**
  点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- **走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
  急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。
- **床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
  ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
＜204ページ参照＞

オートマチックについて

STEP WGNのオートマチックには、タイプにより下記の種類があります。

タイプ	種類
24Z（2WD車）	CVT
24Z（4WD車）	5速オートマチック
G、B	4速オートマチック

CVTは、2つの可変プーリーに金属ベルトを組み合わせ、低速から高速まで無段階に変速するオートマチックトランスミッションです。

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

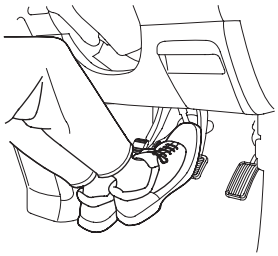
- D（CVT車はDまたはL）で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
これをキックダウンといいます。

1 ブレーキは右足で。

●ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

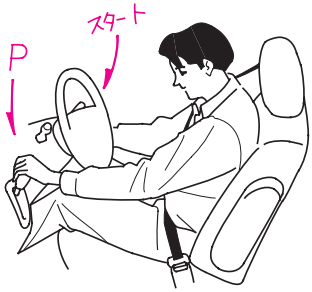
2 エンジンをかけるまえに。

●ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



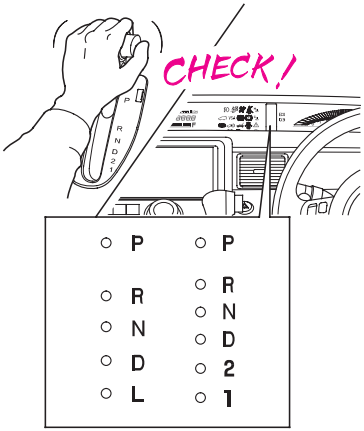
3 エンジンをかけるとき。

●安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPでエンジンをかけましょう。



4 スタートするとき。

●思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。



●発進時のセレクトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。

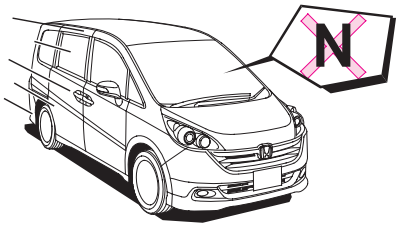
●アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
急発進して思わぬ事故のもとになります。

●エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
エアコン作動時も同じです。

●坂道での発進は車が後退しないように必ずパーキングブレーキを併用し、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

5 走行しているとき。

- **走行中は、セレクトレバーをⓃにしないでください。**
  エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故のもとになります。



- **上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。**
  アクセルペダルは、慎重に操作してください。
  また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。
- **下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
  フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

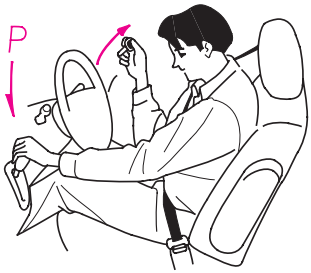
エンジンブレーキ　→22ページ

6 停車しているとき。

- **車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけましょう。**
- **停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
  万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

7 駐車するとき。

- **駐車するときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをⓅに入れ、エンジンを止めましょう。**
  万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。



ほかに気をつけたいこと。

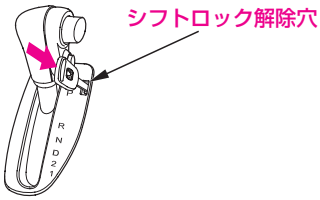
- **セレクトレバーは正しい位置で使用してください。**
  坂道などで、前進(Ⓓ、ⓁまたはⒹ、2、1)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(Ⓡ)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- **後退したあとは、すぐⓇからⓃにもどす習慣をつけましょう。**
  ちょっと後退したときなど、Ⓡに入れたことを忘れてしまうことがあります。
- **前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。**
  車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。
- **車が完全に止まらないうちに、Ⓟに入れないでください。**
  急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

- **ブレーキペダルを踏んでいないと、Ⓟからのセレクトレバー操作はできません。**
  - エンジンスイッチが、“Ⅰ”または“0”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
  - セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- **Ⓟ以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。**
  Ⓟ以外では、キーが“Ⅰ”から“0”に回りません。
- **Ⓡに入れるとチャイムが鳴ります。**
  - セレクトレバーがⓇのときにチャイムが鳴り、Ⓡに入っていることを運転者に知らせます。
  - 車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。
- **万一、Ⓟからセレクトレバーが操作できないときは:**
  - カバーを外し、

→207ページ

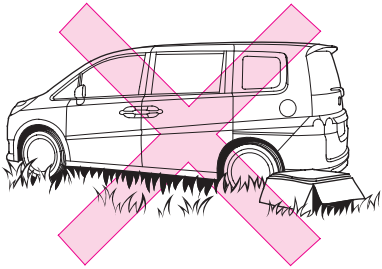
  - キーをシフトロック解除穴に差し込み、
  - キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。



5 駐車や停車はしっかりと

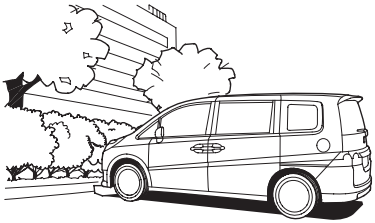
可燃物には注意を。

●枯草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには、駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



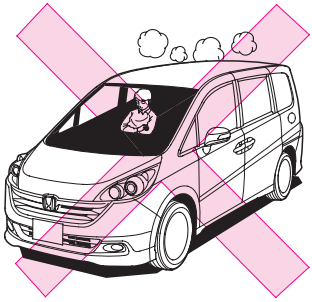
植込みなどにも注意して。

●植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。



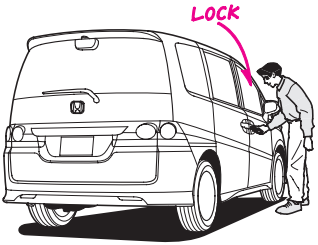
仮眠するときはエンジンを止める。

- **エンジンを必ず止めてください。**
  無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
  また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
  さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。



車から離れるときには施錠を。

- **必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
- **車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
- **お子さまも連れていきましょう。**



車の移動はエンジンをかけて。

- **車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
  下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

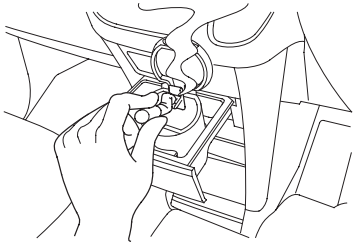
坂道での駐車は。

- **パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れてください。**
  さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

6 こんなことにも注意をしよう

タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすい物を入れたりしないでください。**



（灰皿は別売りです。）

アクセサリーの取り付けには注意を。

- **運転視界の中にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - 視界の妨げにより思わぬ事故のもとになります。
  - アクセサリーなどの揺れる動きが、車外の状況認識を遅らせることがあります。
- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - 吸盤がレンズのはたらきをして火災につながるおそれがあります。



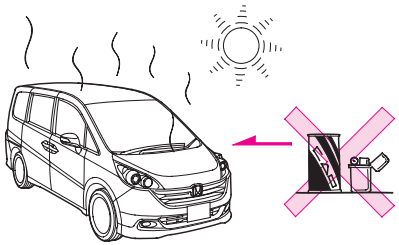
飲み物などを電装品にこぼさないように注意して。

オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。

万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。



ラジエーターキャップに気をつけて。

●**ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**

蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



ハンドルをいっぱいに回した状態をつづけない。

●**ハンドルをいっぱいに回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。**

パワーステアリングポンプがオイル潤滑不良をおこし、損傷することがあります。

動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

●**運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**

運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

●**Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**

・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。

・Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違反になることがあります。

●**ホイールは、STEP WGN専用品をご使用ください。**

専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。

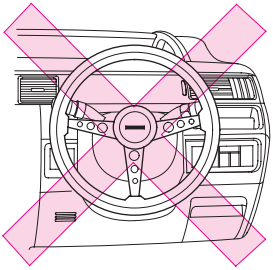
Honda販売店にご相談ください。

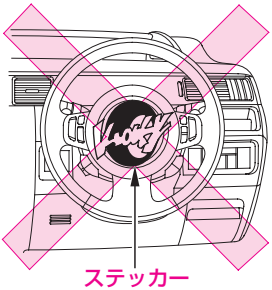
●**無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずHonda販売店にご相談ください。**

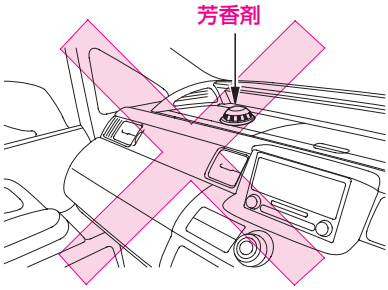
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

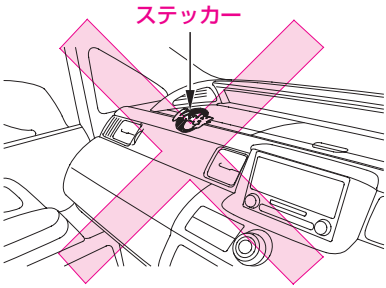
●**運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。**
インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理



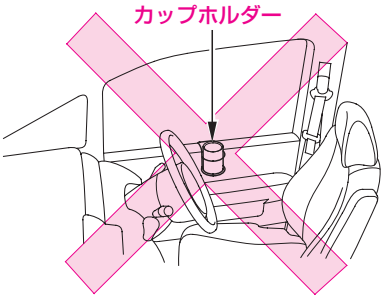


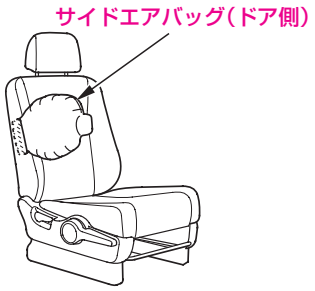




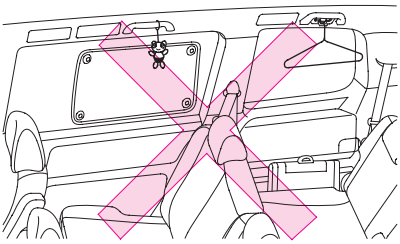
●**運転席および助手席用サイドエアバッグシステム装備車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けたりしないでください。**
フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。
また、新車時についているビニールのシートカバーは、必ず外してください。

・サイドエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロントシートまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④センターピラーまわりの修理

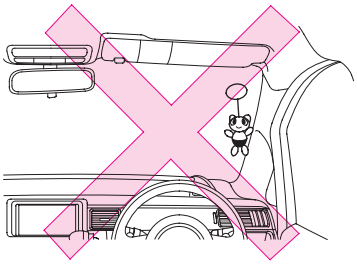




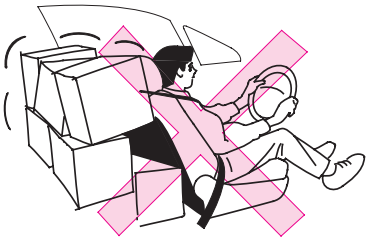
●**サイドカーテンエアバッグシステム装備車は、グラブレールに物をかけないでください。**
サードシートの固定専用フックは、シートを固定する以外の目的で使用しないでください。
シートをはね上げて固定するとき
→108ページ



フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けないでください。
また、カーゴスペースや座席に荷物を載せるときは、ドアガラス、サードシートサイドガラス下端部の高さを越えないようにしてください。



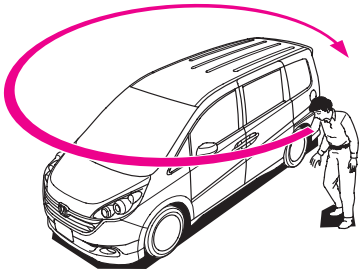
・サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりの修理
②ルーフサイドまわりの修理
③センターコンソール付近の修理
④カーステレオ等用品の取り付け



発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

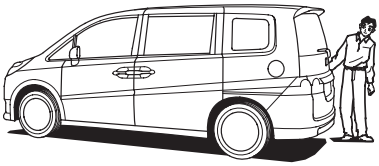
車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

- 駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。

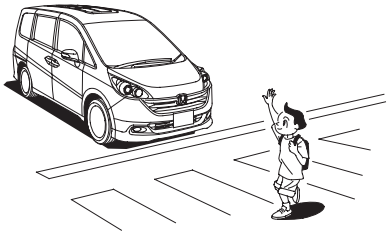


- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。

  バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。

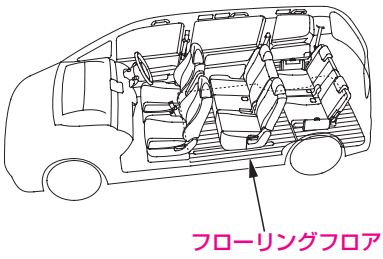


- 信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。



フローリングフロアの取り扱いには注意を。

- フローリングフロア装備車は、傷がつきやすいので気をつけてください。特に硬い荷物を載せるときは、表面に傷がつかないように下に布やダンボールを敷いてください。
- スパイクなど底にとがった物がついている靴で乗車しないでください。
- フローリングフロアは耐水性ではないので、濡れた物を置かないでください。
- 雨や雪の日にフローリングフロアが濡れたときは、水分を拭き取ってください。
- 油や水、砂などが付着した靴で乗車すると滑りやすくなるので気をつけてください。
- 滑り止め加工をしたHonda純正品のマットをご用意しています。
  ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。





車を運転する前に

●各部の開閉
キー……40
ドアの施錠・解錠……43
フロントドア……44
パワースライドドア……46
スライドドア……56
イージードアクローザー……59
パワーテールゲート……60
テールゲート……68
キーレスエントリー……70
ボンネット……74
燃料補給口……76
パワーウィンドー……79
トップライトルーフ……82

●セキュリティーシステム
イモビライザーシステムについて……84
セキュリティーアラームシステムについて……85

●シートの調節
正しい運転姿勢……88
シートアレンジインデックス…90
フロントシート……92
セカンドシート（タンブルシート）……94
セカンドシート（回転対座シート）……99
サードシート……106
フラットシート（フロント・セカンドシート）（セカンド・サードシート）……110・115
カーゴスペースの作りかた……113・118

●ハンドル・バックミラーの調節
チルト／テレスコピックステアリング……120
ルームミラー……120
ドアミラー……121

●シートベルト
シートベルト……126
着用のしかた……134

●チャイルドシート固定装置
チャイルドシート固定機構付きシートベルト（セカンドシート外側2座席）……138
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置（セカンドシート外側2座席）……140

1

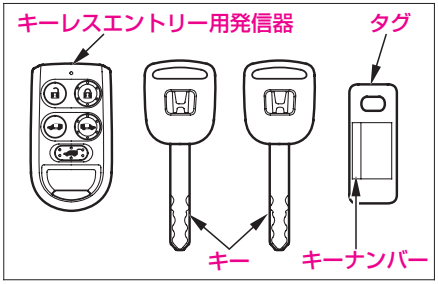
各部の開閉

キー

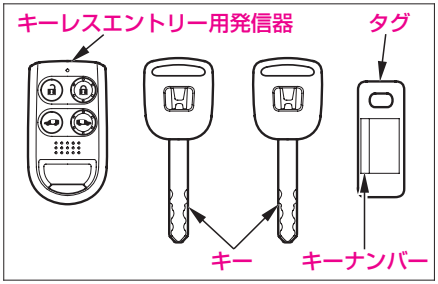
この車には、以下のキーが付いています。全てのキーには、イモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いてます。

イモビライザーシステム　→84ページ

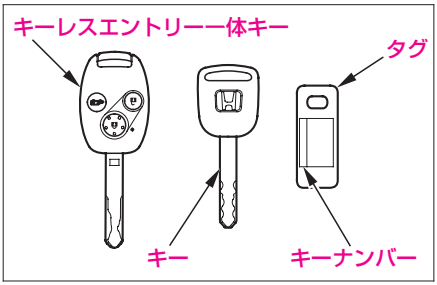
パワーテールゲート、両側パワースライドドア装備車



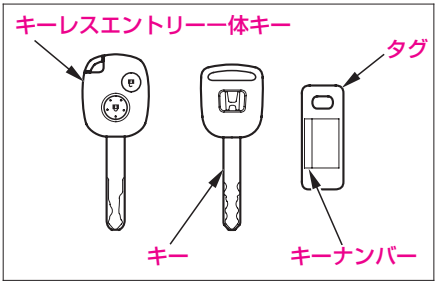
両側パワースライドドア装備車



助手席側パワースライドドア装備車



パワースライドドア非装備車



●キー
キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

●キーレスエントリー一体キー
キーレスエントリー用発信器がついています。キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

助手席側パワースライドドア装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠、パワースライドドアの開閉が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→70ページ

パワースライドドア非装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠が発信器のボタンで行えます。

●キーレスエントリー用発信器
パワーテールゲート装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠、パワースライドドアとパワーテールゲートの開閉が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→70ページ

パワーテールゲート非装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠、パワースライドドアの開閉が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→70ページ

知 識

- キーには信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温、多湿になるところに置かないでください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 火であぶったりしないでください。

  電子部品が故障すると、イモビライザーシステムがキーの信号を正しく受信できないためエンジンの始動ができなくなります。
  エンジンの始動ができないときは、Honda販売店にご連絡ください。
- タグにはキーナンバーが表示してあります。紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときは、キーナンバーをHonda販売店へご連絡ください。
  キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、Honda販売店にご相談ください。
  キーレスエントリー用発信器を紛失したときは、Honda販売店へご連絡ください。
- キーを追加するときは、Honda販売店にご相談ください。
  キーは 6 本まで(但しキーレスエントリー一体キーは 3 本まで)登録できます。

ドアの施錠・解錠

⚠注意

●走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

●ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
●強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
●車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
●運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

室内灯　→319、322ページ

●オートドアロック

車速連動

車速が約15km/h以上になると、すべてのドアとテールゲートが自動的に施錠されます。

●オートドアアンロック

セレクトレバー連動

セレクトレバーを[P]に入れたときに、すべてのドアとテールゲートが自動的に解錠されます。

●衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドアとテールゲートを解錠します。

作動するとき

正面からの衝撃では、SRSエアバッグが作動したときに解錠します。
サイドエアバッグシステム装備車は、側面からの衝撃でサイドエアバッグが作動したときにも解錠します。
エアバッグが作動しない後面からの衝撃では、衝撃が大きいと解錠します。
安全性を考慮して、衝撃が加わってから約10秒後に解錠します。

知 識

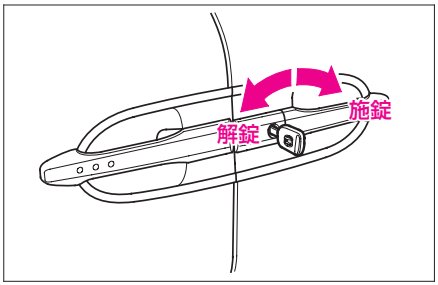
●衝撃の加わりかたや、大きさによっては解錠しない場合があります。

フロントドア

●施錠・解錠

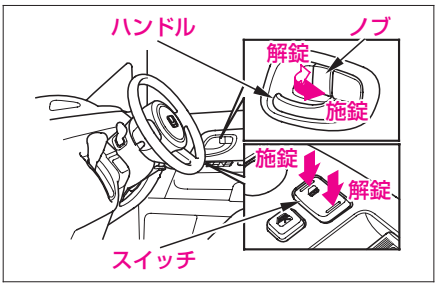
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠(解錠)します。



車内から行う場合

スイッチまたはノブを矢印の方向に動かします。
運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとテールゲートの施錠(解錠)ができ、ノブの操作では施錠のみ連動します。パワーテールゲートは、ノブの操作で解錠も連動します。



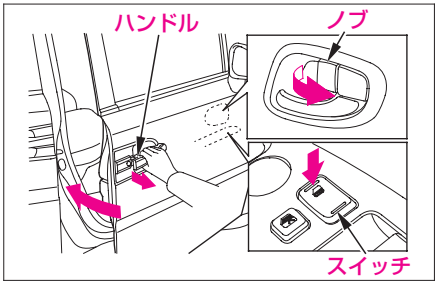
キーを使わないで施錠する場合

知 識

●キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

・運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブかスイッチを施錠の方向に動かします。



②ドアを閉めます。

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

・キー閉じ込み防止装置(運転席のみ)

キーがエンジンスイッチに差し込まれたままだと施錠できません。

・助手席ドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→70ページ

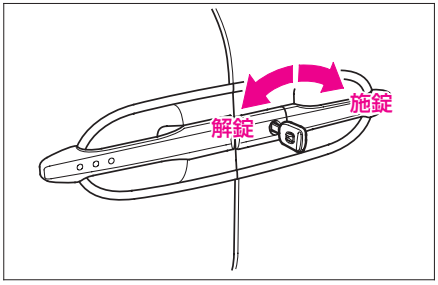
パワースライドドア

タイプ別注文装備

●施錠・解錠

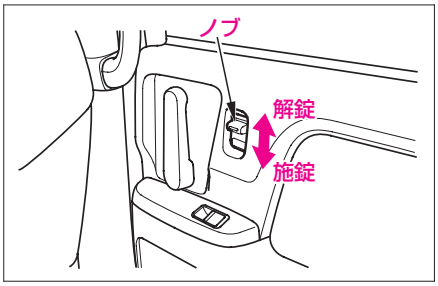
車外から行う場合

運転席ドアにキーを確実に差し込んで矢印の方向に回します。



車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



キーを使わないで施錠する場合

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めると、施錠できます。

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってパワースライドドアの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→70ページ

●開閉

⚠警告

●パワースライドドアを開閉するときは、ドア付近に障害物がないことを確認してください。
また、ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。
ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを“OFF”にしてください。
“ON”のままだと、誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

●車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉してください。また、乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかけてください。
パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

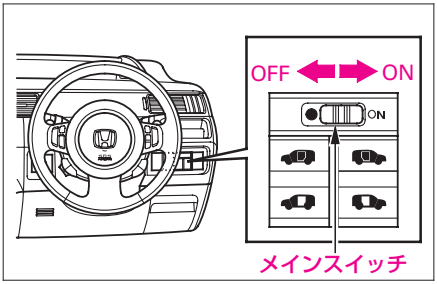
●パワースライドドアを開閉するときは手、足、顔などをはさまないように注意してください。
特にお子さまには気をつけてください。
・手、足、顔を出さないでください。
・ドアのアームやレールなどには、手、足をかけないでください。
・傾斜地ではスライドドアを開けたままにしないでください。ドアが不意に閉まり思わぬ事故につながるおそれがあります。
・手動で開閉するときは、ドアハンドルをしっかり持って開閉してください。ドア本体を持ったり、車体側に手をかけないでください。

知 識

- パワースライドドアの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、チャイルドプルーフのツマミを“施錠”の位置にしておきましょう。
  “施錠”の位置にしておくと、ドア内側のハンドルで開けることができません。
  その場合でも、ドア外側ハンドル、運転席スイッチ、キーレスエントリー用発信器で開閉できます。
  チャイルドプルーフ →55ページ
- パワースライドドアを開けるときは、必ずいっぱいに開けて、ストッパーで固定させ、ドアの自重で閉まらないようにしてください。
- パワースライドドアのボトルホルダーにはみ出す物を入れないでください。開閉の妨げになるだけでなく、車体に傷をつけるおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにパワースライドドアを閉めると、施錠されてパワースライドドアが開かなくなります。

パワースライドドアは、自動開閉と手動開閉に切り換えることができます。

自動で開閉するとき
…メインスイッチを“ON”にします。
手動で開閉するとき
…メインスイッチを“OFF”にします。



手動で開閉するときは、スライドドアについても合わせてご覧ください。
スライドドア →56ページ

知 識

- 通常はメインスイッチを“ON”（自動開閉）で使います。
  後輪タイヤを交換するときなどは、メインスイッチを“OFF”（手動開閉）にします。
- メインスイッチを“OFF”にしているときでもイージードアクローザーは作動します。
  イージードアクローザー →59ページ

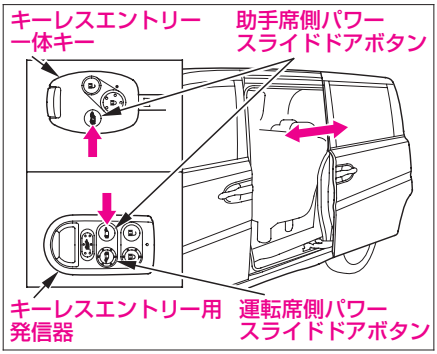
パワースライドドアの自動開閉は、次の条件が揃ったときに行えます。
- メインスイッチが“ON”のとき
- ノブが“解錠”になっているとき
- フューエルリッドが閉じているとき（助手席側のみ）
- エンジンスイッチを“II”にしているときは、セレクトレバーがPのとき、またはP以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）

キーレスエントリーで行う場合

パワースライドドアの開閉が、ドアハンドルを使わずにできます。

▼

発信器のパワースライドドアボタンを約1秒続けて押すと、パワースライドドアが開き（閉まり）ます。もう一度押し続けると、閉まり（開き）ます。
運転席側のドアを開閉するときは運転席側パワースライドドアボタンを、助手席側のドアを開閉するときは助手席側パワースライドドアボタンを押します。



知 識

- パワースライドドアを開閉中に動いているドア側の発信器のパワースライドドアボタンを押すと、ピーピーピーという音が鳴り、ドアは途中で止まります。もう一度押すと反対方向に動きます。

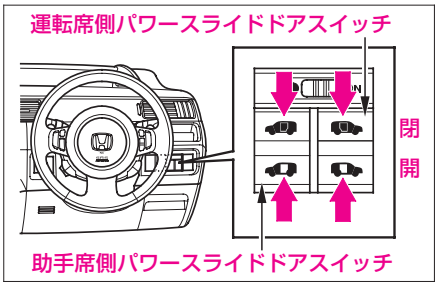
運転席スイッチで行う場合

助手席側のドアを操作するときは助手席側のスイッチを押し、運転席側のドアを操作するときは運転席側のスイッチを押します。

“ ”、または“ ”を押すと、ドアは自動的に開閉します。

開けるとき…“ ”を押します。
閉めるとき…“ ”を押します。

・パワースライドドアスイッチ

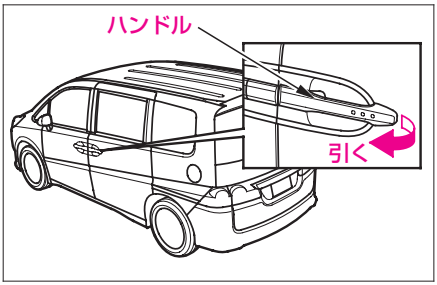


エンジンスイッチの位置に関係なく操作できます。

ドアのハンドルで行う場合

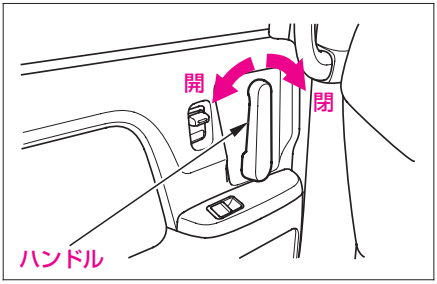
・外側のハンドル

外側のハンドルを引きます。
ドアは、自動的に開閉します。



・内側のハンドル

内側のハンドルを矢印の方向に動かします。
“開”の方向に動かすとドアは自動的に開き、“閉”の方向に動かすとドアは自動的に閉まります。



知 識

- パワースライドドアが“全開”のときは、ハンドルを“開”“閉”どちらに動かしても閉まります。

パワースライドドアを開閉中に途中で止めるには

万一のときなど、パワースライドドアの開閉を途中で止めることができます。
止めるときは、次のどちらかの操作を行ってください。
ピーピーピーという音が鳴り、ドアは途中で止まります。

・動いているドア側のスイッチの“ ”か“ ”のどちらかを押します。
・動いているドア側の内側のハンドルを“開”か“閉”のどちらかに動かします。
・動いているドア側の外側のハンドルを引きます。
・動いているドア側のキーレスエントリー用発信器のボタンを押します。

開閉途中でメインスイッチを“OFF”にして止めないでください。
“OFF”にすると手動開閉に切り換わり、坂道などでドアが自重で動く場合には落下防止機構が作動し、ドアが自重で動かないように保持され、ブザーが鳴り続けます。
落下防止機構が作動しているときは、再びメインスイッチを“ON”にしてドアを自動で閉めてください。落下防止機構が作動しているときにドアハンドルを操作したりメインスイッチを“ON”から“OFF”にすると、落下防止機構が解除され、ドアが自重で動くことがありますので注意してください。

途中から動かすときは

次の操作を行います。

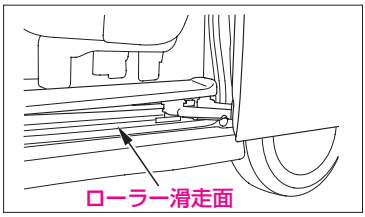
・運転席スイッチで操作する場合、“ ”を押すと“開”方向へ、“ ”を押すと“閉”方向へ動きます。
・内側のハンドルで操作する場合、開くときは“開”方向へ、閉めるときは“閉”方向へ動かします。
・外側のハンドルで操作する場合、ハンドルを引くと“開”方向へ動きます。
・キーレスエントリー用発信器で操作する場合、ボタンを約1秒続けて押すと、止める前に動いていた方向の反対方向に動きます。

知 識

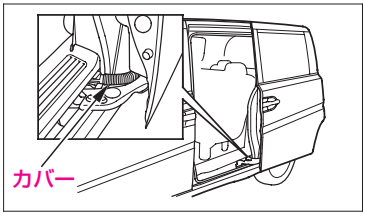
- フューエルリッド(燃料補給口)が開いているときに助手席側パワースライドドアの操作を行うと、ピーピーピーという音が鳴り作動しません。フューエルリッドを閉めてから操作してください。
- 助手席側パワースライドドアは、フューエルリッドが開いているときは、手動で開けられますが、中間ストッパーが作動して、パワースライドドアは途中までしか開きません。
- 助手席側パワースライドドアが自動で作動しているときに、フューエルリッドを開くとピーピーピーという音が鳴り作動が停止します。フューエルリッドを閉めてから操作してください。
- エンジンスイッチが"II"でパワースライドドアを自動で開けているときに、セレクトレバーがP以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、作動が途中で止まり、ピーという音が鳴り続けます。
  この場合は、セレクトレバーをPに戻すか、ブレーキペダルを踏むかまたはパーキングブレーキをかけてから、もう一度操作をしてください。
- エンジンスイッチが"II"でパワースライドドアを自動で閉めているときに、セレクトレバーがP以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、ピーピーピーという音は鳴り続けますが、そのまま閉まります。
- エンジンスイッチが"II"のときにセレクトレバーがP以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除したときに、内側または外側ドアのハンドルでパワースライドドアを開けようとしても、ピーという音が鳴り、ドアは少し開きますが、自動作動はしません。
  セレクトレバーをPに戻すか、ブレーキペダルを踏むかまたはパーキングブレーキをかけてから開けてください。

知 識

- パワースライドドアが“施錠”されている状態で開けようとしても、ピーピーピーという音が鳴りドアは開きません(ドアハンドルの操作では音は鳴りません)。“解錠”してから行ってください。
- 坂道でエンジンを停止した状態で、パワースライドドアを途中停止させたまま約30分以上経過すると、バッテリーの消耗を防ぐために、ブザーを鳴らしながらドアが自動的にゆっくりと傾斜方向に開き(閉まり)ます。
- 急な坂道で止まっているときは、パワースライドドアが開閉できないことがあります。
- パワースライドドアのローラー滑走面に石などの異物があると、作動不良になる場合があります。異物を取り除く場合は、水平な場所で必ずメインスイッチを“OFF”にして行ってください。



- パワースライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因になりますので注意してください。



●はさみ込み防止機構

パワースライドドアを自動で開閉しているときにドアが障害物を検知すると、はさみ込み防止機構が作動して、ドアが反対方向に動きます。
この時ピーピーピーという音が鳴ります。

⚠警告

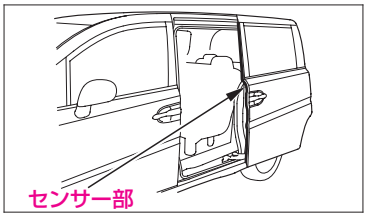
- はさみ込み防止機構は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。
  ドアを開閉する前には、ドア付近に障害物がないことを必ず確認してください。
  ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- パワースライドドアを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

- パワースライドドアを開けた状態で、バッテリーやヒューズを交換した場合は、パワースライドドアが自動的に閉まらなくなります。
  その場合は、一度手動で完全に閉じてください。
  その後、パワースライドドアの開閉を確認します。パワースライドドアの操作ができない場合やパワースライドドア警告灯が点灯している場合は、Honda販売店にご相談ください。
- パワースライドドア前端のセンサーに触れていると閉まりません。
  また、前端のセンサーを鋭利な物などで傷つけないでください。
  センサーが切断されると、電動で開閉することができなくなります。

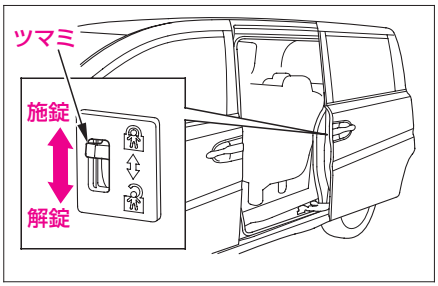


●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、パワースライドドアが完全に閉まっていると、ドア内側のハンドルで開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。



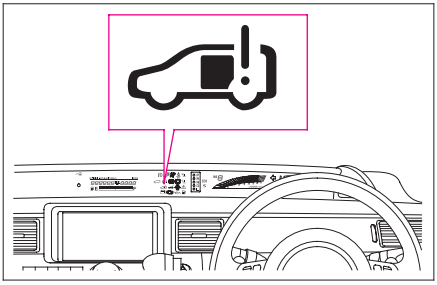
パワースライドドアを開ける場合は、ドア外側のハンドルで開けます。

知 識

●キーレスエントリー用発信器、運転席スイッチでも開閉できます。
→49、50ページ

●パワースライドドア警告灯

メーター内に組み込まれており、パワースライドドアが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

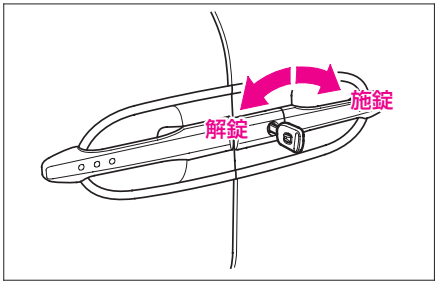
●警告灯が点灯しているときは、メインスイッチをOFFにして、手動でパワースライドドアを開閉してください。
メインスイッチ　→48ページ

スライドドア

●施錠・解錠

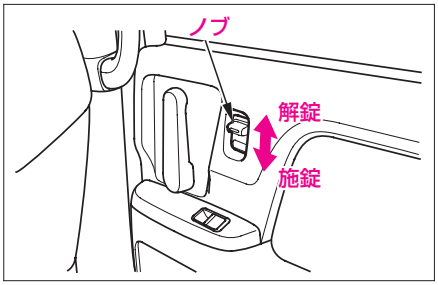
車外から行う場合

運転席ドアにキーを確実に差し込んで矢印の方向に回します。



車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



キーを使わないで施錠する場合

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めると施錠できます。

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってスライドドアの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→70ページ

●開閉

⚠注意

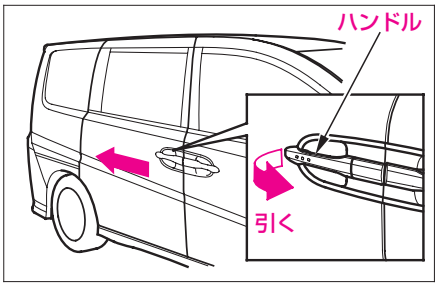
- スライドドアを開閉するときは手、足、顔などをはさまないように注意してください。
  - ・ドアハンドルをしっかり持って開閉してください。ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけないでください。
  - ・手、足、顔を出さないでください。
  - ・スライドドア後方の安全を十分確認してください。
  - ・ドアのアームやレールなどには、手、足をかけないでください。
  - ・傾斜地ではスライドドアを開けたままにしないでください。ドアが不意に閉まるおそれがあります。

知　識

- スライドドアの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- スライドドアを開けるときは必ずいっぱいに開けてストッパーで固定させ、ドアの自重で閉まらないようにしてください。
- スライドドアのボトルホルダーにはみ出す物を入れないでください。開閉の妨げになるだけでなく、車体に傷をつけるおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

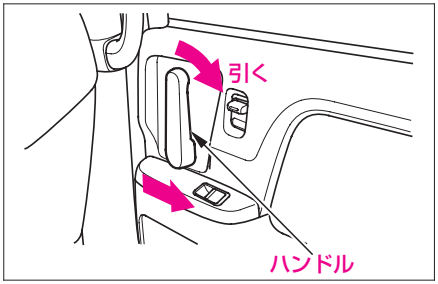
車外から開ける場合

ドアハンドルを引いてドアを後方へスライドさせます。全開にするとドアがストッパーで固定されます。



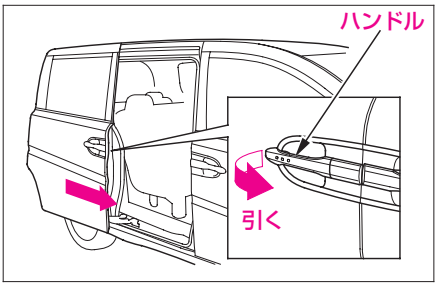
車内から開ける場合

内側のハンドルを持ち後方へスライドさせます。全開にするとドアがストッパーで固定されます。



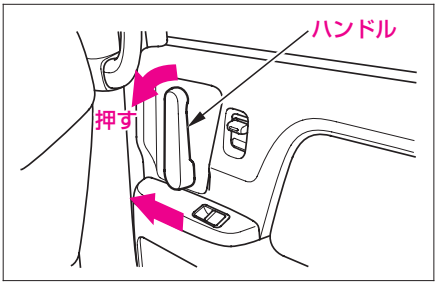
車外から閉める場合

全開にされたスライドドアを閉めるときは、ドアハンドルを引いてストッパーを解除してから閉めてください。



車内から閉める場合

内側のハンドルを持ち前方へ押して閉めます。

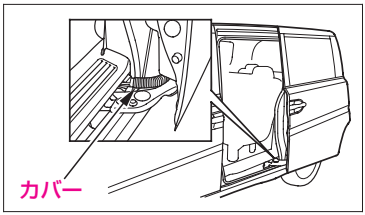


知 識

- フューエルリッド(燃料補給口)が開いていると、中間ストッパーが作動して、助手席側のスライドドアは途中までしか開きません。フューエルリッドを閉めてスライドドアを少し閉めてから開けてください。

知 識

●スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因になりますので注意してください。

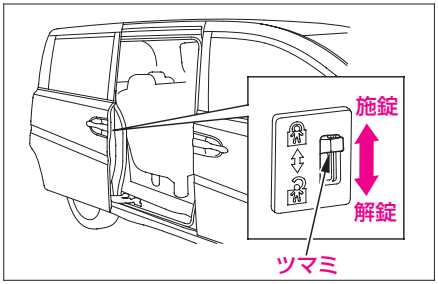


●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、スライドドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてスライドドアを閉めます。



ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

イージードアクローザー

タイプ別装備

スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、自動的に閉まります。

⚠注意

●半ドアの状態からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意してください。

アドバイス

●イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。故障の原因となります。

知 識

●イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと作動が止まり、半ドアのままになります。また、ハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。

● パワースライドドア装備車

イージードアクローザーは、パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なく作動します。ただし、メインスイッチが“ON”のときにフューエルリッドを開けると、イージードアクローザーは作動しません。

メインスイッチ　→48ページ

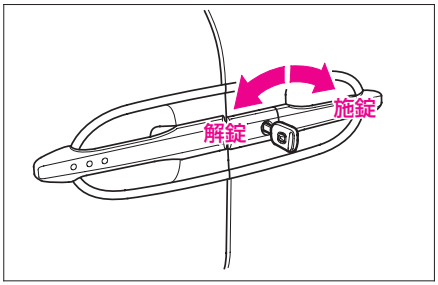
パワーテールゲート

タイプ別注文装備

●施錠・解錠

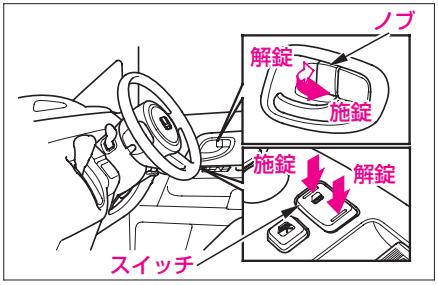
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとパワーテールゲートも同時に施錠(解錠)します。



車内から行う場合

運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとパワーテールゲートの施錠(解錠)ができます。
ノブの操作ではパワーテールゲートのみ施錠(解錠)ができ、その他のドアは施錠のみ連動します。



キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってパワーテールゲートの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→70ページ

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

●開閉

⚠注意

- パワーテールゲートを開閉をするときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさんだり、他の物にぶつからないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

アドバイス

- パワーテールゲートが開かないとき
→384ページ
- パワーテールゲートが確実に閉まらないとき
→385ページ

知 識

- パワーテールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにパワーテールゲートを閉めると、施錠されてパワーテールゲートが開かなくなります。

自動開閉

キーレスエントリー用発信器及び運転席スイッチを使ってパワーテールゲートを自動で開閉することができます。
また、パワーテールゲートにあるクローズスイッチを押して自動で閉めることができます。

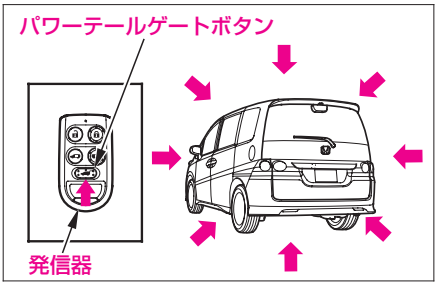
パワーテールゲートの自動開閉は、次の条件が揃ったときに行えます。

（開けるとき）
- パワーテールゲートが解錠されているとき
- パワーテールゲートが全閉のとき
- セレクトレバーがPのとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）

（閉めるとき）
- パワーテールゲートが全開のとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）

・キーレスエントリーで行う場合

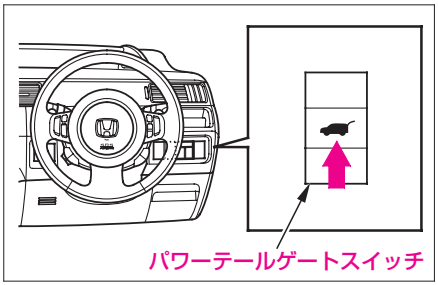
発信器のパワーテールゲートボタンを約1秒以上押すと、パワーテールゲートが開き（閉まり）ます。
このとき“ピー”とブザーが鳴り、非常点滅表示灯が4回点滅します。



開閉中にパワーテールゲートボタンを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り、パワーテールゲートが反対側に動きます。

・運転席スイッチで行う場合

“ ” を約 1 秒以上押すと、パワーテールゲートが開き(閉まり)ます。
このとき、“ピー”とブザーが鳴り、非常点滅表示灯が 4 回点滅します。



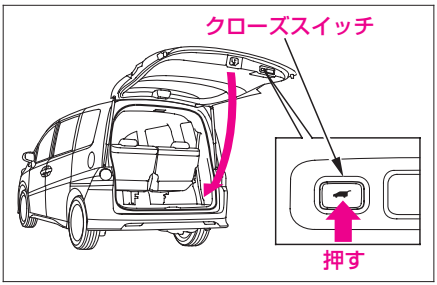
開閉中に “ ” を押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り、パワーテールゲートが反対側に動きます。

⚠注意

- パワーテールゲートを開閉するときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさんだり、他の物とぶつからないようにしてください。
  特にお子さまには気をつけてください。

・クローズスイッチで行う場合

クローズスイッチを押すと、パワーテールゲートが閉まります。
このとき、“ピー”とブザーが鳴ります。



開閉中にクローズスイッチを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り、パワーテールゲートが反対側に動きます。

⚠注意

- パワーテールゲートが自動開閉中にパワーテールゲートのハンドルを引くと、手動操作に切り換ります。このとき、パワーテールゲートの位置によっては急に開閉することがあるので注意してください。

知 識

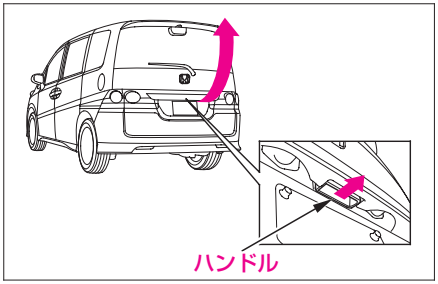
- 開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構が作動して、パワーテールゲートが反対側に動きます。
  はさみ込み防止機構　→66ページ
- 荷物の出し入れは、パワーテールゲートが完全に開ききったことを確認してから行ってください。
- 次のような場合、パワーテールゲートが確実に開閉しないことがあります。
  - 開閉中にエンジンを始動したとき
  - 傾斜している場所
  - 風の強いとき
  - パワーテールゲートやルーフに雪が積もっているとき
    （開閉する前に雪を取り除いてください）
- パワーテールゲートが確実に閉まったことを確認してから走行してください。
- パワーテールゲートが完全に閉まっていない状態で下記の条件が揃うと“ピーピーピーピー”とブザーが鳴ります。
  - エンジンスイッチが“II”の位置にある。
  - セレクトレバーがP以外の位置にある。
  - ブレーキペダルを踏んでいない。
  - パーキングブレーキが解除されている。

知 識

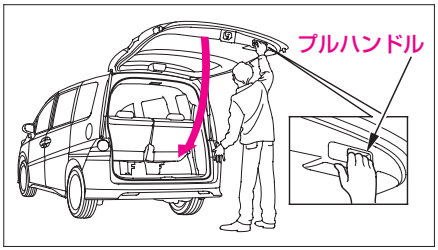
- パワーテールゲートにこの車専用（Honda純正品）以外のアクセサリーや字光式ナンバープレートを取り付けないでください。
  パワーテールゲートが確実に開閉しないことがあります。
- パワーテールゲートが開いている状態で、バッテリーやヒューズを交換した場合は、自動で閉まらなくなります。
  その場合は、手動でパワーテールゲートを閉めると機能が復帰します。

手動開閉

パワーテールゲートにあるハンドルを引き、静かに引き上げて開けます。



閉めるときはプルハンドルを利用してください。



知　識

- パワーテールゲートが完全に閉まっていない状態で下記の条件が揃うと“ピーピーピーピー”とブザーが鳴ります。
  - エンジンスイッチが“II”の位置にある。
  - セレクトレバーがR以外の位置にある。
  - ブレーキペダルを踏んでいない。
  - パーキングブレーキが解除されている。

知　識

- 走行中は、ハンドルを引いてもパワーテールゲートを開くことはできません。

イージーテールゲートクローザー

手動でパワーテールゲートを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

⚠注意

- 半ドア状態の位置からパワーテールゲートが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意してください。

アドバイス

- イージーテールゲートクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。故障の原因となります。

知　識

- イージーテールゲートクローザー作動中にパワーテールゲートのハンドルを引くと作動が止まり、半ドア状態のままになります。また、ハンドルを引いたままパワーテールゲートを閉めると、イージーテールゲートクローザーは作動しません。

はさみ込み防止機構

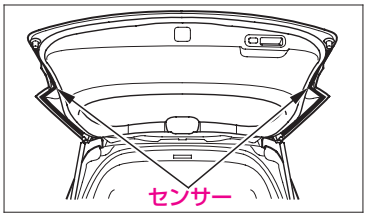
自動で開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構が作動して、パワーテールゲートが反対側に動きます。
このとき、“ピーピーピー”とブザーが鳴ります。

⚠注意

- はさみ込み防止機構は、万一のときに障害物を検知して、パワーテールゲートにはさまれてしまうことやパワーテールゲートが損傷するのを防ぐためのものです。
  パワーテールゲートを開閉するときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさんだり、他の物とぶつからないようにしてください。
  特にお子さまには気をつけてください。
- パワーテールゲートを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。また、センサーがある部分でもはさみ込みを検知できない領域があります。
  手などをはさまないように注意してください。

知 識

- パワーテールゲート両側にあるセンサーに触れていると閉まりません。
  また、センサーを鋭利な物などで傷つけないでください。
  センサーが切断されると、自動で閉めることができなくなります。



パワーテールゲート落下防止機構

パワーテールゲートを自動で開けたとき、パワーテールゲートにこの車専用以外のアクセサリーを取り付けていたり積雪などがあると、全開直後に自動で閉まることがあります。

積雪などの重みによるパワーテールゲートの落下を検知すると、落下防止機構が作動して自動で閉まります。

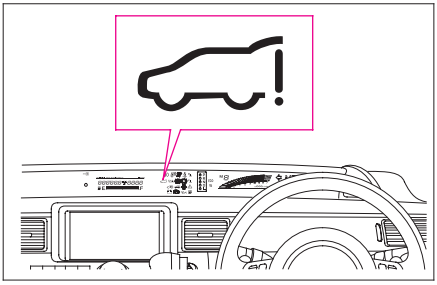
落下防止機構が作動しているときは、“ピー”という連続音のブザーが鳴り続けます。

知 識

- パワーテールゲートにはこの車専用（Honda純正品）以外のアクセサリーを取り付けないでください。
- パワーテールゲートに積雪がある場合は、パワーテールゲートを作動させる前に雪を取り除いてください。
- パワーテールゲート落下防止機構が作動した場合は車から離れて、パワーテールゲートが全閉するまでお待ちください。
- 自動で全開した直後に、手動でパワーテールゲートを閉めようとすると落下防止機構が作動することがあります。
- 落下防止機構が作動し続ける場合はHonda販売店で点検を受けてください。

●パワーテールゲート警告灯

メーター内に組み込まれており、パワーテールゲートが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき
- 警告灯が点灯しているときは、パワーテールゲートの開閉は手動で行ってください。

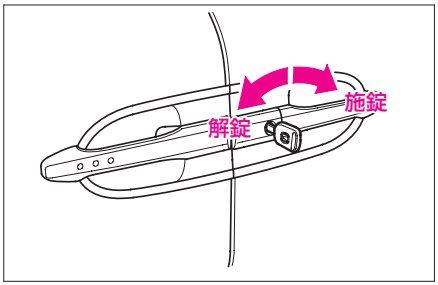
パワーテールゲートが開かないとき　→384ページ
パワーテールゲートが確実に閉まらないとき　→385ページ

テールゲート

●施錠・解錠

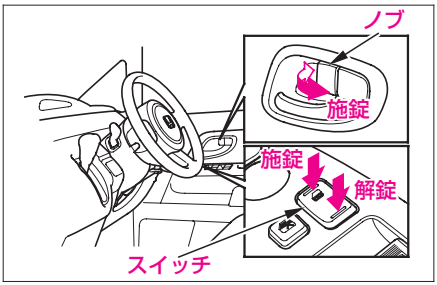
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠(解錠)します。



車内から行う場合

運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとテールゲートの施錠(解錠)ができます。
ノブの操作では施錠のみ連動します。



キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってテールゲートの施錠・解錠ができます。

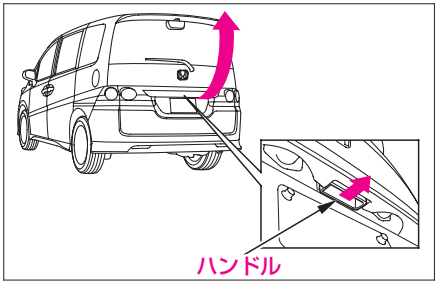
キーレスエントリー　→70ページ

知　識

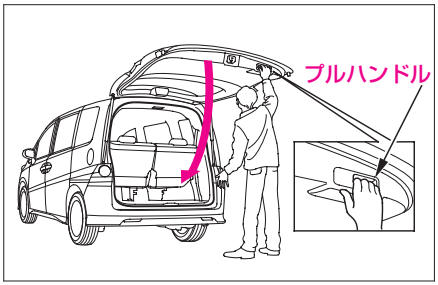
- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

●開閉

テールゲートを解錠してから、ハンドルを引き静かに引き上げて開けます。



閉めるときはプルハンドルを利用してください。



⚠注意

- テールゲートを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

アドバイス

- テールゲートの解錠ができないとき

→386ページ

知 識

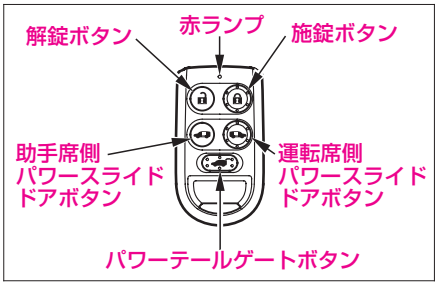
- テールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにテールゲートを閉めると、施錠されてテールゲートが開かなくなります。

キーレスエントリー

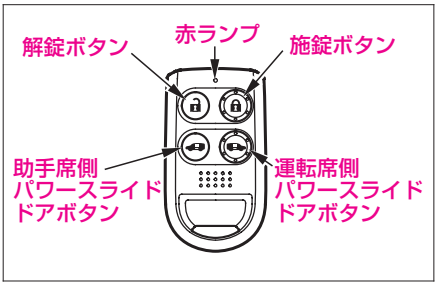
知 識

- 発信器には、精密な電子部品が組み込まれています。発信器の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温になるところに置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
- 微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

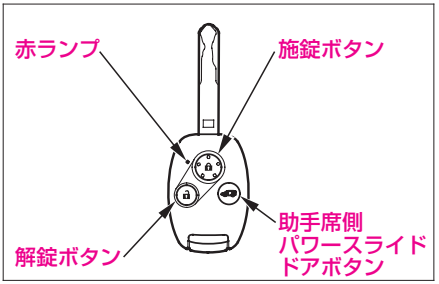
パワーテールゲート、両側パワースライドドア装備車



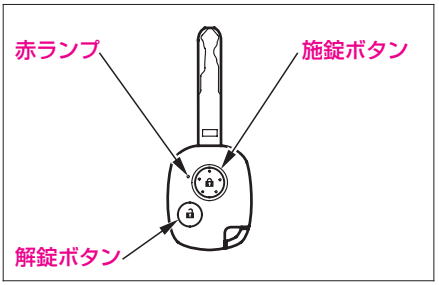
両側パワースライドドア装備車



助手席側パワースライドドア装備車



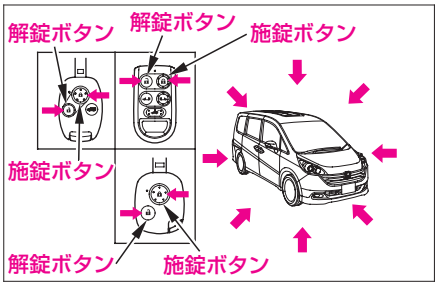
パワースライドドア非装備車



●施錠・解錠ボタン

発信器の施錠ボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが施錠され、解錠ボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが解錠されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。



知識

- キーレスエントリー用発信器で解錠してから約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときや、ドアまたはテールゲートが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。
- 運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。
  室内灯　→319、322ページ
- 車を離れるときは、ドア、テールゲートが確実に施錠されていることを確認してください。

●パワースライドドアボタン

パワースライドドア装備車

キーレスエントリー用発信器を使ってパワースライドドアを自動で開閉することができます。

→49ページ

●パワーテールゲートボタン

パワーテールゲート装備車

キーレスエントリー用発信器を使ってパワーテールゲートを自動で開閉することができます。

→62ページ

●電池交換

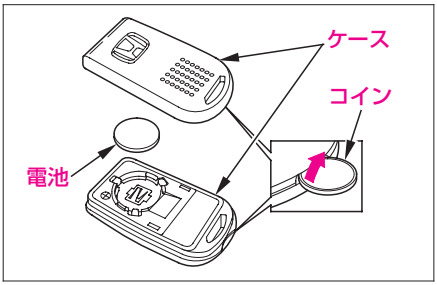
発信器のボタンを押しても作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。ボタンを押したときに赤ランプが点灯しない場合は電池ぎれです。電池を交換してください。

キーレスエントリー用発信器

両側パワースライドドア装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR2025

コインを使ってカバーを外し、電池を交換します。

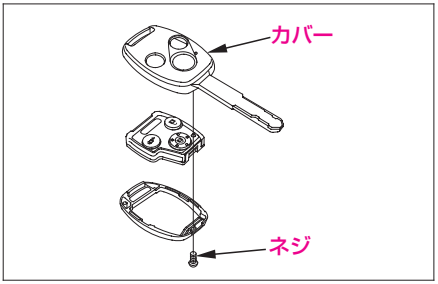


キーレスエントリー一体キー

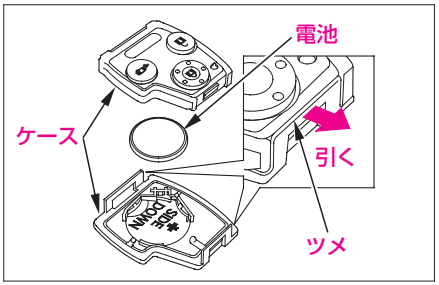
助手席側パワースライドドア装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1616

①ネジを外してカバーを外します。



②ツメを引いてケースを外し、電池を交換します。



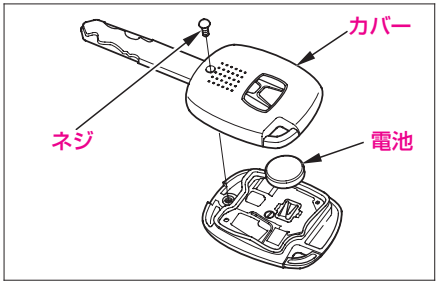
知　識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

パワースライドドア非装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1220

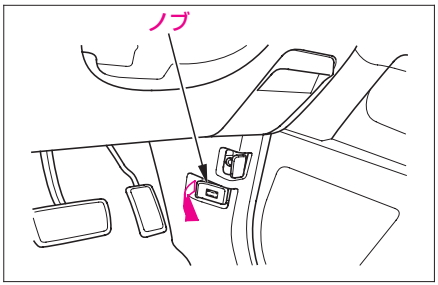
ネジを外して、カバーを外し、電池を交換します。



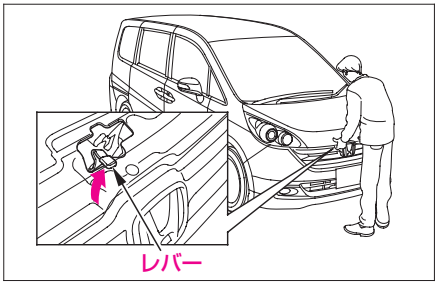
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。



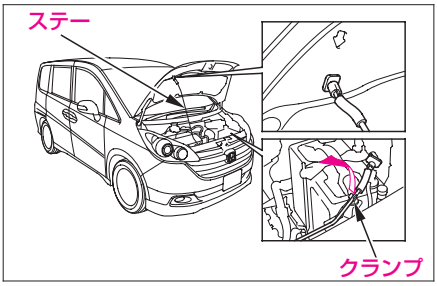
②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを上へ押しながら開けます。



知 識

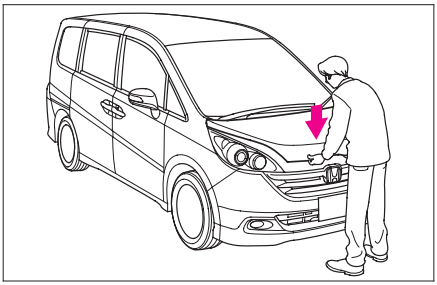
●ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

③必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。



ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知 識

- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
（無鉛ハイオクも使用可能）

タンク容量：
二輪駆動車（2WD車）・・・・・・・・・・ 57ℓ
四輪駆動車（4WD車）・・・・・・・・・・ 55ℓ

アドバイス

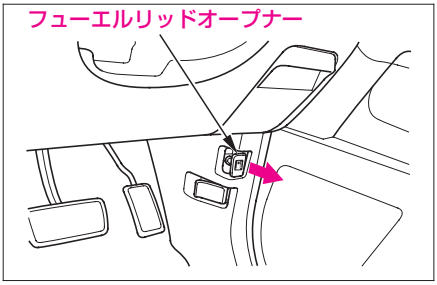
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - ・有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - ・高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - ・軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

●燃料補給のしかた

⚠警告

- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - ・エンジンは必ず止めてください。
  - ・タバコなどの火気を近づけないでください。
  - ・こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
  - ・燃料の取り扱いは、屋外で行ってください。
- 燃料補給作業は身体の静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

①運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開けます。



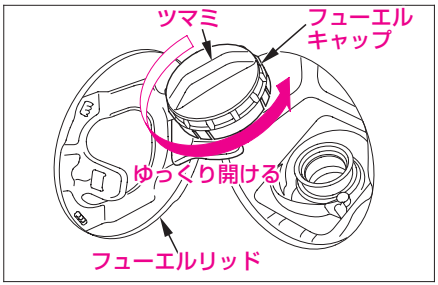
知 識

- フューエルリッドはスライドドアが閉まっていることを確認してから開けてください。
  スライドドアが開いていると、フューエルリッドがドアにあたります。

知 識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。再度、静電気を除去してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- **パワースライドドア装備車**
  フューエルリッド(燃料補給口)が開いていると、助手席側のパワースライドドアの操作を行っても作動しません。フューエルリッドを閉めてから操作してください。
- フューエルリッドが開いていると、助手席側のパワースライドドアまたはスライドドアは、手動で途中までしか開きません。

②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。
③ツマミを持ってフューエルキャップをゆっくり回して開けます。



⚠注意

- キャップはゆっくり開けてください。
  急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

④給油ノズルを奥まで差し込んで補給します。
燃料タンクが満タンになると給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

⚠注意

- 給油ノズルの自動停止後は、追加補給しないでください。
  気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

知 識

- 気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

⑤キャップを“カチッ”という音が 2 回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

- キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
  確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

▼

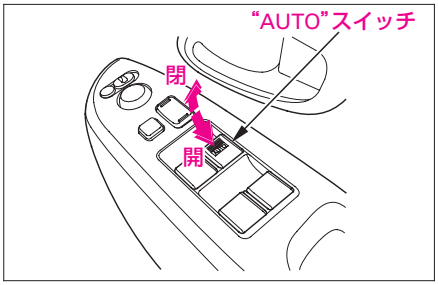
開閉は、それぞれのスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席ウィンドーおよびスライドドアウィンドーも操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。



自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

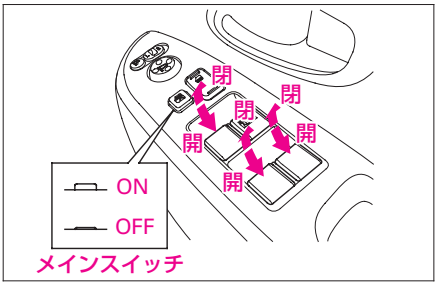
●運転席以外のウィンドーの開閉

メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。

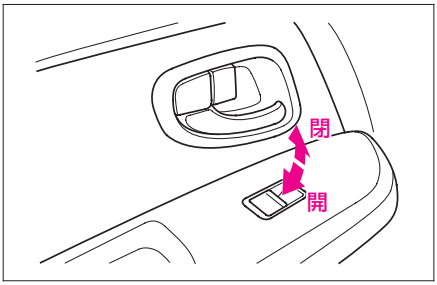
スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

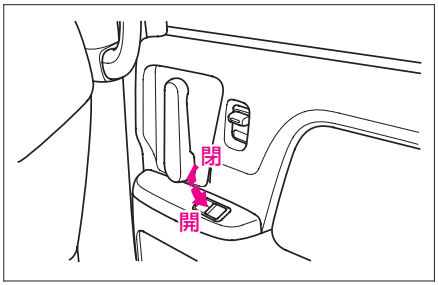
・運転席スイッチ



・助手席ドアスイッチ



・スライドドアウィンドースイッチ



運転席以外のウィンドーを動かなくしたいとき（メインスイッチ）

メインスイッチを“OFF”にしておけば、運転席以外のウィンドーは作動しません。

⚠警告

- パワーウィンドーを閉めるときは、手や顔などをはさまないようにしてください。
  ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- 車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
  いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
- パワースライドドアまたはスライドドアのウィンドーは、全開しません。

●キーオフオペレーション(運転席のみ)

エンジンスイッチを“II”から“ I ”または“ 0 ”にしてから、約45秒間は、運転席パワーウィンドーの操作ができます。
ただし、エンジンスイッチを“II”から“ I ”または“ 0 ”にしてから約45秒以内に、前席ドアを開けてから閉めると、パワーウィンドーの操作はできなくなります。

●はさみ込み防止機構(運転席のみ)

運転席ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

- ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

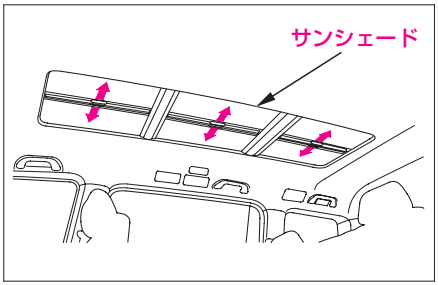
- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

トップライトルーフ

タイプ別注文装備

●サンシェード（遮光板）の開閉

各サンシェードは手動で開閉します。



⚠注意

- サンシェードを開閉するときは手などをはさまないようにしてください。

アドバイス

- トップライトルーフの上に荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。トップライトルーフが破損するおそれがあります。
- サンシェード収納口や枠に手をかけたり、重い物をかけたりしないでください。破損や変形の原因となります。

知 識

- 各サンシェードは全開か全閉の位置で使ってください。途中で止めて使うと、走行中の振動で音が出ることがあります。
- 炎天下に長時間駐車するときは、サンシェードを閉めてください。サンシェードを開けたままにしていると車内が高温になります。



セキュリティーシステム

セキュリティー(盗難防止)システムは、イモビライザーシステムとセキュリティーアラームシステム(タイプ別装備)により、お車を盗難から守るための装置です。

イモビライザーシステムについて

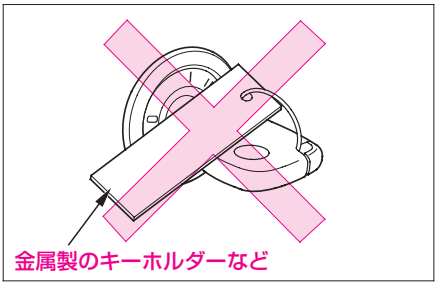
キーに信号を発信する電子部品があり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

アドバイス

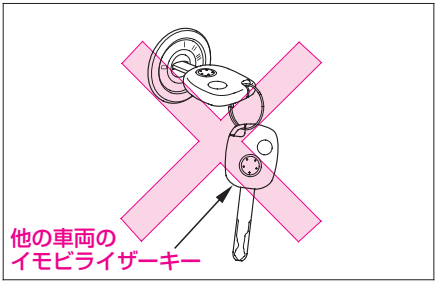
- システムを改造したりしないでください。
  エンジンシステムが故障するおそれがあります。

イモビライザーシステムは、車両とキーとの電子照合を行うとき、微弱な電波を使用しています。
次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- キーグリップ部が金属物に触れたり覆われているとき



- 他の車両のイモビライザーシステム用のキーが近くにあるとき



セキュリティーアラームシステムについて

タイプ別装備

このシステムは、キーあるいはキーレスエントリー用発信器を使わずにドア、テールゲートを開けたり、ボンネットを開けたりすると警報装置が作動し、ホーンを鳴らし、同時に非常点滅表示灯を点滅させます。

●警報装置について

警報装置は、セキュリティーアラームシステムがセットされているときに次のようなことのいずれかを行うと作動します。

- ドアまたはテールゲートをキーあるいはキーレスエントリー用発信器を使わずに開けようとしたとき
- ボンネットをこじ開けようとしたとき
- エンジンスイッチを“II”にしたとき

警報装置が作動すると、ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

警報装置は、セキュリティーアラームシステムを止めるまで最大5分間作動します。（ホーンおよび非常点滅表示灯は1回の警報作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。）

警報装置の止めかた

キーあるいはキーレスエントリー用発信器で解錠すればその時点で警報装置は止まります。

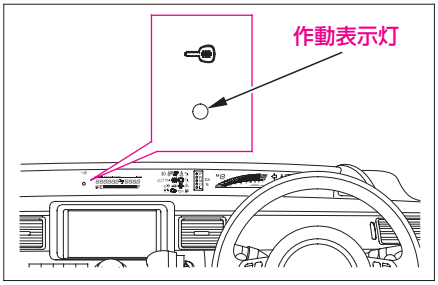
●セットのしかた

次の操作がすべて行われると自動的にセキュリティーアラームシステムがセットされます。

・ボンネットを閉める。
・すべてのドアとテールゲートを閉め、施錠する。

上記がすべて行われると、メーター内にある作動表示灯が点滅を始めます。約15秒後に点滅間隔が変わり、セキュリティーアラームシステムがセットされたことを知らせます。

作動表示灯は、セキュリティーアラームシステムがセットされている間は、点滅を続けます。



セットを解除するときは、キーあるいはキーレスエントリー用発信器で解錠します。作動表示灯が消灯し、セットが解除されたことを知らせます。

知 識

- 車から離れるときは、セキュリティーアラームシステムがセットされ、作動していることを作動表示灯で確認してください。
- ボンネット、ドア、テールゲートのすべてが完全に閉まっていないと、セキュリティーアラームシステムはセットされません。
- 車内に人が乗っている状態またはウィンドーが開いた状態でもセキュリティーアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐため、人が乗っている状態またはウィンドーが開いた状態ではセキュリティーアラームシステムをセットしないでください。
- セキュリティーアラームシステムをセットしたあとに、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電・交換をする際は、警報装置が作動する場合がありますので、キーあるいはキーレスエントリー用発信器でドアを解錠し、セキュリティーアラームシステムを解除してください。



シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

⚠警告

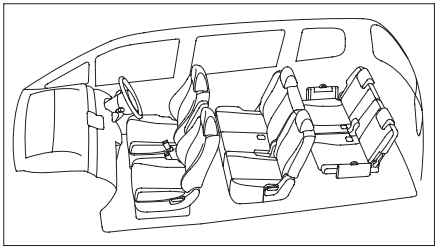
- シートに深く腰かけてください。
  また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

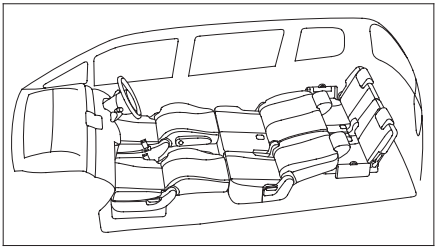
⚠注意

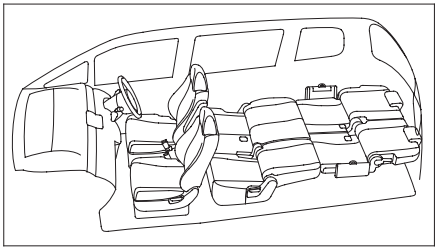
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 助手席のシートアンダートレイ（タイプ別装備）以外のシートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

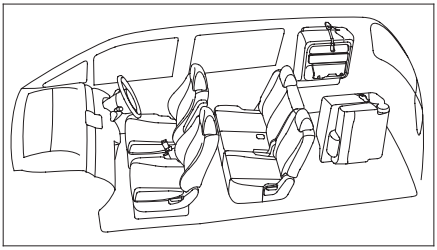
シートアレンジインデックス

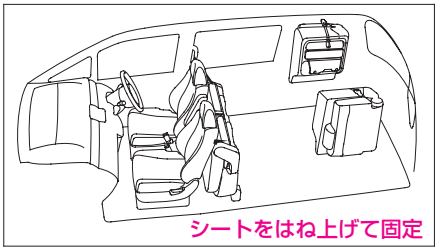
セカンドシート　タンブルシート車







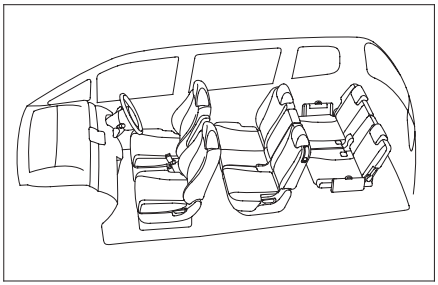


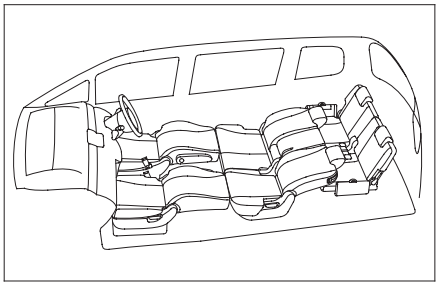


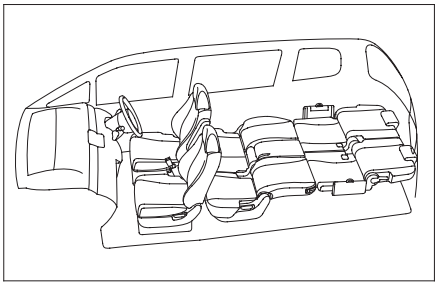
●フロントシート……92
●セカンドシート……94
サードシートへの乗り降り……**96**
シートをはね上げて固定するとき…**97**
●サードシート……106
シートをはね上げて
固定するとき……**108**
●フラットシート……110
（フロント･セカンドシート）……**111**
（セカンド･サードシート）……**112**
●カーゴスペースの作りかた……**113**

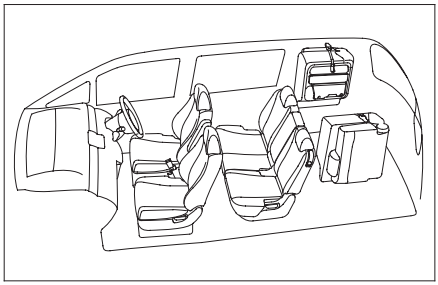
セカンドシート　回転対座シート車

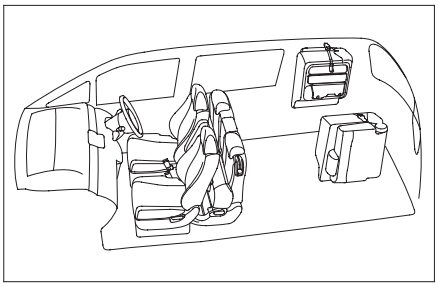
タイプ別注文装備

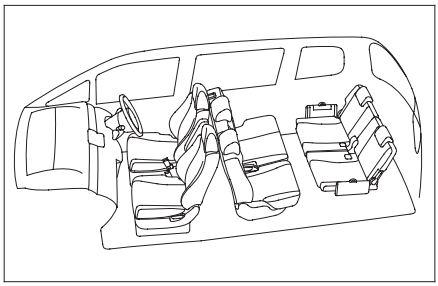








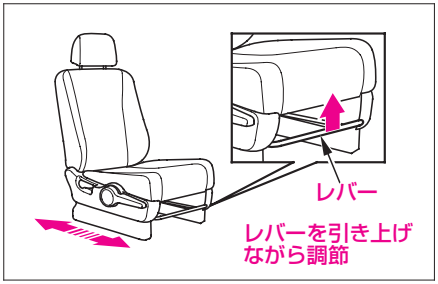




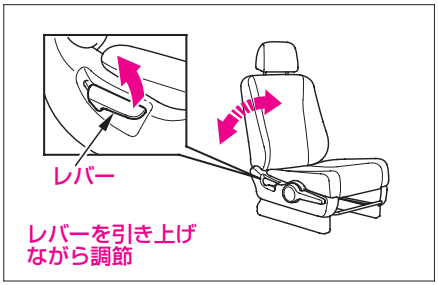
●フロントシート……92
●セカンドシート……99
サードシートへの乗り降り ……**101**
座面をはね上げて固定するとき …**102**
対座にするとき ……**104**
●サードシート ……**106**
シートをはね上げて
　固定するとき ……**108**
●フラットシート ……**115**
（フロント･セカンドシート）……**116**
（セカンド･サードシート）……**117**
●カーゴスペースの作りかた ……**118**

フロントシート

●前後位置の調節

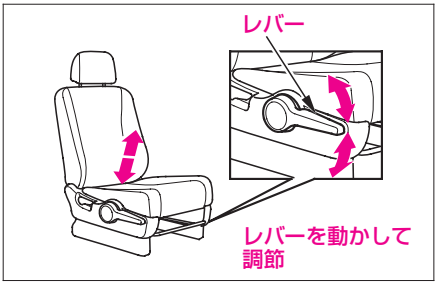


●背もたれの調節



●高さの調節（運転席のみ）

タイプ別装備



上へ動かす…
　中間位置より上にレバーを動かします。
下へ動かす…
　中間位置より下にレバーを動かします。

レバーを動かすたびに高さを調節できます。
レバーを動かしたら一旦中間の位置に戻して、もう一度動かすようにして調節します。

知　識

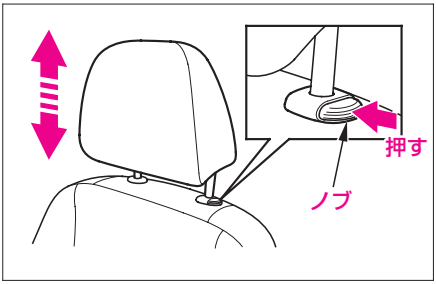
- レバーを最上段または最下段にすると、レバーが動かなくなります。

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。



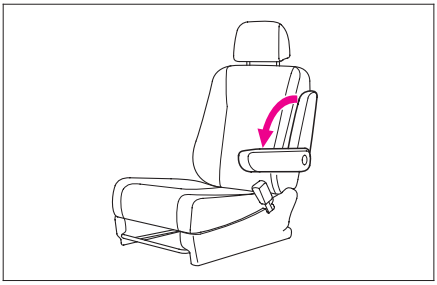
⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

タイプ別装備

前に倒して使います。



⚠注意

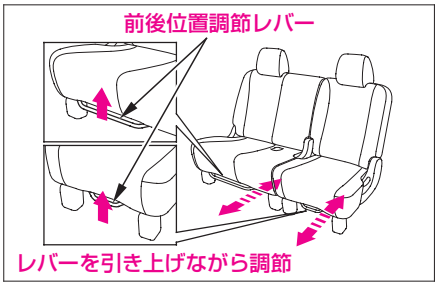
●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

セカンドシート（タンブルシート）

●前後位置の調節

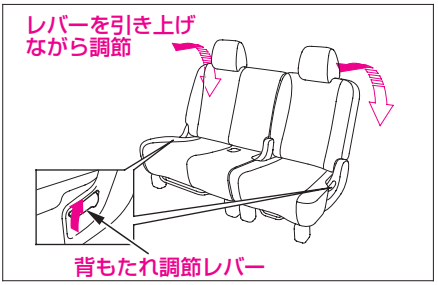


片側ずつ独立して行えます。

知 識

●シートを前後に調節するときは、中央の二点式シートベルトがシートにはさまれないようにしてください。

●背もたれの調節



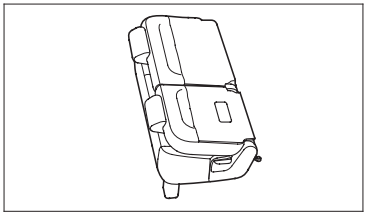
片側ずつ独立して行えます。

知 識

●調節するときは、背もたれを前に倒しすぎないようにしてください。
背もたれを一定角度以上前に倒すと、同時にシートもはね上がります。

ウォークイン機構　→96ページ

●背もたれを前に倒した状態で荷物を乗せたり、人を乗せないでください。
背もたれがこわれるおそれがあります。

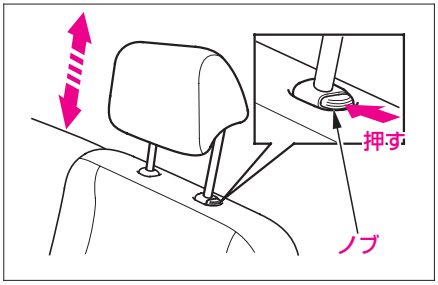


●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。



⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●サードシートへの乗り降り

左右どちらからでも乗り降りできます。

ウォークイン機構

セカンドシートを前へはね上げます。

▼

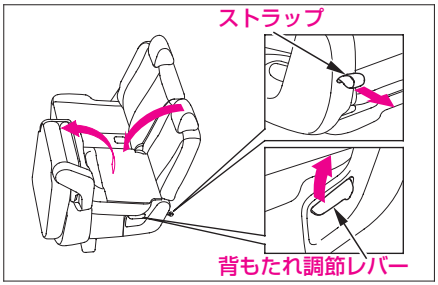
①ヘッドレストを一番下に下げます。

ヘッドレストの調節　→95ページ

②セカンドシートを後方いっぱいに動かします。

前後位置の調節　→94ページ

③背もたれ調節レバーを引き上げるか、シート下部のストラップを引くと、背もたれが前に倒れ、シートが前にはね上がります。
片側ずつ独立して行えます。



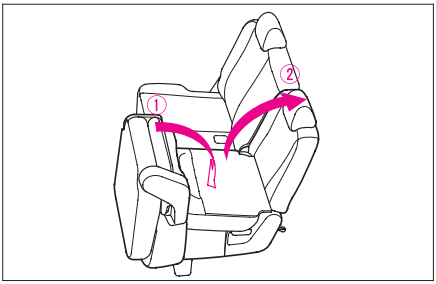
走行する前にシートを戻して床に固定し、背もたれを起こして、シートの前後位置を調節してください。

知　識

- セカンドシートが後方いっぱいの位置でないと、はね上げたときに直立させることができません。
- 背もたれが倒れているときは、一旦背もたれを起こしてから操作してください。
- サードシートから降りるときはストラップを利用すると便利です。

戻しかた

①シートを戻して床に固定します。
②背もたれを起こします。



⚠注意

- 背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをするおそれがあります。シートを操作するときは十分注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

●シートをはね上げて固定するとき

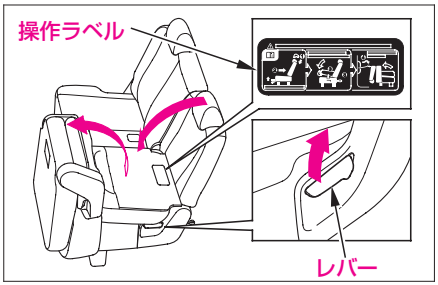
①ヘッドレストを一番下に下げます。

ヘッドレストの調節　→95ページ

②セカンドシートを後方いっぱいに動かします。

前後位置の調節　→94ページ

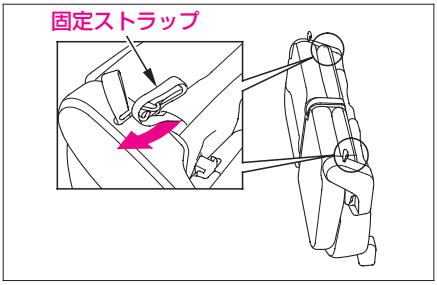
③背もたれ調節レバーを引き上げると、背もたれが前に倒れ、シートが前にはね上がります。



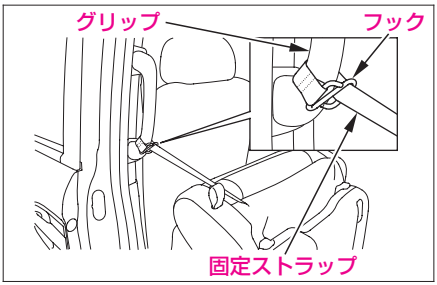
知　識

- セカンドシートが後方いっぱいの位置でないと、はね上げたときに直立させることができません。
- 背もたれが倒れているときは、一旦背もたれを起こしてから操作してください。

④座面に収納されている固定ストラップを引き出します。



固定ストラップをグリップに通し、図のようにフックをかけます。



シートを軽くゆすって、確実に固定されていることを確認します。

元に戻すとき

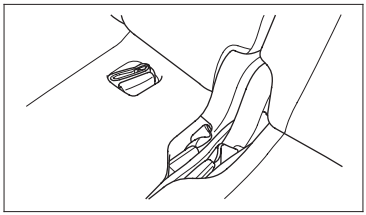
①固定ストラップからフックを外します。
②固定ストラップを収納します。
③シートを戻して床に固定します。
④背もたれを起こします。

⚠注意

- カーゴスペース内に人を乗せたり、セカンドシートをはね上げた状態でサードシートに人を乗せて走行しないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 倒れている背もたれの上に荷物を乗せたり、人を乗せないでください。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをするおそれがあります。シートを操作するときは十分注意してください。
  特にお子さまには気をつけてください。

知 識

- シートをはね上げるときは、あらかじめ中央の二点式シートベルトと左右のバックルを収納してください。

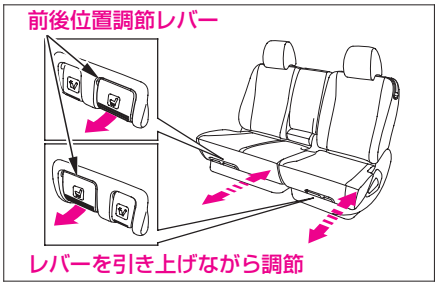


- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- 背もたれを起こしたときは、背もたれを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

セカンドシート（回転対座シート）

タイプ別注文装備

●前後位置の調節

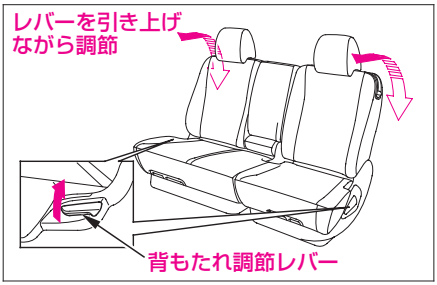


片側ずつ独立して行えます。

知　識

●シートを前後に調節するときは、二点式シートベルトがシートにはさまれないようにしてください。

●背もたれの調節



片側ずつ独立して行えます。

知　識

●調節するときは、背もたれを前に倒しすぎないようにしてください。背もたれを一定角度以上前に倒すと、同時に座面もはね上がります。

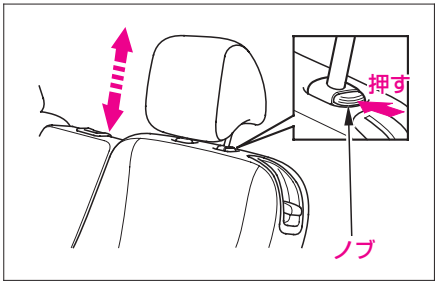
ウォークイン機構　→101ページ

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

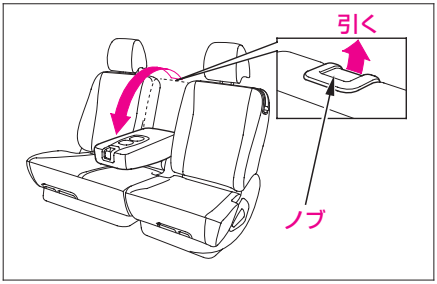


⚠警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

ノブを引いて前に倒して使います。



⚠注意

- シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
  シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

- アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

●サードシートへの乗り降り

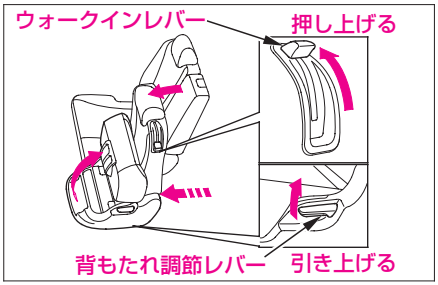
左右どちらからでも乗り降りできます。

ウォークイン機構

背もたれを前に倒し座面をはね上げ、セカンドシート全体を前へ移動します。

▼

ウォークインレバーを押し上げるか、背もたれ調節レバーを引き上げると、背もたれが前に倒れ、座面がはね上がります。そのままシートを前に押すと移動します。片側ずつ独立して行えます。

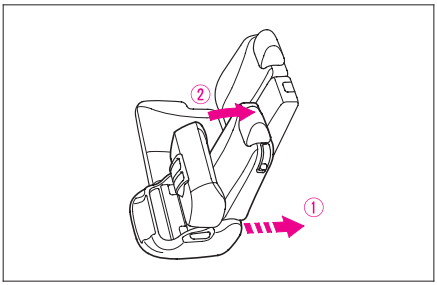


走行する前にシートの前後位置を調節し、背もたれを起こしてシートを固定してください。

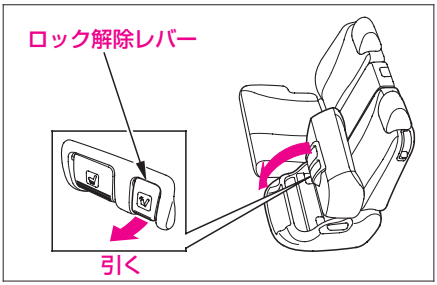
戻しかた

①シートを後方へ押して、前後位置を調節します。

②背もたれを起こしてシートを固定します。



③ロック解除レバーを引き上げながら、座面を倒して固定します。

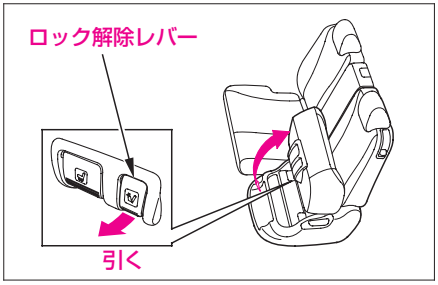


⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

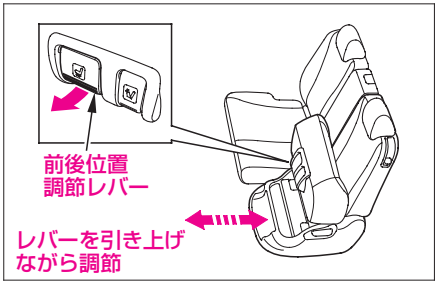
●座面をはね上げて固定するとき

ロック解除レバーを引き上げながら、座面を起こして固定します。



片側ずつ独立して行えます。
元に戻すときは、ロック解除レバーを引きながら座面を倒します。

座面をはね上げた状態で前後に動かすとき



片側ずつ独立して行えます。

⚠注意

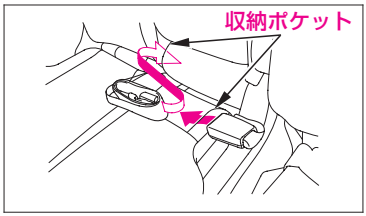
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- 座面に物を置いたまま操作しないでください。物をはさみ込むと、座面を固定することができなくなります。
- シートを動かしたときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 前寄りの位置では、ロック解除レバーを引いても、座面が降りないようにロックをかけている箇所があります。
  座面が降りないときは、無理に降ろさず、シートをもう一度後方へ動かしてから降ろしてください。

知 識

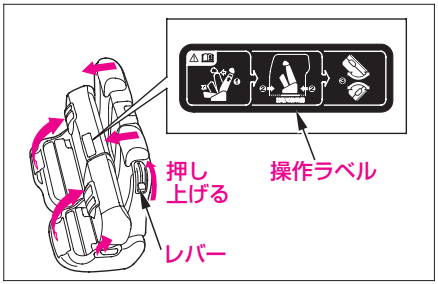
- 座面が確実に固定されない状態で、上に乗ったり無理な力を加えないでください。
  破損や変形の原因になります。
- シートを操作するときは、あらかじめ二点式シートベルトを収納してください。



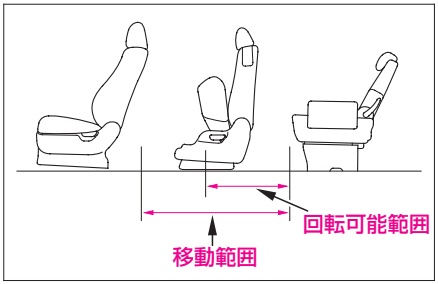
●対座にするとき

①レバーを押し上げると、背もたれが前に倒れ、座面がはね上がります。

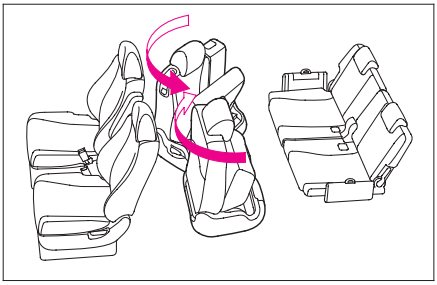
ウォークイン機構　→101ページ



②シートを後方位置(回転可能範囲)に動かします。



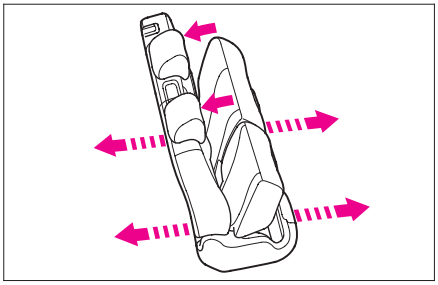
③シートを車両の内側まわりに180°回転させます。



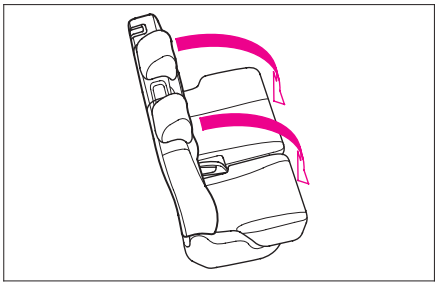
知　識

●前寄りの位置では、回転しないようにロックをかけている箇所があります。シートが回転しないときは、無理に回さず、シートを後方へ移動してから回転させてください。

④左右のシート前後位置を調節し、背もたれを起こしてシートを固定します。



⑤座面を倒して固定します。



元に戻すときは同じ手順で行います。

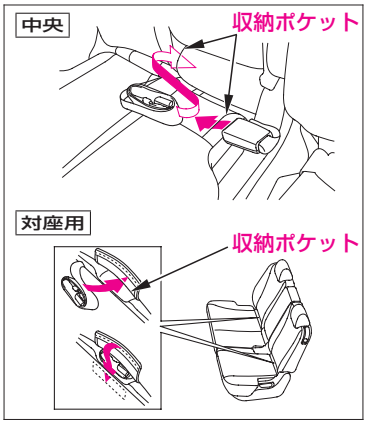
⚠注意

- 走行中に操作するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- シートを操作したときは、シートをゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- シートを操作するときは、あらかじめ二点式シートベルトを収納してください。

対座用シートベルト　→133ページ

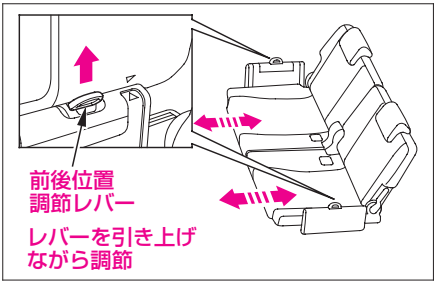


- 対座の状態(後ろ向き)では、チャイルドシートを固定できません。

チャイルドシート固定装置
→138ページ

サードシート

●前後位置の調節

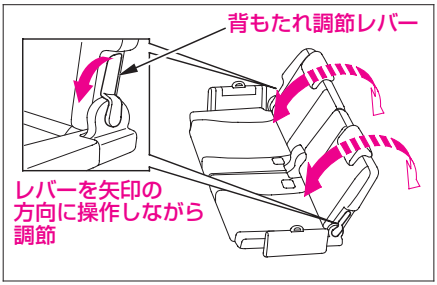


片側ずつ独立して行えます。

知　識

●中央座席を使用するときは正しい乗車姿勢がとれるように、左右座席の前後位置が同じになるように調節してください。

●背もたれの調節

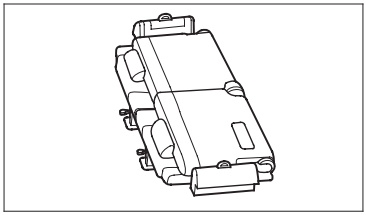


片側ずつ独立して行えます。

知　識

●中央座席を使用するときは正しい乗車姿勢がとれるように、左右座席の背もたれの角度が同じになるように調節してください。

●背もたれを前に倒した状態で荷物を乗せたり、人を乗せないでください。
背もたれがこわれるおそれがあります。

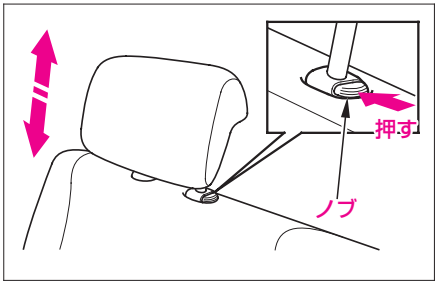


●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。



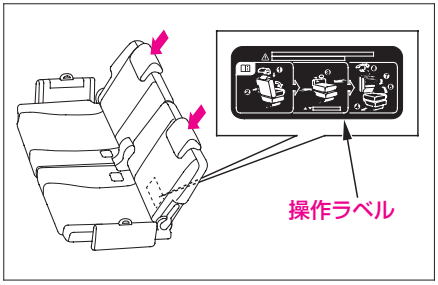
⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

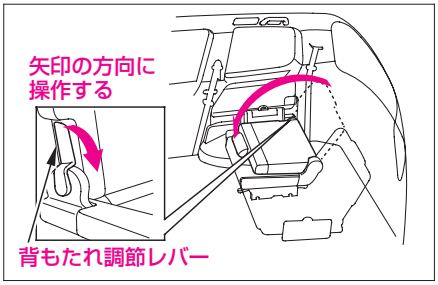
●シートをはね上げて固定するとき

①ヘッドレストを一番下まで下げます。

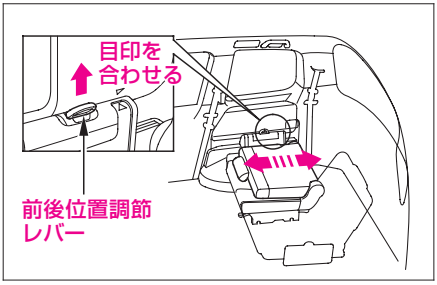
ヘッドレストの調節　→107ページ



②背もたれ調節レバーを矢印の方向に操作しながら、背もたれを前へ倒し、固定させます。

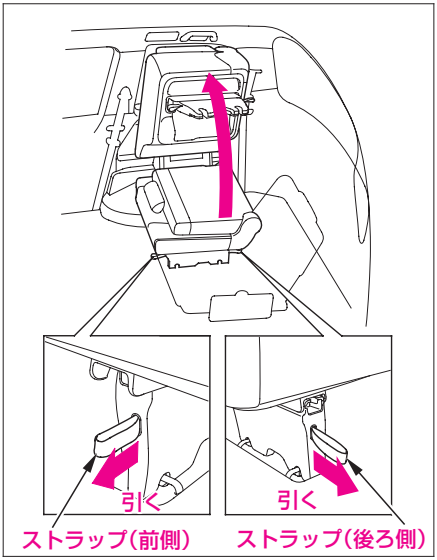


③前後位置調節レバーを引き上げながらシートを動かして目印(△、▽)を合わせ固定します。

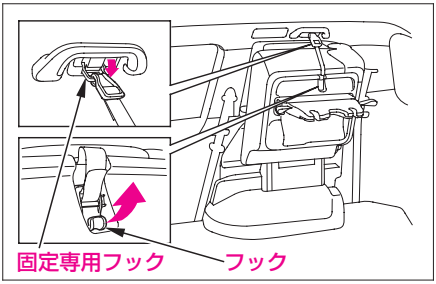


④シート下のストラップを引きます。
(ストラップは前側、後ろ側のどちらからでも操作できます。)

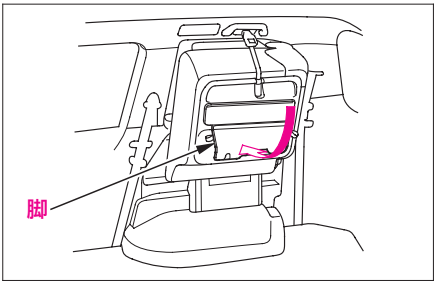
⑤シートを窓側に起こします。



⑥シートのフックを外してグラブレール下の固定専用フックに確実にはめ込み、シートを固定します。



⑦脚を折りたたみます。



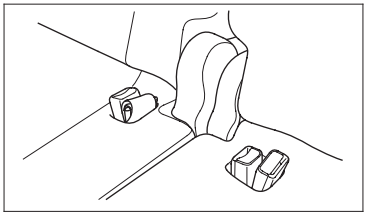
元に戻すときは逆の手順で行います。

⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

知 識

- サードシートの固定専用フックは、シートを固定する以外の目的で使用しないでください。
- はね上げたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- はね上げた状態で、シートやストラップに物をかけたり、ぶらさがったりしないでください。グラブレール下の固定専用フックが破損したり、シートのフックが外れることがあります。
- はね上げてから前後位置の調節はしないでください。
  元に戻すとき、脚が確実に固定されません。
- 操作は、ゆっくりと確実に行ってください。また、シートを元に戻すときは脚が戻されていることを確認してください。
- シートをはね上げて固定するときは、あらかじめバックルやタングプレートを収納してください。



フラットシート（フロント・セカンドシート）（セカンド・サードシート）

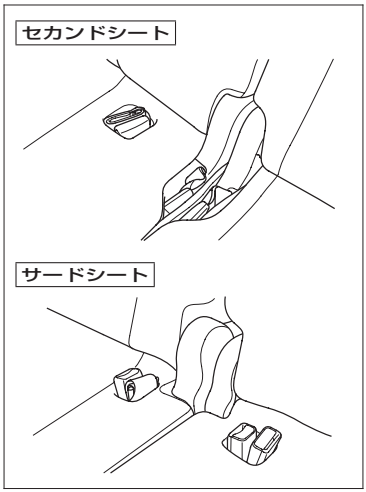
タンブルシート車

⚠注意

- フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しないでください。
  ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フラットな状態で、シートの上を走り回らないでください。
  また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。
  シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。
- アームレストは収納してください。つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。
- フラットな状態で、室内からテールゲートを閉めないでください。手などをはさまれて、けがをするおそれがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

知 識

- フラットにしたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- フラット使用時にバックルやタングプレートを収納ポケットに入れておくと快適に使用できます。



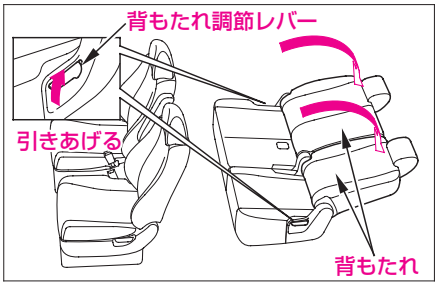
●フロント・セカンドシート

フロントシート(運転席、助手席)の背もたれを倒すと、セカンドシートとフラットな状態にできます。

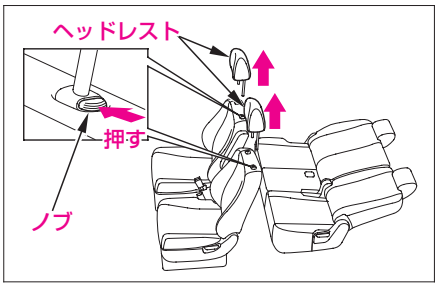
①前後位置調節レバーを引き上げながら、セカンドシートを後方いっぱいに動かします。

セカンドシート前後位置の調節
→94ページ

②背もたれ調節レバーを引き上げながら、セカンドシートの背もたれを後ろに倒し固定します。

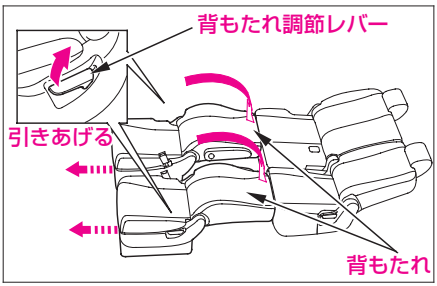


③ノブを押して、フロントシートのヘッドレストを外します。



④フロントシートを前方にいっぱいに動かし、背もたれを後ろへ倒して固定します。

フロントシートの前後位置の調節
→92ページ
フロントシートの背もたれの調節
→92ページ



元に戻すときは逆の手順で行います。

⚠注意

- セカンドシートは背もたれが急に戻ってからはね上がり、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

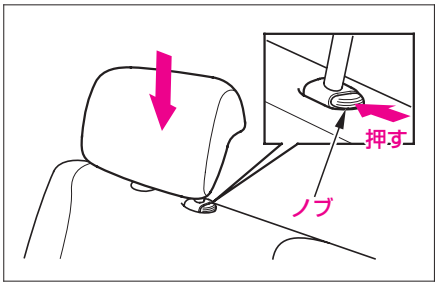
知 識

- セカンドシートの背もたれの裏面がサードシートの座面にあたるため、セカンドシートは完全にフラットな状態にはできません。

●セカンド・サードシート

セカンドシート、サードシートの背もたれを倒すと、フラットな状態にできます。

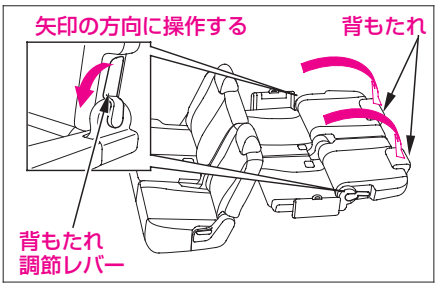
①ノブを押しながら、サードシートのヘッドレストを一番下まで下げます。



②前後位置調節レバーを引き上げながら、サードシートを後方いっぱいに動かし、固定できる１つ前方の位置に戻します。

サードシート前後位置の調節
→106ページ

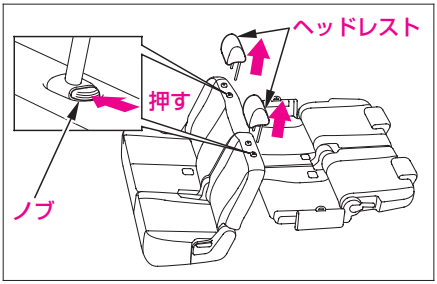
③背もたれ調節レバーを矢印の方向に操作しながら、サードシートの背もたれを後ろへ倒し固定します。



知 識

- サードシートが後方いっぱいの位置にあると、フラットな状態にしたときにセカンドシートが固定されません。
- テールゲートを開けて操作をしたときは、サードシートが後方いっぱいの位置にあるときはテールゲートを閉めることができません。

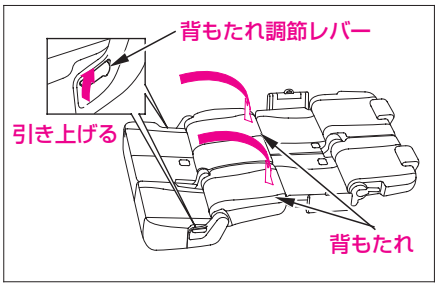
④ノブを押して、セカンドシートのヘッドレストを外します。



⑤前後位置調節レバーを引き上げながら、セカンドシートを前方いっぱいに動かします。

セカンドシート前後位置調節レバー
→94ページ

⑥背もたれ調節レバーを引き上げながら、セカンドシートの背もたれを後ろに倒し固定します。



元に戻すときは逆の手順で行います。

⚠注意

- セカンドシートは背もたれが急に戻ってからはね上がり、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

カーゴスペースの作りかた

タンブルシート車

サードシートをはね上げて固定するとカーゴスペースを広くできます。
セカンドシートをはね上げて固定するとさらに広いスペースがとれます。

⚠注意

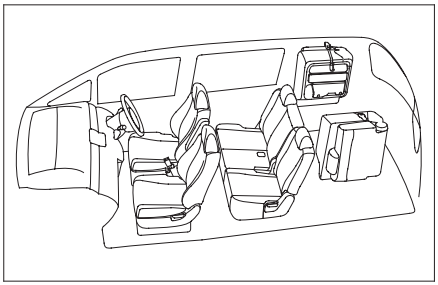
- カーゴスペースには人を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- カーゴスペース内を走り回らないでください。思わぬけがをすることがあります。
- 背もたれが急に動き、顔などにけがをするおそれがあります。シートを操作するときは十分注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- 走行中動きやすい物を床にそのまま置かないでください。

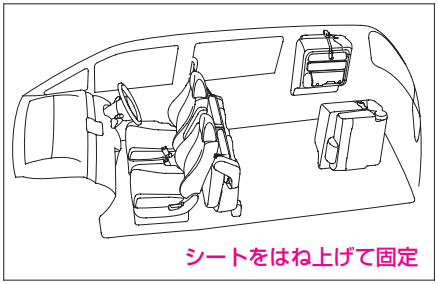
①サードシートをはね上げて固定します。
必要に応じて片側ずつ独立してはね上げられます。

シートをはね上げて固定するとき
→108ページ



②セカンドシートをはね上げて固定します。

シートをはね上げて固定するとき
→97ページ



シートをはね上げて固定

セカンドシートは必要に応じて片側ずつ独立してはね上げられます。
セカンドシートをはね上げて固定することで、カーゴスペースを広くすることができます。

知 識

- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- **サードシート**
  はね上げてから前後位置の調節はしないでください。
  元に戻すとき、脚が確実に固定されません。

フラットシート（フロント・セカンドシート）（セカンド・サードシート）

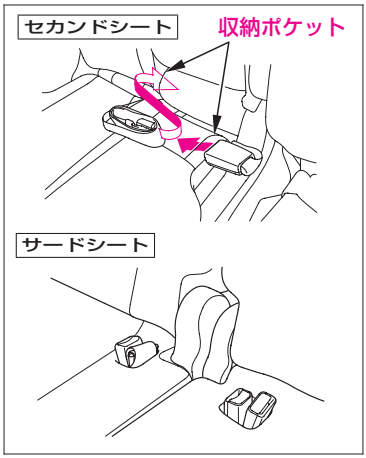
回転対座シート車

⚠注意

- フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しないでください。
  ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フラットな状態で、シートの上を走り回らないでください。
  また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。
  シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。
- アームレストは収納してください。つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。
- フラットな状態で、室内からテールゲートを閉めないでください。手などをはさまれて、けがをするおそれがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

知 識

- フラットにしたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- フラット使用時にバックルやタングプレートを収納ポケットに入れておくと快適に使用できます。



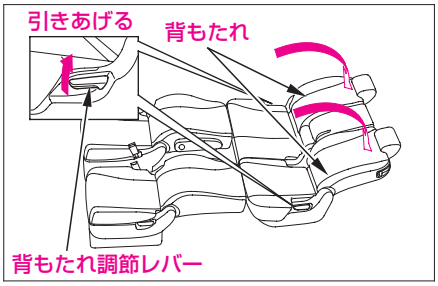
●フロント・セカンドシート

フロントシート(運転席、助手席)の背もたれを倒すと、セカンドシートとフラットな状態にできます。

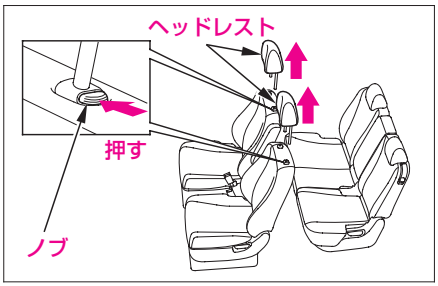
①前後位置調節レバーを引き上げながら、セカンドシートを後方いっぱいに動かします。

セカンドシート前後位置の調節
→99ページ

②背もたれ調節レバーを引き上げながら、セカンドシートの背もたれを後ろに倒し固定します。

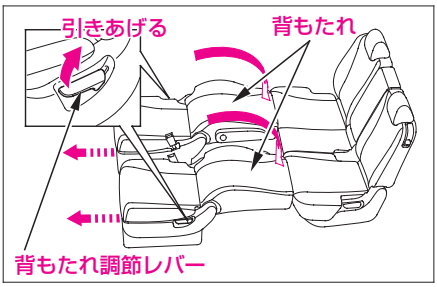


③ノブを押して、フロントシートのヘッドレストを外します。



④フロントシートを前方にいっぱいに動かし、背もたれを後ろへ倒して固定します。

フロントシート前後位置の調節
→92ページ
フロントシートの背もたれの調節
→92ページ



元に戻すときは逆の手順で行います。

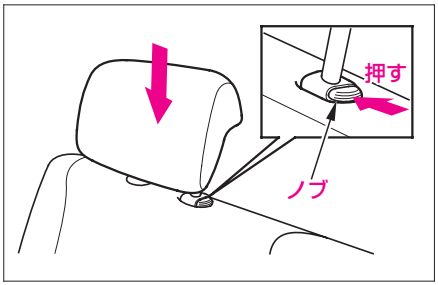
知 識

- セカンドシートの背もたれの裏面がサードシートの座面にあたるため、セカンドシートは完全にフラットな状態にはできません。

●セカンド・サードシート

セカンドシート、サードシートの背もたれを倒すと、フラットな状態にできます。

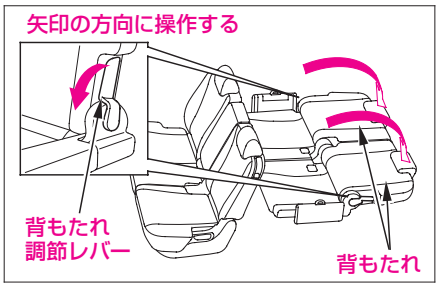
①ノブを押しながら、サードシートのヘッドレストを一番下まで下げます。



②前後位置調節レバーを引き上げながら、サードシートを後方いっぱいに動かし、固定できる１つ前方の位置に戻します。

サードシート前後位置の調節
→106ページ

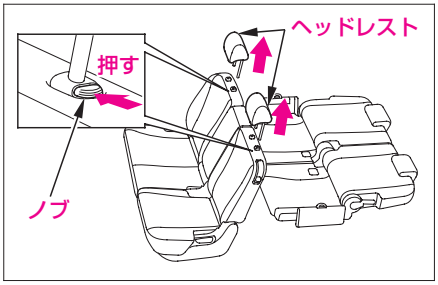
③背もたれ調節レバーを矢印の方向に操作しながら、サードシートの背もたれを後ろへ倒し固定します。



知　識

- テールゲートを開けて操作をしたときは、サードシートが後方いっぱいの位置にあるときはテールゲートを閉めることができません。

④ノブを押して、セカンドシートのヘッドレストを外します。

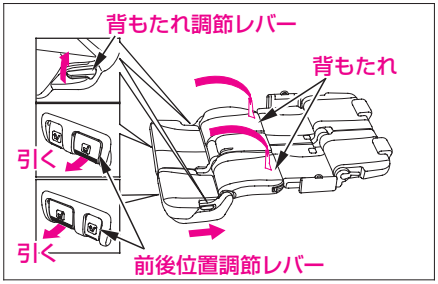


⑤前後位置調節レバーを引き上げながら、セカンドシートを前方いっぱいに動かします。

セカンドシート前後位置調節レバー
→99ページ

⑥背もたれ調節レバーを引き上げながら、セカンドシートの背もたれを後ろに倒し固定します。

⑦セカンドシートの前後位置調節レバーを引き上げながら、サードシートにあたるまで、セカンドシートを後方へ動かし固定します。



元に戻すときは逆の手順で行います。

カーゴスペースの作りかた

回転対座シート車

サードシートをはね上げて固定するとカーゴスペースを広くできます。
セカンドシートの座面をはね上げて前に移動するとさらに広いスペースがとれます。

⚠注意

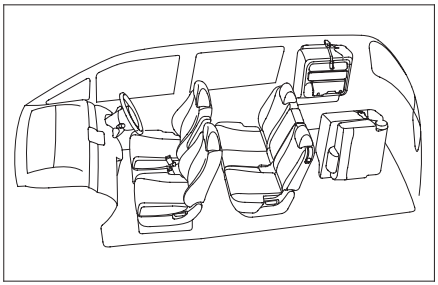
- カーゴスペースには人を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- カーゴスペース内を走り回らないでください。思わぬけがをすることがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- 走行中動きやすい物を床にそのまま置かないでください。

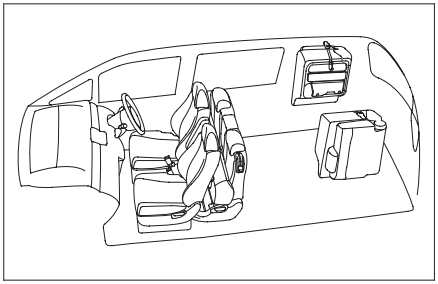
①サードシートをはね上げて固定します。
必要に応じて片側ずつ独立してはね上げられます。

シートをはね上げて固定するとき
→108ページ



②セカンドシートの座面をはね上げて固定します。

座面をはね上げて固定するとき
→102ページ



セカンドシートの座面は必要に応じて片側ずつ独立してはね上げられます。
セカンドシートを前方いっぱいに動かすと、カーゴスペースを広くすることができます。

知 識

- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- **セカンドシート**
  固定できる一番前の位置で固定したとき、座面のロック解除レバーを引いても座面は元に戻りません。元に戻すときは、一度後方へ戻してください。
- **サードシート**
  はね上げてから前後位置の調節はしないでください。
  元に戻すとき、脚が確実に固定されません。

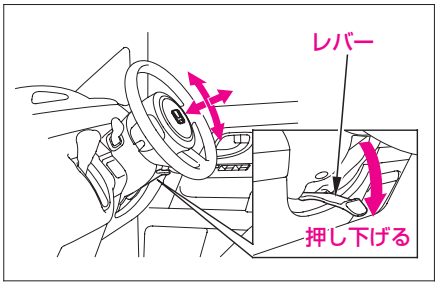
ハンドル・バックミラーの調節

チルト／テレスコピック ステアリング

ハンドルの高さおよび前後位置を適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さおよび前後位置を適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下前後方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

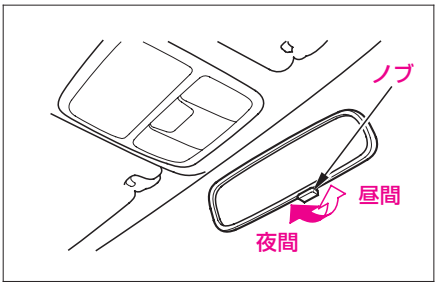
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

ドアミラー

知 識

- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

●格納のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチで左右のミラーをたたむことができます。

▼

格納スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		



エンジンスイッチが“0”または“I”のときは手動で操作ができます。

知 識

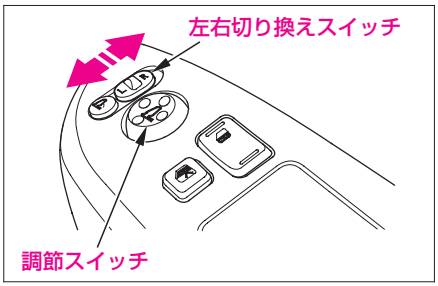
- 次の場合は手動で操作しても、ミラーは自動的に格納スイッチの状態に戻ります。
  - 手動で操作したあとにエンジンスイッチを“II”にしたとき

●角度調節のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき調節スイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。
②調節スイッチで角度を調節します。

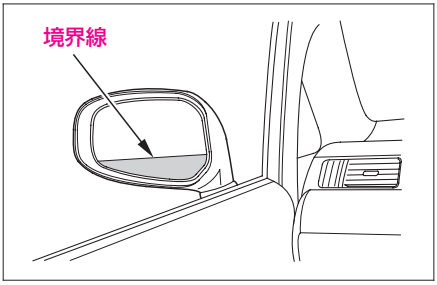


直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

●広角タイプドアミラー

4WD車の助手席側のみ

ミラー表面にある境界線の上側と下側で曲率の異なる鏡を使用し、下側は通常のドアミラーよりも広い視界を映すことができます。
側面下方の視認性を向上させます。



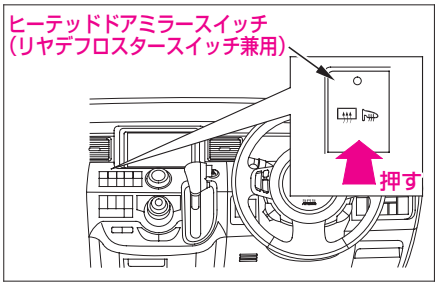
知 識

- 境界線より下側に映る物は、通常のドアミラーよりも遠くにあるように見えます。

●ヒーテッドドアミラー

タイプ別装備

ヒーテッドドアミラースイッチ（リヤデフロスタースイッチ兼用）を押すとミラーが暖められ曇りが取れます。



エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

知　識

- ヒーテッドドアミラースイッチを押すと、リヤガラスの曇り取りも同時に機能します。
  リヤデフロスター　→182ページ
- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）

タイプ別装備

ミラー表面には、付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングをほどこしており、雨天時などにおける後方視認性を向上させます。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、水道水をかけて洗い流し、太陽光を当てることにより効果が回復します。

親水効果を早く回復させたいとき
→395ページ

アドバイス

- フロントドアガラスに撥水剤やボディにワックスを塗布するときは、ミラー表面に撥水剤やワックスが付着しないようにドアミラーを布などで覆ってください。
  ミラー表面にこれらの物が付着すると親水効果を失います。
- ミラー表面が凍結しているときは、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらないでください。
  ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

知 識

- 汚れや水滴を拭き取るときは、きれいな布で拭き取ってください。
- 水洗いでミラーの汚れが落ちない場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ることで回復できます。
- 次のようなときは、一時的に親水効果が低下しますが異常ではありません。親水効果は数日間の日射で回復します。
  - 素手でミラーに触れたり油のついた布などでミラー表面を拭き取ったとき
  - 自動洗車機のワックスがミラー表面に付着したとき
  - 長期間、地下駐車場など日の当たらないところに駐車したとき

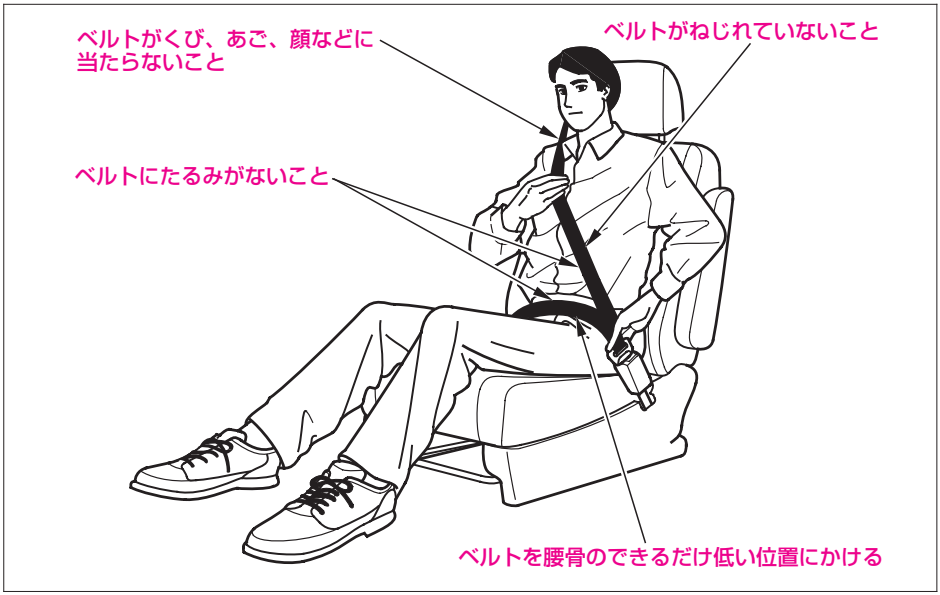
  親水効果を早く回復させたいとき　→395ページ
- 自動洗車機で洗車するときは、ミラー表面に洗剤やワックスが付着しないようドアミラーを格納してください。

格納のしかた　→121ページ

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



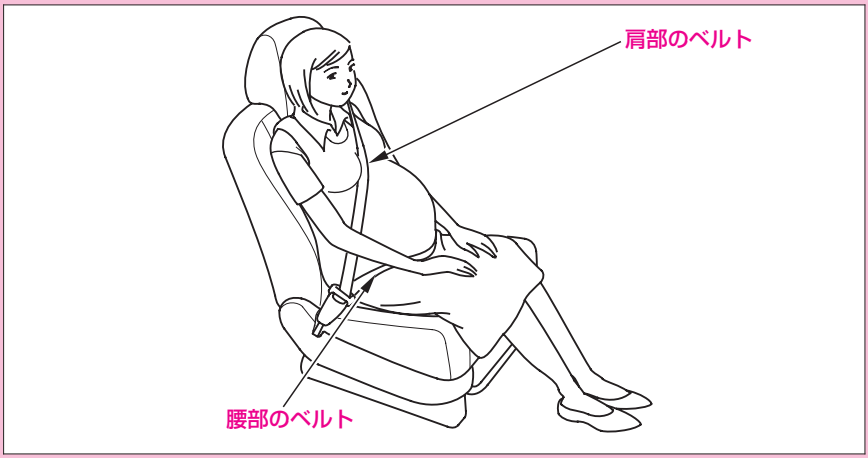
⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

●シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。
  ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
- ベルトはねじれがないように着用してください。
  ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
- 三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。
  ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。

●妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
- 妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
- 妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。
  また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。



●シートベルトの種類

シート			シートベルトの種類
フロントシート			ELR付三点式シートベルト
セカンドシート（ベンチシート）		左右	ELR･ALR付三点式シートベルト
		中央	マニュアル二点式シートベルト
セカンドシート（回転対座シート）	前向き	左右	ELR･ALR付三点式シートベルト
		中央	マニュアル二点式シートベルト
	後向き		マニュアル二点式シートベルト
サードシート		左右	ELR付三点式シートベルト
		中央	マニュアル二点式シートベルト

ELR付三点式シートベルト：
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

ELR･ALR付三点式シートベルト：
通常はELRシートベルトとして機能します。
ALRはチャイルドシートを固定する機構です。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→138ページ

●三点式シートベルト

シートベルトリマインダー(非着用警報装置)

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知 識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも、一定回数を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト警告ブザーは鳴りません。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(セカンドシート外側2座席)

→138ページ

知 識

- 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
  このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。
  解除のしかた　→140ページ

シートベルトプリテンショナー(前席のみ)

→240ページ

E-プリテンショナー(前席のみ)

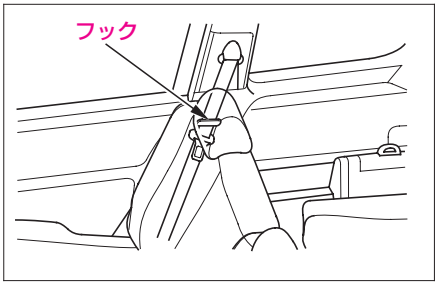
IHCC装備車

→242ページ

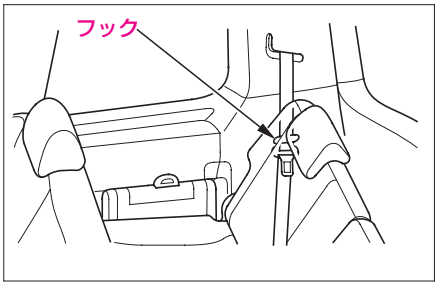
シートベルトフック

シートベルトを使わないときは、シートベルトをフックにかけておきます。

セカンドシート



サードシート



●二点式シートベルト

体にあわせてベルトの長さを調節します。

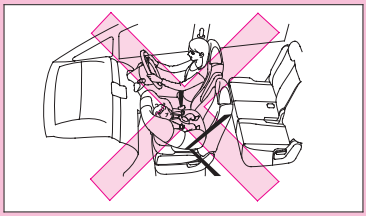
●お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。
お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。



⚠警告

- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



知 識

- 乳児用シート、幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
- ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。
- ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
  チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
  後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
- ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→140ページ

- Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。
  《選択の目安》
  詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

・ベルトを着用した状態で万一、事故にあった場合は機能を損なっている可能性があるため、ベルト一式を交換してください。
また、ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたときも交換してください。

IHCC非装備車

前席シートベルトは、前席に乗員がいなくても、SRSエアバッグが作動するような事故にあった場合は、プリテンショナーも作動するため、ベルト一式を交換してください。

・シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

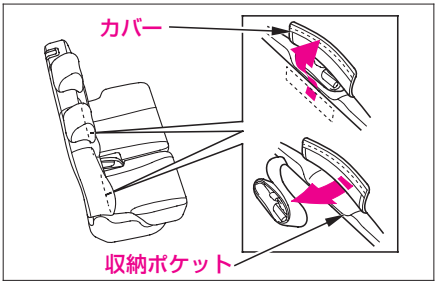
●対座にしたときのシートベルトの使いかた

回転対座シート車

助手席側と中央は、収納ポケットのカバーをめくって、対座用二点式シートベルトを取り出して使います。運転席側は、前向き時の中央二点式シートベルトを使います。

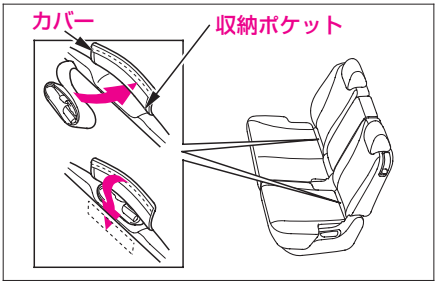
二点式シートベルト　→136ページ

対座にしたとき



シートベルトを使わないときや、シートを前向きにしたときは、収納ポケットに戻し、カバーをシートクッションと背もたれの間にしまいます。

前向きにしたとき



着用のしかた

●三点式シートベルト

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
（→88ページ）

②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

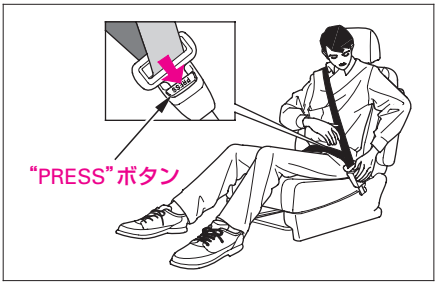


④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

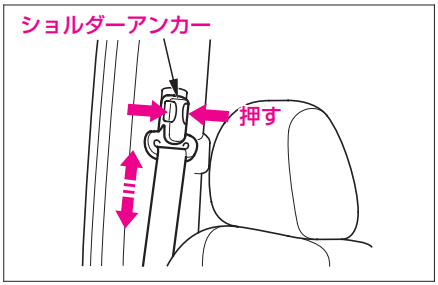


ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。

▼

通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。

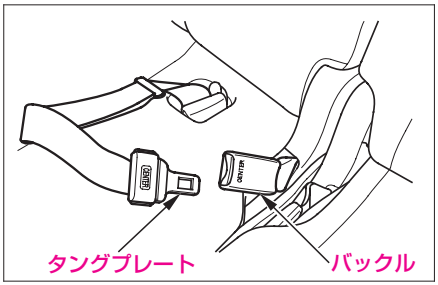


⚠注意

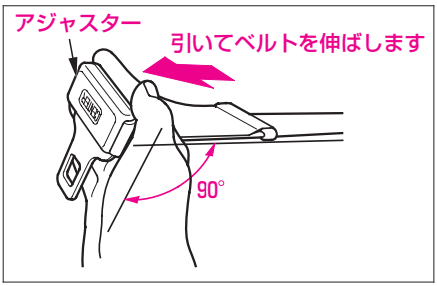
- 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

●二点式シートベルト

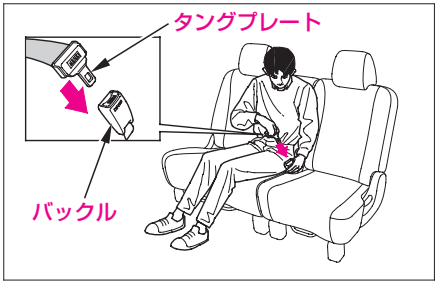
タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。中央座席のタングプレートとバックルに“CENTER”(センター)の表示があります。



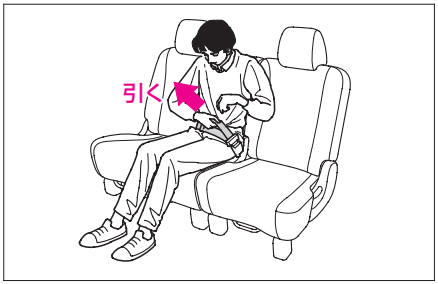
①アジャスターを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。



②ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし図のように引き、腰部に密着させます。

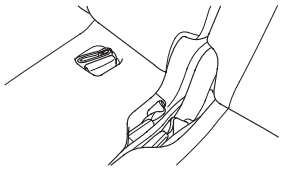


④外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。

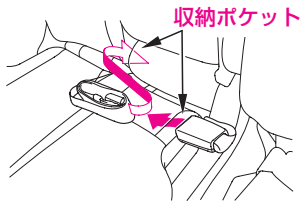
知　識

●シートベルトを使わないときは、タングプレートとバックルを図のように収納できます。

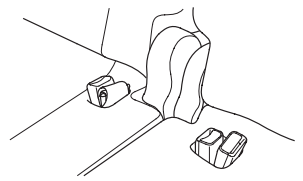
セカンドシート（タンブルシート）



セカンドシート（回転対座シート）



サードシート



チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付きシートベルト（セカンドシート外側2座席）

セカンドシート外側2座席の三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。
シートベルトを引き出し方向に動かないようにできるため、チャイルドシートを固定することができます。
取り付けかたは、チャイルドシートの形状、取り付け方法によって異なります。
チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けてください。

⚠警告

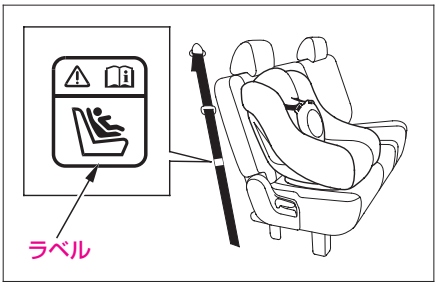
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  固定機構が作動するとベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

知 識

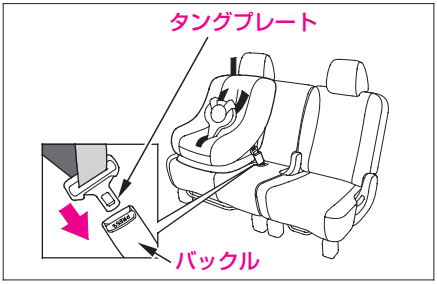
- ISO FIX対応のチャイルドシートを取り付けるとき
  ISO FIXテザータイプ
  チャイルドシート固定装置
  →140ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

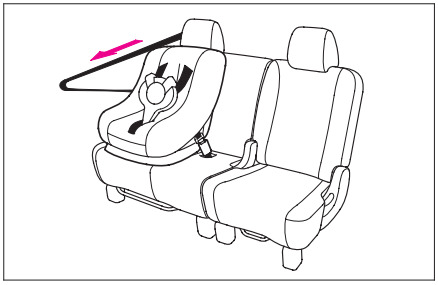
①チャイルドシートをセカンドシートに置きます。



②ベルトにねじれがないことを確認し、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。



④ベルトを少し巻き取らせます。その後、ベルトをゆっくりと引き、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- **回転対座シート車**
  セカンドシートを対座(後ろ向き)にした場合にはチャイルドシートは使用できません。セカンドシートを前向きにして取り付けてください。

⑤チャイルドシートに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。



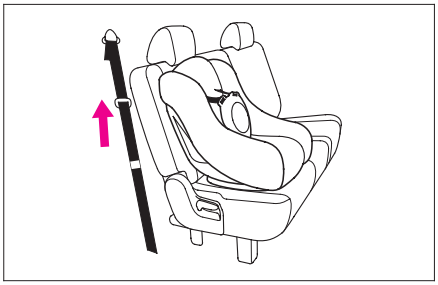
⚠注意

- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●解除のしかた

①チャイルドシートからベルトを外します。

②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。



ISO FIXテザータイプ チャイルドシート固定装置（セカンドシート外側 2 座席）

セカンドシート外側の 2 座席には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための専用バーとテザーアンカーが装備されています。

この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。

チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。

後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。

ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

知 識

●チャイルドシート固定機構付きシートベルトを使って取り付けるとき

チャイルドシート固定機構付きシートベルト →138ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

⚠注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、固定専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- 回転対座シート車
  セカンドシートを対座(後ろ向き)にした場合にはチャイルドシートは使用できません。セカンドシートを前向きにして取り付けてください。

前向きに取り付けるとき

①チャイルドシートを取り付ける側のセカンドシートを一番後ろに下げます。

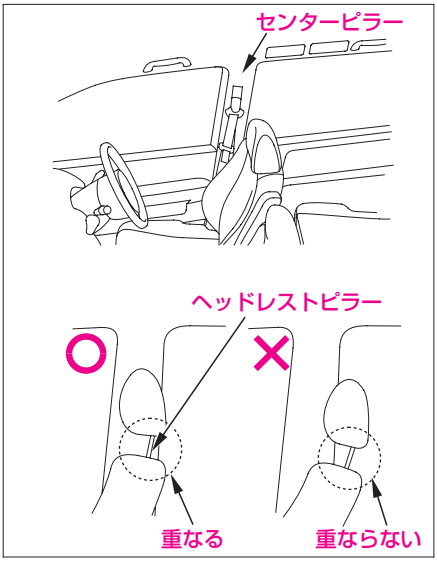
セカンドシート前後位置の調節
→94、99ページ

②チャイルドシートを取り付ける側のフロントシートのヘッドレストを最上段で固定し、ヘッドレストピラー全体がセンターピラーに重なる位置よりも前になるように、背もたれの角度、シートの前後位置を調節します。

フロントシート前後位置の調節
→92ページ
フロントシートの背もたれの調節
→92ページ

走行前には、ヘッドレストを必ず正しい位置に調節してください。

フロントシートのヘッドレストの調節
→93ページ

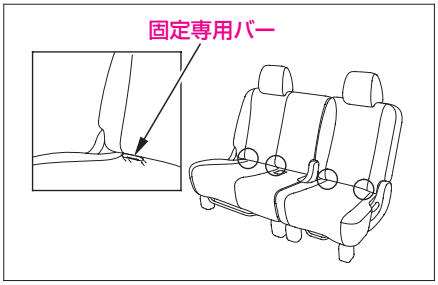


⚠注意

- お子さまを安全に乗せるためにフロントシートの位置を調節してください。
  運転者が正しい運転姿勢を取れない場合には、助手席側のセカンドシートにチャイルドシートを取り付けてください。

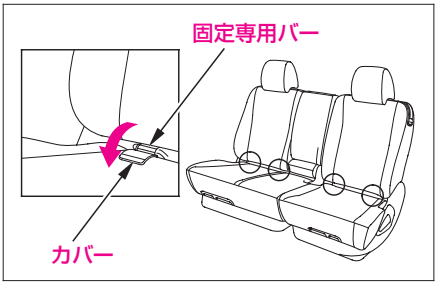
③ **タンブルシート車**

シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定専用バーの位置を確認します。

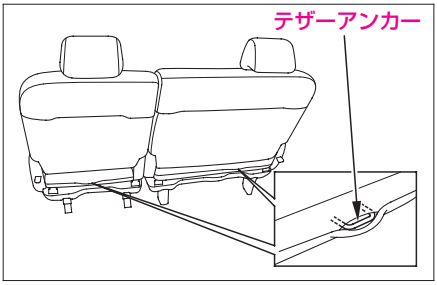


回転対座シート車

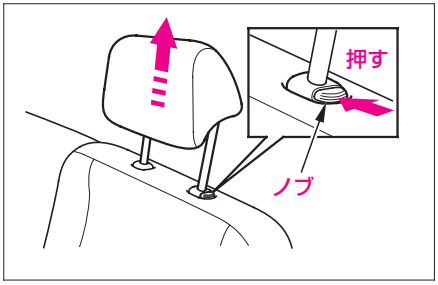
シートクッションと背もたれのすき間にあるカバーをめくって、固定専用バーの位置を確認します。



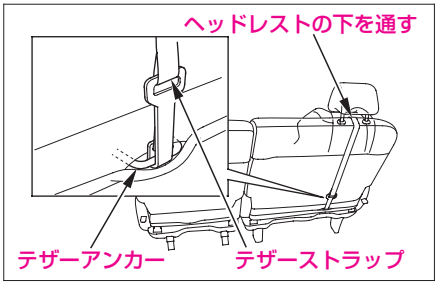
④シートクッション後部にあるテザーアンカーの位置を確認します。



⑤セカンドシートのヘッドレストを持ち上げて最上段で固定し、テザーストラップはヘッドレストの下を通します。



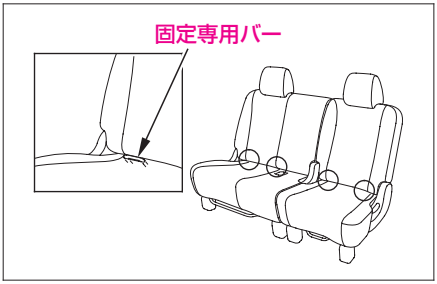
⑥チャイルドシートとテザーストラップをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。



後ろ向きに取り付けるとき

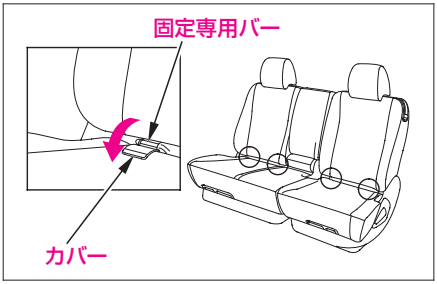
① **タンブルシート車**

シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定専用バーの位置を確認します。



回転対座シート車

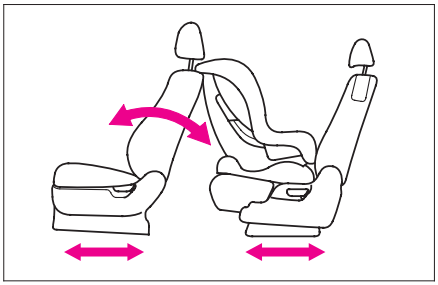
シートクッションと背もたれのすき間にあるカバーをめくって、固定専用バーの位置を確認します。



②チャイルドシートをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。

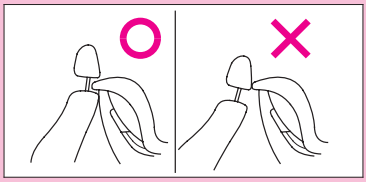
③チャイルドシートの上部がフロントシートの背もたれに接するように、シートの前後位置や、フロントシートの背もたれの角度を調節します。

フロントシート →92ページ
セカンドシート前後位置の調節 →94、99ページ



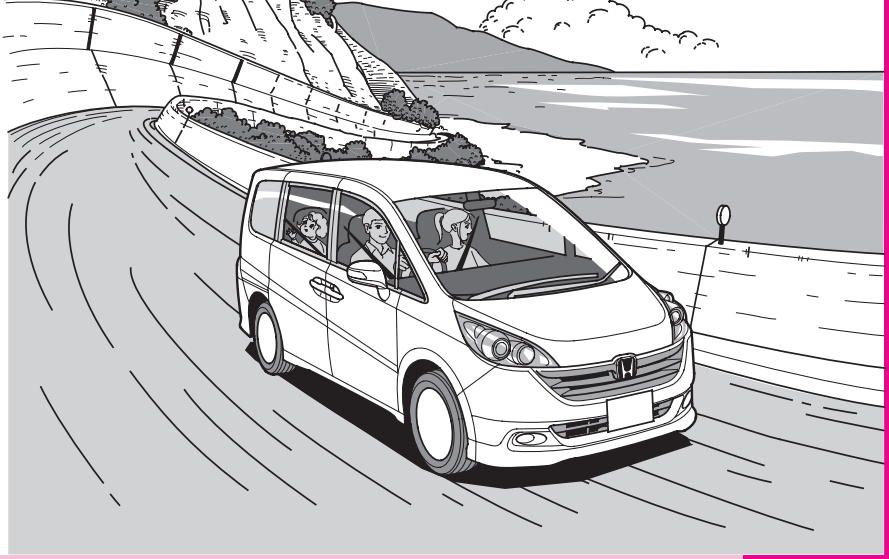
⚠注意

- 運転者が正しい運転姿勢を取れない場合には、助手席側のセカンドシートにチャイルドシートを取り付けてください。
- チャイルドシートは必ずフロントシートの背もたれに接するようにして、ヘッドレストでは支えないでください。



●取り外すとき

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り外します。



車を運転するときに

●メーター ……146
イルミネーション
　コントロール ……150

●表示灯 ……152

●警告灯 ……162
警告灯の電球切れの点検 ……172

●スイッチの使いかた
エンジンスイッチ ……174
ライトスイッチ ……175
方向指示器(ウィンカー)
　スイッチ ……178
フォグライトスイッチ ……178
ワイパー／ウォッシャー
　スイッチ ……179
リヤデフロスタースイッチ …182
非常点滅表示灯(ハザード)
　スイッチ ……183
ホーンスイッチ ……183
ECONスイッチ ……184

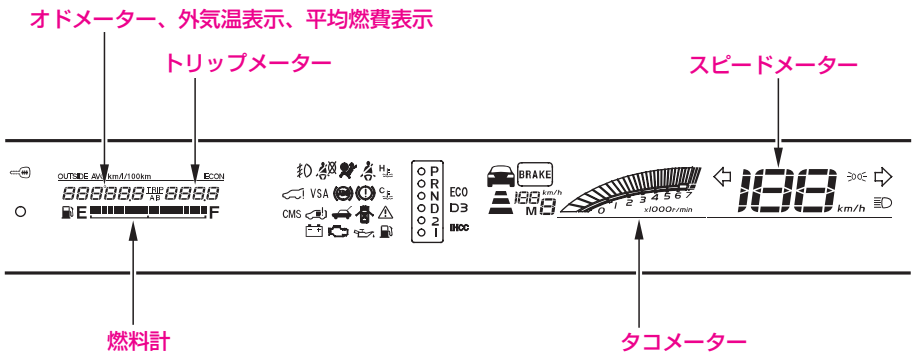
●運転のしかた
エンジンのかけかた ……186
パーキングブレーキ ……188
セレクトレバーの
　操作……190・198
オートマチック車の運転の
　しかた ……204

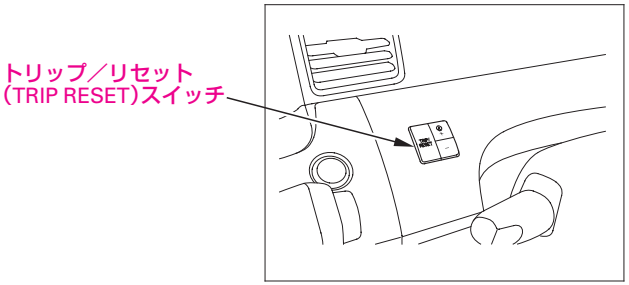
2

メーター

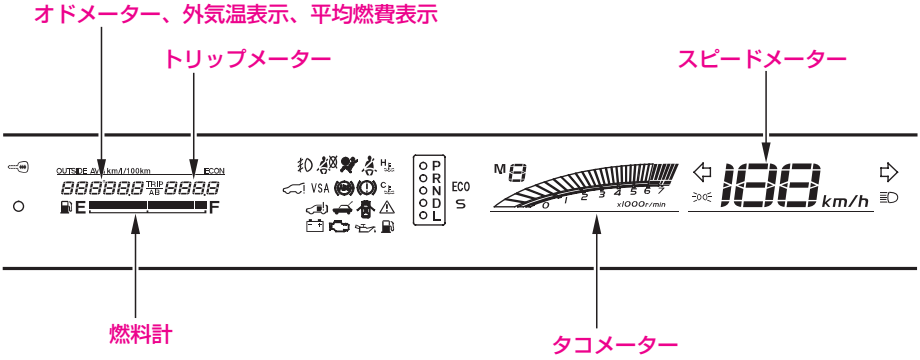
イラストは代表例を掲載しています。

IHCC装備車





IHCC非装備車



スピードメーター
走行速度をkm/hで示します。

タコメーター
1分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス
- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速（シフトダウン）するときには注意してください。

タイプ	限界回転数（rpm）
B、G	6,750
24Z（4WD車）	6,500
24Z（2WD車）	6,000

- 停車中の空ぶかしは、エンジン回転数が下表の回転数になると燃料供給が停止されます。

タイプ	回転数（rpm）
B、G、24Z（4WD車）	5,000
24Z（2WD車）	4,000

オドメーター、トリップメーター、外気温表示、平均燃費表示
エンジンスイッチを“II”にするとオドメーター、トリップメーター、平均燃費または外気温が表示されます。

▼

表示の切り換え

トリップ／リセットスイッチを押すごとに「･･･“オドメーター／TRIP A”→“OUT SIDE（外気温表示）／TRIP A”→“AVG km/l（平均燃費表示）／TRIP A”→“OUT SIDE（外気温表示）／TRIP B”→“オドメーター／TRIP A”･･･」の順に表示が切り換わります。

オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離をkmで示します。“TRIP A”と“TRIP B”でそれぞれ別の走行距離を知ることができます。

・リセットのしかた

①トリップ／リセットスイッチを押して“TRIP A”または“TRIP B”を選びます。

②トリップ／リセットスイッチをメーター表示が“0”になるまで押して、リセットします。

知 識

- 走行距離が999.9kmを超えると0kmに戻ります。
- “TRIP A”をリセットすると、平均燃費もリセットされます。

外気温表示

走行中（約30km/h以上）の外気温を測定し表示します。また、エンジンスイッチを“II”にしたときはそのときの外気温を表示し、走行（約30km/h以上）するまでその表示を続けます。

走行中に外気温が下がってきて3 °C以下になったとき、外気温を点滅表示します。このとき表示が外気温表示または平均燃費表示であれば、自動的に外気温を点滅表示し、約10秒後もとの表示に戻ります。

知 識

- フロントバンパー付近の外気温を測定しているため、エンジンルームや路面の熱の影響を受けやすい停車中や渋滞中など（約30km/h以下）は正しい外気温を表示しないことがあります。
- 外気温表示の自動切り換え点滅表示は、エンジンスイッチを“II”にしてから最初に3 °C以下に下がったときにのみ作動します。



・外気温補正の設定

外気温表示の表示温度に補正をかけることができます。

＋3℃から－3℃の間で設定できます。

①トリップ／リセットスイッチを押して外気温を表示させます。

②トリップ／リセットスイッチを押し続けると(約10秒)、外気温の補正表示に切り換わります。数字は約1秒毎に“0→1→2→3→－3→－2→－1→0”の順に切り換わります。

③補正をかけたい温度の数字が表示されたらトリップ／リセットスイッチを離します。

知 識

- トリップ／リセットスイッチを押し、外気温の補正表示に切り換わる前にスイッチを放すとトリップメーターがリセットされます。

平均燃費表示

トリップメーターAと連動し、平均燃費を約10秒間ごとに更新して、km/lで表示します。

知 識

- “TRIP A”をリセットすると、平均燃費もリセットされます。
- 平均燃費を表示中に“TRIP A”をリセットしたときは“- - -”が表示されます。
- 停車時または低速走行中にリセットしたときは、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

燃料計

エンジンスイッチが“II”のとき、燃料の残量を示します。

“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→76ページ

イルミネーション コントロール

＋、－スイッチを押すと、メーター表示の明るさが車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ別々に調節できます。

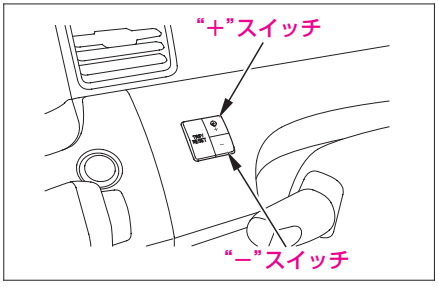
▼

エンジンスイッチが“II”のとき＋、－スイッチを押して明るさを調節します。

明るくするとき…
＋スイッチを押します。明るさが最大になると“ピッ”という電子音が鳴ります。

暗くするとき…
－スイッチを押します。明るさが最小になると“ピッ”という電子音が鳴ります。

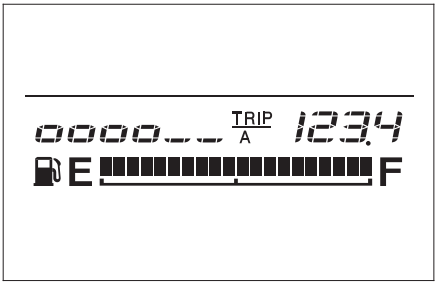
車外の明るさに応じてお好みで調節してください。



明るさ調節表示

＋、－スイッチを押して明るさを調節すると、オドメーターまたは外気温表示、平均燃費表示が明るさ調節表示に切り換わります。

が右に増えて行くほど、メーターが明るく表示されます。





知 識

- 次の動作をしたときは、元の表示に切り換わります。
  - ・調節後約 5 秒すぎたとき
  - ・トリップ／リセットスイッチを押したとき
- 車幅灯点灯時に、 がすべて表示されるまで+スイッチを押すと、車幅灯点灯時の減光が解除されます。このときにも、“ピッ”という電子音が鳴ります。
- 運転席ドアを開けるとメーターの目盛りが点灯します。（ウェルカムメーター照明）

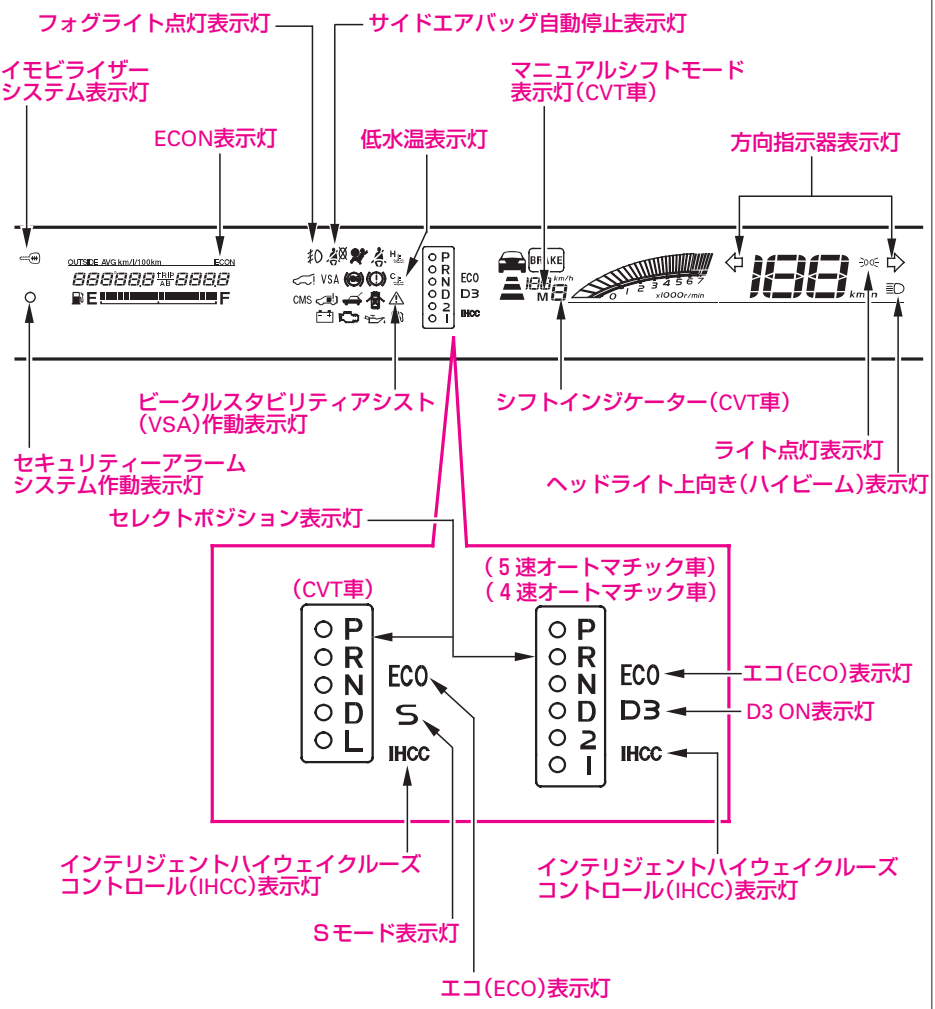
知 識

- 次のようなとき、メーターの照明は消灯します。
  - ・運転席ドアを開けてから、何もせずに約 3 分経過したとき
  - ・運転席ドアを閉めてから、何もせずに約30秒経過したとき
  - ・エンジンスイッチにキーを差し込んだまま、約10秒経過したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”に回してから、約10秒経過したとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたときは、メーターの照明はすぐに消灯します。

表示灯

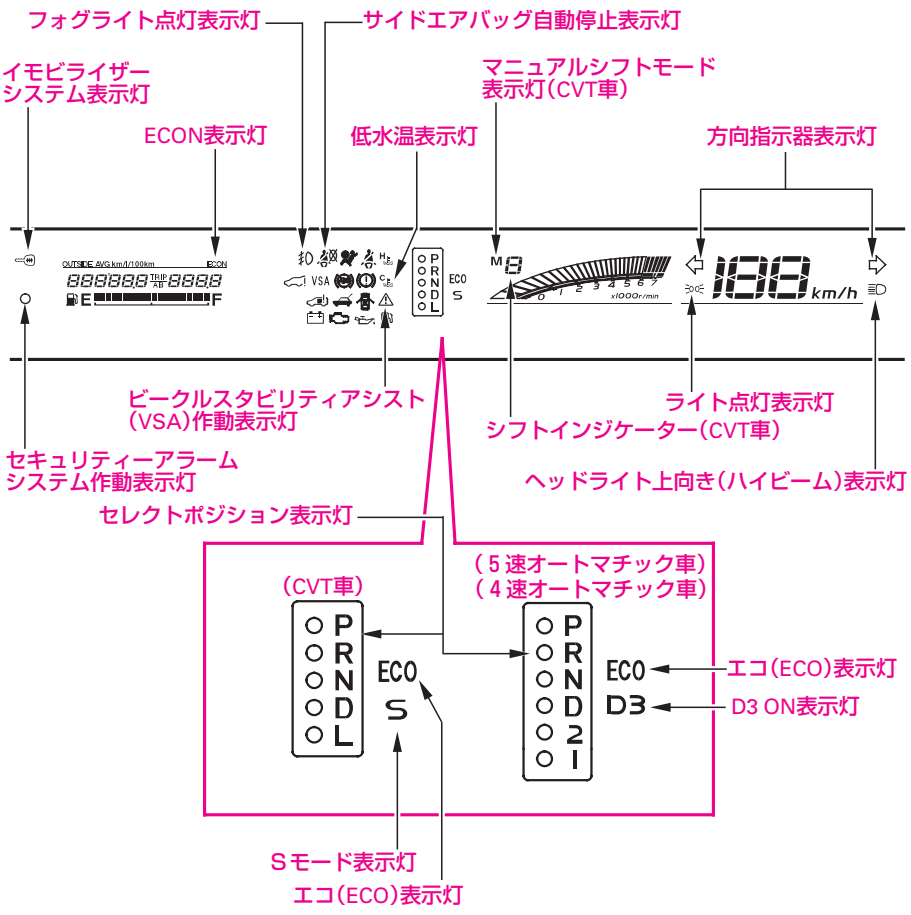
イラストは代表例を掲載しています。

IHCC装備車



イラストは代表例を掲載しています。

IHCC非装備車

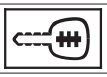


表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

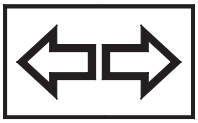
表示灯	タイプ					
	B		G		24Z	
	2WD	4WD	2WD	4WD	2WD	4WD
 方向指示器表示灯	○	○	○	○	○	○
 ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯	○	○	○	○	○	○
 ライト点灯表示灯	○	○	○	○	○	○
 フォグライト点灯表示灯	－	－	△	△	○	○
CVT車  5速オートマチック車 4速オートマチック車  セレクトポジション表示灯	○	○	○	○	○	○
 マニュアルシフトモード表示灯	－	－	－	－	○	－
 Sモード表示灯	－	－	－	－	○	－
 D3 ON表示灯	○	○	○	○	－	○

○：標準装備
△：注文装備

表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯		タイプ					
		B		G		24Z	
		2WD	4WD	2WD	4WD	2WD	4WD
	イモビライザーシステム表示灯	○	○	○	○	○	○
	サイドエアバッグ自動停止表示灯	△	△	△	△	△	△
	エコ(ECO)表示灯	○	○	○	○	○	○
	インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯(グリーン)	–	–	△	△	△	△
	ビークルスタビリティアシスト(VSA)作動表示灯	–	–	△	△	△	△
	ECON表示灯	○	○	○	○	○	○
	セキュリティーアラームシステム作動表示灯	–	–	△	△	○	○
	低水温表示灯(青色)	○	○	○	○	○	○

○：標準装備
△：注文装備



方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知 識

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違った物を使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

  電球(バルブ)の交換
  →379、380ページ

  電球(バルブ)のワット数
  →426ページ



ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。



ライト点灯表示灯

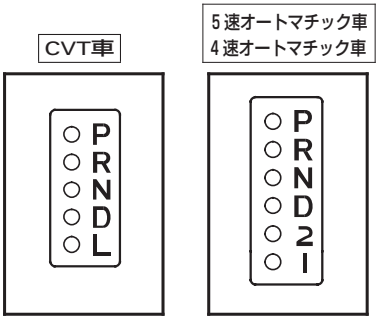
ライトスイッチが“OFF”以外のとき、点灯します。



フォグライト点灯表示灯

フォグライト装備車

フォグライトスイッチが“ON”で、ライトスイッチが“OFF”以外のとき点灯します。



セレクトポジション表示灯（トランスミッション警告灯兼用）

使用中のセレクトレバー位置が表示されます。

トランスミッションが異常のときには、Dが点滅します。

トランスミッション警告灯　→168ページ



マニュアルシフトモード表示灯

CVT車

7速オートシフトモード時は、シフトインジケーターに変速段が表示されます。

7速オートシフトモード　→195ページ

7速マニュアルシフトモード時はマニュアルシフトモード表示灯が点灯し、シフトインジケーターに変速段が表示されます。

7速マニュアルシフトモード　→195ページ



Sモード表示灯

CVT車

Sモードスイッチが**ON**のとき点灯します。エンジンスイッチを“**II**”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

Sモードスイッチ　→192ページ

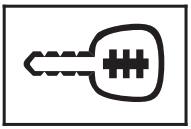


D3 ON表示灯

5速オートマチック車
4速オートマチック車

D3スイッチが**ON**のとき点灯します。エンジンスイッチを“**II**”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

D3スイッチ　→200ページ



イモビライザーシステム表示灯

エンジンスイッチにキーを差し込んで“**II**”にすると、数秒間点灯してから消灯します。点灯中は車両とキーとの電子照合を行っています。

点滅したときは

システムがキーの信号を認識していないので、エンジンを始動することはできません。そのときは、エンジンスイッチを“**0**”へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み“**II**”にしてください。

エンジンスイッチを“**II**”から“**I**”または“**0**”へ回したときにも、イモビライザーシステム表示灯が数回点滅します。

イモビライザーシステム　→84ページ

アドバイス

- エンジンスイッチを“**II**”にしても表示灯が点灯しないときや、頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので、**Honda**販売店で点検を受けてください。



サイドエアバッグ自動停止表示灯

サイドエアバッグシステム／
サイドカーテンエアバッグシステム装備車

乗員姿勢検知システムにより、助手席用サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。

▼

点灯したときは

上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

乗員姿勢検知システム　→233ページ



エコ(ECO)表示灯

定速走行時や減速運転時のエンジンの燃費の状態が良いときに点灯し、経済運転をしていることをお知らせします。

知　識

- 停車中や低車速での走行時も作動しません。



インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯（インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯兼用）

IHCC装備車

IHCCスイッチを押して、“ON”にするとグリーンで点灯します。

詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。



ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)作動表示灯

VSA装備車

VSAが作動中に点滅します。

VSAを“OFF”にしたときと、VSAに異常があるときに点灯します。

→248ページ

知　識

- VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

VSA警告灯　→169ページ



ECON表示灯

ECONスイッチが“ON”のときに点灯します。

→184、185ページ

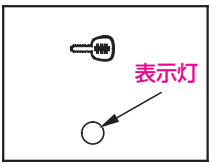
知 識

- CVT車

  セレクトレバーがP、R、N、Dの位置のときに点灯します。
  ただし、セレクトレバーがDの位置でも、Sモード、7速モード（7速オートシフトモード、7速マニュアルシフトモード）のときは点灯しません。

- 5速オートマチック車
  4速オートマチック車

  セレクトレバーがP、R、N、Dの位置で、エアコンが“ON”のとき（ただしエアコンの吹き出し口MODEが“ ”、“ ”のときをのぞく）に点灯します。

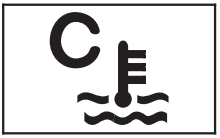


セキュリティーアラームシステム作動表示灯

セキュリティーアラームシステム装備車

セキュリティーアラームシステムがセットされているときに点滅します。

セキュリティーアラームシステムについて →85ページ



低水温表示灯（青色）

エンジン冷却水の温度が低いときに点灯します。

アドバイス

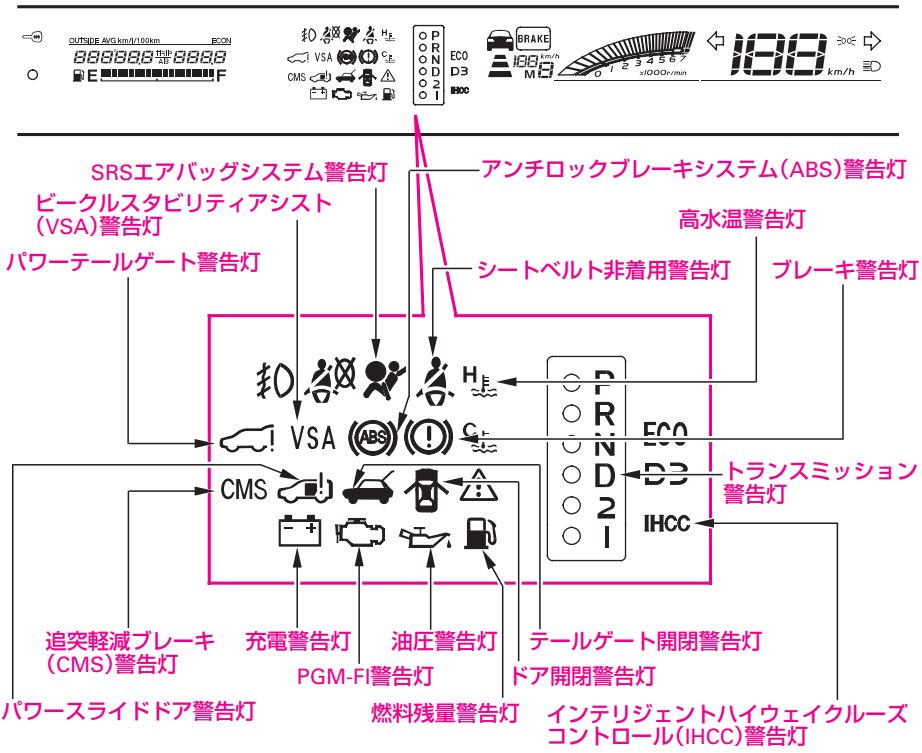
- 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda販売店で点検を受けてください。



警告灯

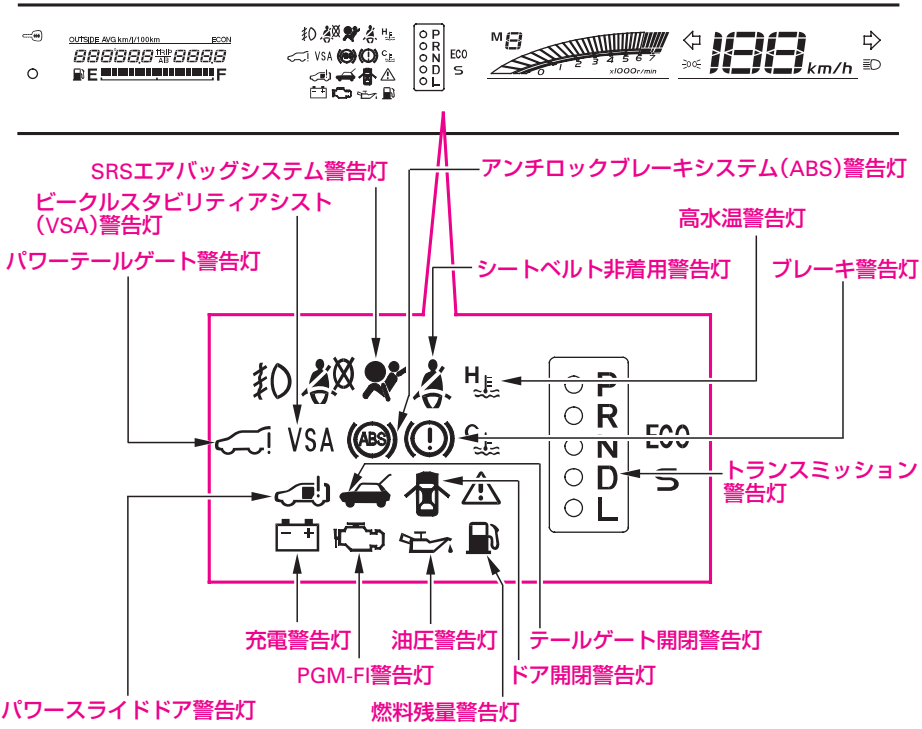
イラストは代表例を掲載しています。

IHCC装備車



イラストは代表例を掲載しています。

IHCC非装備車



警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ		
	B	G	24Z
 ブレーキ警告灯	○	○	○
 油圧警告灯	○	○	○
 PGM-FI警告灯	○	○	○
 充電警告灯	○	○	○
 トランスミッション警告灯 （セレクトポジション表示灯兼用）	○	○	○
 シートベルト非着用警告灯	○	○	○
 燃料残量警告灯	○	○	○
 インテリジェントハイウェイ クルーズコントロール（IHCC） 警告灯（オレンジ）	−	△	△
 アンチロックブレーキ システム（ABS）警告灯	○	○	○
 SRSエアバッグシステム 警告灯	○	○	○

○：標準装備
△：注文装備

警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ		
	B	G	24Z
VSA ビークルスタビリティアシスト（VSA）警告灯	−	△	△
CMS 追突軽減ブレーキ（CMS）警告灯	−	△	△
ドア開閉警告灯	○	○	○
テールゲート開閉警告灯	○	○	○
パワースライドドア警告灯	−	△	△
パワーテールゲート警告灯	−	△	△
高水温警告灯（赤色）	○	○	○

○：標準装備
△：注文装備



ブレーキ警告灯

パーキングブレーキが完全に解除されていないときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。また、ABSが異常のときABS警告灯と同時に点灯することがあります。

▼

ブレーキ液量点検

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

②下限より下がっていたらただちにHonda販売店へご連絡ください。
ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにHonda販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム点検

ブレーキ液量が正常で、アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯と同時に点灯したときは、アンチロックブレーキシステム（ABS）の異常が考えられます。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ解除

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行（車速約 7 km/h以上）するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。

パーキングブレーキを解除するときは、一旦停車してから操作してください。

知 識

- 停車（車速約 3 km/h以下）するとブザーによる警告は一旦止まります。



油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

▼

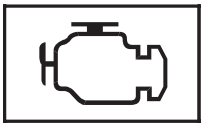
点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店へご連絡ください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

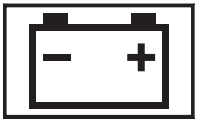
点滅したときは

①走行中に点滅した場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

②エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が点滅した状態で運転は続けないでください。
  触媒装置を焼損することがあります。



充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。



トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）

トランスミッションが異常のときに点滅します。

▼

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。



シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダー（非着用警報装置）が作動し、点灯し続けます。

また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。

（ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。）

知 識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも一定回数を超えると、ブザーは止まります。
- セレクトレバーをRに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が8ℓ（2WD車）、10ℓ（4WD車）前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→76ページ



インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯(インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯兼用)

IHCC装備車

IHCCが異常のときオレンジ色で点灯します。

詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。



アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

ABSが異常のときに点灯します。



SRSエアバッグシステム警告灯(エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用)

次のシステムの異常を検出すると点灯します。

SRS エアバッグシステム　→216ページ

サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム　→224ページ

シートベルトプリテンショナー　→240ページ

E-プリテンショナー　→242ページ



ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯

VSA装備車

VSAが異常のときに点灯します。

→251ページ

知 識

- ブレーキアシストの装置に異常があるとVSA警告灯が点灯します。
- VSA警告灯が点灯したときはブレーキアシストは作動しません。

CMS

追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯

IHCC装備車

追突軽減ブレーキ(CMS)が異常のとき、またはOFFのときに点灯します。
レーダーセンサーカバーの汚れなどで前方の車両を検知できず、システム停止したときも点灯します。

CMSの停止について →257ページ
CMSの自動停止について →257ページ



ドア開閉警告灯

ドア、パワースライドドアまたはスライドドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

ドア、パワースライドドアまたはスライドドアを完全に閉めてください。



テールゲート開閉警告灯

パワーテールゲートまたはテールゲートが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

テールゲートを完全に閉めてください。



パワースライドドア警告灯

パワースライドドア装備車

パワースライドドアシステムが異常のときに点灯します。

→55ページ



パワーテールゲート警告灯

パワーテールゲート装備車

パワーテールゲートが異常のときに点灯します。

→67ページ



高水温警告灯(赤色)

エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯します。

▼

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、ゆっくり走行してください。

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。
  オーバーヒートしたとき
  →364ページ

警告灯の電球切れの点検

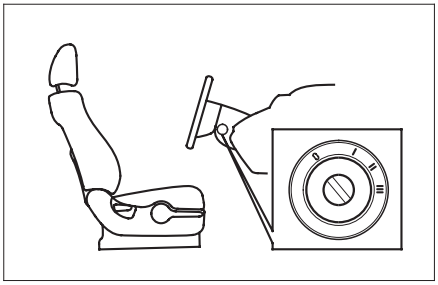
エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、Honda販売店へご連絡ください。

- **ブレーキ警告灯**
  （パーキングブレーキが解除されているときは数秒後消灯）
  （パーキングブレーキをかけているときは完全に解除すると消灯）
- **油圧警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **PGM-FI警告灯**
  （数秒後消灯）
- **充電警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **トランスミッション警告灯**
  （数秒後消灯）
- **インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  （約 6 秒後消灯）
- **ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **ドア開閉警告灯**
  （数秒後消灯）
- **テールゲート開閉警告灯**
  （数秒後消灯）
- **パワースライドドア警告灯**
  （数秒後消灯）
- **パワーテールゲート警告灯**
  （数秒後消灯）
- **高水温警告灯(赤色)**
  （数秒後消灯）



スイッチの使いかた

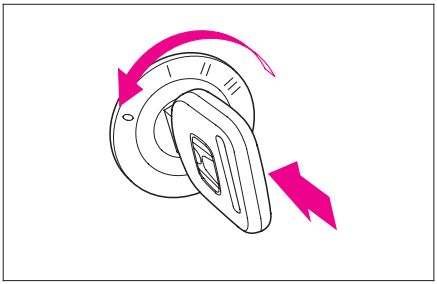
エンジンスイッチ



0	キーを抜き差しする位置です。
I	エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。
II	運転するときの位置です。
III	エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

キーを抜くとき

・セレクトレバーを[P]に入れます。
・“ I ”でキーを押し込んで“ 0 ”まで回してキーを抜きます。



知 識

- キーを抜くとハンドルがロックされます。
- セレクトレバーが[P]以外のときは、エンジンスイッチが“ 0 ”まで回らないので、キーを抜くことができません。

“ 0 ”から“ I ”にキーが回らないとき（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

知 識

- エンジンを止めた状態で“I”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

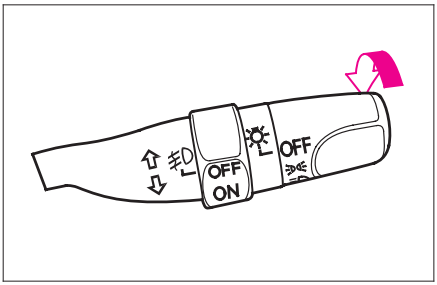
●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“I”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



スイッチの位置	≡D○≡	≡D
ヘッドライト	—	点灯
車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

ライト点灯表示灯　→156ページ

知 識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

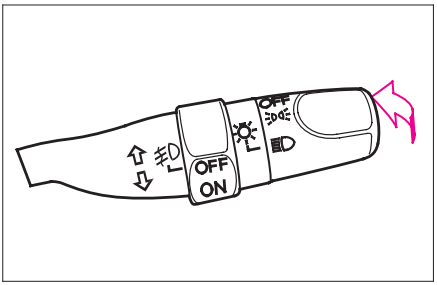
●ライト消し忘れ警告ブザー

ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜いて、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

●ヘッドライトの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。
上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯 →156ページ

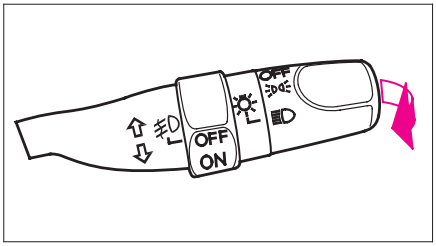


知 識

- 対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図(パッシング)

レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。



●オートレベリング機能

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトには、積載時などの車両の姿勢の変化に応じて光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が装備されています。

アドバイス

- ヘッドライト光軸の上下方向に異常を感じたときはHonda販売店で点検を受けてください。

●ヘッドライトレベリングダイヤル

ハロゲンヘッドライト装備車

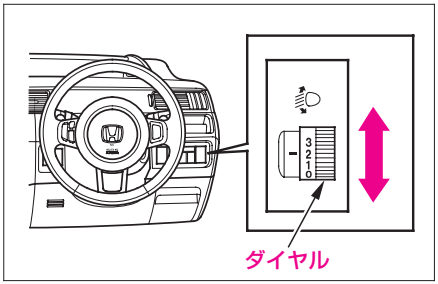
エンジンスイッチが“II”のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。
乗員や荷物が多いときなど、ヘッドライトが通常より上を向いているときは、ヘッドライトの光軸を下向きにしてください。

▼

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

下方向へ回すとヘッドライトの光軸は下向きに変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。



乗員の人数や荷物の量に応じて、下記の表を目安にダイヤル位置を調節してください。

《ダイヤル位置の目安》

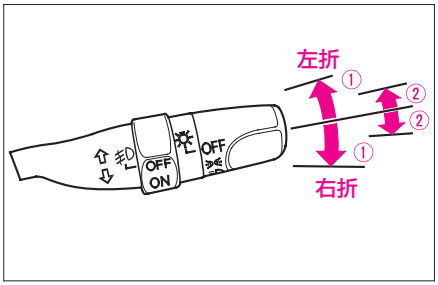
乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	
運転席、助手席とサードシート(3座席)に乗車時	1
8名乗車時	2
8名乗車時でかつカーゴスペース満載時	
運転席のみ乗車時でかつカーゴスペース満載時	3

知 識

- 車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを“0”の位置に戻してから行ってください。

方向指示器(ウィンカー)スイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。

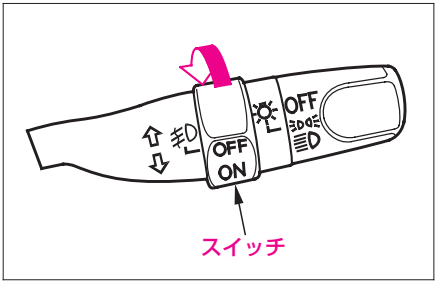


フォグライトスイッチ

フォグライト装備車

ライトスイッチが“OFF”以外のときスイッチを“ON”にするとフォグライトが点灯します。
同時にメーター内の表示灯が点灯します。

フォグライト点灯表示灯　→156ページ



ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 空ぶきをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード（ゴム部）を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがありますのでデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード（ゴム部）を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

デフロスター　→274ページ

知 識

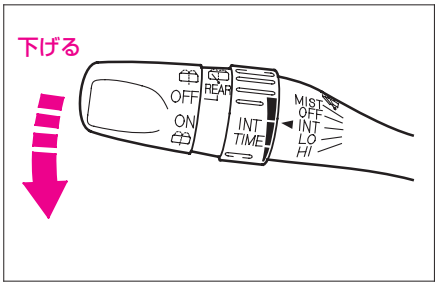
- ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
- ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。
- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてください。また、倒すときは、助手席側を先に倒してください。

ワイパーアームの起こしかた
→417ページ

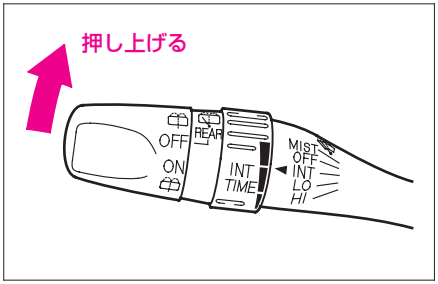
エンジンスイッチが"II"のとき使えます。

●フロントガラス

ワイパースイッチ



OFF ····· 停止
INT(間欠) ····· 雨量の少ないとき
LO(低速) ····· 普通雨量のとき
HI(高速) ····· 雨量の多いとき



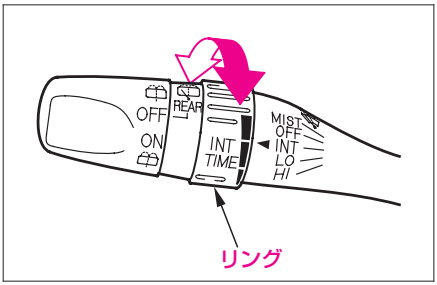
MIST ·····
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

間欠時間の調節

ワイパーの間欠作動の間隔を調節できます。

▼

間隔のセットはリングを回して行います。



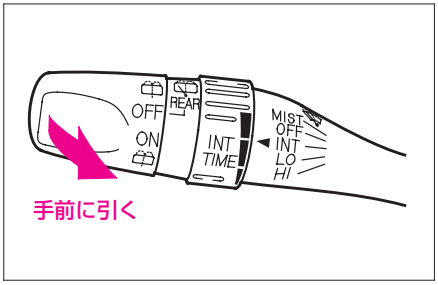
位置	間隔
	長い ↕ 短い

知 識

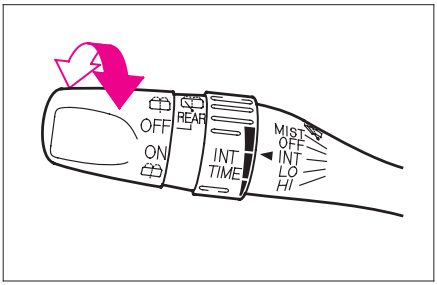
- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より約 4 秒短くなります。
  また、発進時にワイパーが 1 回作動します。
- リングを間欠時間の短い方へいっぱいに回しているときに、車速が速くなるとワイパーが間欠から低速作動になります。

ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離した後さらに2～3回作動します。
停車時、低速走行中は、液ダレ防止のため数秒後にさらに1回作動します。



●リヤガラス



OFF ····· 停止
ON ····· ワイパーが作動します。スイッチを“ON”にすると、数回ワイパーが作動し、その後間欠作動に切り換わります。
⌓ ····· スイッチを回している間、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離した後さらに2～3回作動します。

リバース連動モード

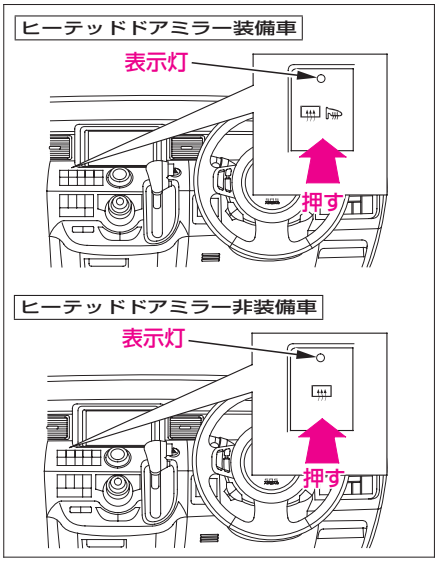
フロントワイパーが間欠作動をしているときに、セレクトレバーをRに入れると、リヤワイパースイッチが“OFF”でもリヤワイパーが間欠作動します。
フロントワイパーが低速または高速作動をしているときに、セレクトレバーをRに入れると、リヤワイパースイッチが“OFF”でもリヤワイパーが連続作動します。

リヤデフロスタースイッチ

リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

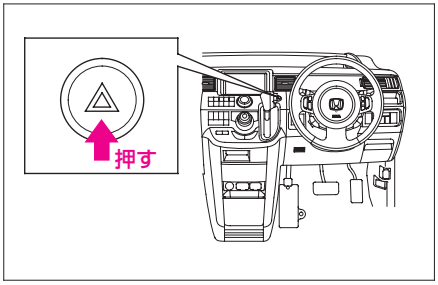


知 識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。
- **ヒーテッドドアミラー装備車**
  リヤデフロスタースイッチを押すと、ドアミラーの曇り取りも同時に機能します。
  ヒーテッドドアミラー
  →123ページ

非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するときに使います。

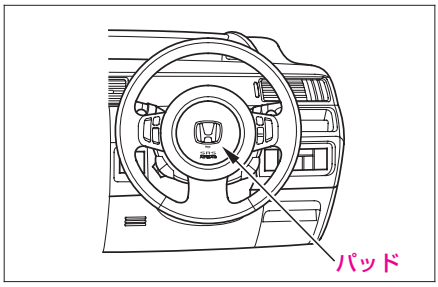


知 識

- 非常時にのみお使いください。
  完全充電の新しいバッテリーでも約 2 時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ホーンスイッチ

ハンドルにあるパッドを押すとホーンが鳴ります。



ECONスイッチ

CVT車

エアコンとCVTの作動を制御して、燃費をより効率よくすることができます。

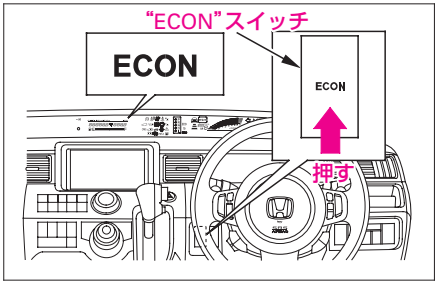
▼

エンジンスイッチが“II”のときECONスイッチを押すとECONモードが“ON”になり、メーター内に“ECON”が表示されます。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、表示は消えます。

ECON表示灯は、セレクトレバーがⓅ、Ⓡ、Ⓝ、Ⓓの位置のときに点灯します。

CVTはⒹのとき、エアコンは“ON”でセレクトレバーがⓅ、Ⓡ、Ⓝ、Ⓓのときに作動条件がそろうと、各々のシステムが燃費を向上させるための制御を行います。

ECON表示灯　→160ページ



エンジンスイッチを“ I ”または“ 0 ”にすると、ECONモードは“OFF”になります。

知 識

- セレクトレバーの位置がⒹのときでも、Sモード、7速モード（7速オートシフトモード、7速マニュアルシフトモード）のときは、ECON表示灯は点灯しません。
- ECONモードが作動しているときは、外気温が25℃以上の場合、自動的に内気循環になります。
- ECONモードが作動しているときはエアコンの効きが弱く感じられることがあります。

5速オートマチック車
4速オートマチック車

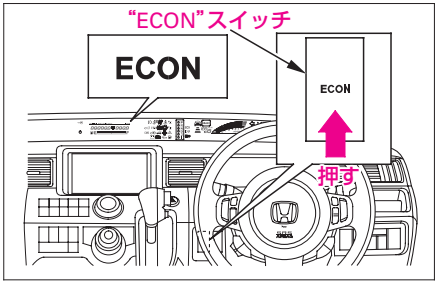
エアコンとトランスミッションの作動を制御して、燃費をより効率よくすることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”でエアコンが“ON”のときECONスイッチを押すとECONモードが“ON”になり、メーター内に“ECON”が表示されます。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、表示は消えます。

ECON表示灯は、セレクトレバーがP、R、N、Dの位置で、エアコンが“ON”のとき（ただしエアコンの吹き出し口MODEが“ ”、“ ”のときをのぞく）に点灯します。トランスミッションはDでエアコンが“ON”のとき、エアコンは“ON”でセレクトレバーがP、R、N、Dのときに作動条件がそろうと、各々のシステムが燃費を向上させるための制御を行います。

ECON表示灯　→160ページ



エンジンスイッチを“ I ”または“ 0 ”にすると、ECONモードは“OFF”になります。

知 識

- ECONモードが作動しているときは、外気温が25℃以上の場合、自動的に内気循環になります。
- ECONモードが作動しているときはエアコンの効きが弱く感じられることがあります。

運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

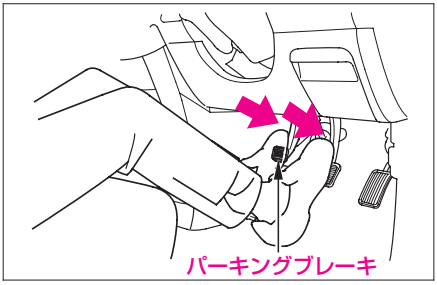
- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずHonda販売店で点検を受けてください。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

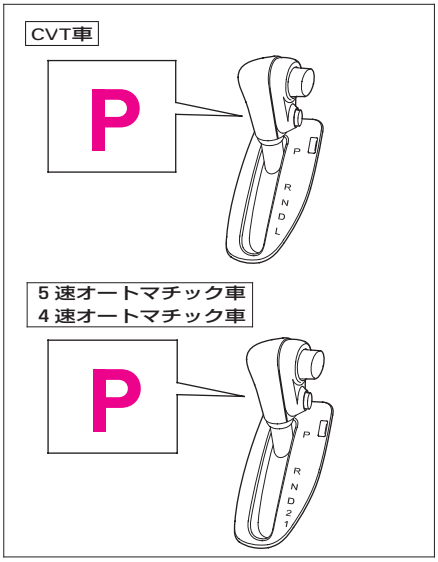
パーキングブレーキ　→188ページ



②セレクトレバーがPの位置にあることを確認してください。

セレクトレバーの操作

→190、198ページ



③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

④アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



知　識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを“Ⅰ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。

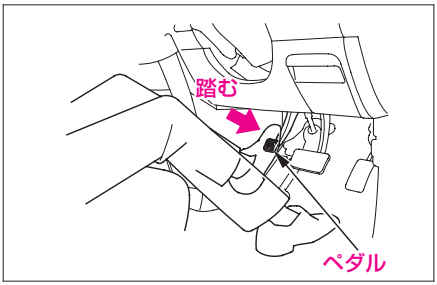
知 識

- 周囲の電波状態などによりエンジンが始動できないことがあります。
  イモビライザーシステムについて
  →84ページ
- エンジンスイッチを“II”にした直後（イモビライザーシステム表示灯点灯中）は、エンジンが始動できないことがありますので、表示灯が消灯するのを確認してから、スターターを回すことをおすすめします。
  イモビライザーシステム表示灯
  →158ページ
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

パーキングブレーキ

かけるとき

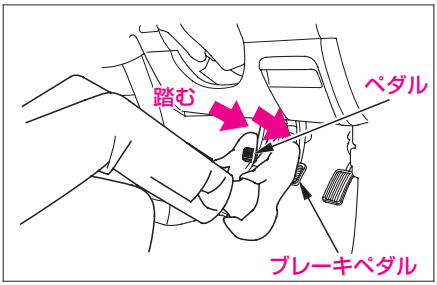
左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



後輪ブレーキが効きます。

解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを踏み込み、ゆっくりと離します。





⚠注意

●パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知 識

●パーキングブレーキをかけたあとに再度かけなおしたいときは、一度解除してからもう一度踏み込んでください。

●駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い　→412ページ

●パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

ブレーキ警告灯　→166ページ

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行（車速約 7 km/h以上）するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。

知 識

●停車（車速約 3 km/h以下）するとブザーによる警告は一旦止まります。

セレクトレバーの操作

CVT車

●それぞれの位置のはたらき

P パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。

知 識

- セレクトレバーがPi以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

R リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがRiに入っていることを運転者に知らせます。

N ニュートラル

中立位置。
(エンジン始動できますが、安全のためPiで行ってください。)

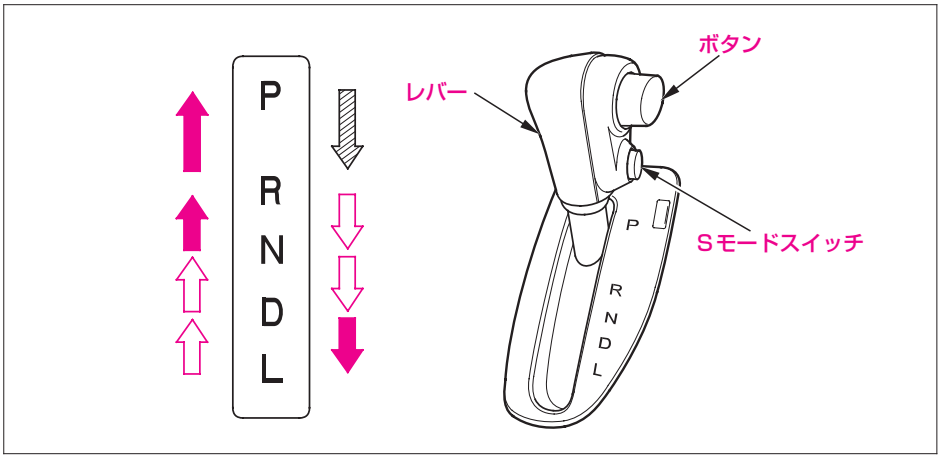
D ドライブ

通常の走行をする位置。
SモードスイッチをONにすると上り坂、下り坂に使う位置。
(高回転領域を有効に使用できます。)
7速モード(7速オートシフトモード、7速マニュアルシフトモード)にすることができます。

L ロー

エンジンブレーキが必要なときに使う位置。

●セレクトレバーの動かしかた



ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“I”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
  いつもボタンを押して操作すると意に反してPRLに入れてしまうおそれがあります。
  ⇧⇩の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

⚠注意

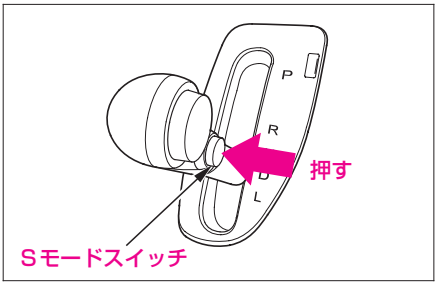
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

知 識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- ECONモードを“ON”にすると、セレクトレバーの位置が⊡のとき、燃費を向上させるための制御を行ないます。
  ECONスイッチ　→184ページ
- CVTが異常のとき、エンジン回転数が3,000rpmになると燃料供給が停止されます。

●Sモードスイッチ

セレクトレバーが⊡のときにSモードスイッチを押すと、Sモードに切り換わります。
戻すときはSモードスイッチをもう一度押します。



Sモードにすると高回転領域を有効に使用できます。同時に、メーター内のSモード表示灯が点灯します。
Sモード表示灯　→158ページ

知 識

- 次の場合、Sモードは自動的に解除されます。
  - 7速モードメインスイッチを操作したとき
  - エンジンスイッチを”I”にしたとき
  - ECONスイッチを操作したとき

● 7速モード

7速モードにするとトランスミッションの変速比を1速から7速に設定します。7速オートシフトモードと7速マニュアルシフトモードを選択できます。

7速オートシフトモード　→195ページ
7速マニュアルシフトモード　→195ページ

モードの切り換え

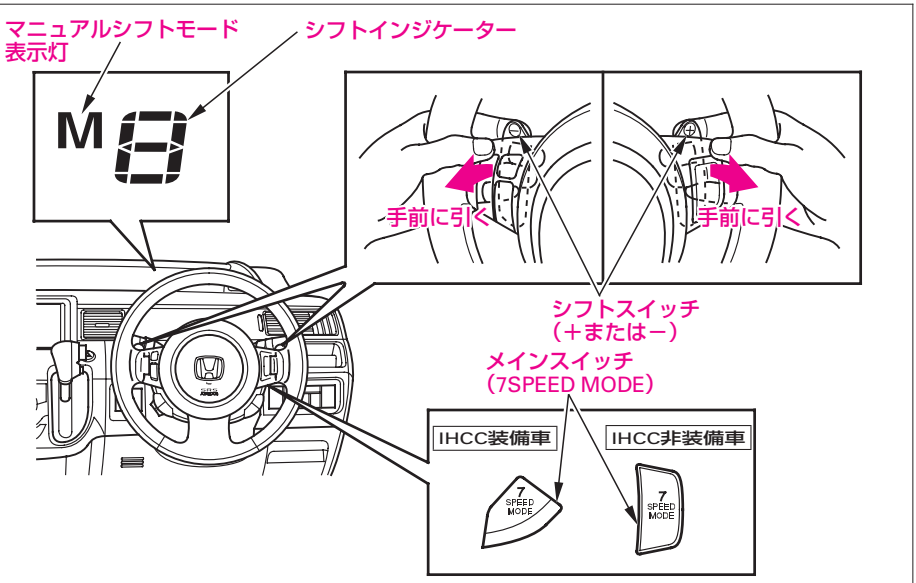
セレクトレバーが◫、またはSモードのとき、メインスイッチを押すと7速オートシフトモードに切り換わります。（シフトインジケーターに変速段を表示）

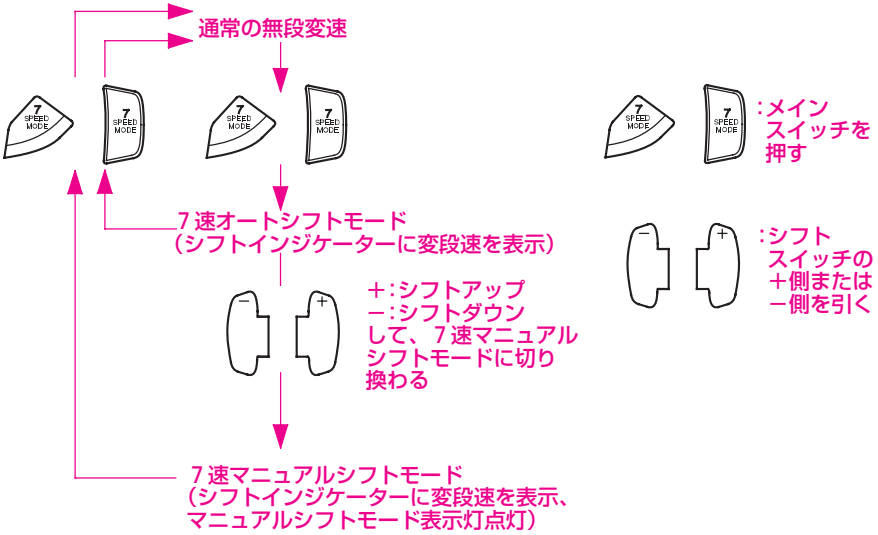
7速オートシフトモードのときシフトスイッチを引くと7速マニュアルシフトモードに切り換わります。（シフトインジケーターに変速段を表示、マニュアルシフトモード表示灯点灯）

解除するときは、メインスイッチを押します。

知　識

●次の場合、7速オートシフトモードまたは、7速マニュアルシフトモードは、自動的に解除されます。
- Sモードスイッチを操作したとき
- セレクトレバーを操作したとき
- エンジンスイッチを”I”にしたとき
- ECONスイッチを操作したとき


マニュアルシフトモード
表示灯
シフトインジケーター
M
手前に引く
手前に引く
シフトスイッチ
（＋または－）
メインスイッチ
（7SPEED MODE）
IHCC装備車
IHCC非装備車
7
SPEED
MODE


通常の無段変速
：メイン
スイッチを
押す
7速オートシフトモード
（シフトインジケーターに変段速を表示）
：シフト
スイッチの
＋側または
－側を引く
＋：シフトアップ
－：シフトダウン
して、7速マニュアル
シフトモードに切り
換わる
7速マニュアルシフトモード
（シフトインジケーターに変段速を表示、
マニュアルシフトモード表示灯点灯）

7速オートシフトモード

7速オートシフトモードは、1速から7速まで自動変速します。

知 識

- シフトインジケーターが7速を表示中に条件を満たすと燃費向上のため、さらに高速の変速比に切り換わります。このとき、シフトインジケーターは7速のままとなります。

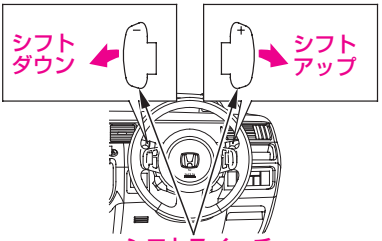
7速マニュアルシフトモード

7速マニュアルシフトモードは、ハンドルから手を離さずにマニュアルシフト操作ができます。

スイッチの＋側を引くとシフトアップ（高速側に変速）

スイッチの－側を引くとシフトダウン（低速側に変速）します。

モードの切り換え　→193ページ



知 識

- シフトスイッチの操作1回で、変速段を1段変速します。連続して操作したときは、変速段を連続して変速します。シフトスイッチを引いたままでは、連続変速しません。続けて変速するときは、一旦シフトスイッチから指を離してから操作してください。
- シフトスイッチを引いたまま、もう一方のシフトスイッチを引いても変速しません。
- シフトスイッチの＋側と－側を同時に引いても変速しません。

・操作受け付けエンジン回転数

７速マニュアルシフトモードでは、以下の条件のときにシフトスイッチを操作すると変速します。

シフトアップ･･･
　変速後のエンジン回転数が1,100rpm以上になるとき
シフトダウン･･･
　変速後のエンジン回転数が5,900rpm以下になるとき

知 識

- ７速マニュアルシフトモードでは、発進は１速のみで行えます。
- 以下の場合、自動的に変速します。
  - エンジン回転数が5,900rpm以上になるとシフトアップします。
  - エンジン回転数が1,100rpm以下になるとシフトダウンします。
- セレクトレバーの位置が□のときで、シフトインジケーターが７速を表示中に条件を満たすと燃費向上のため、さらに高速の変速比に切り換わります。このとき、シフトインジケーターは７速のままとなります。



セレクトレバーの操作

5速オートマチック車
4速オートマチック車

●それぞれの位置のはたらき

P パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。

知 識

- セレクトレバーがPレンジ以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

R リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがRレンジに入っていることを運転者に知らせます。

N ニュートラル

中立位置。
(エンジン始動できますが、安全のためPレンジで行ってください。)

D ドライブ

通常の走行をする位置。
1速から5速(5速オートマチック車)または1速から4速(4速オートマチック車)まで自動的に変速されます。
D3スイッチONのとき、1速から3速まで自動的に変速されます。

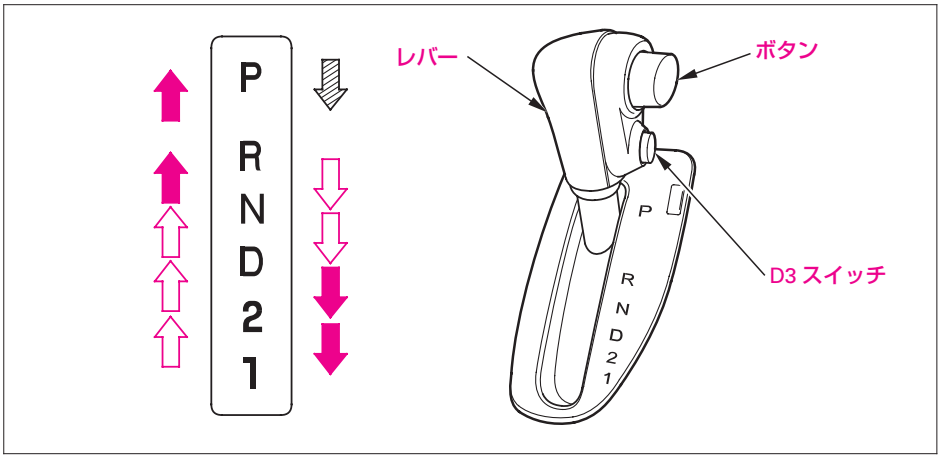
2 セカンド

エンジンブレーキが必要なときや、雪道などの滑りやすい路面での発進に使う位置。
(2速のままで変速されません。)

1 ロー

強力なエンジンブレーキが必要なときに使う位置。
(1速のままで変速されません。)

●セレクトレバーの動かしかた



ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

知 識

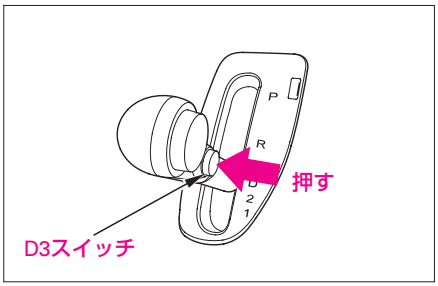
- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“I”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると意に反してPR21に入れてしまうおそれがあります。
  ⇧⇩の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●D3スイッチ

スイッチを“ON”にしておくと、Dの位置で走行中ギヤが1速から3速まで自動変速し、ゆるい坂道走行などに適します。

・スイッチを押すごとにONとOFFに切り換わります。
・ONのときD3 ON表示灯が点灯します。

(→158ページ参照)



スイッチがONのとき

ゆるい坂道走行などに適します。
速度によりギヤが1速から3速まで自動変速します。
下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。
上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

スイッチがOFFのとき

通常走行に適します。
速度によりギヤが1速から5速(5速オートマチック車)または1速から4速(4速オートマチック車)に自動変速します。

知 識

●エンジンスイッチを“I”または“0”にするとD3はOFFの状態に戻ります。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各セレクトレバー位置での速度範囲内で切り換えを行ってください。

24Z 4WD車

セレクトレバーの位置		速　度　範　囲	変　速　範　囲
D	D3スイッチOFF	0 km/h～	1↔2↔3↔4↔5 速
	D3スイッチON	0～158km/h	1↔2↔3 速
2		0～113km/h	2 速固定
1		0～64km/h	1 速固定※

※：急激なエンジンブレーキによるショックを避けるため50km/h以上で1へ切り換えた場合は、一旦 2 速に入ります。

G、B

セレクトレバーの位置		速　度　範　囲	変　速　範　囲
D	D3スイッチOFF	0 km/h～	1↔2↔3↔4 速
	D3スイッチON	0～167km/h	1↔2↔3 速
2		0～118km/h	2 速固定
1		0～68km/h	1 速固定※

※：急激なエンジンブレーキによるショックを避けるため40km/h以上で1へ切り換えた場合は、一旦 2 速に入ります。

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

知 識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- ECONモードを“ON”にすると、セレクトレバーの位置が[D]のとき、燃費を向上させるための制御を行ないます。
  ECONスイッチ　→185ページ
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

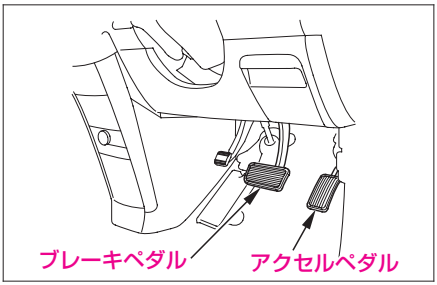


オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



知 識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

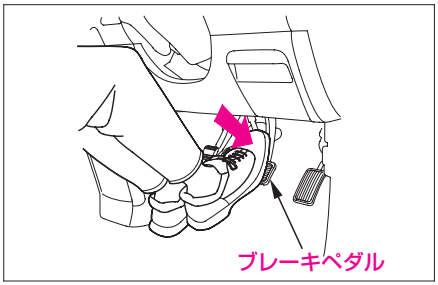
エンジン始動

①パーキングブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがPに入っていることを確認。

知 識

- Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。

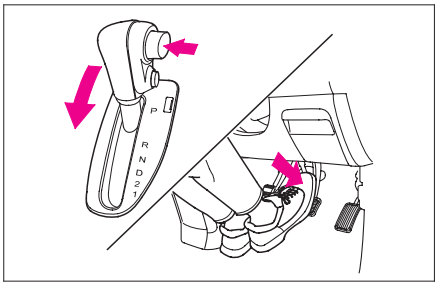


知 識

- イモビライザーシステム表示灯が点滅しているとエンジンを始動することができません。
  イモビライザーシステムについて →84ページ
  イモビライザーシステム表示灯 →158ページ
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進はD、後退はRに入れる。



⚠注意

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

②レバーの位置を目で再確認。
③パーキングブレーキを解除する。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
（→166ページ）
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

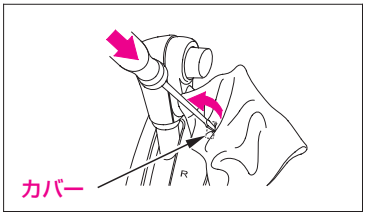
知 識

- セレクトレバーをPN以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
- セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- オートマチック車は、発進時の速度をアクセル操作のみで調節するので、アクセル操作は慎重に行ってください。

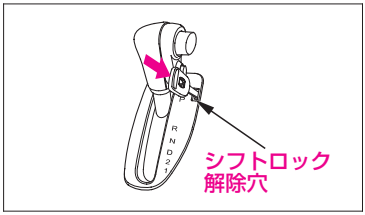
知 識

●万一、ブレーキペダルを踏んでも㊁から他の位置に切り換えられないときは、

①ドライバーの先端に布等をまいてシフトロック解除穴のカバーを外します。



②シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。



急な坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、

・パーキングブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、
・アクセルペダルをゆっくり踏んで、
・車が動き出す感触を確認しながら、
・パーキングブレーキを解除して発進。

走行

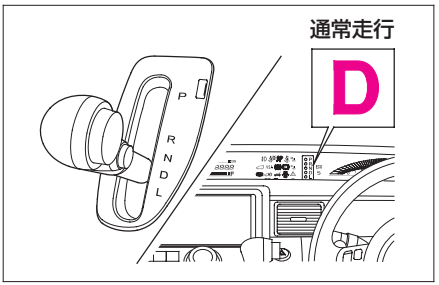
走行中はセレクトレバーをNにしないでください。

知 識

- Nにするとエンジンブレーキが全く効かなくなるため思わぬ事故の原因になります。
  またNにしても燃費の差はほとんどありません。

CVT車

通常走行



セレクトレバーをDにして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、低速から高速まで自動的に変速されます。

・7速オートシフトモード走行

アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から7速まで自動的に変速されます。

モードの切り換え →193ページ
7速オートシフトモード →195ページ

・7速マニュアルシフトモード走行

マニュアルシフト操作ができます。走行状況に合わせ、シフトスイッチを使って変速段を選択して走行します。

モードの切り換え →193ページ
7速マニュアルシフトモード →195ページ

急加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

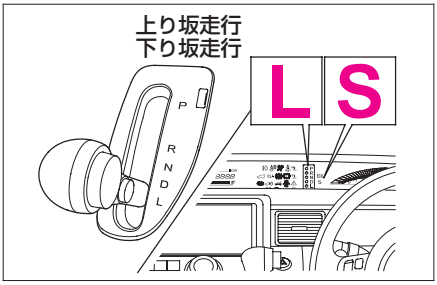
上り坂走行

坂の勾配に応じ、Sモードにするか、セレクトレバーを[L]にしておくと、より力強い走行ができます。

下り坂走行

下り坂を[D]のまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、SモードスイッチをONにして、エンジンブレーキを使用してください。Sモードのままで速度が出すぎるときは[L]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。

7速マニュアルシフトモードのときには、走行速度に合わせ、変速段を一段ずつ落としてエンジンブレーキを併用してください。



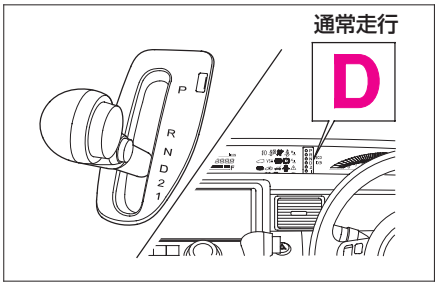
⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ　→22ページ

5速オートマチック車
4速オートマチック車

通常走行



セレクトレバーを[D]にして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から5速(5速オートマチック車)または1速から4速(4速オートマチック車)まで自動的に変速されます。

急加速したいとき

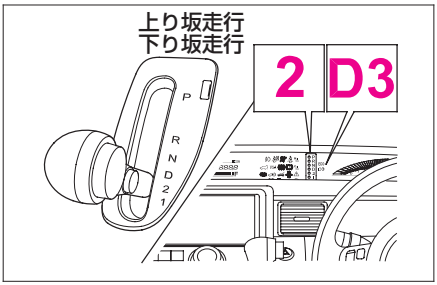
アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを[D](D3スイッチON)または[2]にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂走行

下り坂を[D]のまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、D3スイッチONにします。さらに強力なエンジンブレーキが必要なときには、[2]または[1]にします。



⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ　→22ページ

停車

①Dのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

アドバイス

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でPN以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

知 識

- 急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがPN以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをNに入れる。

⚠注意

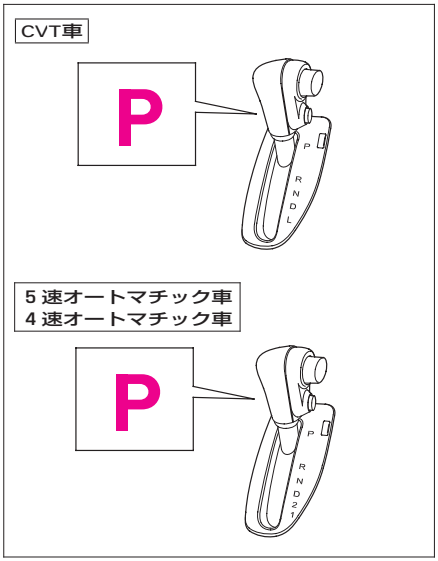
- 停車中、空ぶかしをしないでください。
万一、セレクトレバーがPN以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。

知 識

- 停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがDにあることを確認してください。
- セレクトレバーがNでもエンジンが冷えているときは、トランスミッションオイルの粘性により車がわずかに動き出すことがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
③セレクトレバーを[P]に入れる。



知 識

●駐車の際は、セレクトレバーが必ず[P]に入っていることを確認してください。セレクトレバーが[P]のときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

⚠注意

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーが[P][N]以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス

●車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

知 識

●環境保護のため駐車時にはエンジンを止めましょう。

ほかに気をつけたいこと

⚠注意

- セレクトレバーは正しい位置で使用してください。
  坂道などで、前進(D、Lまたは D、2、1)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(R)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

アドバイス

- CVT車
  セレクトレバーがRの位置のときに、エンジン回転数が3,500rpmになると燃料供給が停止されます。



安全装備

●SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムのしくみ ····216
作動するとき ·····218
作動しないとき ·····219
SRSエアバッグシステムの効果を
十分に発揮させるために ·····220
お子さまを乗せるときは ·····221
取り扱いについて ·····222
●サイドエアバッグシステム／
サイドカーテンエアバッグシステム
サイドエアバッグシステムおよび
サイドカーテンエアバッグシステムの
しくみ ·····224
作動するとき ·····228
作動しないとき ·····230
サイドエアバッグシステムおよび
サイドカーテンエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させるために ··231
乗員姿勢検知システム(助手席のみ) ··233
お子さまを乗せるときは ·····235
取り扱いについて ·····236
●シートベルトプリテンショナー
シートベルトプリテンショナーの
しくみ ·····240
取り扱いについて ·····241
●E-プリテンショナー
E-プリテンショナーのしくみ ····242
取り扱いについて ·····243
●アンチロックブレーキシステム(ABS)
ABSのしくみ ·····244
運転のしかた ·····244
取り扱いについて ·····245
●ブレーキアシスト
ブレーキアシストのしくみ ···246
取り扱いについて ·····246
●ビークルスタビリティ
アシスト(VSA)
VSAのしくみ ·····248
運転のしかた ·····249
取り扱いについて ·····250
●追突軽減ブレーキ(CMS)
CMSのしくみ·····252
追突警報について ·····256
CMSの停止について·····257
CMSの自動停止について·····257
取り扱いについて ·····258
●四輪駆動機構(4WD)
運転するときは ·····262
取り扱いについて ·····262
●その他の安全装備 ·····263

3

SRSエアバッグシステム
（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。

⚠注意

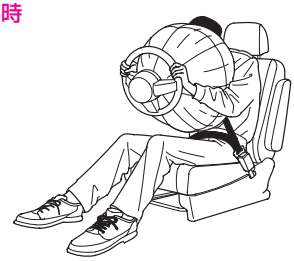
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席用SRSエアバッグシステム

作動時



作動後



助手席用SRSエアバッグシステム

助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

作動時



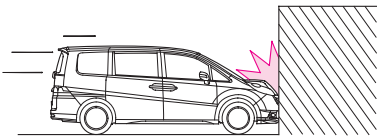
作動後



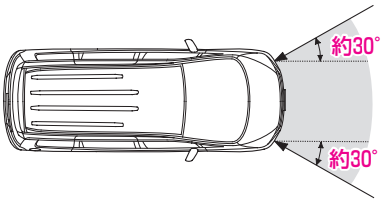
作動するとき

次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

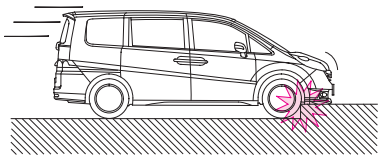


知 識

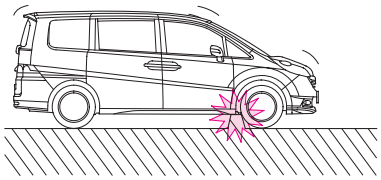
- 衝撃を吸収できる物（車やガードレールのように変形する物）に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度（車速）は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

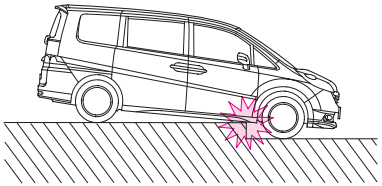
縁石などに衝突したとき



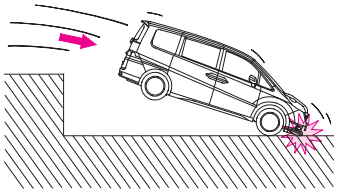
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき



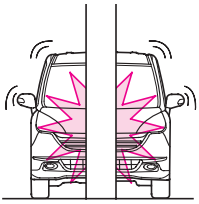
高いところから落ちたとき



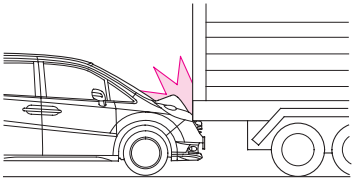
作動しないとき

衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。

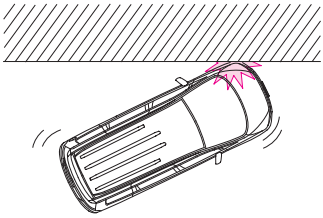
電柱、立木などへの衝突



トラックなどへの潜り込み



部分的な衝突や斜め方向からの衝突

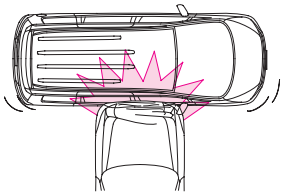


知 識

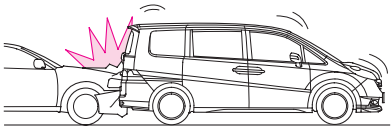
- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

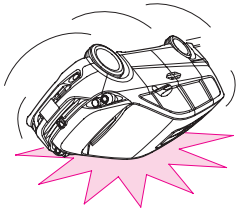
横方向からの衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知 識

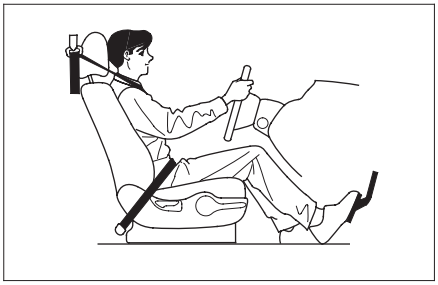
- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

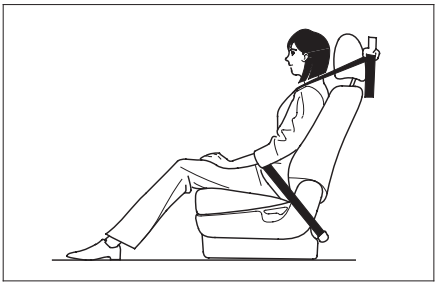


⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



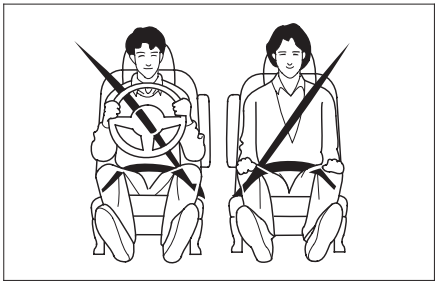
⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

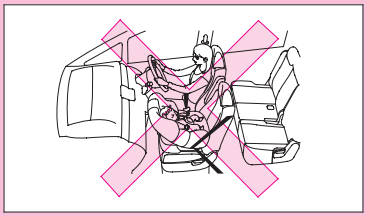


お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートなどの取り付けについて

⚠警告

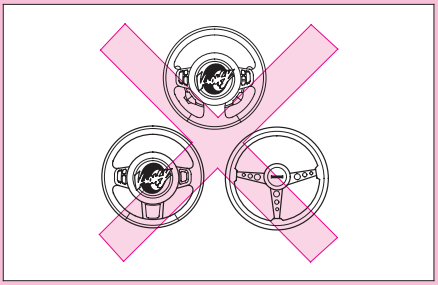
- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



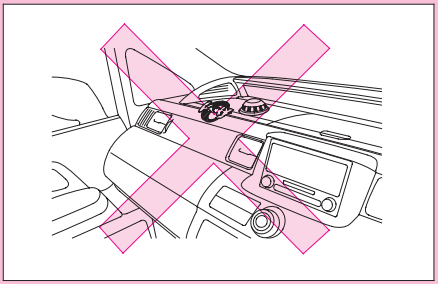
取り扱いについて

⚠注意

- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

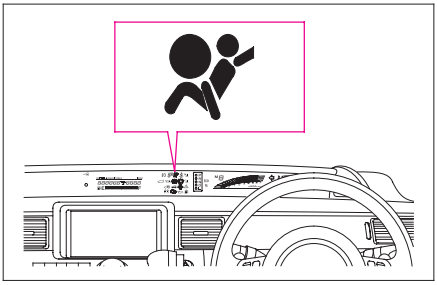


知 識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム

注文装備

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムのしくみ

●サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムとは

側面からの衝突により、サイドエアバッグ(運転者または助手席同乗者)およびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員と車両側面の間に入り込むことにより、車両側面と乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和する装置です。

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、側面からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃(頭部や胸部に重傷を及ぼすような場合)を感知するとシステムが作動し、衝撃を受けた側のサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員と車両側面の間に入り込むことにより、車両側面と乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和します。
助手席側は乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→233ページ

⚠注意

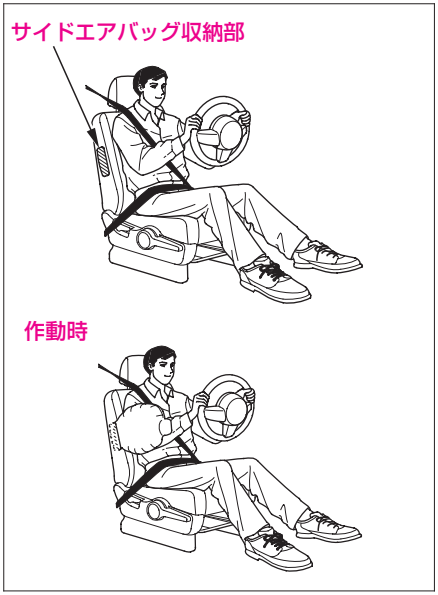
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんだ直後は、エアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。



知 識

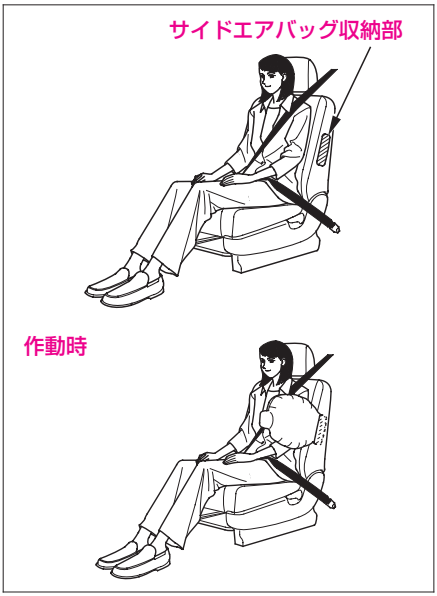
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは膨らんだあとにしぼみます。
- サイドエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席サイドエアバッグシステム



助手席サイドエアバッグシステム

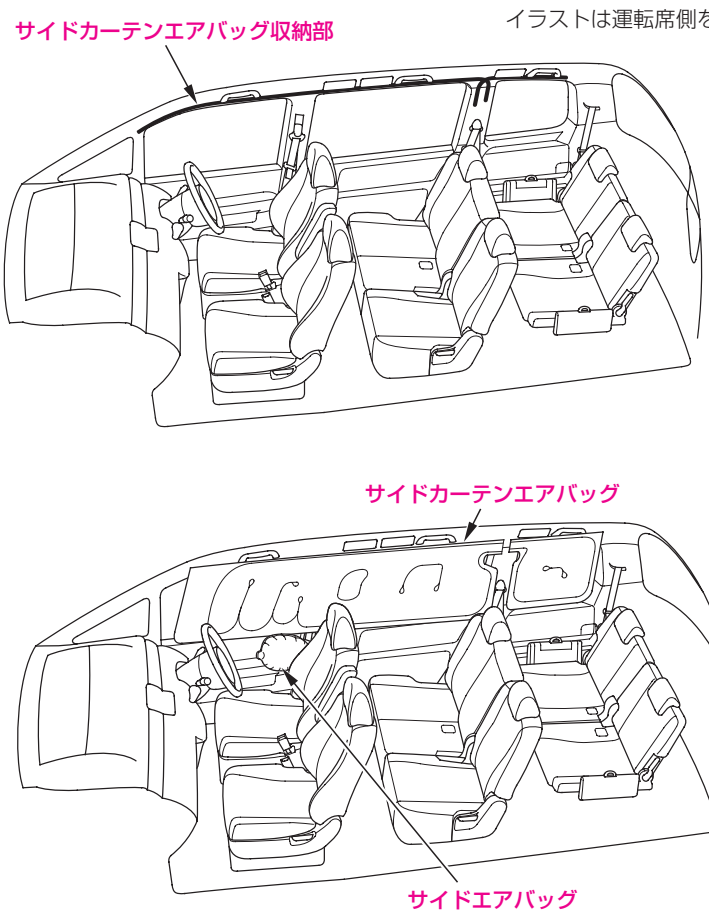
助手席用サイドエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



サイドカーテンエアバッグシステム

助手席側にもサイドカーテンエアバッグが収納されています。
助手席側サイドカーテンエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

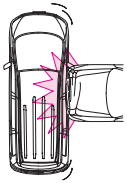
イラストは運転席側を示します。



作動するとき

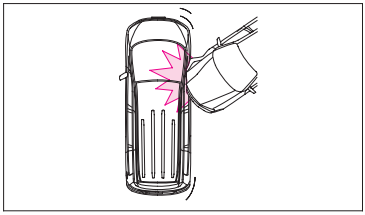
次のような場合に作動します。

約30km/h以上の速度で自車と同等の車が真横から側面衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



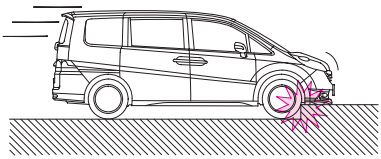
知 識

- 側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

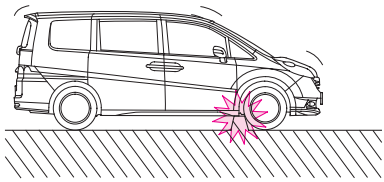


次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

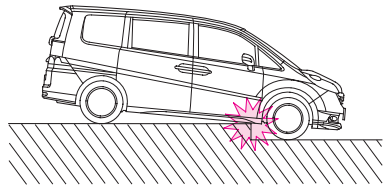
縁石などに衝突したとき



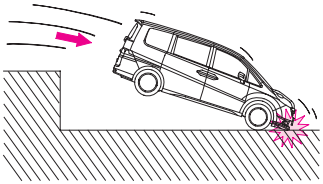
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき

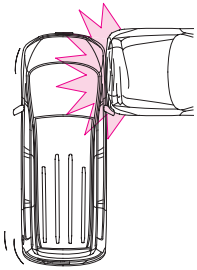


高いところから落ちたとき

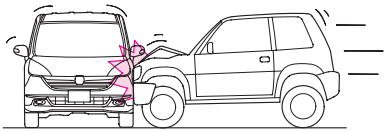


次のような場合、作動しないことがあります。

乗員付近以外の側面に衝突されたとき



車高の高い車に側面衝突されたとき



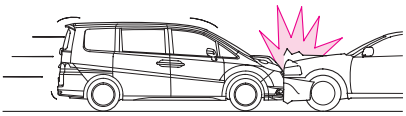
知 識

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになってますので車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

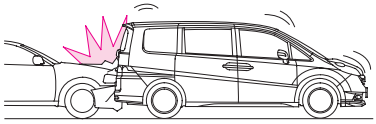
作動しないとき

低い速度での衝突や次のような場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので作動しません。ただし、状況によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

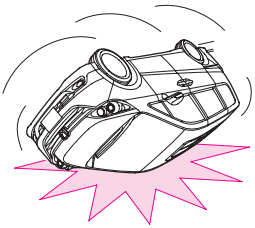
正面衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知 識

- 事故の状況と、形態によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

助手席側は、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→233ページ

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

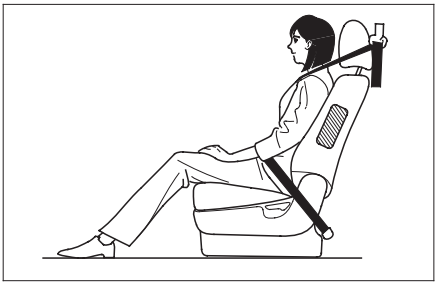
運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。



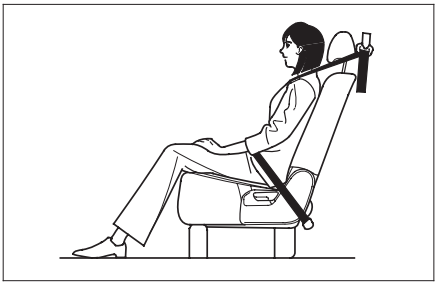
助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



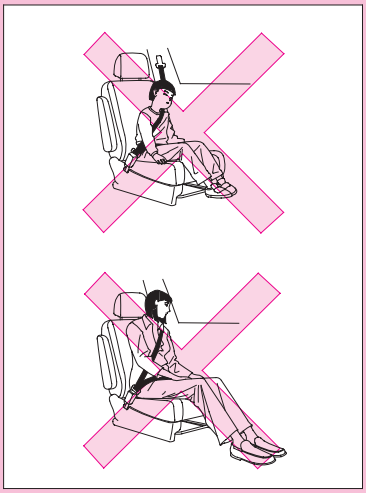
後席（外側）

シートに深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



⚠注意

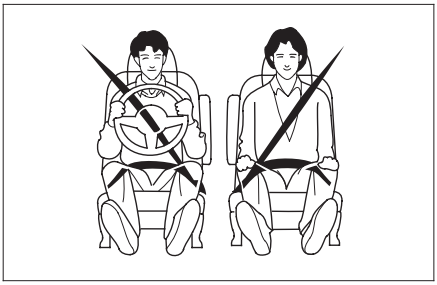
- ドアに寄りかからないようにしてください。サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。



- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの各格納部に手や顔などを必要以上に近づけないでください。また、後席同乗者は前席の背もたれを抱えないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

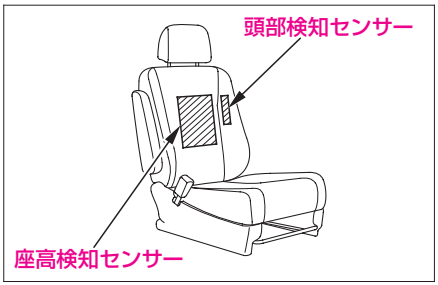
このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。



乗員姿勢検知システム（助手席のみ）

●乗員姿勢検知システムとは

乗車時の姿勢が不適切な場合、サイドエアバッグが膨らむことにより重大な傷害を受けるおそれがあるため、助手席乗員の姿勢を検知し、サイドエアバッグの作動を自動的に停止する装置です。



知　識

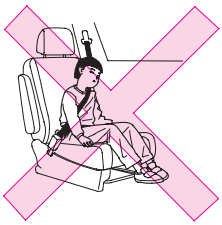
- シート表皮の裏にセンサーが取り付けられているため、次のような場合には、乗員姿勢検知システムが正常に機能しないおそれがあります。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき
  - ・シートにクッションなどを装着しているとき
  - ・ダウンジャケット等の厚い上着を着ているとき
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき

●サイドエアバッグの作動を自動停止するとき

次のような場合、サイドエアバッグの作動を自動停止します。このときメーター内のサイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

サイドエアバッグ自動停止表示灯
→159ページ

小さなお子さまがドアに寄りかかって、サイドエアバッグがとび出す付近に頭があるようなとき

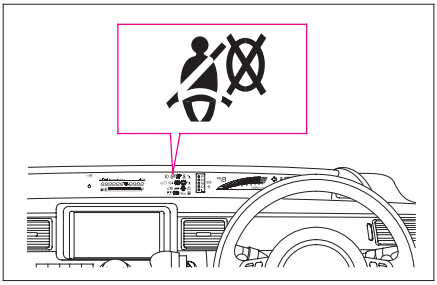


知 識

- 次のような場合でも、サイドエアバッグの作動を自動停止することがあります。
  - ・小柄な大人の方が上のイラストと同じような姿勢をとったとき
  - ・大人の方が前かがみになるまたは、寝そべっていて、ドア側に寄りかかっているとき

●サイドエアバッグ自動停止表示灯

メーター内に組み込まれており、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断し、サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。
表示灯が点灯したときは、上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約5秒間点灯して消えるのが正常です。



アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・正しい乗車姿勢をとっても消灯しないとき、あるいは助手席に乗員がいないのに消灯しないとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約5秒経過しても消灯しないとき

知 識

- 次のような場合は、表示灯が点灯することがあります。表示灯が点灯しているときは、サイドエアバッグの作動を自動停止します。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき

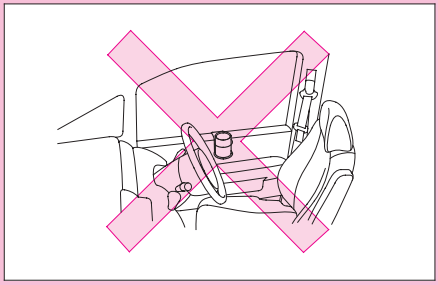
お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

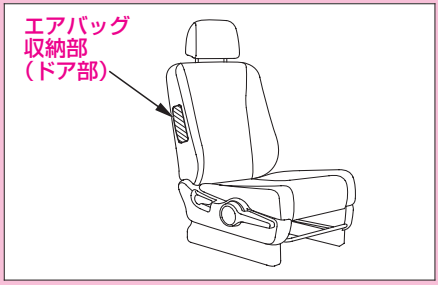
取り扱いについて

⚠注意

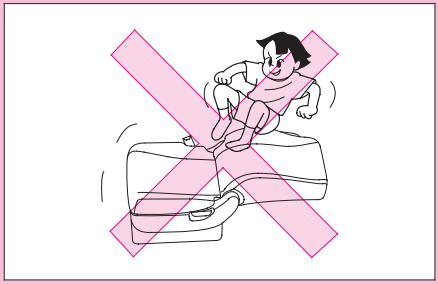
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ドアやその周辺にカップホルダーなどを取り付けないでください。
  また、シートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグはドアに沿って膨らむため、正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。



- フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。サイドエアバッグはシートの背もたれ外側に収納されていて、エアバッグ収納部のカバーを破って膨らむため、正常に機能しなくなるおそれがあります。

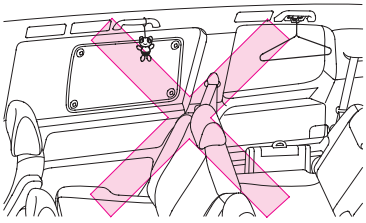


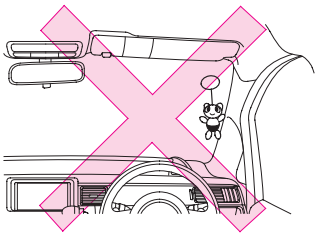
- フロントシートの背もたれを倒した状態でとびはねるなど、サイドエアバッグ収納部に無理な力を加えないでください。

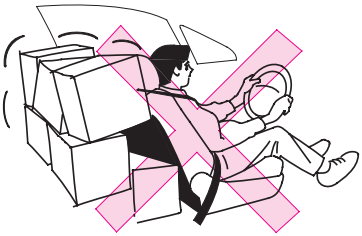


⚠注意

- グラブレールに物をかけないでください。
  サードシートの固定専用フックは、シートを固定する以外の目的で使用しないでください。
  フロントガラス、ドアガラス、サードシートサイドガラスに物やアクセサリーなどを取り付けないでください。フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりにこの車専用のHonda純正用品（ハンズフリー通信キットなど）以外を取り付けないでください。
  サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
- フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーやルーフなど、サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えたりしないでください。
- エアバッグが収納されているルーフサイド、フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーやルーフに傷がついていたり、ひび割れがある時は、そのまま使用せずにHonda販売店で交換してください。
- カーゴスペースや座席に荷物を載せるときは、ドアガラス、サードシートサイドガラス下端部の高さを越えないようにしてください。サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時に荷物が飛ぶことがあります。





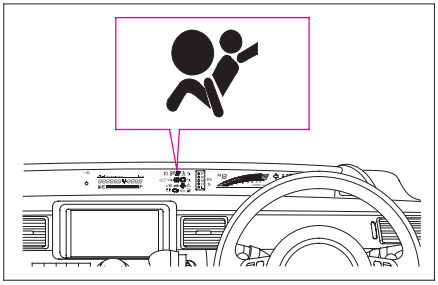


知 識

- フロントシートまわり、フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品を取り付ける場合は、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとサイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、サイドエアバッグユニットまたはサイドカーテンエアバッグユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステムまたは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
- 運転中に点灯したとき
- エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーのしくみ

●シートベルト プリテンショナーとは

前方向からの衝突により、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。シートベルトを着用している状態のSRSエアバッグシステムと同じ条件で作動します。

SRSエアバッグシステム　→216ページ

●どのように作動するか

エンジンスイッチが"II"のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。



⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - ・シートベルトを正しく着用してください。
    シートベルト　→126ページ
  - ・正しい運転（乗車）姿勢をとってください。
    正しい運転姿勢　→88ページ

知 識

- シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。Honda販売店で交換してください。
  なお、IHCC非装備車はシートベルトを着用していなくても作動しますので、助手席側も同時に交換してください。

取り扱いについて

⚠注意

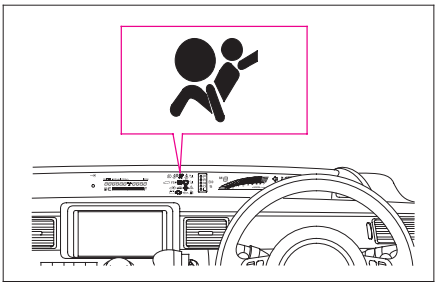
●シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

●シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
●シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずHonda販売店にご相談ください。
正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき
必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

E-プリテンショナー

IHCC装備車

E-プリテンショナーのしくみ

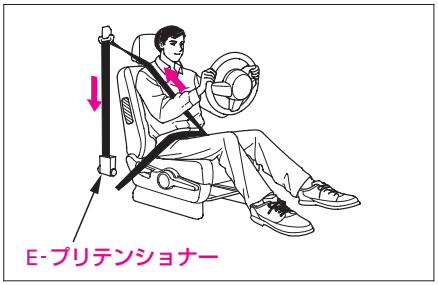
●E-プリテンショナーとは

衝突するおそれがあるときなどに、運転席と助手席のシートベルトを衝突前に巻き取ることで、シートベルトの拘束効果を高める装置です。

●どのように作動するか

前方の車両に追突するおそれがあるときに、追突軽減ブレーキ（CMS）と連動して作動し、シートベルトを巻き取ります。また、ブレーキアシストとも連動して作動します。

作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。



追突軽減ブレーキ（CMS）　→252ページ
ブレーキアシストについて　→246ページ

⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとE-プリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - シートベルトを正しく着用してください。
    シートベルト　→126ページ
  - 正しい運転姿勢をとってください。
    正しい運転姿勢　→88ページ

知識

- E-プリテンショナーは、シートベルトを着用していないと作動しません。
- 衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動した場合は、シートベルトを引き出せなくなります。Honda販売店で交換してください。
- E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。
- VSA警告灯が点灯しているときは、E-プリテンショナーは作動しません。

取り扱いについて

⚠注意

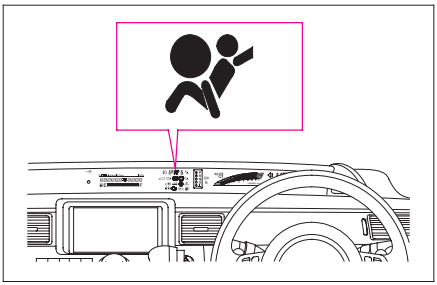
●シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

●シートベルト引き込み装置付近の修理をする場合は、E-プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、E-プリテンショナーユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき
必要なときにE-プリテンショナーが作動しないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

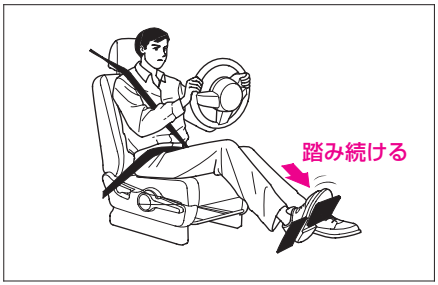
ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。



・低速（車速約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

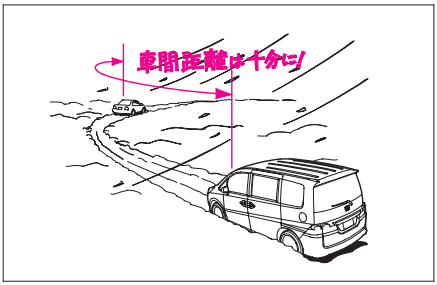
知 識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。



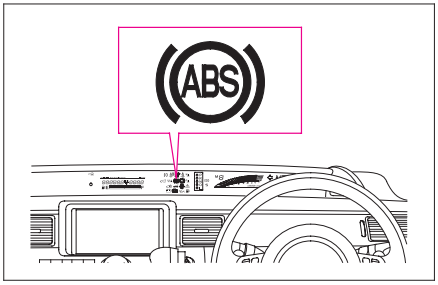
取り扱いについて

知 識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを"II"にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを"II"にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)
- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したときは、ブレーキカの配分機能も作動しないため、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ブレーキアシスト

ブレーキアシスト のしくみ

●ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きい制動力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

・VSA装備車は、ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり作動音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

VSAについて　→248ページ

・E-プリテンショナー装備車は、ブレーキアシストの作動と同時に運転席と助手席のシートベルトが引き込まれます。

E-プリテンショナー　→242ページ

取り扱いについて

知 識

●VSA装備車は、VSA警告灯が点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しません。なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。



ビークルスタビリティアシスト(VSA)（車両挙動安定化制御システム）

タイプ別注文装備

VSAのしくみ

●VSAとは

ABS機能、TCS機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

ABS(アンチロックブレーキシステム)機能

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする機能です。

TCS(トラクションコントロールシステム)機能

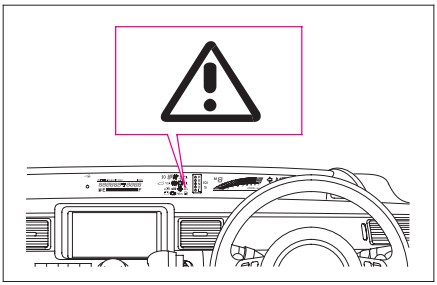
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力・操舵能力を確保しようとする機能です。

横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

●作動について

TCS機能と横滑り抑制機能は、エンジンを始動すれば自動的に“ON”になります。TCS機能または横滑り抑制機能が作動中は、メーター内のVSA作動表示灯が点滅します。

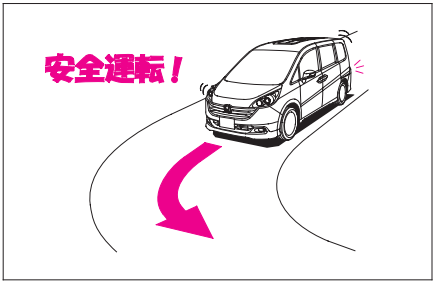


VSA作動表示灯は、エンジンスイッチを“II”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

運転のしかた

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

・カーブの手前では十分に速度を落としてください。
・雪道、凍結路を走るときは、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、ひかえめな速度で運転してください。



アドバイス

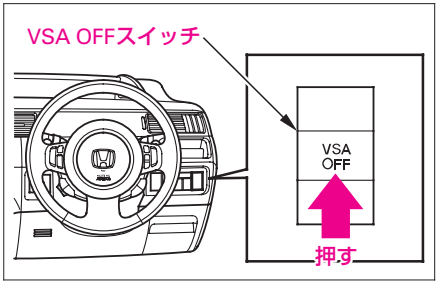
●表示灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中にVSA警告灯と同時に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき
なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知 識

●発進時等にエンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。
●VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

TCS機能と横滑り抑制機能を作動させたくないとき

“VSA OFF”スイッチを押すとTCS機能と横滑り抑制機能が“OFF”になりメーター内のVSA作動表示灯が点灯します。



スイッチを押すごとに“OFF”と“ON”をくり返します。

知 識

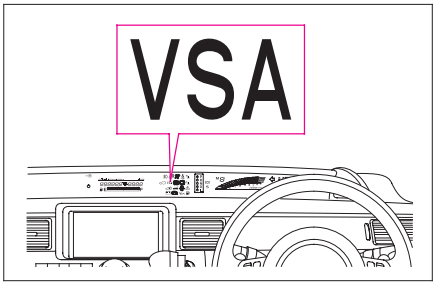
- TCS機能または横滑り抑制機能が作動中には、スイッチを押しても“OFF”にすることはできません。

アドバイス

- VSA装備車は四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを指定空気圧にてお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用したり、指定空気圧でない場合、VSAが正常に機能しなくなることがあります。また、応急用スペアタイヤを装着した場合も、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●ビークルスタビリティアシスト（VSA）警告灯

メーター内に組み込まれており、VSAが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知 識

- けん引されたときやけん引したときは、警告灯が点灯することがあります。この場合はエンジンを再始動させて警告灯が消灯すればVSAは正常です。
- ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。
- VSA装備車は、ブレーキアシストの装置に異常があると、VSA警告灯が点灯します。

ブレーキアシスト →246ページ

追突軽減ブレーキ(CMS)

IHCC装備車

CMSのしくみ

●CMSとは

自車が前方の車両にほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、追突するときの衝撃を軽減する装置です。

CMSは、追突を自動で回避したり、自動で車を停止させるシステムではありません。

CMSの機能には限界がありますので、運転するときはシステムを過信せず、常に前方および周囲の状況に気をつけて、安全運転を心がけてください。

⚠警告

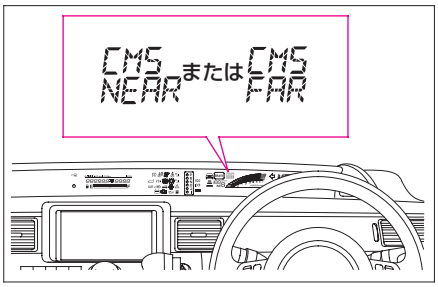
- CMS装備車であっても、正しく運転しないと追突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
  運転するときは、前方および周囲の状況に応じて、常に適切なブレーキ操作およびハンドル操作をしてください。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは、前方の車両を正しく検知することができず、CMSが作動しないことがあります。

CMSは、フロントグリルの奥に取り付けられているレーダーセンサーから発信した電波で前方にある車両を検知します。

レーダーセンサーについて　→258ページ

●作動について

エンジンスイッチを“II”にすると、CMSはONになり、追突警報の設定(CMS FARまたはCMS NEAR)がメーター内のディスプレイに約5秒間表示されます。



追突警報の設定について　→256ページ

CMSを停止するとき

CMSの作動をOFFにすることができます。

CMSの停止について　→257ページ

知識

- CMSをOFFにしていたときは、エンジンスイッチを“II”にしてもCMSはOFFのままです。このときはメーター内のディスプレイに“CMS OFF”が表示され、CMS警告灯も点灯します。
  再度CMSをONにするときは、“OFF”スイッチを約1秒以上押します。
- エンジン始動時、またはエンジンスイッチを“II”にするときは、車を静止した状態で行ってください。
  また、駐車場のターンテーブルなどで車の向きを変える場合は、エンジンスイッチを“0”にしてください。
  車両が動いているときにエンジンスイッチを“II”にすると、ヨーレートセンサーが正しく作動しなくなり、走行中に前方の車両を正しく検知できないことがあります。

約15km/h以上の速度で走行しているときに、自車の前方に追突する危険がある車両を検知すると作動し、追突警報（警告ブザーと警告表示）と弱いブレーキで運転者に注意をうながします。続いて追突するときの衝撃を軽減するためのブレーキが作動します。

追突警報について　→256ページ

約15km/h以上の速度で、ほぼ真後ろから追突する危険があるとき



知 識

- 前方の車両と自車との速度差が、約15km/h以下の場合は、CMSによるブレーキは作動しません。
- 運転者が追突を回避するために、ブレーキ操作やハンドル操作を行うと、運転者の操作を優先してCMSは作動しないことがあります。
- CMSによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

CMSによるブレーキが作動するときは、E-プリテンショナーも作動して、運転席のシートベルトを巻き取り、拘束効果を高めます。

E-プリテンショナー　→242ページ

知 識

- CMSによる弱いブレーキが作動するときは、運転者に前方の車両への注意をうながすため、E-プリテンショナーも作動してシートベルトを2～3回軽く引き込みます。
  ただし、状況によっては、シートベルトの軽い引き込みをしない場合があります。



●作動しないとき

前方にある車両の検知には限界があるため、次のような場合には、CMSは作動しません。

・前方にある車両との車間距離がいちじるしく短いとき
・交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき

知 識

●次のような場合には、前方にある車両を正しく検知することができず、CMSが作動しない場合があります。
  ・自車の前方に車両が割り込み、急な減速を行ったとき
  ・急加速を行って前方の車両に接近しているとき
  ・悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)
  ・フロントグリルのエンブレムが汚れているとき
    エンブレムが汚れたとき
    →258ページ
●前方の車両との部分的な衝突や接触のおそれがあっても、CMSが作動しない場合があります。
●道路状況(カーブなど)、自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)および前方の車両の状況(車の向き)によっては、前方の車両を正しく検知できず、CMSが作動しない場合があります。

知 識

●自転車や2輪車に対しては、CMSが作動しない場合があります。
●歩行者や動物に対しては、CMSは作動しません。

●追突以外での作動について

次のような場合には、CMSが作動することがあります。車間距離を確保し、適切な速度で走行してください。

・追い越しや交差点などで、前方の車両や対向車に接近して走行するとき
・低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき

知 識

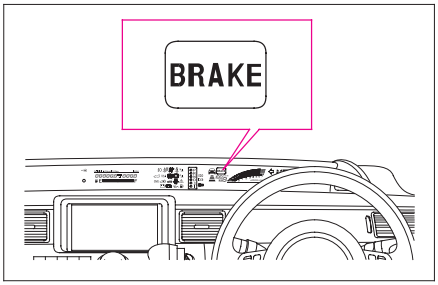
●道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物(電柱や標識など)を検知して、CMSが作動する場合があります。
●道路の段差や落下物に対して、CMSが作動する場合があります。

追突警報について

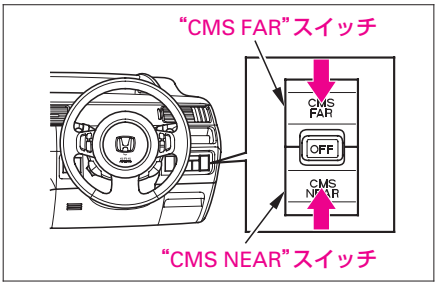
前方の車両に追突するおそれがある場合に、警告ブザーと警告表示で前方への注意を運転者にうながします。
この場合は、ブレーキペダルを踏むなど、適切な操作を行ってください。

警告ブザー
ブザー(ピッピッピッ…)が鳴ります。

警告表示
メーター内のディスプレイに“BRAKE”がオレンジ色で点滅します。



追突警報の設定について
追突するおそれがある車両に対して、追突警報が作動する距離を2段階(NEARまたはFAR)に調節することができます。“CMS FAR”スイッチを押すと距離が遠くなり、“CMS NEAR”スイッチを押すと距離が近くなります。

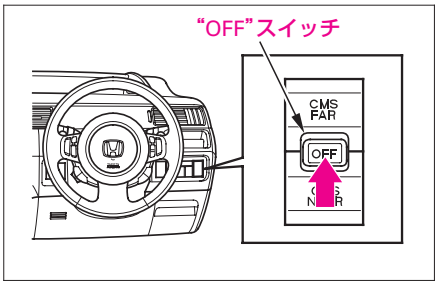


スイッチを押すと、メーター内のディスプレイに設定(CMS FARまたはCMS NEAR)が表示されます。

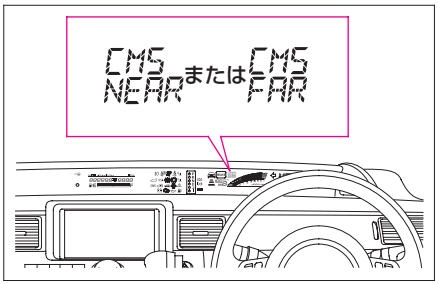
知 識
- 設定をCMS NEARにすると追突警報の開始が遅くなり、CMS FARにすると追突警報の開始が早くなります。道路状況に合わせてお使いください。
  なお、ブレーキの作動開始は変わりません。

CMSの停止について

CMSを使用しないときは、“OFF”スイッチを約1秒以上押します。CMSをOFFにするとCMS警告灯が点灯し、メーター内のディスプレイに“CMS OFF”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。



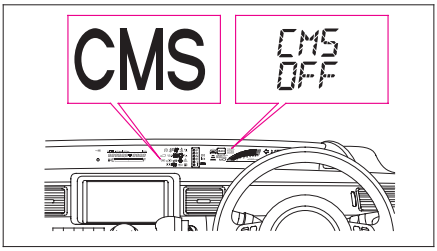
CMSを使用するときは、再度“OFF”スイッチを約1秒以上押します。CMSをONにするとCMS警告灯が消灯し、メーター内のディスプレイに“CMS FAR”または“CMS NEAR”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。



CMSの自動停止について

次の場合には、CMSが自動で停止され、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、メーター内のディスプレイに“CMS OFF”が表示されます。

- タイヤの異常を検出したとき
- 山岳路や悪路などを長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけたまま走行したとき



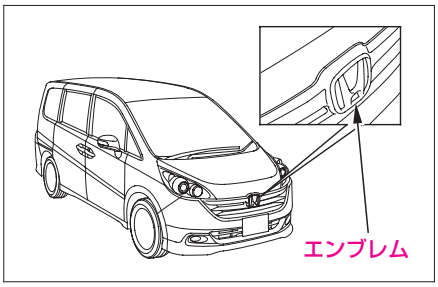
CMSが作動できる状態になると、CMSは自動で復帰します。

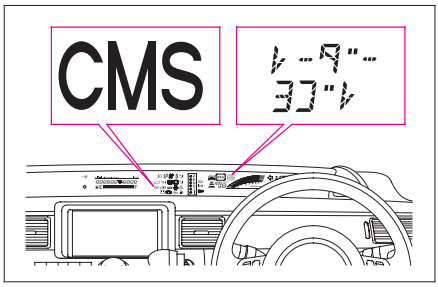
知 識

- 次のような場合にも、CMSは自動で停止され、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、メーター内のディスプレイに“CMS OFF”、“レーダーヨゴレ”が表示されます。
  - 悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)
  - フロントグリルのエンブレムに汚れが付いたとき
    エンブレムが汚れたとき
    →258ページ

取り扱いについて

CMSのレーダーセンサーは、フロントグリルのエンブレムの奥に取り付けられています。
エンブレムが汚れて、前方の車両を検知できなくなると、CMSが自動で停止し、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、メーター内のディスプレイに“CMS OFF”、“レーダーヨゴレ”が約 6 秒間表示されます。
この場合は、エンブレムの汚れをやわらかい布などできれいに拭き取ってください。



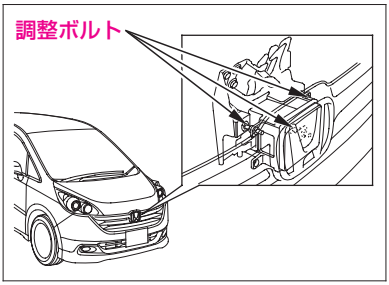


知 識

- 交通量が少なく、レーダーセンサーから発信した電波を反射する物が少ない道路を走行すると、メーター内のディスプレイに“レーダーヨゴレ”が一時的に表示されることがあります。

知 識

●システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- エンブレムは常にきれいな状態にしてください。
- エンブレムの汚れがひどいときは、水や中性洗剤などで汚れを拭き取ってください。エンブレムを損傷する原因となりますので、ベンジン、シンナー類およびクレンザーなどの磨き粉類は使わないでください。
- エンブレムにステッカーなどを貼ったり、エンブレムを交換しないでください。レーダーの電波がさえぎられます。
- レーダーセンサー本体の横にある調整ボルトは回さないでください。
- レーダーセンサー本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。
  万一、衝撃が加わった場合は、“OFF”スイッチを約1秒以上押してCMSをOFFにし、Honda販売店にご相談ください。
- フロントグリル周辺の修理を行う際は、Honda販売店にご相談ください。

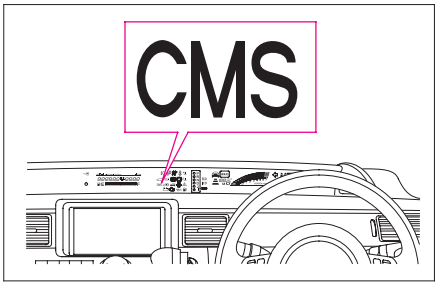


●CMSのレーダーセンサーはIHCCのレーダーセンサーと共用しています。
●次のようなときは、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- トランクやリヤシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき

●サスペンションの改造はしないでください。車の傾きなどでシステムが正常に作動しないおそれがあります。
●四輪とも同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯

メーター内に組み込まれており、CMSが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
- 運転中に点灯したとき
- エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

警告灯が点灯しているときは、CMSは作動しません。

知 識

●次の場合にもCMS警告灯が点灯します。
- CMSをOFFにしているとき
- CMSが自動で停止したとき
- 悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)
- フロントグリルのエンブレムに汚れが付いたとき

エンブレムが汚れたとき
→258ページ

●VSA警告灯が点灯するとCMS警告灯も同時に点灯します。



四輪駆動機構(4WD)

タイプ別装備

運転するときは

四輪駆動車(4WD車)は積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において二輪駆動車(2WD車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

4WD車は、オフロードやラリー走行を目的とした車ではありません。必ず、次のことをお守りください。

- 砂地、ぬかるみ等、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないので、滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。

知 識

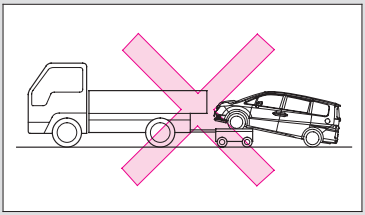
- 4WDの状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上昇すると、システム保護のため4WDから2WDに切り換わることがあります。
  しばらくして油温が下がると、4WDに復帰します。

取り扱いについて

アドバイス

- 四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- けん引される場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。

けん引 →346ページ



その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置
セレクトレバーの誤操作防止を助けます。
（→29ページ）

●ハイマウントストップランプ
ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト
上半身も拘束する三点式シートベルトをセカンドシート（外側 2 座席）・サードシート（外側 2 座席）にも採用しています。
（→134ページ）

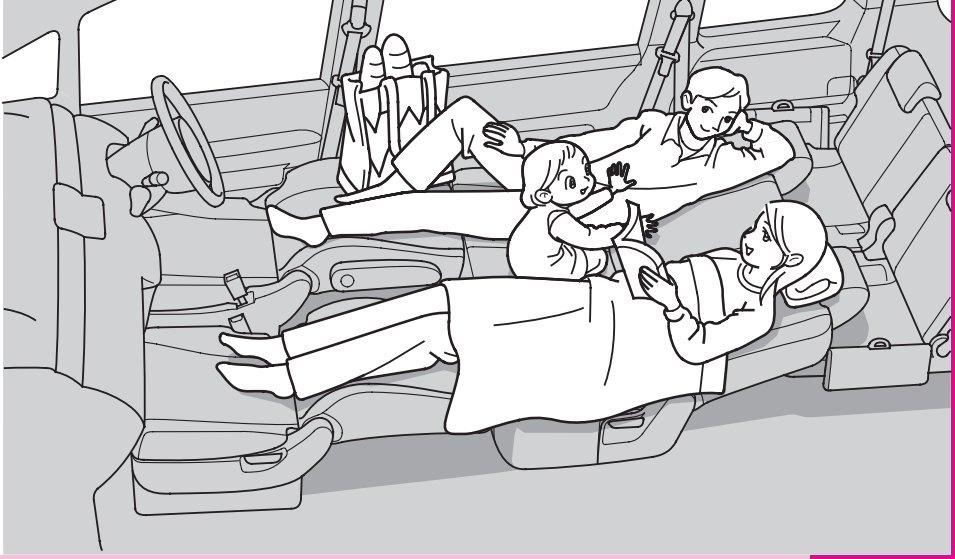
●シートベルトリマインダー（非着用警報装置）
シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。
（→129ページ）

●ドアビーム
側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ
車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装
フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

●リヤワイパー
雨天時の後方視界の確保に効果があります。
（→181ページ）



ドライブを快適にする装備

●エアコン

吹き出し風の調節 ……267
エアコンインデックス ……268
オートエアコン ……270
後席用クーラー ……278
後席用クーラー／ヒーター …280
エアクリーンフィルター ……283

●オーディオ

上手な使いかた ……286
アンテナ ……288
オーディオインデックス ……289
FM/AMラジオ一体式
　CD/MDステレオ ……290
オーディオリモートコントロール
　スイッチ ……312

●リヤカメラシステム

リヤカメラシステム
　について ……314
画面に表示される映像の
　範囲 ……315
ガイド線の消しかた ……316

●室内照明

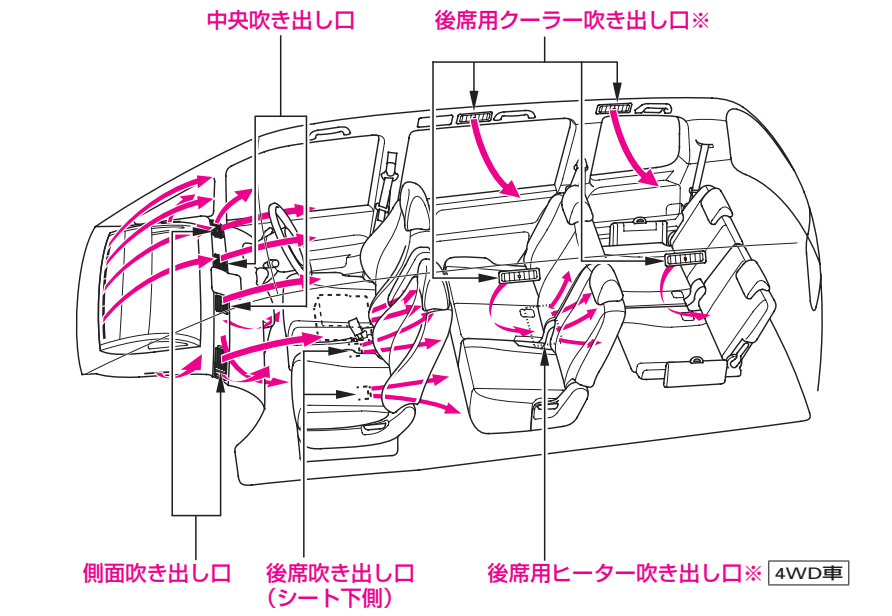
室内灯 ……319
マップランプ ……325
後席室内灯（サードシート）…326
後席室内灯 ……327
カーゴルーム照明灯 ……328
スライドドア開閉灯 ……328
エンジンスイッチ照明灯 ……329

●室内装備品

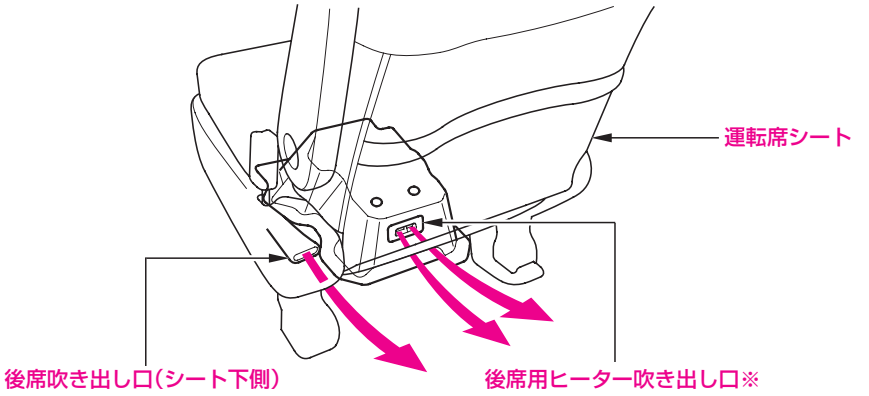
サンバイザー ……330
チケットホルダー ……330
グラブレール ……330
サングラスボックス ……331
小物入れ ……332
カップホルダー ……334
ボトルホルダー ……336
アクセサリーソケット ……337
AV入力端子 ……337
携帯電話接続端子 ……338
停止表示板固定ベルト ……338

4

エアコン



4WD車

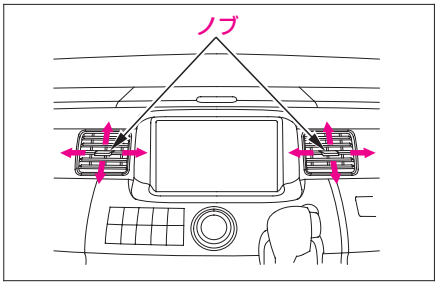


※：後席クーラー、ヒーター作動時のみ風が吹き出します。

吹き出し風の調節

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。

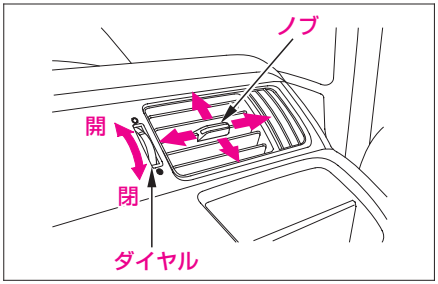
中央吹き出し口



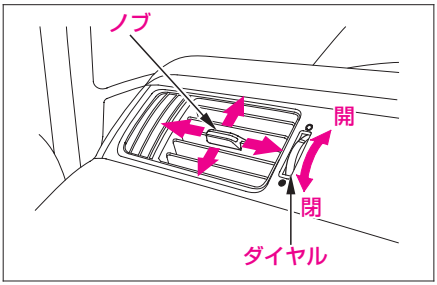
側面吹き出し口

ダイヤルで開閉できます。
送風が必要なときは、ダイヤルを“開”のほうに回します。

・運転席側



・助手席側

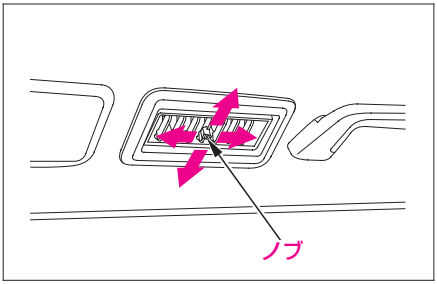


◎ ・・・・・・・・・・吹き出し口が開きます。
○ ・・・・・・・・・・吹き出し口が閉じます。

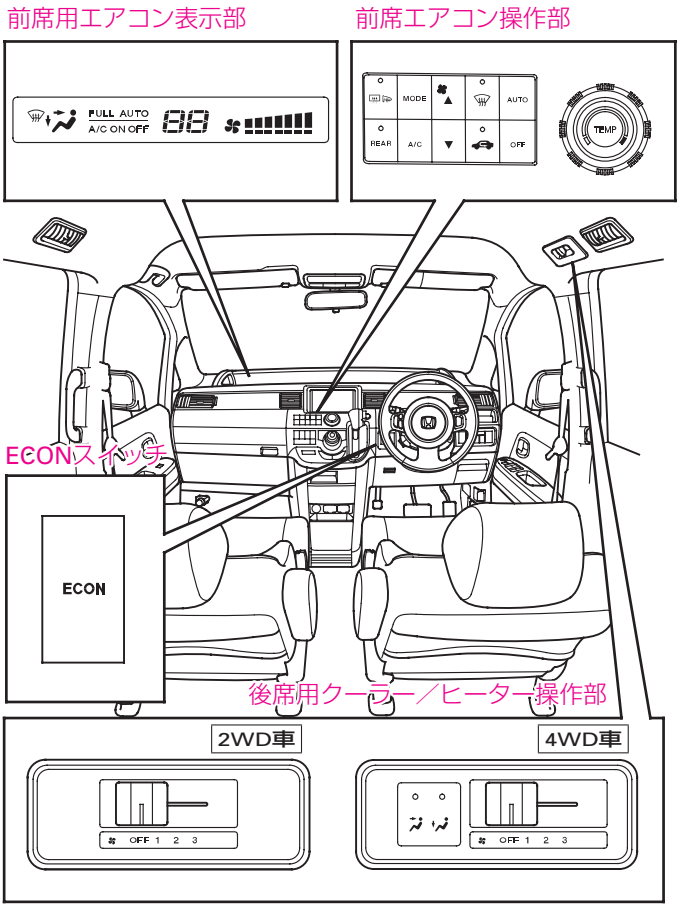
知 識

- 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

後席用クーラー吹き出し口



エアコンインデックス

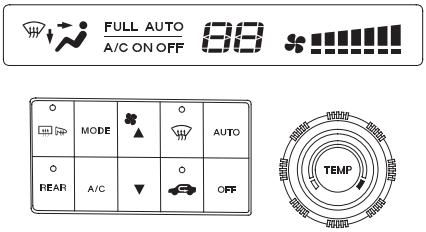


知 識

- ECONモードを“ON”にすると、エアコンが“ON”のとき、燃費を向上させるための制御を行います。

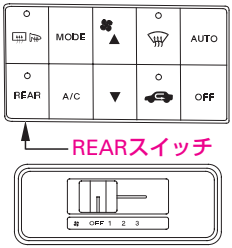
ECONスイッチ →184、185ページ

オートエアコン



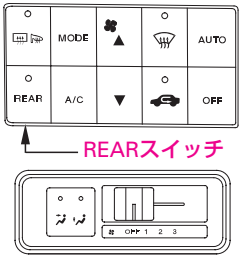
- オートエアコンを使うとき ……270
- マニュアルで使うとき ……272
- 前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）……274
- 音声でエアコンを調節するとき ……275
- エアコンを常用しないとき ……277
- 温度感知装置 ……277

後席用クーラー　2WD車



- 使いかた ……279

後席用クーラー／ヒーター　4WD車



- 使いかた ……281

オートエアコン

●オートエアコンを使うとき

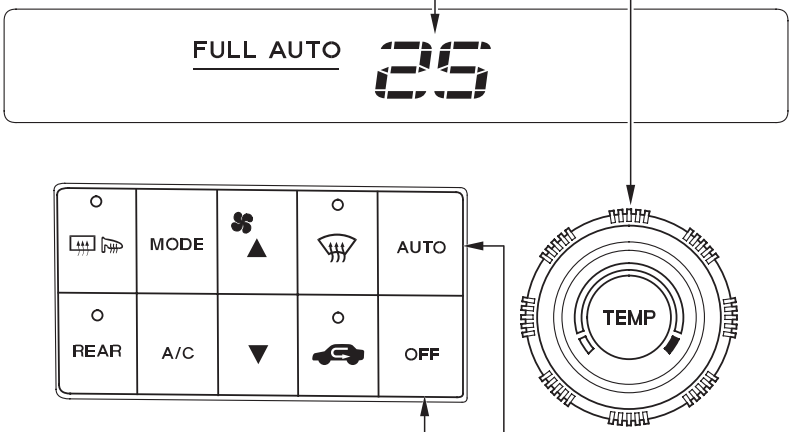
エンジンをかけた状態で使います。

温度表示

設定温度を表示します。
表示温度は室温設定時の目安となります。

温度調節ダイヤル

ダイヤルを回して温度を調節します。



OFFスイッチ

スイッチを押すとエアコン、ファンの作動が停止します。

AUTOスイッチ

スイッチを押すと、オートエアコンが作動します。（表示灯“FULL AUTO”が点灯）
風量、吹き出し口の切り換え、エアコンの“ON/OFF”などが自動制御されます。

通常の使いかた

①AUTOスイッチを押します。
②温度調節ダイヤルで室内の温度を設定します。

停止するときは“OFF”スイッチを押します。

知 識

- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節ダイヤルをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。

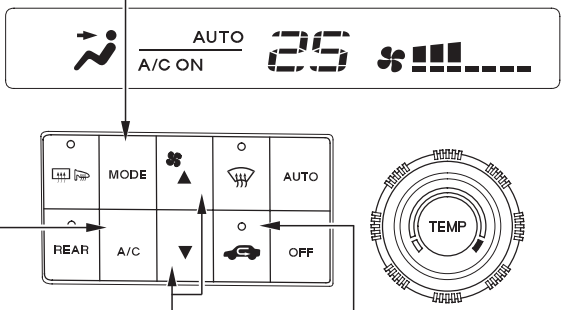
●マニュアルで使うとき

エアコンスイッチ

スイッチを押すたびにエアコンの“ON”“OFF”が切り換わります。
表示部に“A/C ON”“A/C OFF”が表示されます。
冷房や除湿暖房するときは“ON”にします。

MODEスイッチ

スイッチを押すたびに吹き出し口が切り換わり（右ページ参照）、それぞれの表示灯が点灯します。



ファンスピード切り換えスイッチ

スイッチを押してファンスピードを切り換えます。

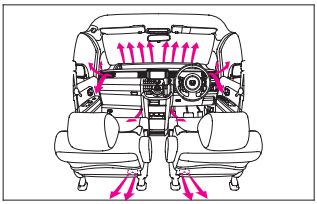
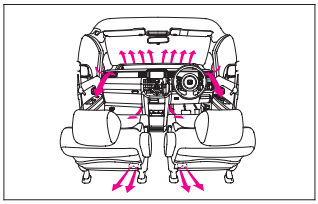
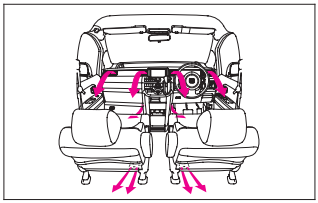
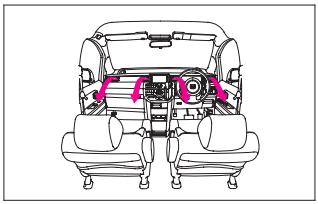
位置	
風量	弱 ◄――► 強

内外気切り換えスイッチ

スイッチを押して外気導入（表示灯消灯）と内気循環（表示灯点灯）を切り換えます。
トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内気循環にします。

各スイッチを組み合わせて使うことができます。
“FULL AUTO”（自動）で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の表示は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”（自動）に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

MODEスイッチ

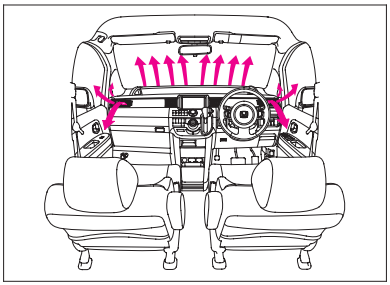
足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき		
足元に送風したいとき		
上半身、足元に送風したいとき		
上半身に送風したいとき		

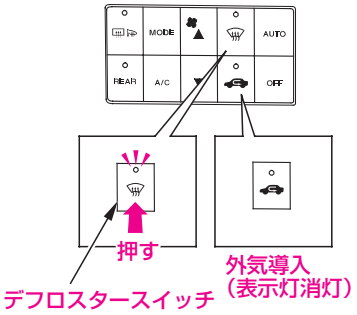
●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

デフロスタースイッチを押します。

デフロスタースイッチ

ガラスの曇り取りなどに使用します。スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

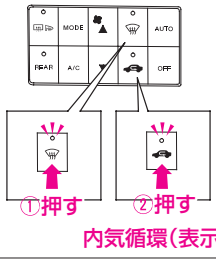




知　識

●デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界の妨げになります。

急速に霜を取りたいとき



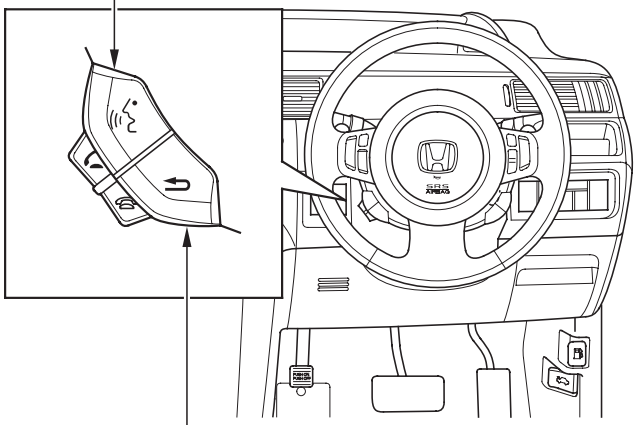
知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●音声でエアコンを調節するとき

Hondaインターナビシステム装備車

発話スイッチ
スイッチを押すと、音声でエアコンを操作できます。



取り消しスイッチ
操作を取り消したいときに押します。

使いかた

①発話スイッチを押します。
②“ピッ”と音が鳴ってから、目的の操作を言います。
例)エアコンを作動させるとき…「エアコンオン」と言います。

ナビゲーションシステムが音声を認識すると、「エアコンをオンします…」と言ってエアコンを作動します。
音声を認識できずに操作ができなかったときは、もう一度発話スイッチを押して操作します。

音声を誤認識して別の操作をしてしまったとき

取り消しスイッチを押してから、もう一度発話スイッチを押して、目的の操作を言い直します。

音声操作の一例

発した言葉	応答
えあこんおん(エアコンオン)	エアコンをオンします
えあこんおふ(エアコンオフ)	エアコンをオフします
あつい	設定温度を1度下げます
さむい	設定温度を1度上げます
ないき(内気)	“内気循環”にします
がいき(外気)	“外気導入”にします
にじゅうごど	設定温度を“25”度にします (操作を受け付ける温度は18°C～32°Cの間です。)

音声操作の詳細については、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書 音声操作編をご覧ください。

●エアコンを常用しないとき

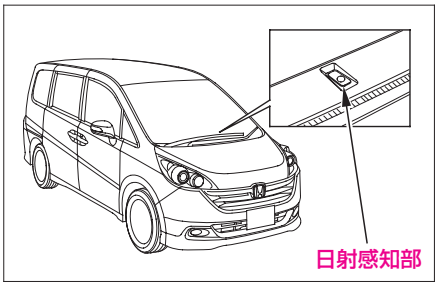
装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

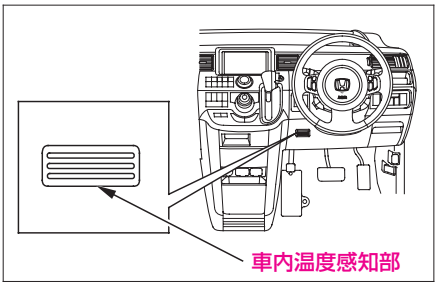
知　識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。





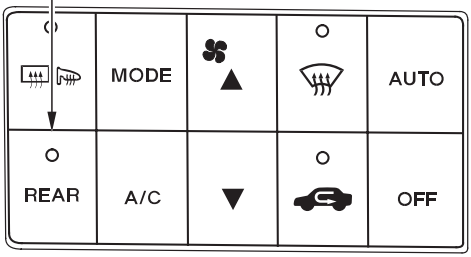
後席用クーラー

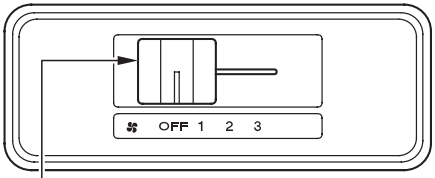
2WD車

エンジンをかけた状態で使います。

REARスイッチ

スイッチを押すと、後席用クーラーが使えます。（表示灯点灯）





ファンスピード切り換えレバー

レバーの位置	OFF	1	2	3
風量	停止	弱	中	強

●使いかた

前席用のエアコンがONのとき、後席用はクーラーとして作動します。

①REARスイッチを押します。（表示灯点灯）
②ファンスピード切り換えレバーで風量を調節します。

停止するときはファンスピード切り換えレバーをOFFにするか、REARスイッチをもう一度押します。

知 識

- 前席用エアコンがOFFのときは、後席用は送風のみとなります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

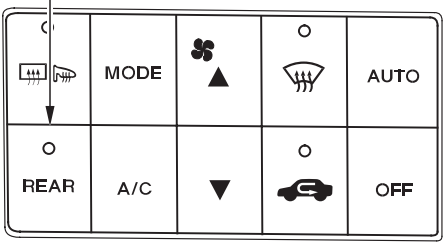
後席用クーラー／ヒーター

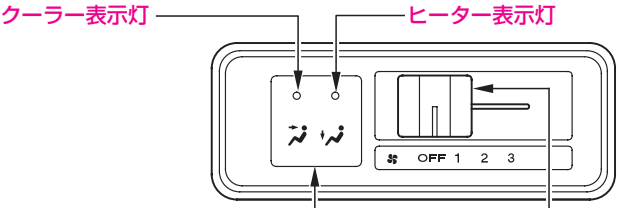
4WD車

エンジンをかけた状態で使います。

REARスイッチ

スイッチを押すと、後席用クーラー／ヒーターが使えます。（表示灯点灯）





クーラー、ヒーター切り換えスイッチ

スイッチを押すごとにクーラー、ヒーターが切り換わります。（表示灯点灯）
（右ページ参照）

ファンスピード切り換えレバー

レバーの位置	OFF	1	2	3
風量	停止	弱	中	強

●使いかた

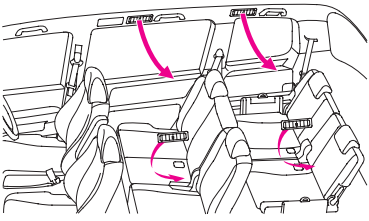
①REARスイッチを押します。（表示灯点灯）
②ファンスピード切り換えレバーで風量を調節します。

停止するときはファンスピード切り換えレバーをOFFにするか、REARスイッチをもう一度押します。（表示灯消灯）

クーラーにするとき

前席用のエアコンがONのとき、後席用はクーラーとして作動します。

切り換えスイッチを押し、クーラー表示灯を点灯させます。
後席用クーラー吹き出し口から冷風が吹き出します。



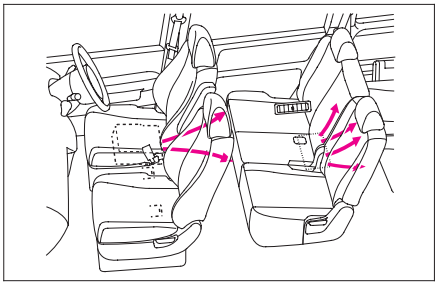
知 識

- 前席用エアコンがOFFのときは、後席用は送風のみとなります。
- クーラー、ヒーターの同時作動はできません。
  どちらか一方のモードになります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

ヒーターにするとき

切り換えスイッチを押し、ヒーター表示灯を点灯させます。

後席用ヒーター吹き出し口から温風が吹き出し、セカンドシート、サードシートの各足元を暖めることができます。



知 識

- 前席用エアコンが“ON”でも、温風が送風されます。
- クーラー、ヒーターの同時作動はできません。
  どちらか一方のモードになります。

エアクリーンフィルター

エアコンには、空気中の花粉・ちり・ほこり・粉じん等を集じんし、ディーゼル排ガス臭・タバコ臭などに脱臭効果のあるエアクリーンフィルターが取り付けられています。
エアクリーンフィルターの交換は、通常１年または15,000kmごとに行ってください。
ただし、使用条件により異なりますので粉じんの多い場所などでは、早めの交換をおすすめします。
また、芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなったり、脱臭寿命が短くなることがあります。

・エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときなどは、フィルターの目詰まりが考えられます。

交換のしかた　→284ページ

知 識

●グローブボックスの内側に交換時期が記載してあります。

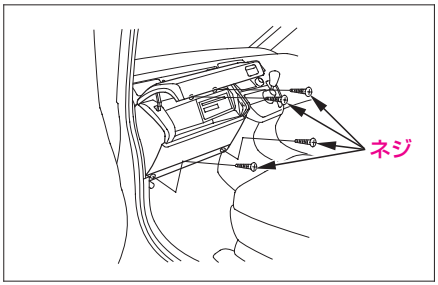
・交換のしかた

①グローブボックスを開けます。

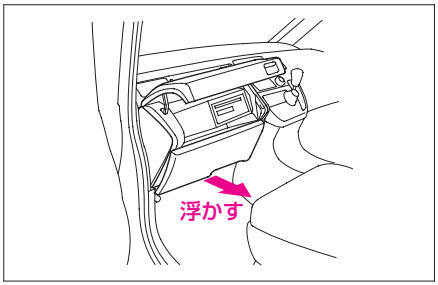
グローブボックス　→332ページ

②ドライバーでネジを 4 ヶ所外します。

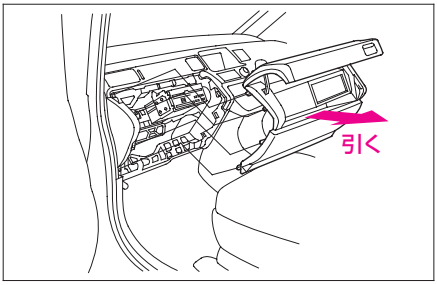
格納場所　→340ページ



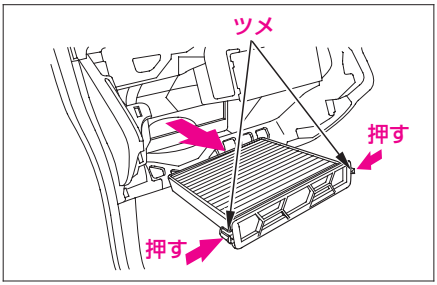
③グローブボックスの下側を引いて、グローブボックスの下側を浮かせます。



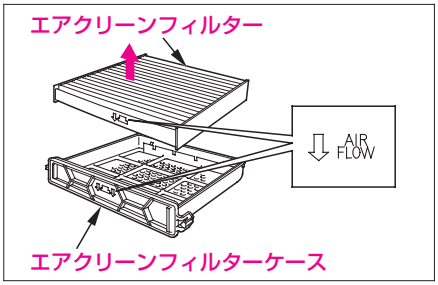
④矢印の方向に引き、グローブボックスを外します。



⑤左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースを引き出します。



⑥ケースからエアクリーンフィルターを取り出して新品と交換します。交換するときはケースとフィルターの“AIR FLOW”マークの矢印が同じ方向(下向き)になるように確実に取り付けてください。



知 識

- エアクリーンフィルターを交換するときは、取り付け方向に注意してください。フィルターの取り付け方向を間違えると、フィルターの効果を十分に発揮しません。

オーディオ

上手な使いかた

知 識

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転の妨げとなります。
  また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

●ラジオについて

ラジオの受信については、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●CD/MDについて

ディスクの変形を避けるため、直射日光や高温多湿を避けてケースに入れ保管してください。

悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。

寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

CD

ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。
下記マークのついていないディスクおよび円形以外のディスクは使えません。

・オーディオトラック

・MP3/WMAトラック（ファイル）

知 識

- ディスクは必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因となります。

MD

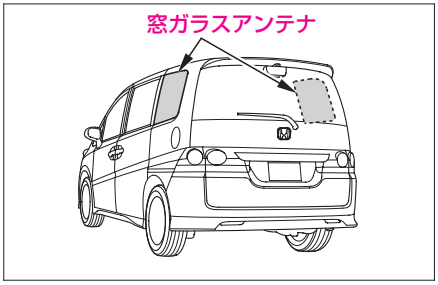
シャッターを無理にあけないでください。こわれることがあります。
また、ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。



アンテナ

●窓ガラスアンテナ

後部右側ウィンドー内側にラジオ用のアンテナ線が、後部両側ウィンドー内側にテレビ用のアンテナ線（Hondaインターナビシステム装備車）があります。



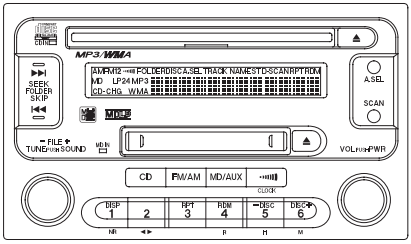
知 識

- アンテナ線は傷つきやすいので、清掃のときはアンテナ線に沿って柔らかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

オーディオインデックス

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ

タイプ別注文装備



- 電源の入れかた ……290
- 音量調節のしかた ……290
- 音質、バランス調節のしかた ……291
- モードの切り換え ……291
- ラジオの使いかた ……292
- CD/MP3/WMAプレーヤーの使いかた ……296
- MDプレーヤーの使いかた ……303
- CDチェンジャーコントローラーの使いかた※ ……307
- エラーコードについて ……310
- 時計 ……311

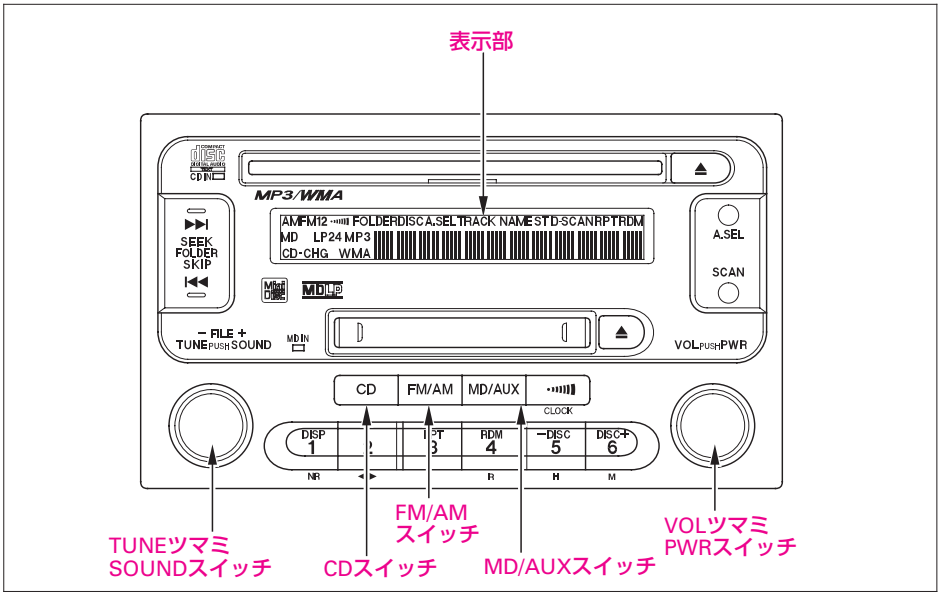
Hondaインターナビシステム装備車のオーディオ・テレビ・DVDの取り扱いについては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

※：Honda純正のオーディオを接続し、操作することができます。詳しくはHonda販売店にご相談ください。

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ

タイプ別注文装備

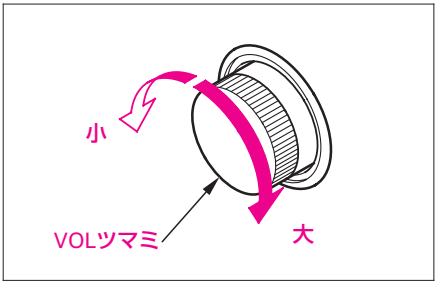
エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに使えます。



●電源の入れかた

PWRスイッチを押して、電源を入れます。押すたびに“ON”↔“OFF”になります。また、FM/AMスイッチ、CDスイッチまたはMD/AUXスイッチを押して、電源を“ON”にすることもできます。

●音量調節のしかた

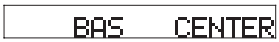


●音質、バランス調節のしかた

SOUNDスイッチを押して切り換え、TUNEツマミ（SOUNDスイッチ兼用）で調節します。



低音音質（BAS）



高音音質（TRE）



前後バランス（FAD）



左右バランス（BAL）



解除

SOUNDスイッチを押すたびに切り換わります。

知 識

- 調節後約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 調節位置が中央のときに表示部に“CENTER”（センター）を表示します。

●モードの切り換え

・FM/AMスイッチ



ラジオに切り換わります。

・CDスイッチ



ディスクが入っているときに押すと、CD/MP3/WMA演奏に切り換わります。また、オーディオトラックとMP3/WMAトラック（ファイル）の両方を記録したディスクを演奏しているときに押すとオーディオトラックとMP3/WMAトラックが切り換わります。

・MD/AUXスイッチ

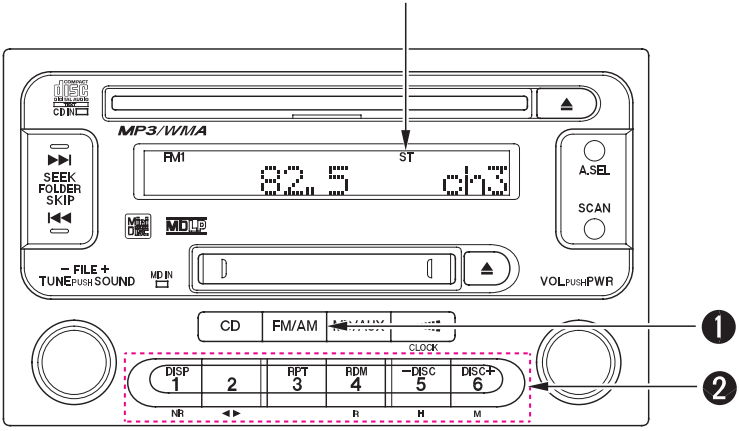


MD（ミニディスク）が入っているときに押すと、MD演奏に切り換わります。Honda純正のオーディオを接続しているときに押すと、それらの演奏に切り換わります。

●ラジオの使いかた

ラジオ放送のききかた

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、“ST”が点灯します。



❶ラジオに切り換え、バンドを選ぶ(FM/AMスイッチ)

スイッチを押して、FM1/FM2/AMを選びます。

❷選局する(ワンタッチ選局スイッチ)

あらかじめ放送局をセットしておくと、ワンタッチで選局できます。
FM12局(FM1、FM2それぞれ6局)、AM6局まで記憶できます。

ワンタッチ選局のセットのしかた

①FM/AMスイッチでFM1/FM2、AMを選びます。

②TUNEツマミ、SEEK/FOLDER/SKIPスイッチで選局します。



・TUNEツマミを回すと、受信周波数が少しずつ変わります。

・SEEK/FOLDER/SKIPスイッチを押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知 識

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

③ワンタッチ選局スイッチのいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押し続けます。

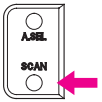
知 識

●一度電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

自動で放送局を数秒ずつ聞きたいときは(スキャン)

放送局でどんな番組を放送しているかを知りたいときに、操作します。

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。(“SCAN”が点滅)



電波の強い放送局が周波数の低い順から選局され、約10秒間つぎつぎと受信します。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

自動で放送局を記憶するには(オートセレクト)

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

A.SEL/SCANスイッチのA.SELを押します。(“A.SEL”が点滅)



自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局スイッチにFM12局、AM 6 局まで自動的に記憶され“A.SEL”が点滅から点灯に変わります。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。解除すると、ワンタッチ選局スイッチの記憶は、オートセレクトをする前の状態に戻ります。

知 識

- 放送局が12局または 6 局にみたない場合、残りのスイッチには何も記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が“ 0 ”と表示されます。
- オートセレクトされた放送局を個別に変更することもできます。

交通情報をきくとき

スイッチを押すと、ワンタッチで交通情報を受信できます。（“ ”が点灯）



周波数を切り換えるとき（1620kHz↔1629kHz）
…TUNEツマミまたはSEEK/FOLDER/SKIPスイッチで切り換えます。

解除するとき

スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

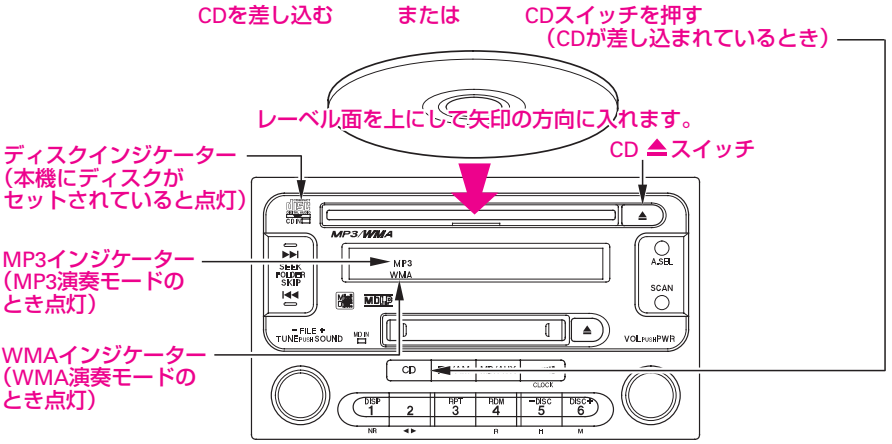
知 識

- スイッチにあらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。
- スイッチを使って交通情報を聞いているときは、ワンタッチ選局スイッチによる選局はできません。

●CD/MP3/WMAプレーヤーの使いかた

オーディオトラック、MP3/WMAトラック(ファイル)演奏のききかた

音楽CDやCD-R、CD-RWに記録したオーディオトラック、MP3/WMAトラック(ファイル)を再生できます。



知 識

- 8 cm CDを使用するときはアダプターを使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約10秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。
- MP3/WMA(ISO※9660のLevel 1、Level 2、Joliet、Romeoで録音されたディスクで、ファイル名の最後に拡張子“mp3”、“wma”が付いているもの)に対応しています。
- オーディオトラックとMP3/WMAトラック(ファイル)の両方を記録したディスクは、オーディオトラック、MP3/WMAトラックの順に再生します。また、CDスイッチを押して再生するトラックを切り換えることができます。(オーディオトラック↔MP3/WMAトラック)
- CD-RおよびCD-RWは録音に使用したレコーダーやディスクの状態によって再生できない場合があります。
- セッションの追加が可能なディスクも再生できます。

※:ISO(国際標準化機構)

CDを取り出すとき

CD ▲スイッチを押して、CDを取り出します。



エンジンスイッチを“0”にした場合でも、CD ▲ スイッチを押せばディスクを取り出すことができます。

オーディオトラック再生時

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

SEEK/FOLDER/SKIPスイッチを押します。



早送り
スキップ

早戻し
リプレイ

・押し続けると、早送り／早戻しになります。
・短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(スキャン)

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。(“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します)

各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。



ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

●全ての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき(リピート)

RPTスイッチを押します。(“RPT”が点灯)



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



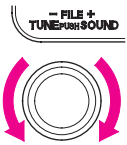
ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

演奏中の曲名、ディスクの名称を表示するとき

DISPスイッチを押します。（トラックまたはディスクの名称が約5秒間表示）

トラックまたはディスクの名称は12文字まで表示されます。





表示する項目を切り換えるとき

①DISPスイッチを“ピッ”と電子音がするまで（約2秒間）押します。

②TUNEツマミを回して表示する項目を切り換えます。（“DISC NAME”↔“TRACK NAME”）

③DISPスイッチを押します。

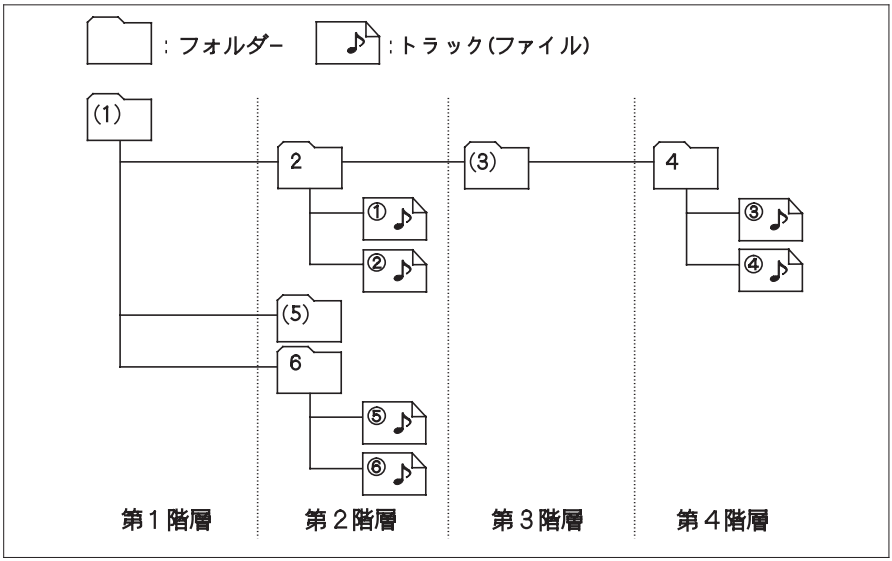
知 識

- CD-TEXTのデータが含まれるCDを再生時、トラック、ディスクの名称を表示できます。
- ディスクにトラックまたはディスクの名称がない場合は“NO TITLE”を表示します。
- 入力されている名称が13文字以上のときはDISPスイッチを押すたびに12文字ずつ表示されます。
- 表示切り換え後、約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 入力されている名称が全角文字（英、数、カタカナ）やひらがな、漢字の場合は“……”で表示されます。

MP3/WMAトラック(ファイル)再生時

MP3/WMAトラック(ファイル)の演奏順序について

フォルダーおよびMP3/WMAトラック(ファイル)の再生順序は図の通りです。



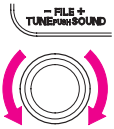
ディスク内のすべてのフォルダーにフォルダー番号を付けます。
図のようなフォルダー／トラック(ファイル)構成のディスクの場合、(1)、(3)、(5)のフォルダーはMP3/WMAトラック(ファイル)を含まないため、フォルダー番号は表示されません。

知 識

- 同一階層内のフォルダーやトラック(ファイル)はライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。
- 最大15階層、合計255トラック(ファイル)まで再生できます。
- ディスクの構成によっては読み込み時間が長くなることがあります。
- 著作権が保護されたWMAトラック(ファイル)は再生することができません。

演奏している曲を換えるとき(トラック／フォルダーの切り換え)

TUNEツマミ、SEEK/FOLDER/SKIPスイッチを操作して切り換えます。



トラック(ファイル)を選ぶ

TUNEツマミを回すとトラック(ファイル)が切り換わります。

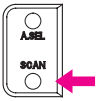


フォルダーを選ぶ

SEEK/FOLDER/SKIPスイッチの ►►| ／ |◄◄ を押すとフォルダーが切り換わります。

ききたい曲を探すとき(トラックスキャン、フォルダースキャン)

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。



・短く押すとトラックスキャンになります。(“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します)
演奏中のフォルダーの、各トラック(ファイル)の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
ききたい曲のところでもう一度短く押すとトラックスキャン演奏の機能は解除されます。

・“ピッ”という電子音がするまで押すとフォルダースキャンになります。(“D-SCAN”が点灯し、フォルダーナンバーが点滅します)
各フォルダーの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
ききたいフォルダーのところでもう一度“ピッ”という電子音がするまで押すとフォルダースキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

●全ての曲またはフォルダーをスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲またはフォルダーから通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（トラックリピート、フォルダーリピート）

RPTスイッチを押します。



- 短く押すとトラックリピートモードになります。（“RPT”が点灯）
  演奏中の曲を繰り返し演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとフォルダーリピートモードになります。（“D-RPT”が点灯）
  演奏中のフォルダー内のトラック（ファイル）を繰り返し演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。



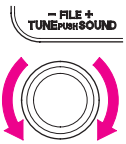
- 短く押すとフォルダーランダムモードになります。（“RDM”が点灯）
  演奏中のフォルダー内のトラック（ファイル）をランダムに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクランダムモードになります。（“D-RDM”が点灯）
  ディスク内のすべてのフォルダーをランダムに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

演奏中の曲の情報を表示するとき

DISPスイッチを押します。（フォルダーまたはトラック名称、ID3/WMA TAG（曲の情報）が約5秒間表示）



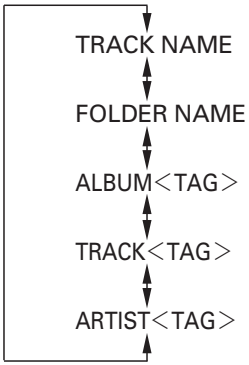
フォルダーまたはトラック（ファイル）の名称、ID3/WMA TAG（曲の情報）は12文字まで表示されます。



表示する項目を切り換えるとき

①DISPスイッチを“ピッ”という電子音がするまで（約2秒間）押します。

②TUNEツマミを回して表示する項目を切り換えます。



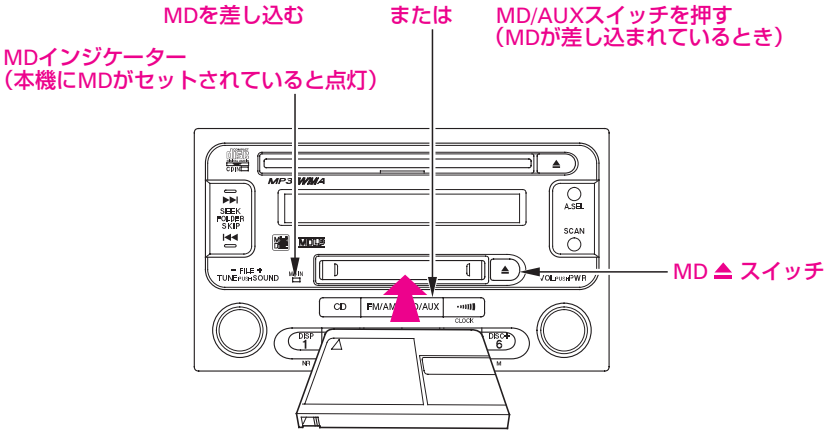
③DISPスイッチを押します。

知 識

- ディスクにフォルダーまたはトラック名称が入力されていない場合は“NO TITLE”を表示します。
- ディスクにID3/WMA TAG（曲の情報）が入力されていない場合は“NO TITLE”を表示します。
- 入力されている名称が13文字以上のときはDISPスイッチを押すたびに12文字ずつ表示されます。
- 表示切り換え後、約5秒すぎると自動的に解除されます。
- ファイル名、フォルダー名は最大32文字（Jolietは16文字）まで表示されます。
- ID3 TAG（曲の情報）のVer 1.x、2.xに対応しており、最大32文字まで表示できます。
- WMA TAG（曲の情報）は、最大32文字まで表示できます。
- 入力されている名称が全角文字（英、数、カタカナ）やひらがな、漢字の場合は“……”で表示されます。

●MDプレーヤーの使いかた

MD演奏のききかた



MDはレーベル面を上にして矢印の方向に入れます。

知 識

- MDLP（長時間ステレオ録音）モードに対応しています。
- グループ機能には対応していません。グループ編集されたMDをグループ別に演奏することはできません。

MDを取り出すとき

MD ▲ スイッチを押して、MDを取り出します。



エンジンスイッチを“0”にした場合でも、MD ▲ スイッチを押せばディスクを取り出すことができます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

SEEK/FOLDER/SKIPスイッチを押します。



・押し続けると、早送り／早戻しになります。
・短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(スキャン)

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。(“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します)
各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。



ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

●全ての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

1枚のディスクの曲順をランダムに演奏するとき

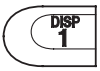
RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



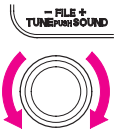
ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

演奏中の曲名、ディスクの名称を表示するとき

DISPスイッチを押します。（トラックまたはディスクの名称が約 5 秒間表示）



トラックまたはディスクの名称は12文字まで表示されます。



表示する項目を切り換えるとき

①DISPスイッチを“ピッ”と電子音がするまで（約 2 秒間）押します。
②TUNEツマミを回して表示する項目を切り換えます。
（“DISC NAME”↔“TRACK NAME”）
③DISPスイッチを押します。

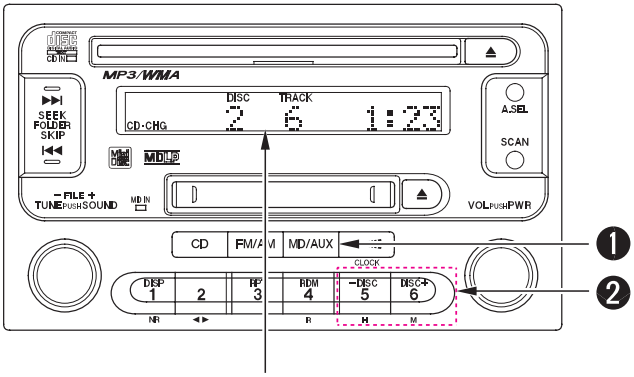
知 識

- ディスクにトラックまたはディスクの名称が入力されていない場合は“NO TITLE”を表示します。
- グループ編集されたMDを再生してもグループタイトルの表示はしません。
- 入力されている名称が13文字以上のときはDISPスイッチを押すたびに12文字ずつ表示されます。
- MDLPで録音されたトラックは、トラック名称の先頭に“LP2”または“LP4”が表示されます。
  また、トラックタイトルが記録されていない場合は“LP2”または“LP4”のみ表示されます。
  （記録状態によっては“LP2”または“LP4”を表示しない場合があります。）
- 表示切り換え後、約 5 秒すぎると自動的に解除されます。

●CDチェンジャーコントローラーの使いかた

Honda純正のCDチェンジャー接続時

ディスク演奏のききかた



演奏中はディスク、トラックナンバーを表示

❶切り換える（MD/AUXスイッチ）

スイッチを押して、切り換えます。スイッチを押すたびに接続されているCDチェンジャー、本機のMDプレーヤーに切り換わります。

MD　（本体MDプレーヤー）
↓
CD-CHG　（CDチェンジャー）

❷ディスクを選ぶ（DISC−/DISC＋スイッチ）

DISC−スイッチまたはDISC＋スイッチを押すごとに、ディスクが切り換わります。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

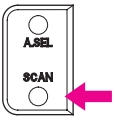
SEEK/FOLDER/SKIPスイッチを押します。



- 押し続けると、早送り／早戻しになります。
- 短く押すと、スキップ（先の曲の頭出し）／リプレイ（演奏中や前の曲の頭出し）になります。

ききたい曲を探すとき（トラックスキャン、ディスクスキャン）

A.SEL/SCANスイッチのSCANを押します。



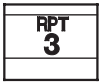
- 短く押すとトラックスキャンになります。（“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します）
  演奏中のディスクの各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  ききたい曲のところでスイッチをもう一度短く押すと、トラックスキャン演奏の機能は解除されます。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクスキャンになります。（D-SCANが点灯し、ディスクナンバーが点滅します）
  ディスクチェンジャー内の全てのディスクの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  ききたいディスクのところでスイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押すと、ディスクスキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

- 全ての曲またはディスクをスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲またはディスクから通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。



- 短く押すとトラックリピートモードになります。（“RPT”が点灯）
  演奏中の曲を繰り返し演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクリピートモードになります。（“D-RPT”が点灯）
  演奏中のディスクを繰り返し演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

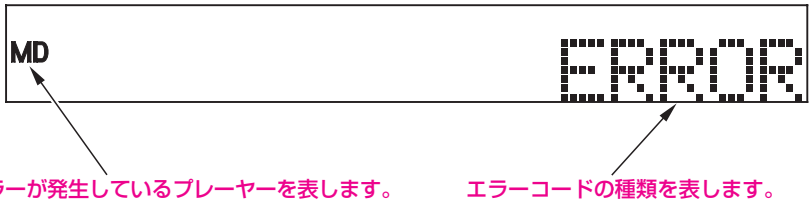
RDMスイッチを押します。



- 短く押すとトラックランダムモードになります。（“RDM”が点灯）
  演奏中のディスクをランダムに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクランダムモードになります。（“D-RDM”が点灯）
  ディスクチェンジャー内すべてのディスクでランダムに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

●エラーコードについて

表示部にエラーコードが表示されたときは、下表にしたがって点検してください。



CD　　（本体CDプレーヤー）
MD　　（本体MDプレーヤー）
CD-CHG　（CDチェンジャー）

エラーコード	原　　因
ERROR	ディスクやディスクマガジンの装着や取り外しができない等、機械的な不具合
HOT	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態
DISC	ディスクの読み込みができない(露つき、傷、汚れなど)
NO DISC	CDチェンジャー ディスクマガジンにディスクが入っていない
BLANK	MD ディスクに録音されていない

●時計

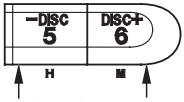
時計は、エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに表示されます。それぞれのスイッチを操作すると各動作状態を表示し、動作停止後、時計表示に戻ります。

表示の合わせかた

① (CLOCK)スイッチを時計表示が点滅するまで押します。



②「時」の調整… 5 −DISC(H)スイッチを押します。
「分」の調整… 6 DISC+(M)スイッチを押します。



5 −DISC(H)スイッチ　6 DISC+(M)スイッチ

③ (CLOCK)スイッチをもう一度押します。

時報合わせ…時計表示が点滅しているときに、時報と同時に 4 RDM(R)スイッチを押します。



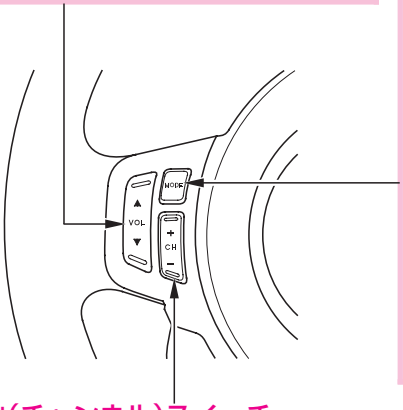
（例）　1 :01 ～ 1 :29の場合… 1 :00
1 :30 ～ 1 :59の場合… 2 :00

オーディオリモートコントロールスイッチ

Hondaインターナビシステム装備車
FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車

音量調節スイッチ

▲を押す…音量が大きくなります。
▼を押す…音量が小さくなります。



MODEスイッチ

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ装備車

FM1 → FM2 → AM → CD※1 → MD※1 → CD-CHG※2 → FM1

Hondaインターナビシステム装備車

FM1 → FM2 → AM → CD/DVD※1 → SC※3 → TV1 → TV2 → ビデオ → CD-CHG※2 → FM1

スイッチを押すたびに切り換わります。

CH(チャンネル)スイッチ

ラジオを聞いているとき
テレビを見ているとき※4
＋を押す…プリセットされている次の放送局を選局します。
－を押す…プリセットされている前の放送局を選局します。
CD、MD、SC※3を聞いているとき
＋を押す…スキップ(先の曲の頭出し)します。
－を押す…リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)します。
DVDを見ているとき※4
＋を押す…スキップ(先のチャプターの頭出し)します。
－を押す…リプレイ(再生中や前のチャプターの頭出し)します。

※1：ディスクがセットされているときに切り換わります。
※2：Honda純正のCDチェンジャーを接続しているときに切り換わります。
※3：SC(サウンドコンテナ)　※4：Hondaインターナビシステム装備車



リヤカメラシステム

Hondaインターナビシステム装備車

リヤカメラシステムについて

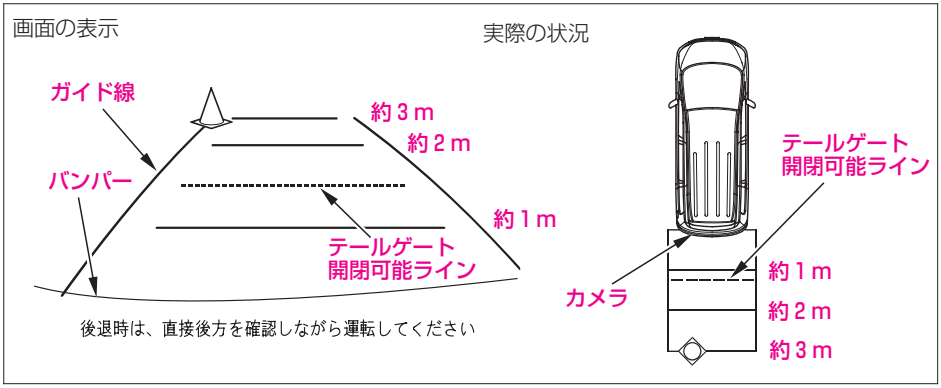
リヤカメラシステムは、エンジンスイッチが“II”のとき、セレクトレバーをRの位置に入れるとナビゲーションシステムの液晶画面に車両後方の映像を表示させるシステムです。リヤカメラシステムは、後退時に車両後方の障害物などを確認するための補助装置です。

⚠注意

- 後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。また画面を見るときは、必要最小限にしてください。
  画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

画面に表示される映像の範囲

車両後方約３ｍまで表示されます。



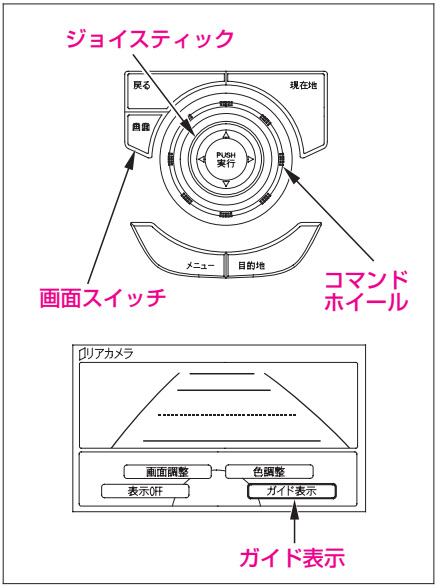
知 識

- リヤカメラシステムの映像は、ナビゲーション画面よりも優先して表示されます。
- エンジン始動直後は、セレクトレバーをRの位置に入れてもナビゲーションシステムが起動するまでリヤカメラシステムのガイド線は表示されません。
- リヤカメラシステムのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 画面に表示される映像の範囲には限度があり、バンパーの両コーナー付近やバンパーの下にある物は表示されません。
- カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像が表示されません。
  レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。（ベンジンやシンナー、クレンザーなどの磨き粉類は絶対に使わないでください。レンズが破損する原因となります。）
- 次の場合、映像が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
  - 夜間または暗い所
  - カメラのレンズに直接光が入ったとき（カメラに強い光が入ると、光源を中心に縦に白い光の線が出ます）
  - カメラの温度が高いとき
  - カメラのレンズに水滴が付いたとき

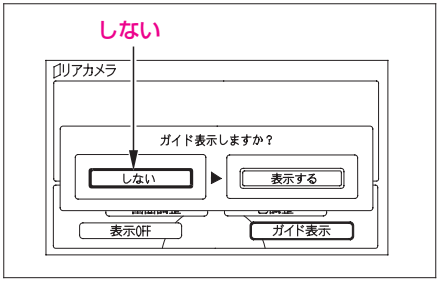
ガイド線の消しかた

画面に表示しているガイド線を消すことができます。

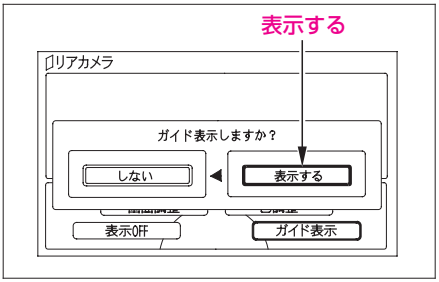
①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
②エンジンスイッチを“II”にして、セレクトレバーをRにします。
③画面スイッチを押します。
④コマンドホイールを回してガイド表示を選び、ジョイスティックを押します。



⑤ジョイスティックを左方向に倒して「しない」を選び、ジョイスティックを押します。



もう一度ガイド線を表示するときは、①～④の操作を繰り返し、ジョイスティックを右側に倒して「表示する」を選び、ジョイスティックを押します。

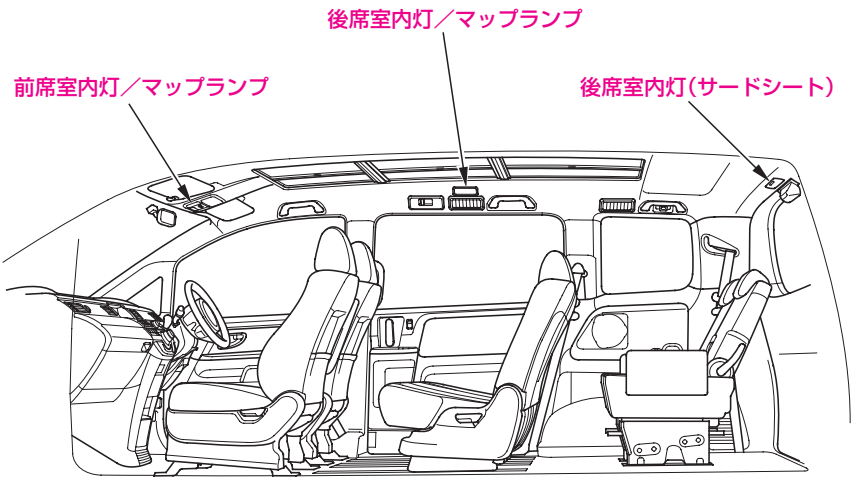


知 識

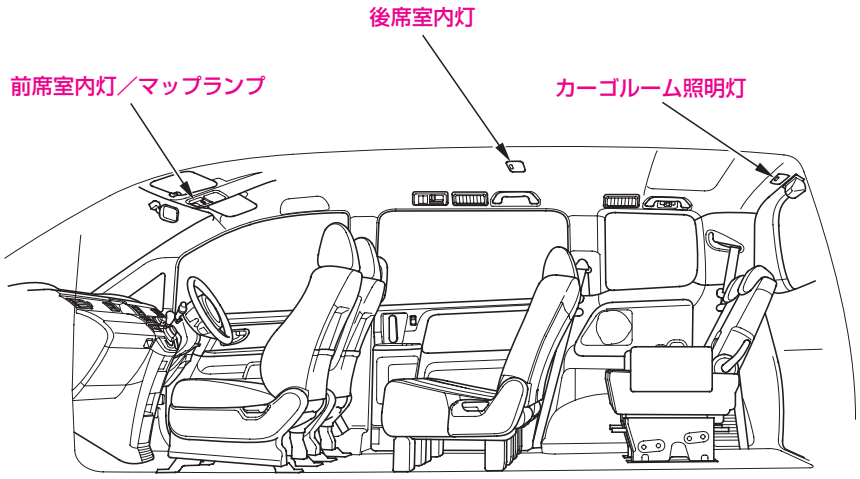
- 安全のためにエンジンを停止した状態で操作を行ってください。

室内照明

トップライトルーフ装備車



トップライトルーフ非装備車



室内灯

●室内灯スイッチ

トップライトルーフ装備車

室内灯スイッチで、前席室内灯、後席室内灯（セカンドシート）、後席室内灯（サードシート：スイッチが“中間”位置のとき）の各室内灯を次のように点灯、消灯することができます。

▼

室内灯スイッチが“ON”の位置

各室内灯はドアの開閉に関係なく点灯します。

知 識

- 後席室内灯（サードシート）は、後席室内灯（サードシート）のスイッチを“OFF”にしているときは点灯しません。

室内灯スイッチが“DOOR”の位置

各室内灯はドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

次の場合にも点灯し、その後消灯します。

・運転席ドアを解錠したとき（ウエルカムライト機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき

知 識

- 前席室内灯、後席室内灯（セカンドシート）のレンズを押して点灯しているときはマップランプはドアを閉めても消灯しません。
- 後席室内灯（サードシート）のスイッチを“ON”にして点灯しているときは、ドアを閉めても消灯しません。

室内灯スイッチが“OFF”の位置

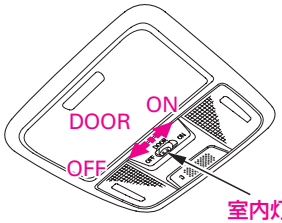
各室内灯はドアの開閉に関係なく消灯します。

知 識

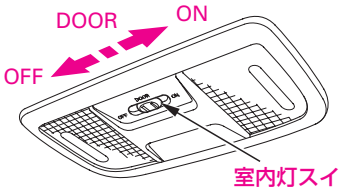
- 前席室内灯はレンズを押して点灯しているときは消灯しません。
- 後席室内灯（サードシート）はスイッチが中間の位置でテールゲートが開いているときは消灯しません。

前席室内灯

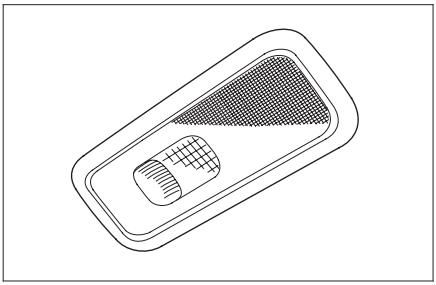
サングラスボックス装備車



サングラスボックス非装備車

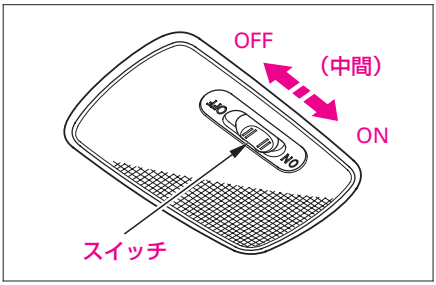


後席室内灯(セカンドシート)



後席室内灯(サードシート)

スイッチを“中間”にすると、室内灯スイッチでの操作が行えます。





知 識

- 次の操作を行ったときは、室内灯は減光しながら消灯します。
  - ・運転席ドアを施錠したとき
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしたとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。

知 識

- 室内灯スイッチが“DOOR”位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約 3 分後に減光しながら消灯します。
  但し、次のような状態のときは各室内灯は消灯しません。
  - ・前席室内灯、後席室内灯（セカンドシート）は、レンズを押してマップランプが点灯している状態のとき
  - ・後席室内灯（サードシート）は、後席室内灯（サードシート）のスイッチが“ON”のとき

●室内灯スイッチ

トップライトルーフ非装備車

室内灯スイッチで、前席室内灯、後席室内灯（スイッチが“中間”位置のとき）、カーゴルーム照明灯（スイッチが“ON”のとき）の各室内灯を次のように点灯、消灯することができます。

▼

室内灯スイッチが“ON”の位置

各室内灯、カーゴルーム照明灯はドアの開閉に関係なく点灯します。

知 識

●後席室内灯、カーゴルーム照明灯は、スイッチを“OFF”にしているときは点灯しません。

室内灯スイッチが“DOOR”の位置

各室内灯はドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

次の場合にも点灯し、その後消灯します。

・運転席ドアを解錠したとき（ウエルカムライト機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき

カーゴルーム照明灯はドアの開閉に関係なく点灯します。

知 識

●前席室内灯のレンズを押して点灯しているときは、マップランプはドアを閉めても消灯しません。

室内灯スイッチが“OFF”の位置

各室内灯、カーゴルーム照明灯はドアの開閉に関係なく消灯します。

知 識

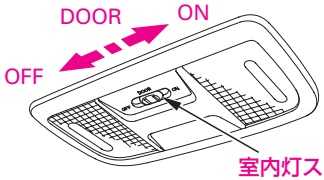
●前席室内灯はレンズを押して点灯しているときは消灯しません。

前席室内灯

サングラスボックス装備車

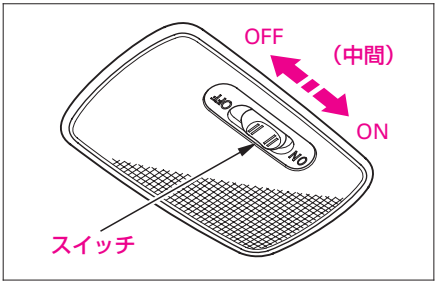


サングラスボックス非装備車



後席室内灯

スイッチを“中間”にすると、室内灯スイッチでの操作が行えます。



知 識

- 次の操作を行ったときは、室内灯は減光しながら消灯します。
  - ・運転席ドアを施錠したとき
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしたとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。

知 識

- 室内灯スイッチが“DOOR”位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約 3 分後に減光しながら消灯します。
  但し、次のような状態のときは各室内灯は消灯しません。
  - ・前席室内灯は、レンズを押してマップランプが点灯している状態のとき
  - ・後席室内灯は、後席室内灯のスイッチが“ON”のとき

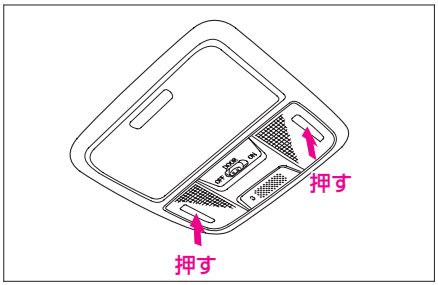
マップランプ

夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

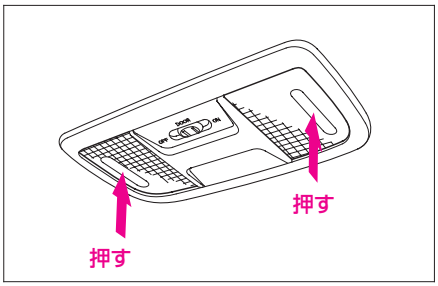
●前席用

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

サングラスボックス装備車

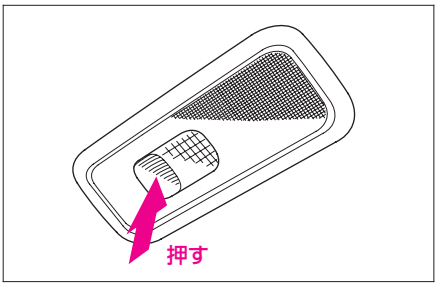


サングラスボックス非装備車



●後席用　トップライトルーフ装備車

室内灯スイッチが“DOOR”の位置のときにレンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



知　識

●次のときは、点灯中にレンズを押しても消灯しません。
- 室内灯スイッチが“ON”のとき
- 室内灯スイッチが“DOOR”のときで、ドアが開いているとき

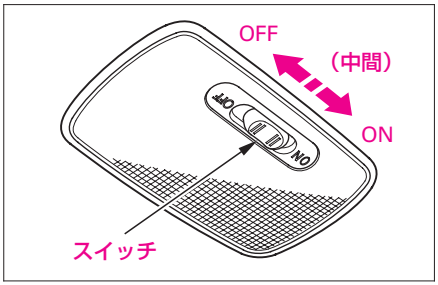
後席室内灯（サードシート）

トップライトルーフ装備車

室内灯スイッチが“OFF”以外のときに、スイッチ操作ができます。

▼

点灯させたいときは、スイッチを“ON”にします。
消灯させたいときは、スイッチを“OFF”にします。
室内灯スイッチと連動させるときは、スイッチを“中間”にします。



知 識

- 室内灯スイッチが“DOOR”で、後席室内灯（サードシート）のスイッチが“中間”のときは、ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。
  また、次の場合も点灯し、その後消灯します。
  - ・運転席ドアを解錠したとき（ウエルカムライト機能）
  - ・エンジンスイッチからキーを抜いたとき
  - ・後席室内灯（サードシート）のスイッチが“中間”のときは、テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
- 室内灯スイッチが“ON”のときは、後席室内灯（サードシート）のスイッチが“中間”で、ドアが閉まっていても、消灯しません。

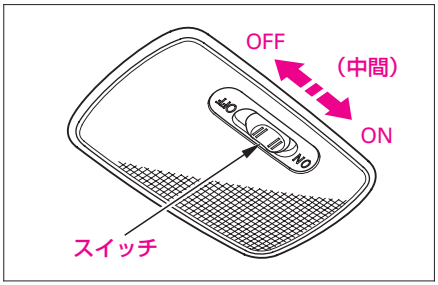
後席室内灯

トップライトルーフ非装備車

室内灯スイッチが“OFF”以外のときに、スイッチ操作ができます。

▼

点灯させたいときは、スイッチを“ON”にします。
消灯させたいときは、スイッチを“OFF”にします。
室内灯スイッチと連動させるときは、スイッチを“中間”にします。



知 識

- 室内灯スイッチが“DOOR”で、後席室内灯のスイッチが“中間”のときは、ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。
  また、次の場合も点灯し、その後消灯します。
  - ・運転席ドアを解錠したとき（ウエルカムライト機能）
  - ・エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- 室内灯スイッチが“ON”のときは、後席室内灯のスイッチが“中間”で、ドアが閉まっていても、消灯しません。

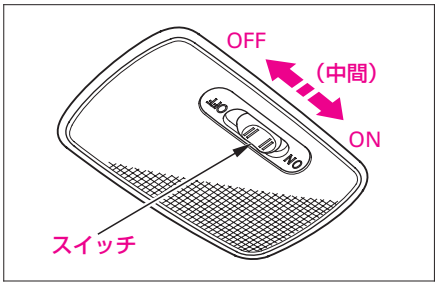
カーゴルーム照明灯

トップライトルーフ非装備車

“ON”
室内灯スイッチが“OFF”以外のとき、テールゲートの開閉に関係なく点灯します。

（中間）
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。

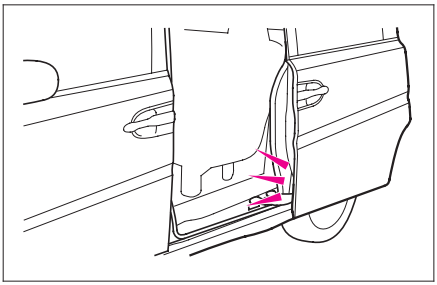
“OFF”
テールゲートの開閉に関係なく消灯します。



スライドドア開閉灯

タイプ別装備

スライドドアを開けると点灯します。
閉めると消灯します。

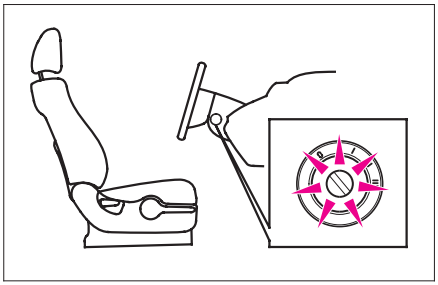


エンジンスイッチ照明灯

タイプ別注文装備

ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に消灯します。
また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。

・運転席ドアを解錠したとき
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき



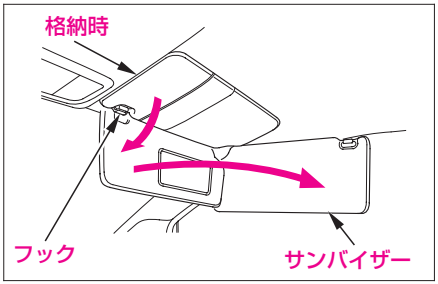
知 識

- 次の操作を行ったときは、エンジンスイッチ照明灯は減光しながら消灯します。
  - ・運転席ドアを施錠したとき
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしたとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠してもエンジンスイッチ照明灯は点灯しません。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約3分後に消灯します。

室内装備品

サンバイザー

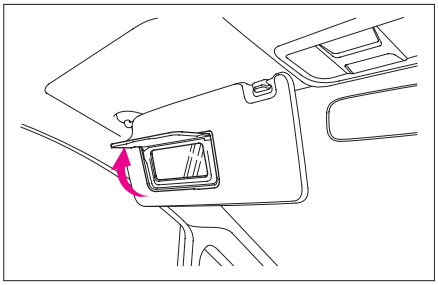
サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。



●バニティミラー(化粧鏡)

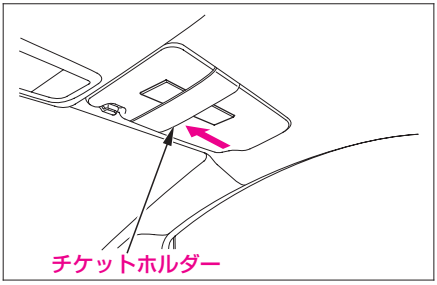
運転席側：タイプ別装備
助手席側：標準装備

サンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。



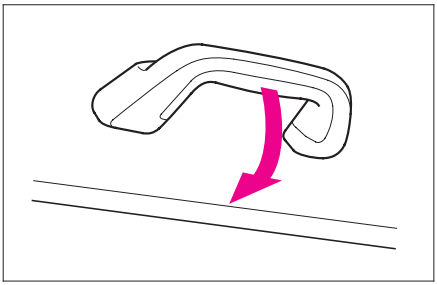
チケットホルダー

運転席側のサンバイザーにあります。



グラブレール

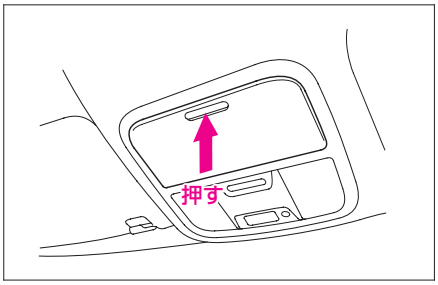
回転させて使います。



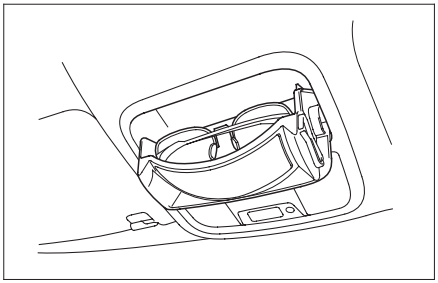
サングラスボックス

タイプ別装備

矢印部を押すと開きます。もう一度押すと格納されます。



サングラスなどを入れることができます。

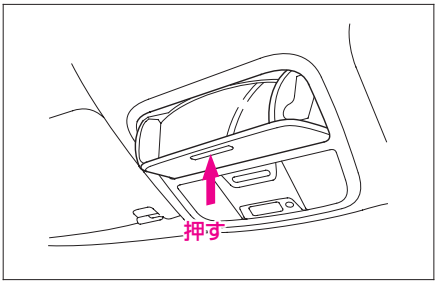


知 識

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。
- 重い物や破損しやすい物、鋭利な物などを入れないでください。
- 開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。
- サングラスでも大きさ、形状により収納できないものがあります。

●室内確認用ミラー

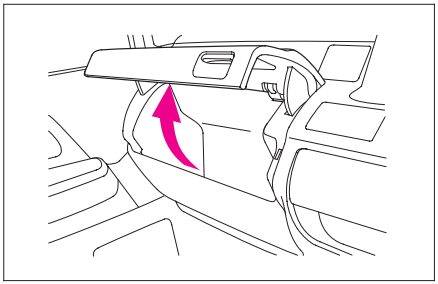
サングラスボックスに鏡があります。
使用するときは図の位置まで戻します。
後席の確認をするのに便利です。



小物入れ

●グローブボックス

フタを上げると開きます。

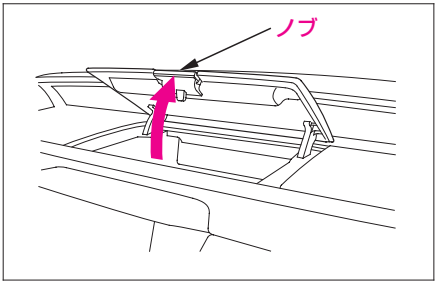


⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのフタを必ず閉めてください。
  グローブボックスのフタが開いていると、衝突したときなどにフタにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。

●センターアッパーボックス

ノブを引き上げると開きます。フタを開けると、小物入れがあります。



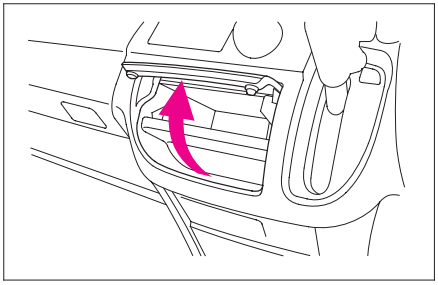
⚠注意

- 走行中は、センターアッパーボックスのフタを必ず閉めてください。
  衝突したときなどに内部の物が飛び出したりしてケガをするおそれがあります。

●センターボックス

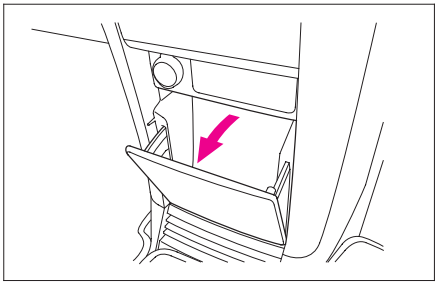
Hondaインターナビシステム非装備車

フタを上げると開きます。



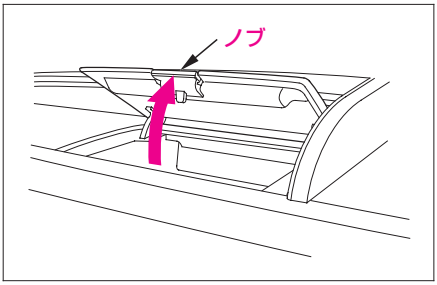
●センターロアボックス

フタを引いて開きます。



●運転席アッパーボックス

ノブを引き上げると開きます。
メーターの上にあるフタを開けると、小物入れがあります。
車検証、取扱説明書などを入れておくのに便利です。

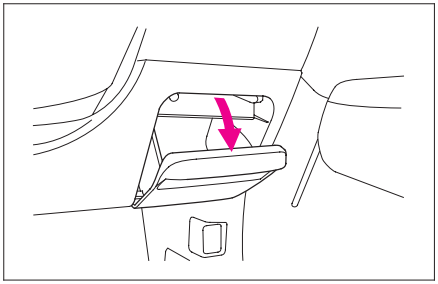


⚠注意

- 走行中は、運転席アッパーボックスのフタを必ず閉めてください。衝突したときなどに内部の物が飛び出したりしてケガをするおそれがあります。

●コインポケット

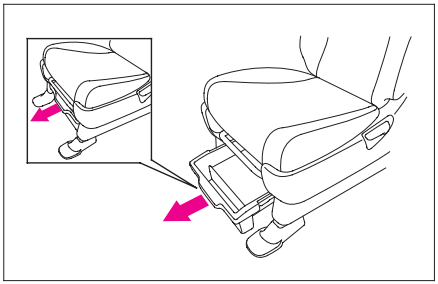
フタを下げると開きます。小銭を入れておくと有料道路の料金所などで便利です。



●シートアンダートレイ（助手席のみ）

タイプ別装備

前端部を上に持ち上げながら、引き出します。



前側は、カードや小物を置くのに便利です。

知 識

- シートアンダートレイを引き出した状態で、上に乗ったり無理な力をかけないでください。
  破損や変形などの原因になります。

カップホルダー

カップなどを置くときに使います。

⚠注意

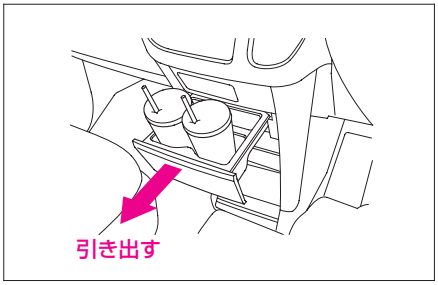
- オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物などをこぼさないように注意してください。
  故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
  万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

知 識

- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。

●フロントシート用

引き出して使います。



カップホルダーを使わないときは、格納してください。

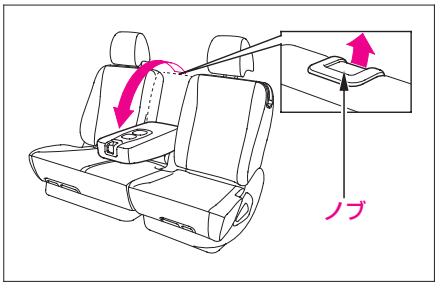
知 識

- 席の移動などのときに、カップホルダーに足を引っかけないようにしてください。

●セカンドシート用

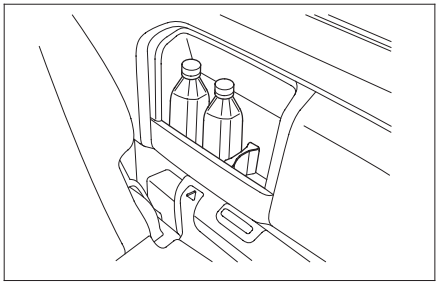
回転対座シート装備車

ノブを引いてアームレストを前に倒して使います。



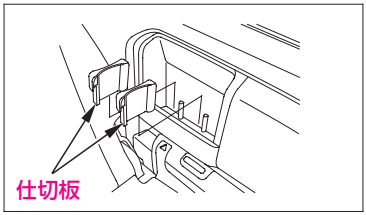
●サードシート用

左側のみ



知 識

- カップホルダー内の仕切板を外せば小物入れとして使えます。



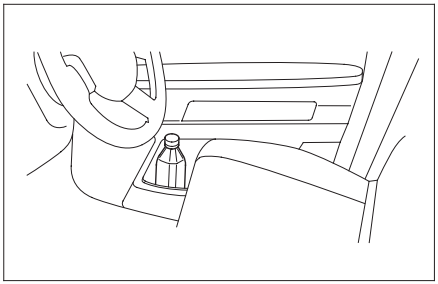
ボトルホルダー

各ドアにあります。
ペットボトルなどを置くときに使います。

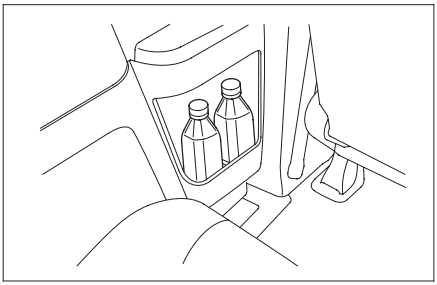
⚠注意

- オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物などをこぼさないように注意してください。
  故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
  万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

●フロントシート用



●セカンドシート用

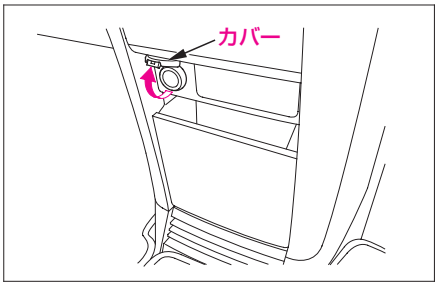


知 識

- 飲み物の入ったカップや栓をしていないペットボトルなどは、収納しないでください。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときだけ使えます。
カバーを開けて使用します。
Honda純正の電気製品の電源を取り出すのに使用します。
（消費電力120W［12ボルト、10アンペア］まで使用できます。）



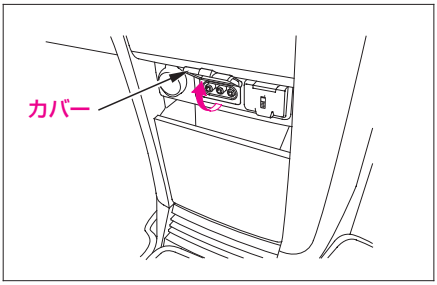
知 識

- Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。バッテリーあがりやアクセサリーソケットの損傷の原因となります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使わないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

AV入力端子

Hondaインターナビシステム装備車

使用するときは、カバーを開けて、入力端子にビデオ機器などの端子を差し込みます。



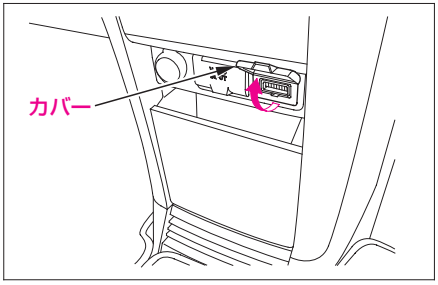
詳細に関しては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

携帯電話接続端子

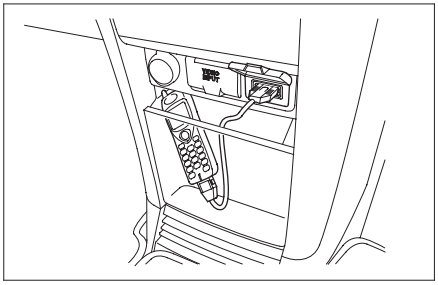
Hondaインターナビシステム装備車

別売りのケーブルを使って、携帯電話をセンターロアポケット上側にある端子と接続して使います。

接続するときは、カバーを開けます。



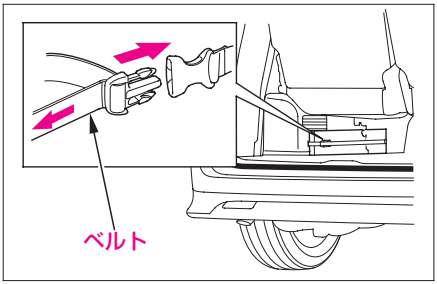
接続した携帯電話は、図のようにセンターロアポケットの中に入れておくことができます。



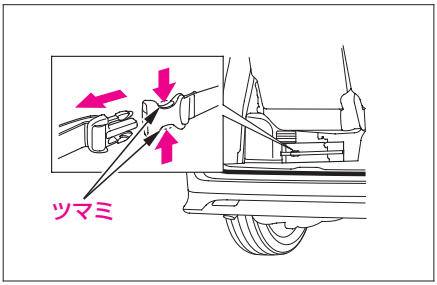
詳細に関しては、別冊のHondaインターナビシステムの取扱説明書をご覧ください。

停止表示板固定ベルト

ベルトの長さを調節し、停止表示板を固定します。

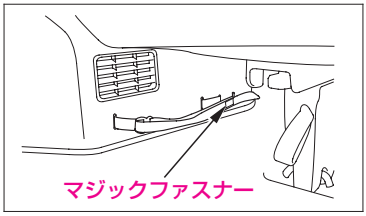


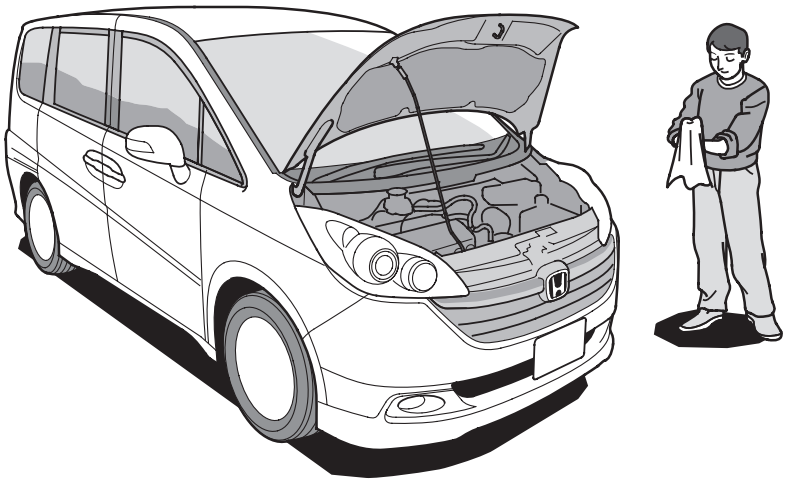
外すときはツマミを押します。



知 識

- 停止表示板を固定しないときは、ベルトをマジックファスナーでとめておいてください。





万一のとき

●工具・スペアタイヤ・発炎筒
格納場所 ……340
工具の種類 ……341
発炎筒について ……341

●故障したとき
踏切で動けなくなったとき …342
高速道路で故障したとき ……342
道路で動けなくなったとき …343
故障の修理について ……343

●事故が起きたとき ……344

●けん引
けん引されるとき
（ロープによるけん引）……346
故障車をけん引するとき ……349

●パンクしたとき
ジャッキの取り扱い ……350
応急用スペアタイヤ ……352
タイヤ交換 ……356

●オーバーヒートしたとき
……364

●電気系統が異常のとき
バッテリーあがりのとき ……366
ライト類が点灯しないとき、
電気装置が作動
しないとき ……369
パワーテールゲートが
開かないとき ……384
パワーテールゲートが確実に
閉まらないとき ……385
テールゲートの解錠が
できないとき ……386

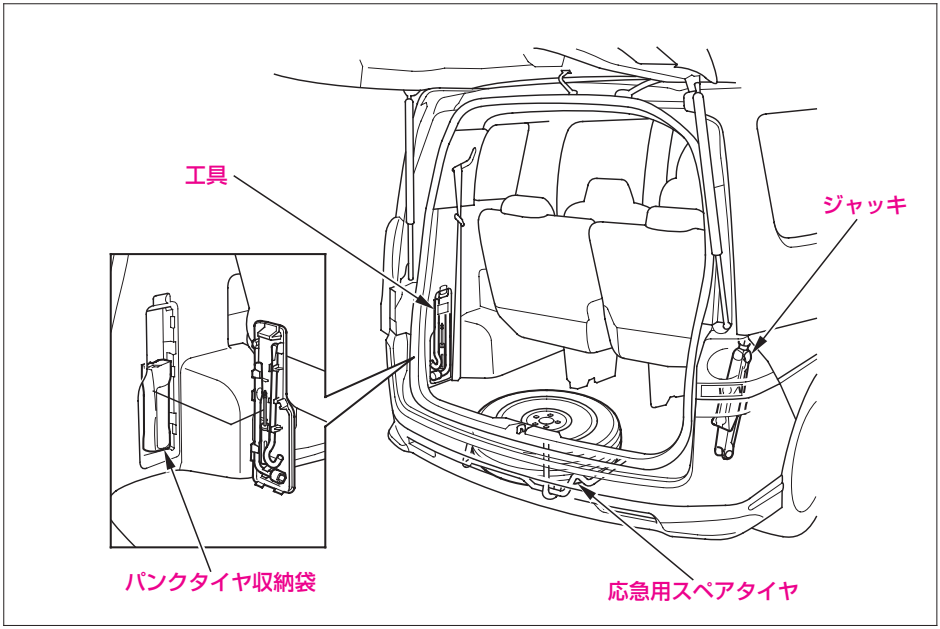
5

＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

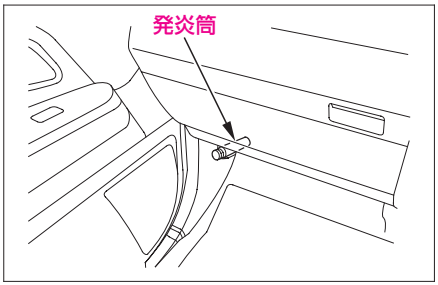
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ



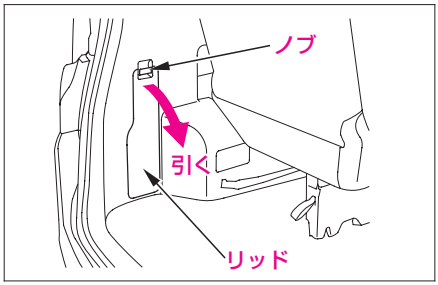
●発炎筒



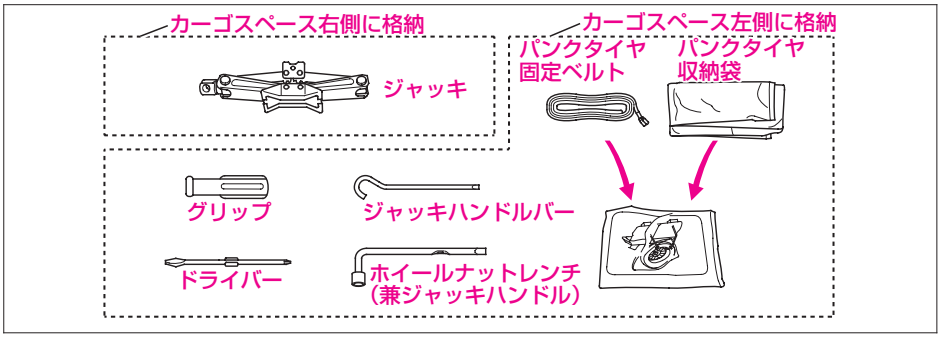
発炎筒は助手席足元にあります。

●工具の取り出しかた

ノブを引きながらリッドを外します。



工具の種類



知 識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　・使用上の注意
・発炎時間　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすい物のそばでは使わないでください。
  火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

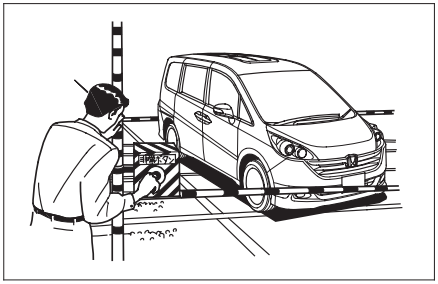
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔や身体に向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板(または停止表示灯)、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

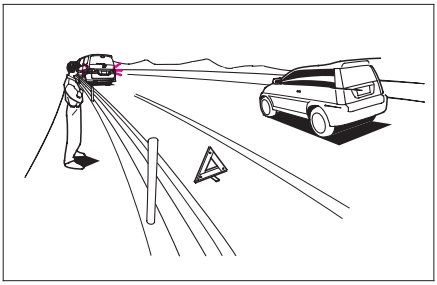
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板(または停止表示灯)を置いて表示してください。法律で義務づけられています。



人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。



知 識

- オートマチック車はスターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

Honda販売店へお申しつけください。



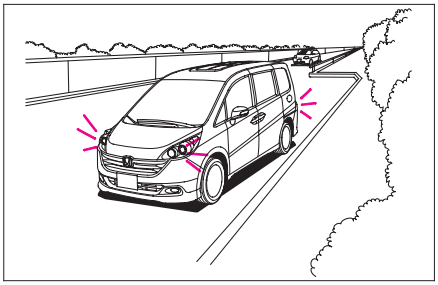
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1事故の続発を防ぐ。

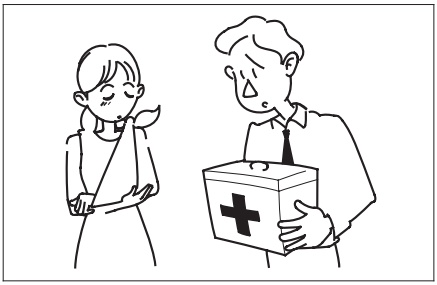
他の交通の妨げにならないような安全な場所(路肩、あき地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。



2負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



知 識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



4相手方、事故の状況をメモする。

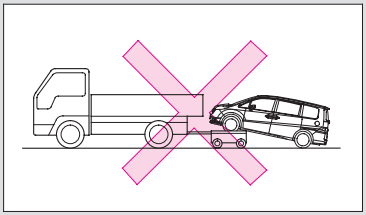
5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。
- 4WD車の場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。

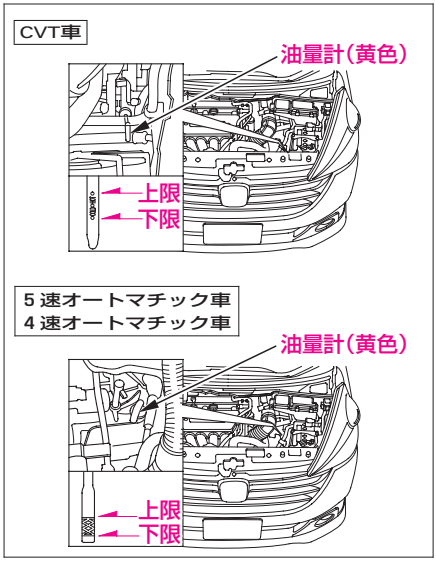


- CVT車
  エンジンがかかっていない状態でけん引されるとトランスミッションが損傷する場合があります。

けん引されるとき(ロープによるけん引)

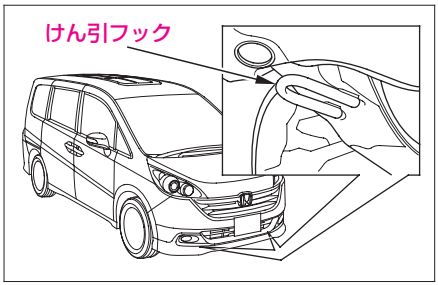
やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

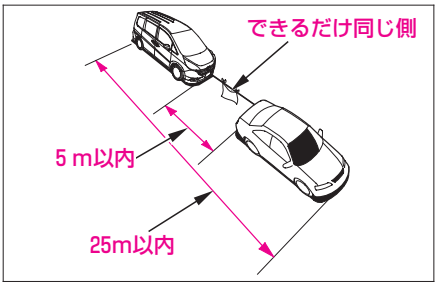
①トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。



下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。





③エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ I ”または“II”にします。
④セレクトレバーをⓃ(ニュートラル)にします。
⑤パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
⑥速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

アドバイス

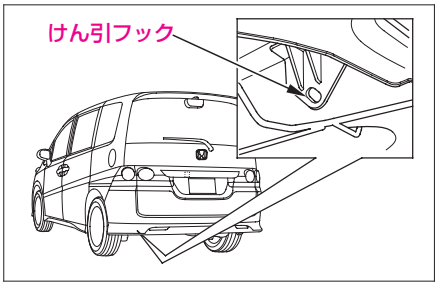
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
  そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

知 識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキの効きが悪くなります。
  - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。



アドバイス

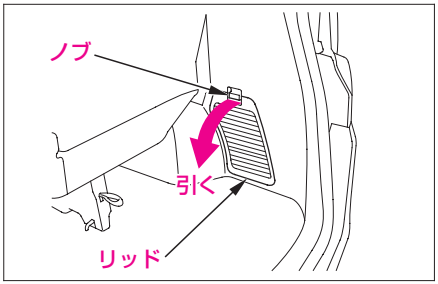
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引するときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのままけん引すると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

パンクしたとき

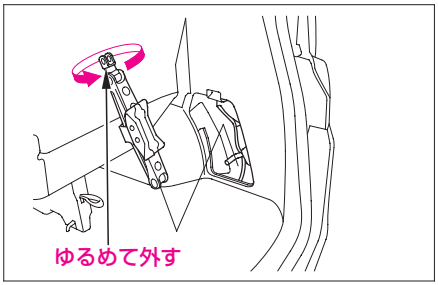
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

①ノブを引きながらリッドを外します。



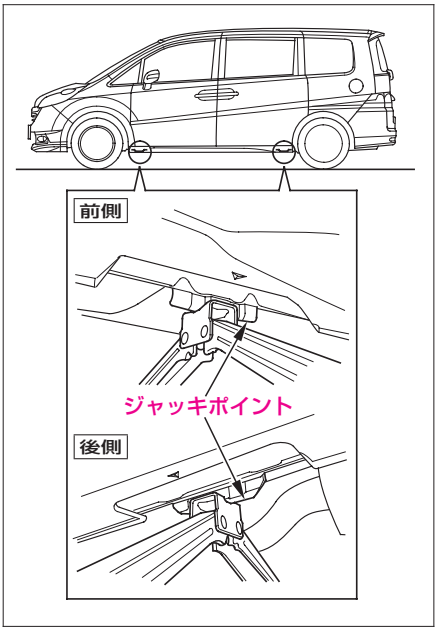
②ジャッキをゆるめて外します。



知 識

- ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
  ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。
- サードシートが最後端にあるときは、リッドを外すことができません。

●ジャッキをかける位置

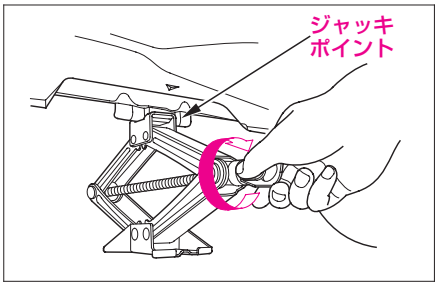


●ジャッキのかけかた

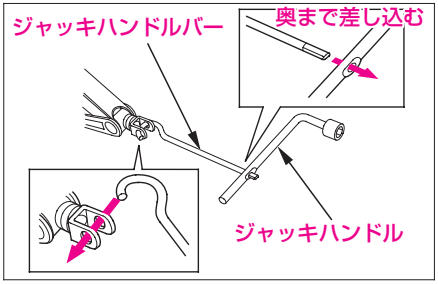
①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠警告

●車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

●ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
- エンジンをかけたままにしない。
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない。
- 指定された位置以外にかけない。
- 人や荷物をのせたままにしない。
- ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
- タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

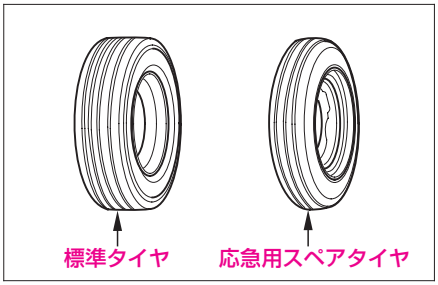
知 識

●この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。

パンクタイヤの収納　→358ページ



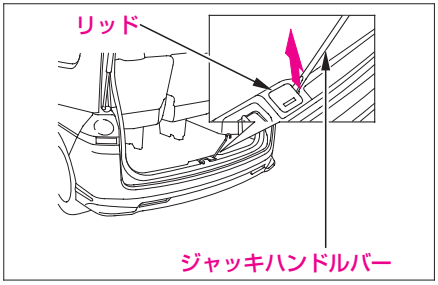
お使いになるときは次のことをお守りください。

知　識

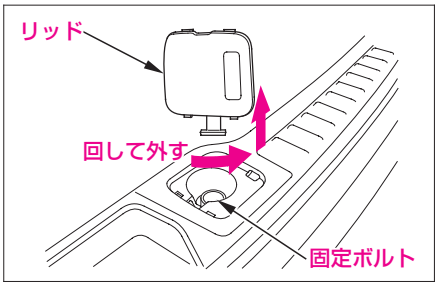
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧:
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

●外しかた

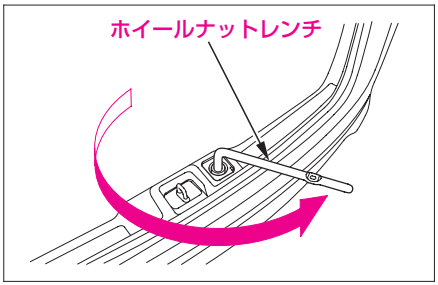
①テールゲートを開け、ジャッキハンドルバーの先でリッドを開けます。



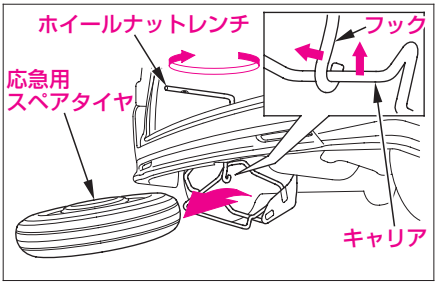
②リッドを回して外します。



③ホイールナットレンチで固定ボルトをゆるめます。



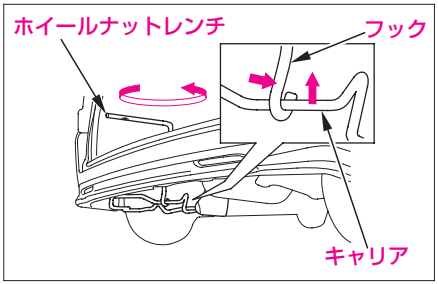
④フックからキャリアを外し、応急用スペアタイヤを引き出します。



⚠注意

- 取り外しや収納するときに、手などをはさまないように十分注意してください。
- 固定ボルトをゆるめすぎないでください。フックが固定ボルトから外れ、キャリアが落下し、足などにけがをするおそれがあります。

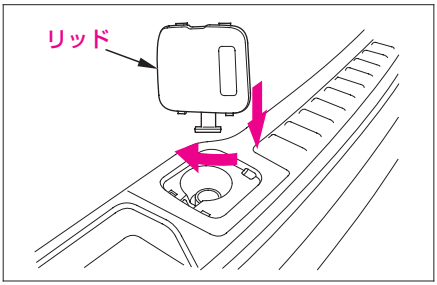
⑤応急用スペアタイヤを引き出した後は図のようにフックにキャリアをかけ、ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締めつけます。



⚠注意

- 取り付けた後は、確実に固定されていることを確認してください。ゆるみ等により取り付けが不安定な状態になっていると、走行中に外れるなどして思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

⑥リッドを取り付けます。

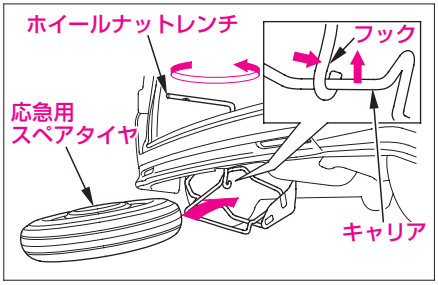


●収納のしかた

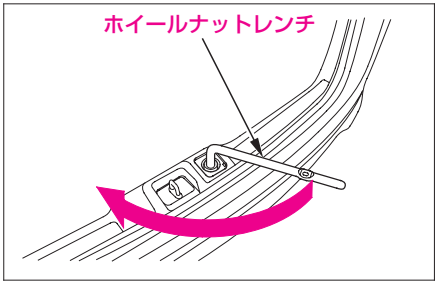
①フックからキャリアを外します。

外しかた　→353ページ

②応急用スペアタイヤのホイール表面を上にして取り付けて、図のようにフックにキャリアをかけ、固定ボルトを締めます。



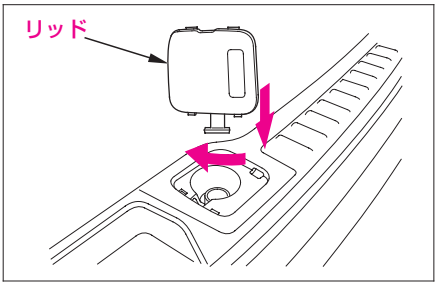
③ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締めつけます。



⚠注意

- 取り付けた後は、確実に固定されていることを確認してください。ゆるみ等により取り付けが不安定な状態になっていると、走行中に外れるなどして思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- 取り外しや収納するときに、手などをはさまないように十分注意してください。

④リッドを取り付けます。

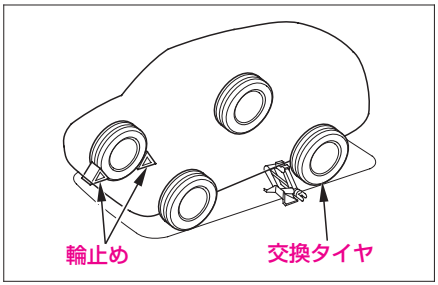


タイヤ交換

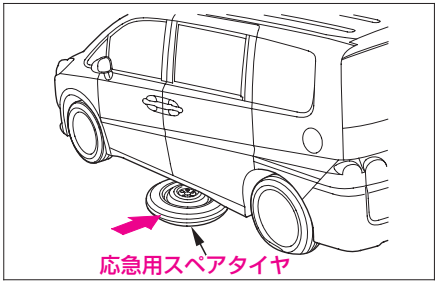
1はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。



③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

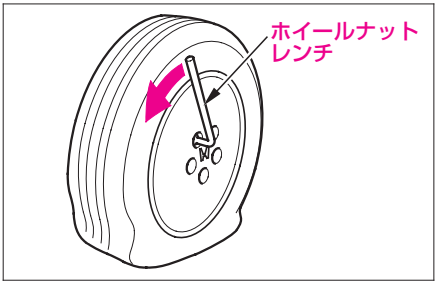


2ジャッキで車体を上げる

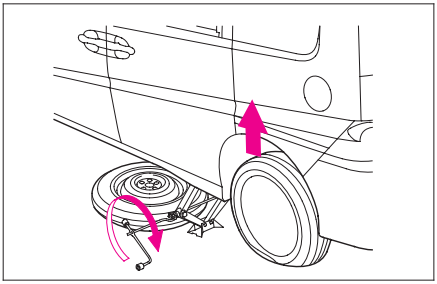
①ジャッキをセットします。

ジャッキをかける位置→350ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

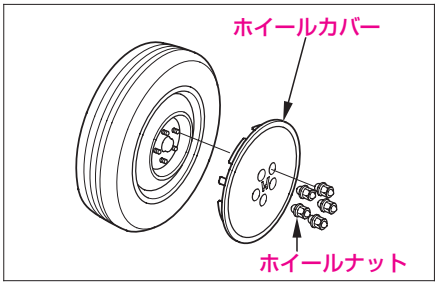


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3タイヤを交換する

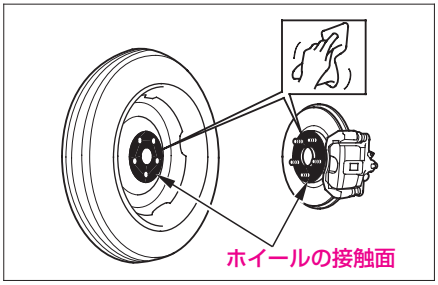
①ホイールナット、ホイールカバー(スチールホイール装備車)を外し、タイヤを外します。



知 識

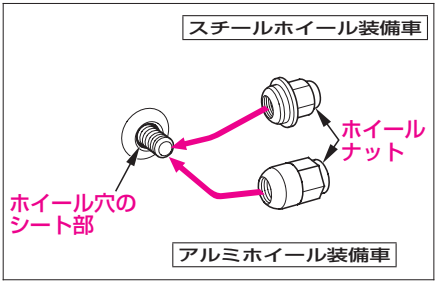
●タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



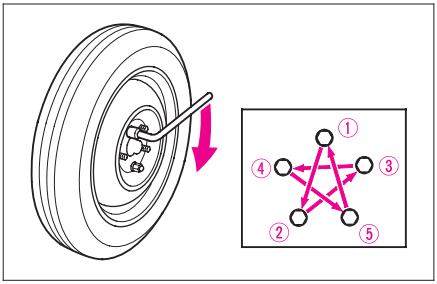
③応急用スペアタイヤを取り付けます。

④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



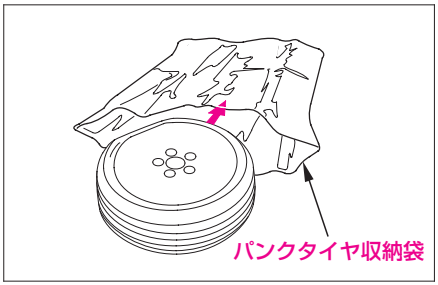
⑤ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)



4パンクタイヤを収納する

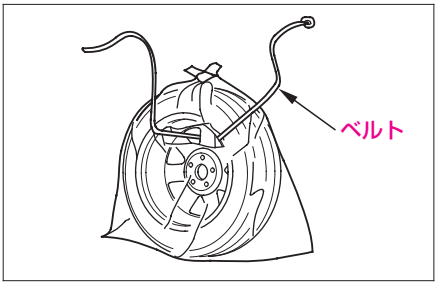
①パンクタイヤ収納袋にタイヤを入れます。



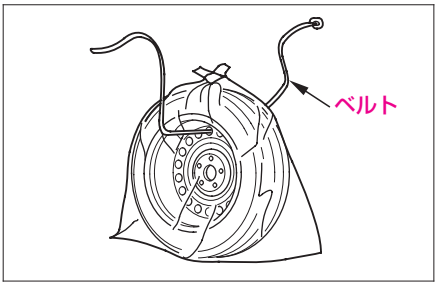
②収納袋の上端を縛ります。

③袋に穴をあけてから、ベルトをホイールの穴に通します。

アルミホイール装備車



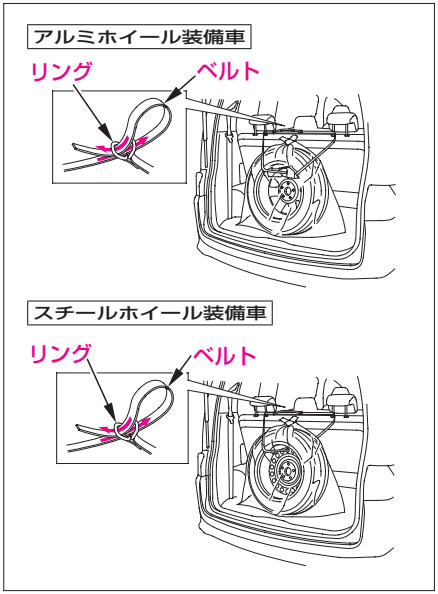
スチールホイール装備車



④サードシート両席の前後位置と背もたれの角度を合わせます。

サードシートの前後位置の調節、
サードシートの背もたれの調節
→106ページ

⑤タイヤをサードシートの背もたれに立てかけ、ベルトを両席のヘッドレストの下に通します。
⑥ベルトをリングに通し、ベルトをいっぱいに引いて締めつけます。

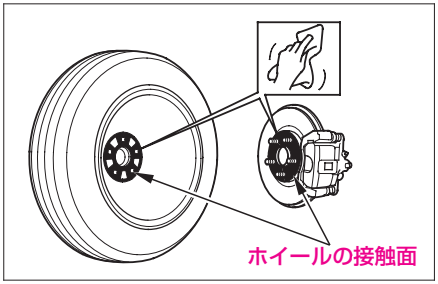


知　識

●パンクタイヤを固定した後にサードシートの調節を行わないでください。
・背もたれが後ろに倒れた状態だと、テールゲートを閉めたとき、テールゲートがパンクタイヤに当たり、破損や変形などの原因になります。

5標準タイヤを取り付けるときは

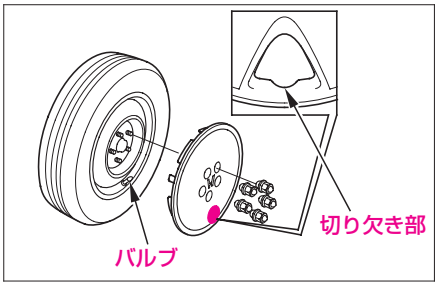
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



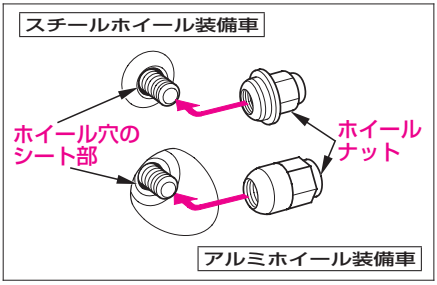
知 識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②ホイールカバー（スチールホイール装備車）、を取り付けるときは、切り欠き部がバルブの位置にくるようにします。

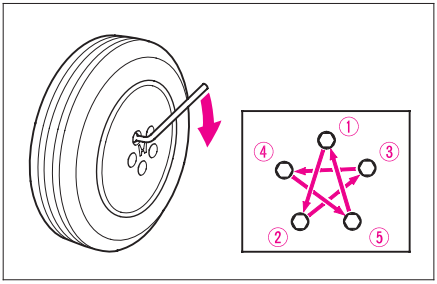


③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)





アドバイス

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や、摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

知 識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらHonda販売店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の固い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧　→429ページ

- **ホイールカバー装備車**
  ホイールカバーは、ホイールナットを外さないと取り外しができません。
  ドライバーなどで無理にこじらないでください。
- **アルミホイール装備車**
  パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。



オーバーヒートしたとき

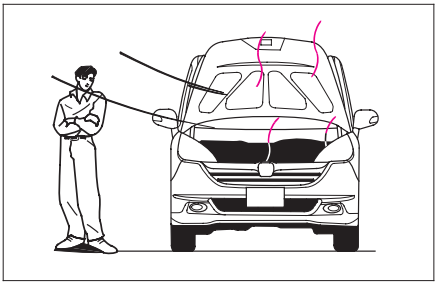
次のようなときは、オーバーヒートです。
・高水温警告灯(赤色)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
  蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

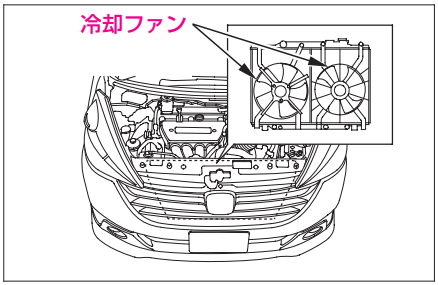
①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。



知 識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
  蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

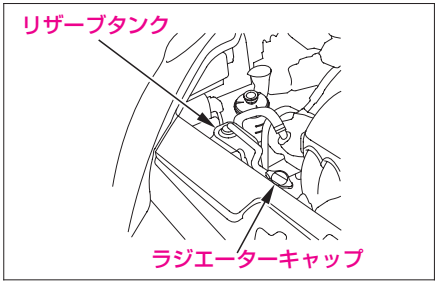
③冷却ファンが作動していることを確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、Honda販売店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

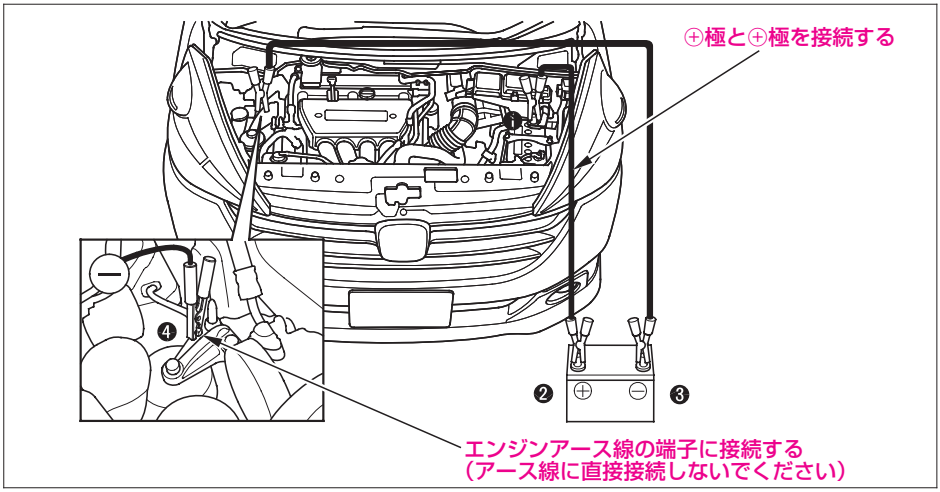
次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のエンジンのアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。



⚠警告

- バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
  バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
  - 火気を近づけないでください。
  - 帯電した身体でバッテリーに触れないでください。
  - 換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
  - バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
- ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - 自車のバッテリーの⊖端子に直接ケーブルをつながないでください。
  - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
  - ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
  万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知 識

- バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
  バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。
- ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
- 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
- バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は、パワースライドドアやパワーテールゲートは自動で閉まらなくなることがあります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

パワースライドドアはさみ込み防止機構　→54ページ
パワーテールゲートオート作動機能の復帰　→64ページ

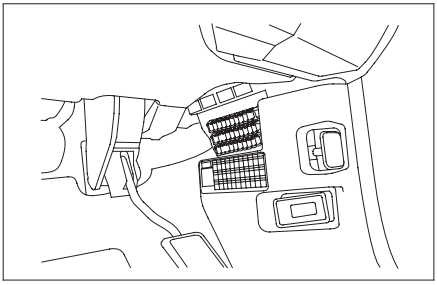
ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示と取扱説明書で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

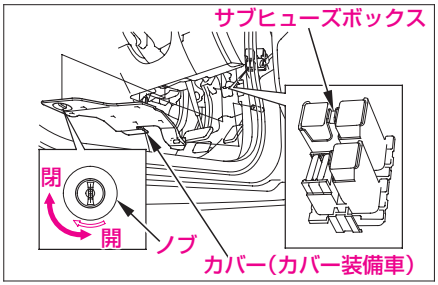
運転席足元のヒューズボックス

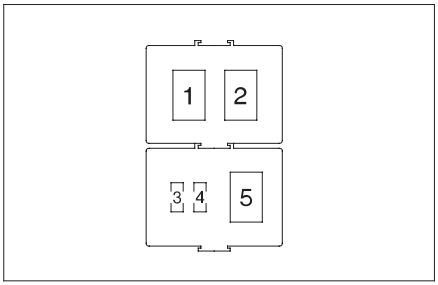


・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		ドライブバイワイヤー	15A
2		イグニッションコイル	15A
3	—	—	—
4		LAF	15A
5		オーディオ／アンプ	15A
6		室内灯	7.5A
7		バックアップ	7.5A
8		ドアロック	20A
9		アクセサリーソケット	15A
10		サイドエアバッグ 自動停止装置	7.5A
11		ワイパー	30A
12		ヒーテッドドアミラー	7.5A
13	—	—	—
14	—	—	—
15	RR L	左側スライドドア （イージードアクローザー）	20A
16	RR R	右側スライドドア （イージードアクローザー）	20A
17	RR	リヤクーラー／ヒーター	20A
18		ACG	10A
19		フューエルポンプ	15A
20		ウォッシャー	10A
21		メーター	7.5A
22		SRSエアバッグシステム	10A
23		IGP	7.5A
24	RR R	パワーウィンドー後席右側	20A
25	RR L	パワーウィンドー後席左側	20A
26	AS	パワーウィンドー 助手席	20A
27	DR	パワーウィンドー 運転席	20A
28		パワーテールゲート クローザー	20A
29		オプション1	7.5A
30		エアコン	7.5A
31		オプション2	7.5A
32		アクセサリー	7.5A
33	—	—	—

運転席足元のサブヒューズボックス

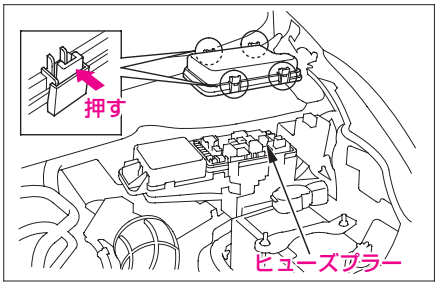




・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	RR R	運転席側 パワースライドドア	40A
2	RR L	助手席側 パワースライドドア	40A
3		運転席 E-プリテンショナー	30A
4		助手席 E-プリテンショナー	30A
5		パワーテールゲート	40A

エンジンルーム内のヒューズボックス



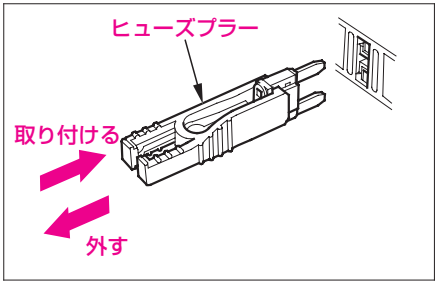
・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	L	左側ヘッドライト ロービーム※1	10A
		左側ヘッドライト ロービーム※2	15A
2		リヤデフロスターコイル	30A
3	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
4		車幅灯	15A
5	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
6	R	右側ヘッドライト ロービーム※1	10A
		右側ヘッドライト ロービーム※2	15A
7		バックアップ	7.5A
8		IGP	15A
9		コンデンサーファン	20A
10		フォグライト	20A
11		ラジエーターファン	20A
12		MGクラッチ	7.5A
13		ホーン／制動灯	15A
14		リヤデフロスター	30A
15		バックアップ／ アクセサリー	40A
16		非常点滅表示灯	10A
17	ABS	ABSモーター	30A
	VSA MOTOR	VSAモーター※3	30A
18	ABS	ABS	20A
	VSA	VSA※3	40A
19		オプション1	40A
20		オプション2	40A
21		ヒーターモーター	40A
22		サブヒューズ	60A
		バッテリー	100A
23		イグニッション	50A
		パワーウィンドー	40A

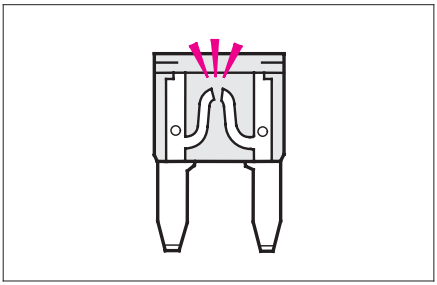
※1：ハロゲンヘッドライト装備車
※2：ディスチャージヘッドライト装備車
※3：VSA装備車

ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

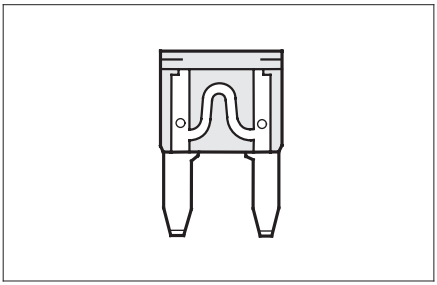
アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外の物は絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知 識

- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- パワースライドドアを開けた状態でヒューズを交換した場合は、パワースライドドアが自動で閉まらなくなります。
  その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  パワースライドドアはさみ込み防止機構 →54ページ
- パワーテールゲートを開けた状態でヒューズを交換した場合は、パワーテールゲートが自動で閉まらなくなります。
  その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  パワーテールゲートオート作動機能の復帰 →64ページ
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。

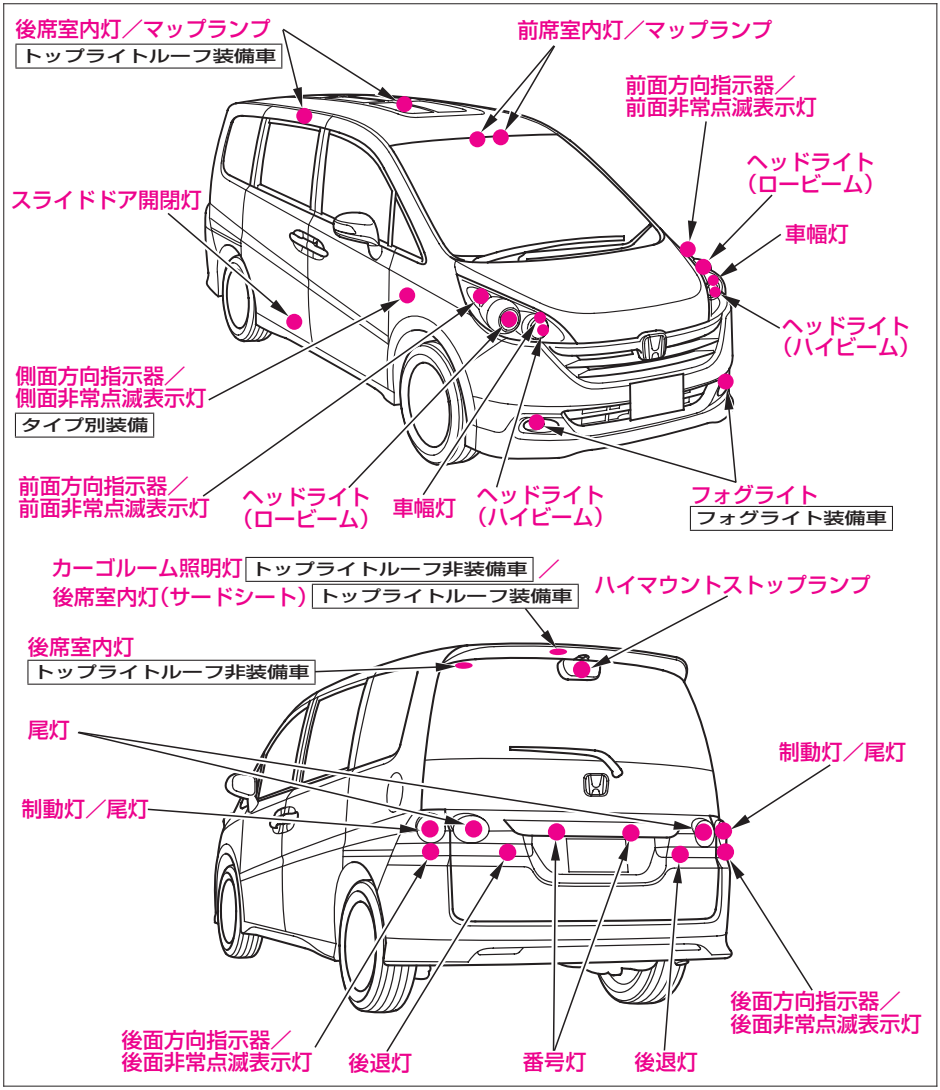
知 識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。



知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違う物を使わないでください。
  電球のワット数 →426ページ
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。

知 識

- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、Honda販売店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)について

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトの電球切れの点検、交換は必ずHonda販売店で行ってください。

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

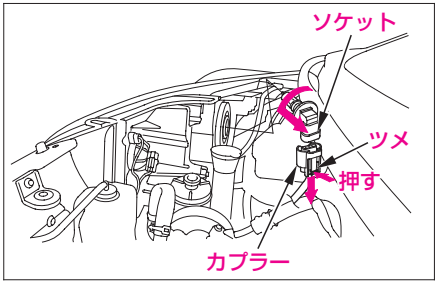
ヘッドライト(ロービーム)

ハロゲンヘッドライト装備車

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→376ページ

ツメを押しながらカプラーを外し、ソケットを左へ回して外します。

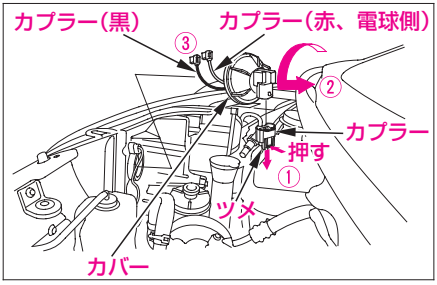


ヘッドライト(ハイビーム)

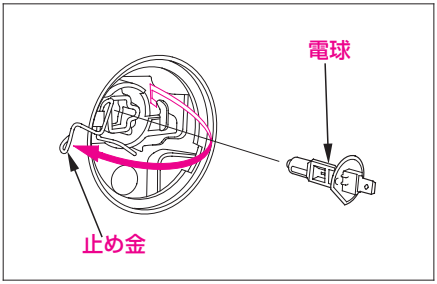
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→376ページ

①ツメを押しながらカプラーを外します。
②カバーを左へ回して外します。
③カプラーを 2 ケ所外します。



④止め金を外し、電球を外します。



⑤電球本体を抜き取ります。

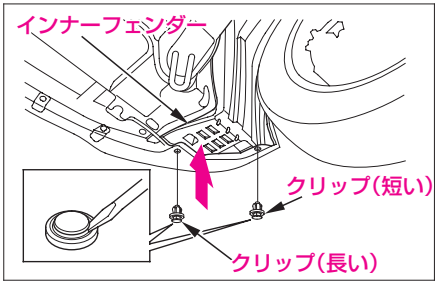
フォグライト

フォグライト装備車

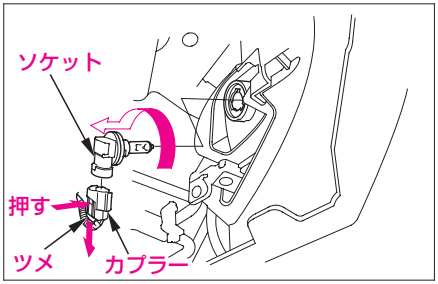
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→376ページ

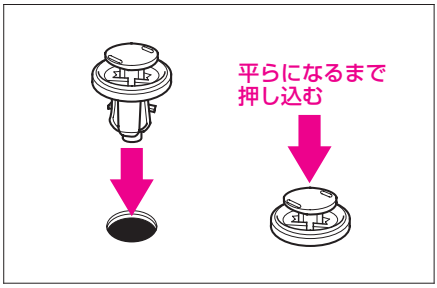
①クリップを外して、インナーフェンダーを上へ押し込みます。



②ツメを押しながらカプラーを外し、ソケットを左に回して外します。

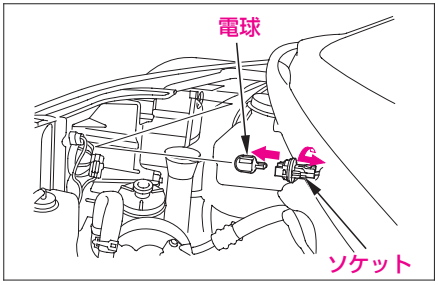


インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



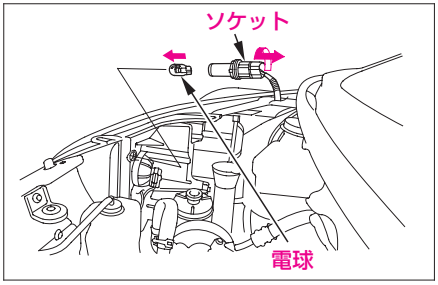
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



車幅灯

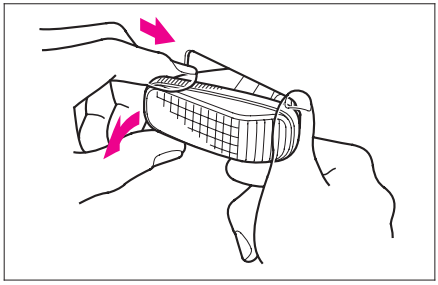
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



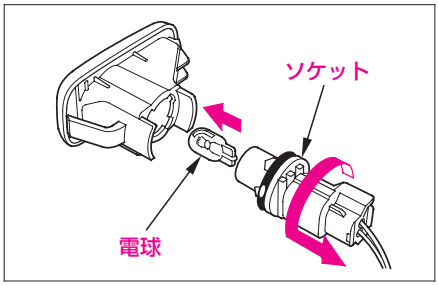
側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

タイプ別装備

①ランプ本体を後方に押して外します。



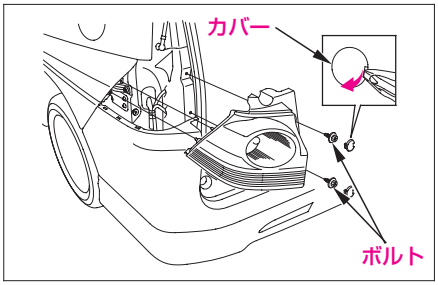
②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



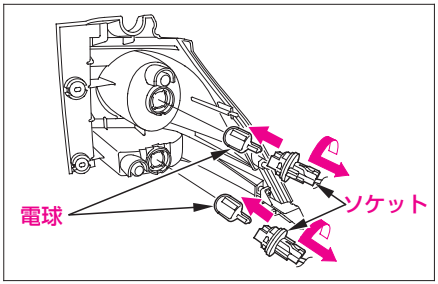
制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。

②ボルトを外してランプ本体をまっすぐ後方へ抜き取ります。

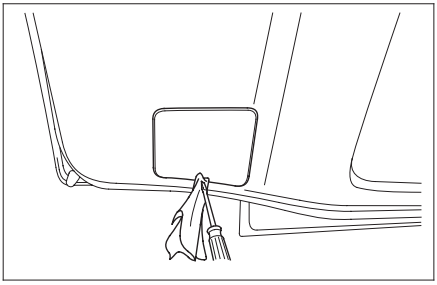


③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

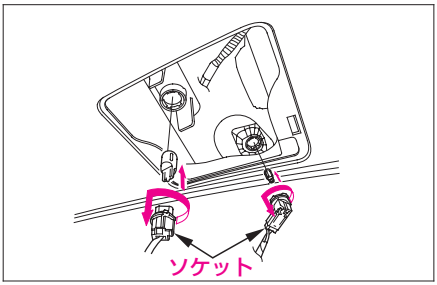


尾灯、後退灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを開けます。

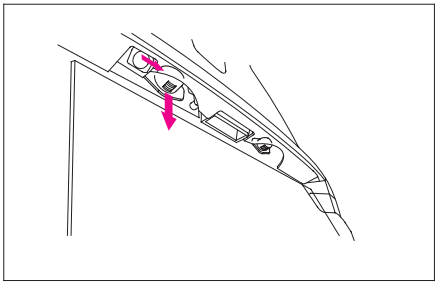


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

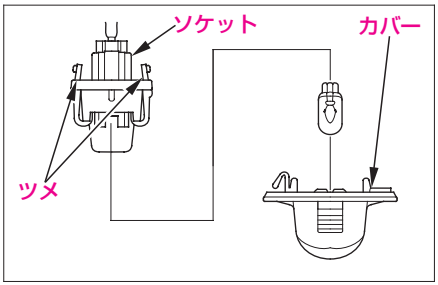


番号灯

①側面を押し、ランプ本体を外します。

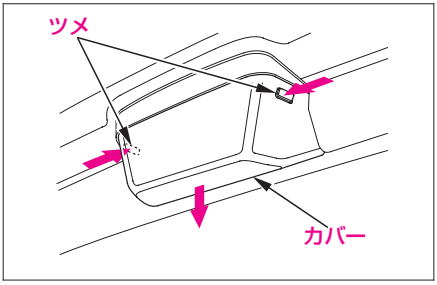


②ツメを押して、カバーを外します。
③ソケットから電球を抜き取ります。

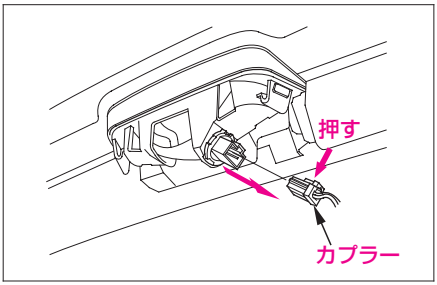


ハイマウントストップランプ

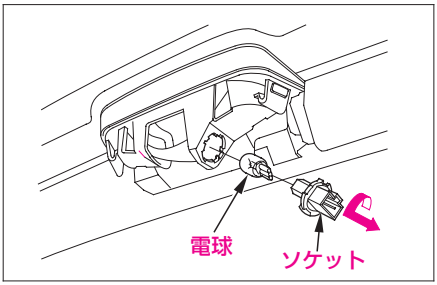
①カバーのツメを押しながらカバーを外します。



②カプラーのツメを押しながらカプラーを外します。



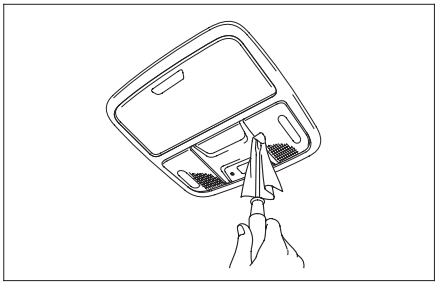
③ソケットを左に回して外し、電球を抜き取ります。



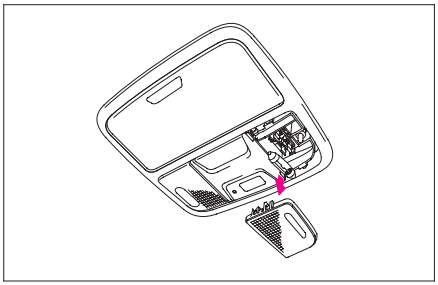
前席室内灯／マップランプ

サングラスボックス装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。



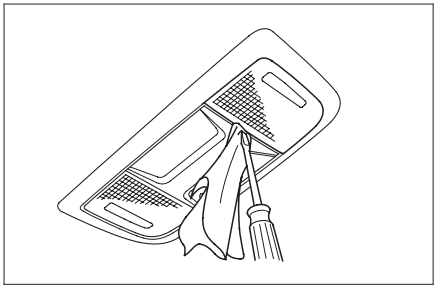
②電球を抜き取ります。



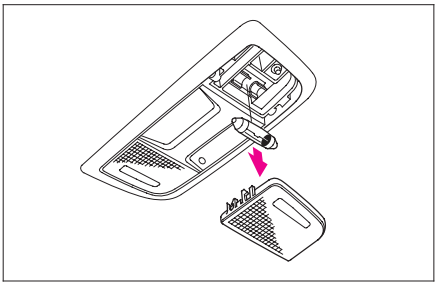
前席室内灯／マップランプ

サングラスボックス非装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。



②電球を抜き取ります。



後席室内灯(サードシート)

トップライトルーフ装備車

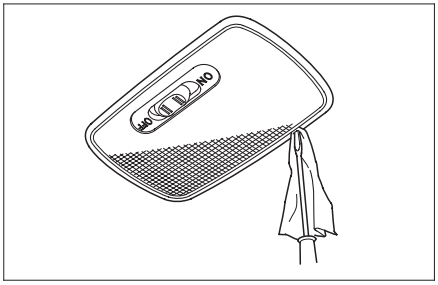
後席室内灯

トップライトルーフ非装備車

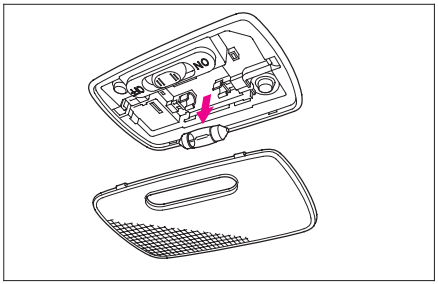
カーゴルーム照明灯

トップライトルーフ非装備車

①レンズを外します。



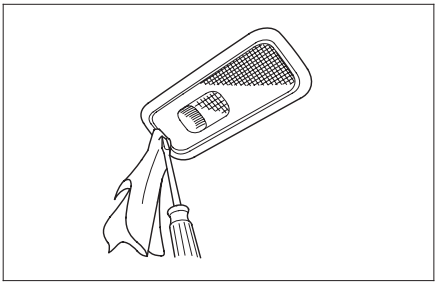
②電球を抜き取ります。



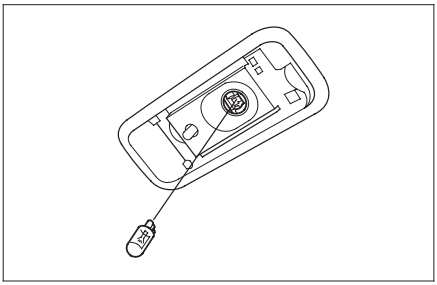
後席室内灯／マップランプ

トップライトルーフ装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

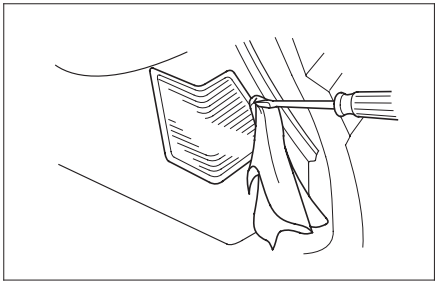


②電球を抜き取ります。

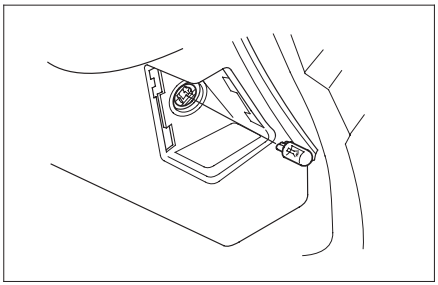


スライドドア開閉灯 タイプ別装備

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。



②電球を抜き取ります。

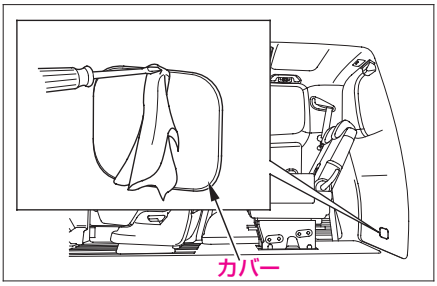


パワーテールゲートが開かないとき

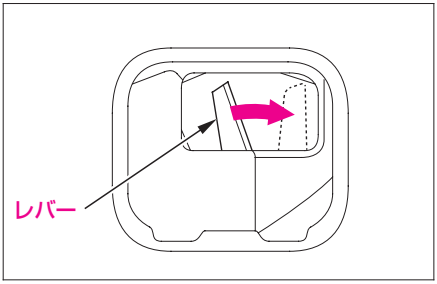
パワーテールゲート装備車

万一、パワーテールゲートを開けることができなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠レバーを矢印の方向に動かして開けてください。

①パワーテールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②レバーを右の方向に動かし、パワーテールゲートを内側から押して開けます。



⚠注意

●パワーテールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

知 識

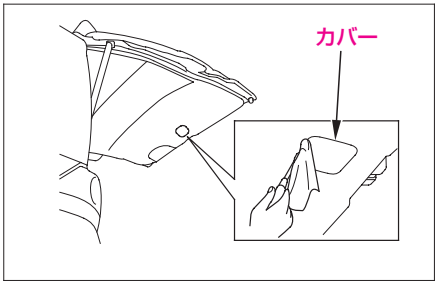
●応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

パワーテールゲートが確実に閉まらないとき

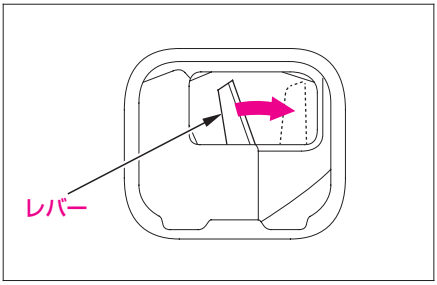
パワーテールゲート装備車

万一、パワーテールゲートを確実に閉めることができなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠レバーを右の方向に動かして閉めてください。

①パワーテールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②レバーを右の方向に動かします。手を離すと、レバーは元の位置に戻ります。



③パワーテールゲートを閉めます。

知 識

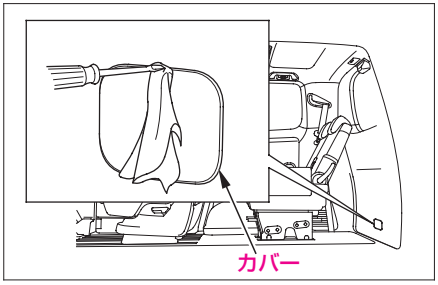
●応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

テールゲートの解錠ができないとき

パワーテールゲート非装備車

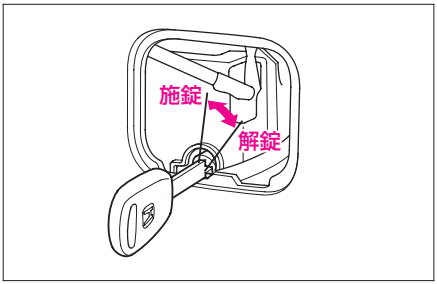
万一、テールゲートが解錠できなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠シリンダーにキーなどを差し込み矢印の方向に回して解錠してください。

①テールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②シリンダーにキーなどを差し込み右の方向に回し、テールゲートを解錠します。

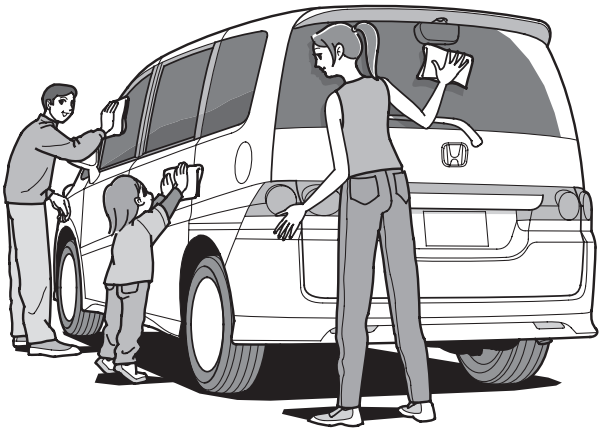
テールゲートの開閉　→69ページ



テールゲート解錠シリンダーを左方向に回すと施錠します。

知　識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。



車の手入れ

●点検・整備について……388

●日常の手入れ
外装の手入れ……392
内装の手入れ……396
タイヤについて……398
アルミホイールについて……402

●車にあった部品の使用…404

6

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。

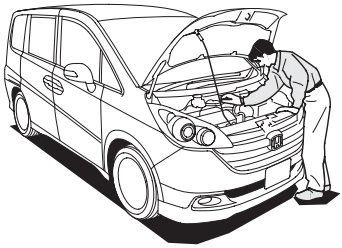


詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

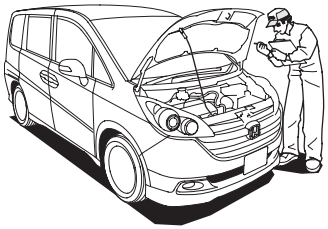
日常点検

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。



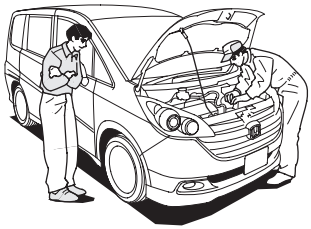
法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。



その他

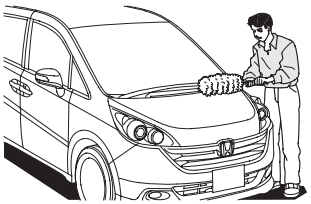
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。



日常の手入れ

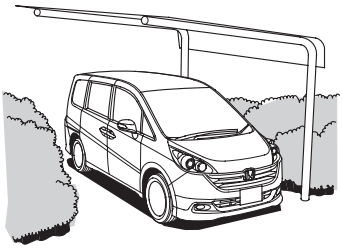
走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。



保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。



洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。

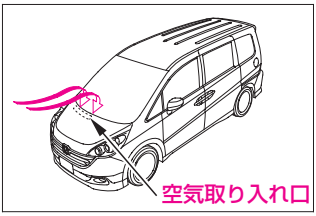


外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかい物で洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●ボンネットの裏のインシュレーターには、直接水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。
・ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗ってください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

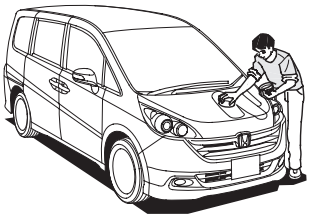
コイン洗車機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品（バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

はっ水ガラスについて

タイプ別装備

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。

知 識

●水滴をはじく効果の持続時間には限りがありますが、できるだけ長持ちさせるために次のことをお守りください。

・前席ウィンドーが汚れているときは、水洗いをするか柔らかい湿った布などでふき取ってください。
また、泥などの汚れがひどいときは、前席ウィンドーの開閉をなるべく行わないでください。

・みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わないでください。

・金属製の物で霜取りなどを行わないでください。

・自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落してから行ってください。

知 識

●ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。

●水はじきが悪くなったときは、補修できますのでHonda販売店にご相談ください。

ガラスの清掃をするとき

ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）の回復作業

タイプ別装備

ミラー表面に汚れなどが付着して、一時的に親水効果が低くなることがありますが、異常ではありません。数日間の日射をすることで親水効果が回復しますが、早く回復させたいときは次の回復作業を行ってください。

・点検

ミラー表面に散水し、水滴にならず薄い水膜（親水状態）になることを確認します。親水状態になっていない場合は、洗浄作業を行います。親水状態になっている場合は、紫外線照射を行います。

・回復作業

①ミラー表面を水洗いし、汚れを落とします。
②水を含ませたきれいな布で、汚れを落とします。
③それでも汚れが落ちない場合は、純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤などを使用して、柔らかい布を使ってミラー表面を洗浄後、十分な水で洗浄剤を洗い流してください。

・紫外線照射

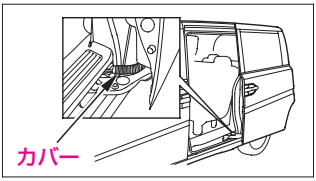
屋外に車両を5～9時間ほど放置し、ミラー表面に太陽の光を当てます。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。



●室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。
●スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線には、揮発性の溶剤（スプレー、グリース等）をつけないでください。故障の原因になります。



●ケミカル類、液体芳香剤について

取扱方法や成分を確認の上、取り扱いには十分にご注意ください。

⚠注意

●オーディオやスイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

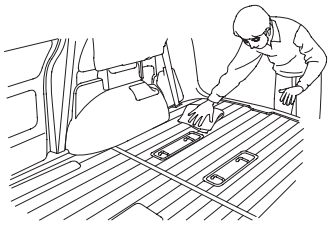
●ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
次のことに注意してください。

・ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。ご使用の前に確認してください。
・ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。
・液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。

●フローリングフロアのお手入れ

通常は、乾いた柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、柔らかい布に真水を含ませ、固く絞ってから拭き取ってください。

●滑りやすくなるためワックスや洗浄液を使用しないでください。



タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ず指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

●次のようなタイヤは使わないでください。
　コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
　・摩耗限度を超えたタイヤ
　・指定空気圧に調整されていないタイヤ
　　タイヤの空気圧
　　→429ページ

⚠注意

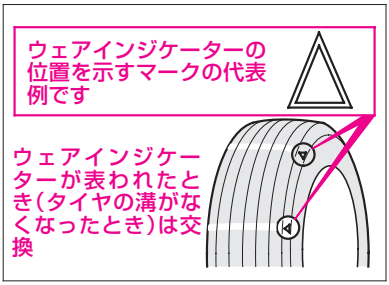
●タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
　空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響を与えます。
- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。



●位置交換（タイヤローテーション）

5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

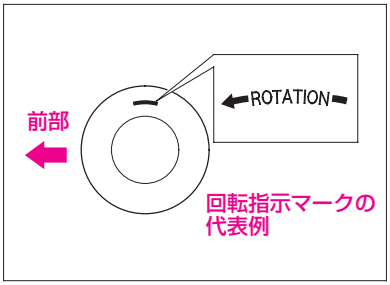
・同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

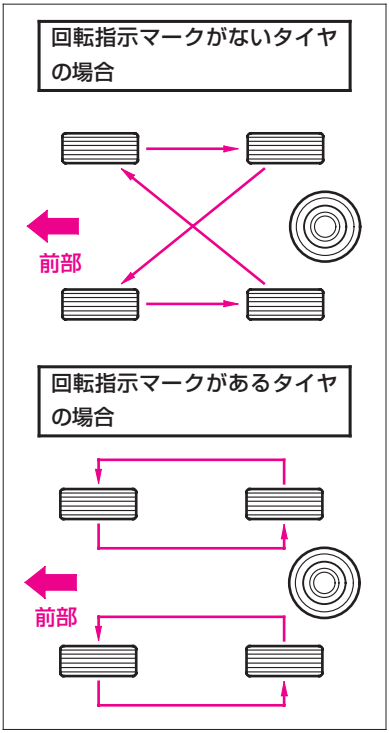
- 応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。
- 前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧を調整してください。

タイヤの空気圧　→429ページ

タイヤ回転指示マーク

タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。

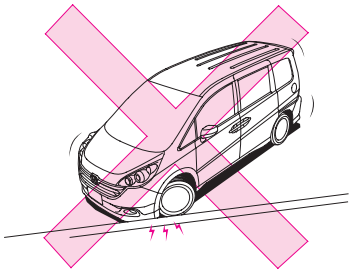




アルミホイールについて

アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。



●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。



●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きの物）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。



・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。



車との上手なつきあいかた

●積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ ……406
運転するとき ……408
駐車するとき ……412
冬期の手入れ ……414

●こんなときは

雨の日の運転 ……416
夏場の取り扱い ……418

●環境にやさしい省エネドライブをするために……420

7

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界の妨げとなり危険です。走行するまえに取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。



ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

アクアクリーンミラー装備車

・ドアミラーに付着した雪や霜は、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。
解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

ヒーテッドドアミラー

→123ページ

足まわりの着氷

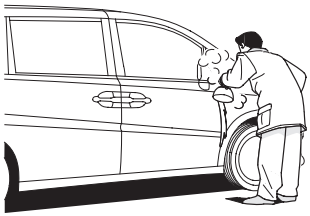
足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。



お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

寒冷地用ワイパーブレードを装着する際は、Honda販売店にご相談ください。

寒冷時以外は通常のワイパーブレードに戻してください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

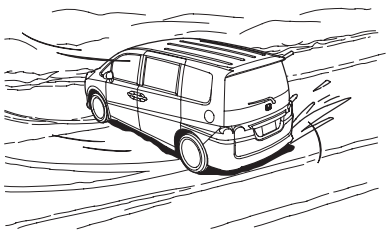


運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

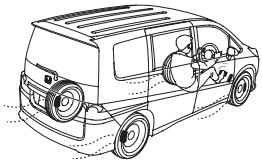


●冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
タイヤチェーンについて
→410ページ
・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキの効きについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- ブレーキの効きが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

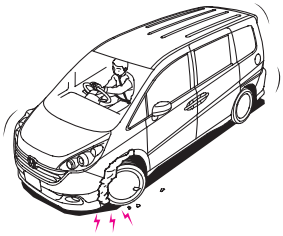
先にデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

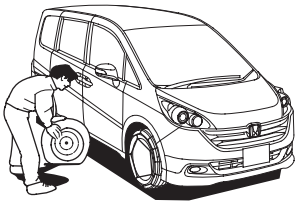
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪に付けてタイヤチェーンを装着します。

・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。



●タイヤチェーンについて

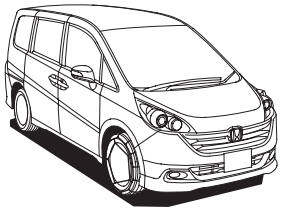
推奨タイヤチェーン

フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがありますので、Honda純正スチールチェーンをお使いください。
お求めはHonda販売店へお申し付けください。

- タイヤチェーンはタイヤに合った適正な物をお使いください。
  推奨タイヤチェーン以外の物を使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

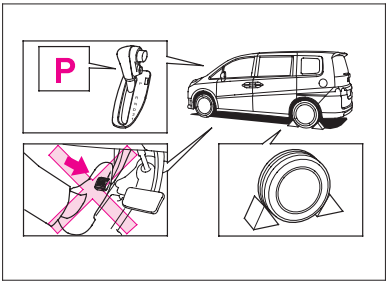
タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。
4WD車の場合も前輪駆動を主とした四輪駆動なので、チェーンは前輪に装着してください。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。



- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
セレクトレバーを[P]に入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

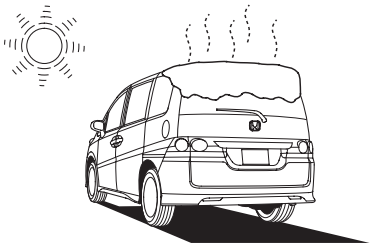
- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

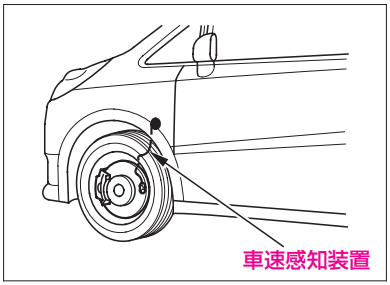
- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。



冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり（前、後輪の 4 か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

● 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はHonda販売店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

- 急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
- ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
- 雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
- 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
  車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

- このような状態になると、ハンドルやブレーキが効かなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

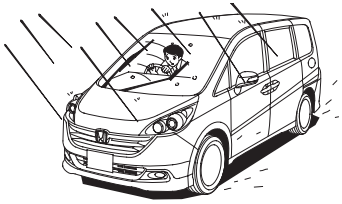
●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

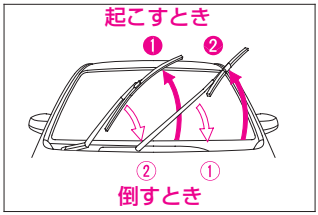
・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーの拭きむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、拭きむらが出て視界の妨げとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。



●ワイパーアームを起こしたり倒したりするときは、図の順に行ってください。

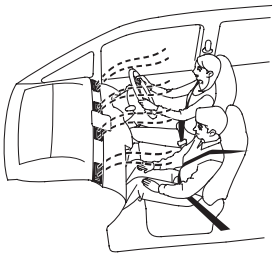


夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

・冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしておきましょう。
・室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
・エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

● この車の冷媒は、環境保護のため、新冷媒HFC-134a（R-134a)を使用しています。
補充・交換が必要な場合は、Honda販売店にご相談ください。



●炎天下に駐車するときは

・ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。
・フローリングフロア装備車は、フロアに覆いをかけたりして温度の上昇を抑えましょう。
・フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、高水温警告灯(赤色)が点灯した場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→364ページ

環境にやさしい省エネドライブをするために

●点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

■適正空気圧で50km走ると50kPa｛0.5kgf/cm²｝減のときに比べてガソリン 150ccの節約。

▲CO_2 1250g削減(650km／月)

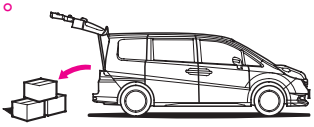


●タイヤの空気圧が低下すると走行抵抗が増加し、燃費に大きく影響します。また、冬用タイヤや幅広タイヤを装着したときも同様に燃費に影響します。

●不必要な荷物は降ろして走行しましょう。

■10kgの荷物を降ろして50km走ると、ガソリン 15ccの節約。

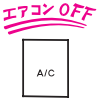
▲CO_2 130g削減(650km／月)



●エアコンは少し控えめにしましょう。
室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

■エアコンを6分停止して、ガソリン 70ccの節約。

▲CO_2 1340g削減(3時間／月)

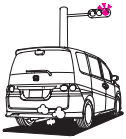


●エアコンは冷媒を循環するため、コンプレッサーをエンジンで駆動しており、エンジンに大きな負荷が発生します。それを補うため、燃料消費が多くなります。

●ヘッドライトやリヤデフロスターは電力を多く消費するため、不必要なときはスイッチを“OFF”にしてください。

●発電機はエンジンで駆動しており、消費電力が増加すると発電量が増加し、エンジンの負荷が大きくなり、それを補うため、燃料消費が多くなります。

●空ぶかしはしないようにしましょう。



■空ぶかしを1回やめて、ガソリン 6 ccの節約。
▲CO_2 1150g削減(300回／月)

●長時間停車するときは、エンジンを停止してください。また、長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。



■5分間のアイドリングを止めて、ガソリン65ccの節約。
▲CO_2 420g削減(10回／月)

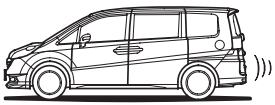
●変速位置の選択は、走行速度や坂の勾配に合わせて適切に行ってください。



・通常は[D]で走行します。
・下り坂で速度が出すぎてしまうときは、CVT車はSモードにして、エンジンブレーキを使用してください。Sモードのままで速度が出すぎるときは[L]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。7速マニュアルシフトモードのときは、走行速度に合わせて、変速段を一段ずつ落としてください。
5速オートマチック車、4速オートマチック車は、D3スイッチをONにしてください。さらに強いエンジンブレーキが必要なときは、[2]または[1]にします。

● 下り坂などでエンジンブレーキを使う目的で、より低速のギヤを有効に使うと、燃料供給の停止時間が長くなり、燃費が良くなることがあります。

●経済速度について



・高速道路では100km/hを80km/hにして燃費10～30%の節約。
・一般道路では法定速度(40～60km/h)の範囲で一定走行すると燃費は良くなります。

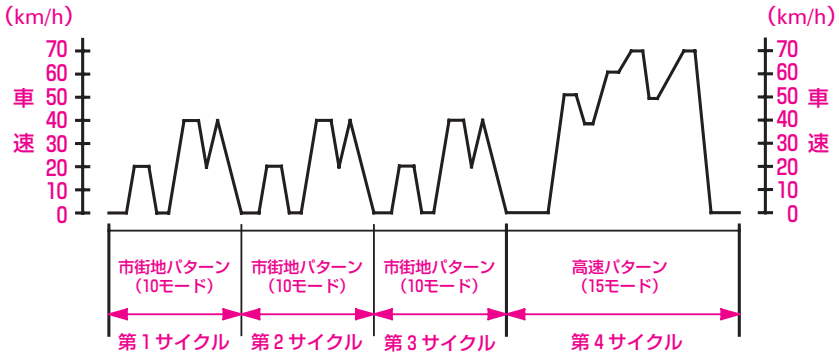
参考資料＊社団法人日本自動車工業会：「あしたへECO－MOTION」参照
《対象車種2.0L乗用(AT)の燃費＝11.7km/l(10・15モード)が計算ベース》

●10・15モード燃費について

10・15モード燃費とは

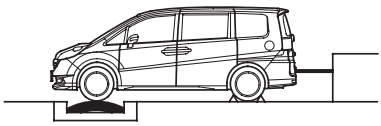
東京都内の幹線道路における平均的な走行形態の10モードと、高速走行や渋滞など大都市における走行形態を反映させた15モードを図のように
・市街地パターン(10モード)を3回
・高速パターン(15モード)を1回
の計4サイクルで走行したときの排出ガス量(g/km)を測定します。
このときに消費した燃料を10・15モード燃費(km/l)として表示しています。

＊計測走行距離　4.2km、平均車速　23km/h



10・15モード燃費と実走行燃費との違い

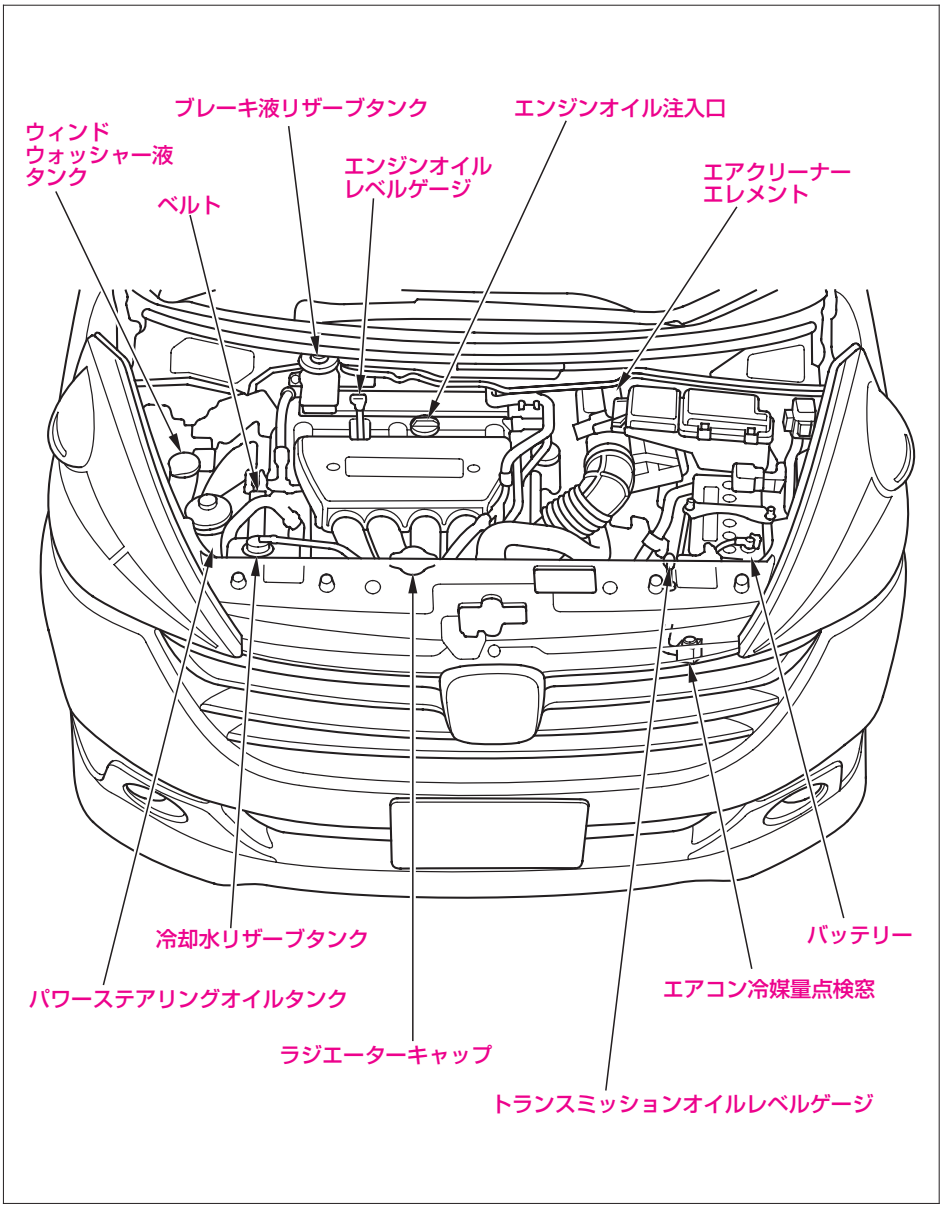
10・15モード燃費は図のようにシャーシダイナモメーター上で定められた試験条件のもとで行われた燃費値です。
実際の走行時には気象、道路、車両、運転、整備などの状況が異なってきますので、それに応じて燃費が異なります。



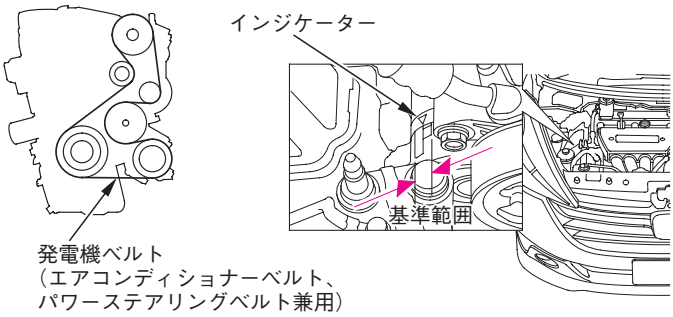
10・15モード燃費の計測方法(国土交通省認可時 測定条件)

- 3,000km慣らし走行後の車両
- 完全暖機状態　60km/h 15分暖機後モード測定
- 走行抵抗設定　車両(空車)状態+110kg(2名乗車分)
- 搭載電気機器"OFF"状態
- エアコン"OFF"で測定

サービスデータ


ブレーキ液リザーブタンク
エンジンオイル注入口
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
エンジンオイル
レベルゲージ
エアクリーナー
エレメント
ベルト
冷却水リザーブタンク
バッテリー
パワーステアリングオイルタンク
エアコン冷媒量点検窓
ラジエーターキャップ
トランスミッションオイルレベルゲージ

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="2">サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ベルトのたわみ量</td><td colspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td>発電機ベルト</td><td colspan="2">自動調整式
（インジケーターが基準範囲内にあること）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">点火プラグ</td><td rowspan="2">タイプ</td><td>NGK</td><td>ZFR6K-11</td></tr>
<tr><td>DENSO</td><td>KJ20DR-M11</td></tr>
<tr><td>電極のすき間</td><td colspan="2">1.0－1.1 mm</td></tr>
</table>

項目		サービスデータ	
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm	
	床板とのすき間	79 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
	カーペットとのすき間（参考値）	64 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
パーキングブレーキ	踏みしろ	8－9回 {約294N(30kgf)の力}	
エアクリーナーエレメント	タイプ	湿式	
バッテリー	容量／タイプ	B、G	36AH(5)／46B24L
		24Z	36AH(5)／55B24L
電球（バルブ）	W（ワット）／CP（キャンドルパワー）数［CP（キャンドルパワー）：光度の単位］	ヘッドライト（ロービーム）・・・・・・・・ 12V－35W※1 12V－55W※2 （ハイビーム）・・・・・・・・ 12V－55W※3 フォグライト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－55W※3 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯・・ 12V－21W(橙色) 車幅灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯・・ 12V－5W 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯・・ 12V－21W(橙色) 番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 制動灯／尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21/5W 尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21W ハイマウントストップランプ・・・・・・ 12V－21W 前席室内灯／マップランプ・・・・・・・・ 12V－8W 後席室内灯／マップランプ （トップライトルーフ装備車）・・・・ 12V－5W 後席室内灯（サードシート） （トップライトルーフ装備車）・・・・ 12V－8W 後席室内灯 （トップライトルーフ非装備車）・・ 12V－8W カーゴルーム照明灯 （トップライトルーフ非装備車）・・ 12V－8W スライドドア開閉灯・・・・・・・・・・・・・・ 12V－2CP(3.8W)	

※1：ディスチャージヘッドライト装備車　※2：ハロゲンヘッドライト装備車　※3：ハロゲンバルブ

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずHonda販売店で行ってください。
  ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

項目		サービスデータ	
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラLEO SL（API SL/GF-3級SAE 0W-20）※ ウルトラLTD SL（API SL/GF-3級SAE 5W-30） ウルトラGOLD SL（API SL級SAE 5W-40） ウルトラ MILD SL（API SL/GF-3級SAE 10W-30）	
	規定量	オイル交換時	4.0ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	4.2ℓ

※：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

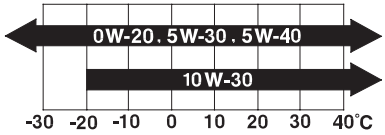
推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SL級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。



API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

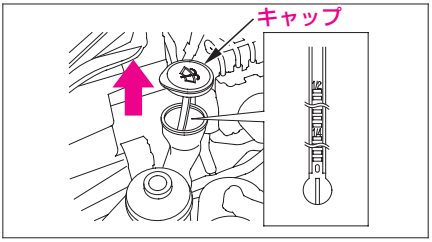


（外気温）

項目		サービスデータ		
燃料	指定燃料	無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可能）		
	タンク容量	2WD車		57 ℓ
		4WD車		55 ℓ
トランスミッションオイル	指定液	B、G		Honda純正ウルトラATF-Z1
		24Z	4WD車	
		24Z	2WD車	Honda純正ウルトラHMMF
	規定量（交換時）	B、G	2WD車	2.9 ℓ
		B、G	4WD車	3.1 ℓ
		24Z		
デファレンシャルオイル（4WD車）	指定液	Honda純正ウルトラDPSF		
	規定量（交換時）	1.2 ℓ		
冷却水	指定液	Honda純正ウルトラ e クーラント		
	規定濃度	50%		
	規定量（交換時リザーブタンク0.7ℓ含む）	4.8 ℓ		
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4		
パワーステアリング液	指定液	Honda純正ウルトラパワーステアリングフルード-II		
ウォッシャー液	タンク容量	2.0 ℓ		

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



205/65R15 94S タイヤ装着車(2WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/65R15 94S	220 (2.2)	240 (2.4)	15×6JJ	
応急用スペアタイヤ	T135/90D15 100M	420 (4.2)		15×4T	

205/65R15 94S タイヤ装着車(4WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/65R15 94S	220 (2.2)	240 (2.4)	15×6JJ	
応急用スペアタイヤ	T135/90D16 102M	420 (4.2)		16×4T	

205/60R16 92H タイヤ装着車(2WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/60R16 92H	220 (2.2)	240 (2.4)		16×6JJ
応急用スペアタイヤ	T135/90D15 100M	420 (4.2)		15×4T	

205/60R16 92H タイヤ装着車(4WD車)

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/60R16 92H	220 (2.2)	240 (2.4)		16×6JJ
応急用スペアタイヤ	T135/90D16 102M	420 (4.2)		16×4T	

タイヤの溝の深さ	1.6 mm以上
位置交換時期(タイヤローテーション)	5,000 kmごと

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。

名称	排気量（cm³）	車体形状	乗車定員（人）	タイプ	
ステップワゴン	1,998	4 ドア ステーション ワゴン	8	B	2WD
					4WD
				G	2WD
					4WD
	2,354			24Z	2WD
					4WD

さくいん

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ア

アームレスト ····· 93・100
アクアクリーンミラー ····· 124
　親水効果の回復作業 ····· 395
アクセサリーソケット ····· 337
雨の日の運転 ····· 416
アルミホイール ····· 402
アンチロックブレーキシステム(ABS)
　運転のしかた ····· 244
　ABSのしくみ ····· 244
　警告灯 ····· 245
　取り扱いについて ····· 245
アンテナ ····· 288

イ

イージーテールゲートクローザー ····· 65
イージードアクローザー ····· 59
イグニッション(エンジン)
　キー ····· 40
　スイッチ ····· 174
イモビライザーシステム ····· 84
　表示灯 ····· 158
イルミネーションコントロール ····· 150

ウ

ウィンカー
　スイッチ ····· 178
　電球の交換 ····· 379・380
　W(ワット)数 ····· 426
ウィンドー ····· 79
　パワーウィンドー ····· 79
ウェルカムメーター照明 ····· 151
ウェルカムライト ····· 319・322
ウォッシャー液
　スイッチ ····· 179
　タンクの容量 ····· 428
　冬期の手入れ ····· 414
　補給 ····· 428
動けなくなったとき ····· 342・343
運転席アッパーボックス ····· 333
運転のしかた ····· 186

エ

エアコン ····· 266
　インデックス ····· 268
　エアクリーンフィルター ····· 283
　オートエアコン ····· 270
　後席用クーラー ····· 278
　後席用クーラー／ヒーター ····· 280
　使いかた ····· 270・272・279・281
　吹き出し風の調節 ····· 267
　ベルト ····· 425
エコ(ECO)表示灯 ····· 159
SRSエアバッグシステム
　SRSエアバッグシステムのしくみ ···· 216
　お子さまを乗せるときは ····· 221
　警告灯 ····· 223
　作動しないとき ····· 219
　作動するとき ····· 218
　取り扱いについて ····· 222
FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ ··· 290
エンジンオイル・フィルター
　オイル量 ····· 427
　冬期の手入れ ····· 414
エンジンキー(キー) ····· 40
エンジンスイッチ ····· 174
　照明灯 ····· 329
エンジンのかけかた ····· 186
エンジンブレーキ ····· 22
エンジンルーム ····· 424

オ

応急用スペアタイヤ
格納場所 …… 340
空気圧 …… 429
サイズ …… 429
スペアタイヤについて …… 352
オーディオ
インデックス …… 289
エラーコードについて …… 310
上手な使いかた …… 286
リモートコントロールスイッチ …… 312
オートエアコン …… 270
オートマチックトランスミッション
運転のしかた …… 204
オイル …… 428
セレクトレバー …… 190・198
オーバーヒートしたとき …… 364
オドメーター …… 147
音声操作
エアコン …… 275
温度感知装置 …… 277

カ

カーゴルーム照明灯
使いかた …… 328
電球の交換 …… 383
W(ワット)数 …… 426
カーゴスペースの作りかた …… 113・118
外気温表示 …… 148
外装の手入れ …… 392
学童用(ジュニア)シート …… 19・132
カップホルダー …… 334
ガラスの手入れ …… 394
換気 …… 17
環境にやさしい省エネドライブを
するために …… 420
寒冷時の取り扱い …… 406

キ

キー …… 40
キーオフオペレーション …… 81
キー抜き忘れ警告ブザー …… 175
キーレスエントリー …… 70
キックダウン …… 26

ク

曇り取り(デフロスター) …… 274
グラブレール …… 330
クリープ現象 …… 26
車にあった部品の使用 …… 404
グローブボックス …… 332

ケ

警告灯
警告灯類 …… 162
電球切れの点検 …… 172
携帯電話接続端子 …… 338
けん引
けん引されるとき …… 346
故障車をけん引するとき …… 349

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

コ

コインポケット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 334
広角タイプドアミラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
工具(ツール)
　格納場所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 340
　種類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 341
高水温警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
後席室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 326・327
　電球の交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 383
　W(ワット)数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 426
後席用クーラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 278
後席用クーラー／ヒーター ・・・・・・・・・・・・・ 280
高速道路で故障したとき ・・・・・・・・・・・・・・ 342
後退灯(バックランプ)
　電球の交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 380
　W(ワット)数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 426
後部ワイパー(リヤワイパー)
　スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
故障したとき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 342
故障の修理について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 343
小物入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 332

サ

サードシート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
サービスデータ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 424
サイドエアバッグシステム／
　サイドカーテンエアバッグシステム
　お子さまを乗せるときは ・・・・・・・・・・・・・ 235
　警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 239
　サイドエアバッグシステム／
　　サイドカーテンエアバッグシステム
　　の効果を十分に発揮させる
　　ために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
　サイドエアバッグシステム／
　　サイドカーテンエアバッグシステム
　　のしくみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224
　サイドエアバッグシステム自動停止
　　表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159・234
　作動しないとき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
　作動するとき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
　乗員姿勢検知システム ・・・・・・・・・・・・・・ 233
　取り扱いについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
サングラスボックス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 331
サンシェード(遮光板)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
三点式シートベルト ・・・・・・ 129・134・263
サンバイザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 330

シ

CDチェンジャーコントローラーの
使いかた ····· 307
シート
アレンジインデックス ····· 90・91
カーゴスペースの作りかた ···· 113・118
サードシート ····· 106
セカンドシート ····· 94・99
正しい運転姿勢 ····· 88
フラットシート ····· 110・115
フロントシート ····· 92
シートアンダートレイ ····· 334
シートベルト ····· 126
種類 ····· 128
ショルダーアンカー ····· 135
チャイルドシート固定機構 ····· 138
着用のしかた ····· 134
非着用警告灯 ····· 168
リマインダー ····· 129・263
シートベルトプリテンショナー
シートベルトプリテンショナーの
しくみ ····· 240
取り扱いについて ····· 241
事故が起きたとき ····· 344
室内確認用ミラー ····· 331
室内照明 ····· 318
室内装備品 ····· 330
室内灯スイッチ ····· 319・322
シフトロック装置 ····· 29・207・263
霜取り・曇り止め
前面／側面ガラス ····· 274
ジャッキの取り扱い ····· 350
車幅灯(ポジションランプ)
電球の交換 ····· 379
W(ワット)数 ····· 426
車両挙動安定化制御システム(VSA)
運転のしかた ····· 249
警告灯 ····· 251
取り扱いについて ····· 250
VSAのしくみ ····· 248
充電警告灯 ····· 168
樹脂塗装部品 ····· 393
ジュニア(学童用)シート ····· 19・132
純正部品 ····· 404
親水ミラー ····· 124

ス

スイッチの使いかた ····· 174
スノータイヤ(冬用タイヤ) ····· 408
スパークプラグ(点火プラグ) ····· 425
スピードメーター ····· 147
スペアタイヤ
格納場所 ····· 340
空気圧 ····· 429
サイズ ····· 429
スペアタイヤについて ····· 352
スライドドア ····· 56
開閉 ····· 57
開閉灯 ····· 328
施錠・解錠 ····· 56
チャイルドプルーフ ····· 59
電球の交換 ····· 384
W(ワット)数 ····· 426

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

セ

制動灯(ブレーキランプ)
　電球の交換 …… 380
　W(ワット)数 …… 426
整備 …… 388
セカンドシート …… 94・99
積雪・寒冷時の取り扱い
　運転するとき …… 408
　運転するまえ …… 406
　駐車するとき …… 412
　冬期の手入れ …… 414
セキュリティーアラームシステム
　警報装置について …… 85
　作動表示灯 …… 160
　セットのしかた …… 86
セレクトレバー
　操作 …… 190・198
　ポジション表示灯 …… 157
洗車 …… 392
前照灯(ヘッドライト)
　上向きと下向きの切り換え …… 176
　上向き表示灯 …… 156
　追越合図(パッシング) …… 176
　スイッチ …… 175
　電球の交換 …… 377
　W(ワット)数 …… 426
前席室内灯 …… 320・323
　電球の交換 …… 382
　W(ワット)数 …… 426
センターアッパーボックス …… 332
センターボックス …… 333
センターロアボックス …… 333

ソ

速度計 …… 147
速度範囲 …… 201
その他の安全装備 …… 263

タ

タイヤ
　位置交換(ローテーション) …… 400
　ウェアインジケーター …… 399
　応急用スペアタイヤ …… 352
　空気圧 …… 429
　サイズ …… 429
　スノータイヤ …… 408
　タイヤを交換するときは …… 356
　チェーン …… 410
　点検 …… 398
タイヤ収納袋 …… 340・358
タコメーター …… 147
正しい運転姿勢 …… 88

チ

チェーン …… 410
チケットホルダー …… 330
チャイルド(幼児用)シート …… 19・132
チャイルドシート固定機構
　付きシートベルト …… 138
チャイルドシート固定装置 …… 138
チャイルドプルーフ …… 55・59
駐車
　坂道 …… 31
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 406
駐車ブレーキ(パーキングブレーキ)
　警告灯 …… 166
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 406
　操作 …… 188
チルト／テレスコピックステアリング …… 120

ツ

追突軽減ブレーキ(CMS)
　警告灯 …… 260
　作動しないとき …… 255
　CMSのしくみ …… 252
　CMSの自動停止について …… 257
　CMSの停止について …… 257
　取り扱いについて …… 258
　追突警報について …… 256

テ

低水温表示灯 …… 160
停止表示板固定ベルト …… 338
テールゲート
　解錠ができないとき …… 386
　開閉 …… 69
　開閉警告灯 …… 170
テザーアンカー …… 140
デファレンシャルオイル …… 428
デフロスター …… 274
点火プラグ …… 425
電気系統が異常のとき …… 366
電気装置が作動しないとき …… 369
電球(バルブ)
　交換 …… 375
　W(ワット)数 …… 426
点検・整備について …… 388
電動リモコンドアミラー …… 121

ト

ドア
　開閉警告灯 …… 170
　スライドドア …… 56
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 407
　施錠・解錠 …… 43
　パワースライドドア …… 46
　フロントドア …… 44
ドアミラー …… 121
冬期の手入れ …… 414
道路で動けなくなったとき …… 343
時計 …… 311
塗装の手入れ …… 390
トップライトルーフ
　サンシェード(遮光板)の開閉 …… 82
トランスミッション
　オイルの容量 …… 428
　警告灯 …… 168
トリップメーター …… 148

ナ

内装の手入れ …… 396
夏場の取り扱い …… 418
7速オートシフトモード …… 195
7速マニュアルシフトモード …… 195

ニ

日常の手入れ …… 390
二点式シートベルト …… 136
乳児用(ベビー)シート …… 19・132

ネ

燃料(ガソリン)
　指定燃料 …… 76・428
　タンク容量 …… 76・428
　燃費表示 …… 147・149
　燃料計 …… 149
　燃料残量警告灯 …… 169
　補給口 …… 76

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ハ

パーキングブレーキ
　警告灯 …… 166
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 412
　操作 …… 188
灰皿 …… 32
ハイドロプレーニング現象 …… 416
ハイビーム表示灯 …… 156
ハイマウントストップランプ …… 263
ハザードランプ(非常点滅表示灯)
　スイッチ …… 183
　電球の交換 …… 379・380
　W(ワット)数 …… 426
発炎筒
　格納場所 …… 340
　発炎筒について …… 341
バックミラー(後写鏡)
　使いかた …… 120
はっ水ガラス …… 394
バッテリー
　充電 …… 366
　冬期の手入れ …… 414
　バッテリーあがり …… 366
　容量／タイプ …… 426
発電機ベルト …… 425
バニティミラー(化粧鏡) …… 330
ハロゲンバルブについて …… 376
パワーウィンドー …… 79
パワースライドドア …… 46
　開閉 …… 47
　警告灯 …… 171
　施錠・解錠 …… 46
　チャイルドプルーフ …… 55
　はさみ込み防止機構 …… 54
パワーテールゲート
　開かないとき …… 384
　開閉 …… 61
　確実に閉まらないとき …… 385
　警告灯 …… 171
　施錠・解錠 …… 60
　はさみ込み防止機構 …… 66
パワードアロック(オートドアロック) …… 43
パンク
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 409
　パンクしたとき …… 350
番号灯(ライセンスランプ)
　電球の交換 …… 381
　W(ワット)数 …… 426

ヒ

ビークルスタビリティアシスト(VSA)
　運転のしかた …… 249
　警告灯 …… 251
　取り扱いについて …… 250
　VSAのしくみ …… 248
PGM-FI警告灯 …… 167
ヒーテッドドアミラー …… 123
非常点滅表示灯(ハザードランプ)
　スイッチ …… 183
　電球の交換 …… 379・380
　W(ワット)数 …… 426
尾灯
　電球の交換 …… 380
　W(ワット)数 …… 426
ヒューズ …… 369
表示灯 …… 152

フ

フォグライト
スイッチ ····· 178
電球の交換 ····· 378
点灯表示灯 ····· 156
W(ワット数) ····· 426
吹き出し風の調節 ····· 267
踏切で動けなくなったとき ····· 342
フューエルリッド ····· 77
プラグ ····· 425
フラットシート
フロント・セカンドシート ···· 111・116
セカンド・サードシート ····· 112・117
ブレーキ
警告灯 ····· 166
積雪・寒冷時の取り扱い ····· 409
倍力装置 ····· 22
ペダル ····· 426
ブレーキアシスト ····· 246
取り扱いについて ····· 246
フローリングフロア ····· 38
お手入れ ····· 397
フロントシート ····· 92
フロントドア ····· 44

ヘ

平均燃費表示 ····· 147
ヘッドライト
上向きと下向きの切り換え ····· 176
上向き(ハイビーム)表示灯 ····· 156
追越合図(パッシング) ····· 176
オートレベリング機能 ····· 176
スイッチ ····· 175
電球の交換 ····· 377
ヘッドライトレベリングダイヤル ···· 177
ロービームについて ····· 376
W(ワット)数 ····· 426
ヘッドレスト ····· 93・95・100・107
ベビー(乳児用)シート ····· 19・132
ベルトのたわみ量 ····· 425

ホ

ホイールサイズ ····· 429
芳香剤 ····· 396
方向指示器(ウィンカー)
スイッチ ····· 178
電球の交換 ····· 379・380
表示灯 ····· 156
W(ワット)数 ····· 426
ホーンスイッチ ····· 183
ボトルホルダー ····· 336
ボンネット ····· 74

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

マ

マップランプ
　使いかた …… 325
　電球の交換 …… 382・383
　W(ワット)数 …… 426
窓ガラスアンテナ …… 288
万一のとき …… 339

ミ

ミラー
　ドアミラー …… 121
　ルームミラー …… 120

ム

無線装置 …… 33

メ

メーター(計器類) …… 146

ユ

油圧警告灯 …… 167
雪道走行後の手入れ …… 414

ヨ

幼児用(チャイルド)シート …… 19・132
四輪駆動機構(4WD)
　運転するときは …… 262
　取り扱いについて …… 262

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 175
ライトスイッチ …… 175
ライト類が点灯しないとき …… 369
ラジオの使いかた …… 292

リ

リムサイズ …… 429
リモートコントロールドアミラー …… 121
リヤカメラシステム
　ガイド線の消しかた …… 316
　画面に表示される映像の範囲 …… 315
　リヤカメラシステムについて …… 314
リヤデフロスタースイッチ …… 182
リヤワイパー …… 181・263

ル

ルームミラー(防眩式室内後写鏡) …… 120

レ

冷却水(ラジエーター液)
　水量 …… 428
　冬期の手入れ …… 415

ワ

ワイパー
　スイッチ …… 179
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 407
ワックスがけ …… 393

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
運転のしかた ····· 244
ABSのしくみ ····· 244
警告灯 ····· 245
取り扱いについて ····· 245
A/C(エアコン)
インデックス ····· 268
使いかた ····· 270・272・279・281
吹き出し風の調節 ····· 267
ベルト ····· 425
AT(オートマチックトランスミッション)
運転のしかた ····· 204
オイル ····· 428
セレクトレバー ····· 190・198
AV入力端子 ····· 337

C

CDチェンジャーコントローラーの
使いかた ····· 307
CD/MP3/WMAプレーヤーの使いかた ··· 296
CMS(追突軽減ブレーキ)
警告灯 ····· 260
作動しないとき ····· 255
CMSのしくみ ····· 252
CMSの自動停止について ····· 257
CMSの停止について ····· 257
取り扱いについて ····· 258
追突警報について ····· 256

D

D3 ON表示灯 ····· 158
D3スイッチ ····· 200

E

ECO表示灯 ····· 159
ECONスイッチ ····· 184・185
表示灯 ····· 160
ELR付三点式シートベルト ····· 128
ELR・ALR付三点式シートベルト ····· 128
E-プリテンショナー
E-プリテンショナーのしくみ ····· 242
取り扱いについて ····· 243

F

FM/AMラジオ一体式CD/MDステレオ ··· 290

H

HFC-134a(エアコン冷媒) ····· 418

I

INT(間欠ワイパー) ····· 180
ISO FIXテザータイプチャイルドシート
固定装置 ····· 140

M

MIST(ワイパースイッチ) ····· 180
M(7速マニュアルシフトモード)
表示灯 ····· 157

P

PGM-FI警告灯 ····· 167
PRESS(シートベルトバックル) ·· 134・137

S

SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために …… 220
SRSエアバッグシステムのしくみ …… 216
お子さまを乗せるときは …… 221
警告灯 …… 223
作動しないとき …… 219
作動するとき …… 218
取り扱いについて …… 222
Sモード
スイッチ …… 192
表示灯 …… 158

T

TRIP(トリップメーター) …… 148

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)
運転のしかた …… 249
警告灯 …… 251
取り扱いについて …… 250
VSAのしくみ …… 248

W

W数(ライト類の電球のワット数) …… 426

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車検証記載事項
　車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離
③ご購入年月日
④販売店名

こんなことでお困りのとき

●キーレスエントリーで解錠しても、自動で閉まってしまう

・キーレスエントリーで解錠してから、ドア、テールゲートを開けないまま、約30秒たっていませんか。

キーレスエントリー　→70ページ

●キーが回せない

“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ　→174ページ

“I”から“0”に回らないとき

・セレクトレバーがPに入っていますか。

キーを抜くとき　→174ページ

●エンジンがかからない

・セレクトレバーがPかNに入っていますか。
・イモビライザーシステム表示灯が点滅していませんか。

イモビライザーシステムについて　→84ページ

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）
・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき　→366ページ

●セレクトレバーがPから動かせない

・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。
（操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながらセレクトレバーを動かしてください。）

セレクトレバーが動かないとき　→207ページ

・エンジンスイッチを“II”にしてから操作していますか。

シフトロック装置の正しい理解を　→29ページ

●パワーウィンドーの開閉ができない

・パワーウィンドーのメインスイッチが“OFF”になっていませんか。

パワーウィンドー　→79ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

「ピピピピ」とブザーが繰り返し鳴り続けるときは

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー　→175ページ

「ピー」とブザーが鳴り続けるときは

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー　→175ページ

「ピーピーピー」とブザーが鳴るときは

・ パワースライドドア装備車

フューエルリッド(燃料補給口)が開いているときに、助手席側のパワースライドドアを開けようとしたとき。

助手席パワースライドドアを開けるとき　→52ページ

●後席ドアが室内から開けられない

・チャイルドプルーフが施錠されていませんか。

チャイルドプルーフ　→55、59ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●高水温警告灯(赤色)が点灯した
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
(安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください。)

オーバーヒートしたとき　→364ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
(Honda販売店で点検を行ってください。)

●走行中にブレーキを踏むと、ペダルが振動する

・アンチロックブレーキシステム(ABS)が作動したものと思われます。

ABSのしくみ　→244ページ

●走行するとブザーが鳴る

ブザーが鳴り、シートベルト非着用警告灯が点滅しているときは

・運転席シートベルトを着用していますか。
(運転席シートベルトを着用してください。)

シートベルトリマインダー　→129ページ

ブザーが鳴り、ブレーキ警告灯が点灯しているときは

・パーキングブレーキを完全に解除していますか。
(パーキングブレーキを完全に解除してください。)

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー　→189ページ

HONDA
The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda 販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

インターネットでも取扱説明情報をお伝えしております。
Digital Owner's Manualのホームページ
http://www.honda.co.jp/manual/

30SLJ600
00X30-SLJ-6008

ⓃⒽⒸ 6000.2006.01.6
©2006 本田技研工業株式会社